

金 慶湖

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・5時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

--- 概要 ---

最近の報告によると、2022年における韓国のコンテンツ産業の輸出額は124.5億ドルで、これは韓国の主力商品の一つの家電（86.7億ドル）などよりもだいぶ高い数値だ（韓国国際文化交流振興院刊『2022韓流白書』2023）そうです。大成功したビジネスを目の当たりにしている訳ですが、それはどのようにして収められたのでしょうか。韓流をめぐる国策や戦略などが功を奏したと言ったらそれまでかも知れません。しかし、ここでは一つ、まだ商品化していない原石（文学作品）を見て、これは売れるかどうか一緒に判断してみましょう。もちろん文学作品はそれ自体研ぎ澄まされている芸術品、十分すぎるほどの商品です。あくまでも文化コンテンツとして色んなメディアで再生産されても、人気を集め得るか問うてみるのです。

この授業では、こうした韓流コンテンツの様々なストーリーのルーツとなる、韓国・朝鮮の文学作品に関して、その知識と理解を得ることを目指します。そのために、古代から近世（朝鮮王朝時代）にかけての韓国・朝鮮文学の流れを学び、各時期の主な作品の内容と、その作品が置かれた歴史・社会・文化的な背景について学んでいきます。そして、文学テキストと共に、関連する複数のメディア（映画、ドラマ、漫画など）に触れながら、韓国・朝鮮という国、そしてそこに生きてきた人々に対する理解をより深いものにしていきましょう。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員の作成・配布した資料をもとに講義形式で行います。それに伴い、文学テキストを通してその時代と人物を追体験する一方、作品と関連する多様な情報を判断材料にし、当時の韓国・朝鮮の人、ひいては今を生きる我々の色んな有様について考えていきます。授業後には、自ら感じたところや疑問に思ったところなどを授業感想文として作成し、授業の内容を整理し理解を深めていきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

韓国・朝鮮の文学・社会・歴史についての基礎知識を身につけることができる。(DP1-1)(知識・理解)

文学作品を通じてさまざまな人・社会・文化などを理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

朝鮮半島に生きた人々のあり様を理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

具体的な根拠をもって自分なりの観点を述べるができる。(DP3-1)(態度・志向性)

日韓・日朝関係についての自分なりの観点を得ることができる。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前に配付する資料を予習すること。(60分)

授業後、授業の内容についての感想や疑問などを授業感想文として作成・提出すること。尚、復習時には、資料を再読し、不明な点などについては、参考文献の学習や次回の講義で質問するなど、解決に努めること。(60分)

映画鑑賞文や読書感想文などの課題に取り組むこと。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

韓国・朝鮮文学に関する基礎知識を習得しているのか、またその知識をもって具体的な例をあげながら韓国・朝鮮文学の特徴と内容を説明することができるかを評価基準とし、以下の割合で総合的に判断する。

- ・定期試験：40%
- ・作品鑑賞の感想文：20%（A4の1頁程度×2回提出）
- ・映画鑑賞の感想文：20%（A4の1頁程度×2回提出）
- ・授業への取り組み：20%（授業の内容に対する感想や質問など。）

--- テキスト ---

プリントを配布する。

--- 参考書 ---

- ・金東旭『朝鮮文学史』（日本放送出版協会、1974年）NCID：BN02958063
- ・野崎充彦『朝鮮の物語』（大修館書店、1998年）ISBN：9784469231427
- ・李在銑著、丁貴連ほか訳『韓国文学はどこから来たのか』（白帝社、2005年）ISBN：9784891746735
- ・申明直ほか著、浦川登久恵ほか訳『韓国文学ノート』（白帝社、2008年）ISBN：9784891749491
- ・染谷智幸ほか編『韓国の古典小説』（ペリかん社、2008年）ISBN：9784831512239
- ・松本志代理編『韓国ドラマで学ぶ三国・高麗の歴史 2013年版』（キネマ旬報社、2012年）ISBN：9784873767758
- ・松本志代理編『韓国ドラマで学ぶ朝鮮王朝の歴史 2013年版』（キネマ旬報社、2012年）ISBN：9784873767741
- ・波田野節子ほか編著『韓国文学を旅する60章』（明石書店、2020年）ISBN：9784750351070
- ・菅野朋子『韓国エンタメはなぜ世界で成功したのか』（文藝春秋、2022年）ISBN：9784166613472

--- 履修上の留意点 ---

- ・配布されたプリントを持参すること。
- ・授業中に取り上げる文学作品（2本）についての感想文を提出すること（2回）。
- ・授業中に鑑賞する映画（2本）についての感想文を提出すること（2回）。
- ・毎回の授業の最後に、感想や質問などを記入し提出すること。

--- 授業計画 ---

1. オリエンテーション（スタートアップ授業）
2. 韓国・朝鮮の古典文学とは
3. 古代歌謡「亀指歌」～イザナギ・イザナミ神話との接点をめぐって～
4. 郷歌「薯童謠」～古代のロマンティスト、現代なら悪質なストーカー～
5. 高麗俗謡「霜花店」～王朝を滅亡に導いたセックスキャンダル～
6. 時調「何如歌」と「丹心歌」～朝鮮王朝の誕生～
7. 関連映画の鑑賞(1)
8. 関連映画の鑑賞(2)解説
9. 漢文学（怪談）『薔花紅蓮伝』～朝鮮怪談の決定版～
10. 漢文学（軍談）『壬辰録』～現在までメディアミックスされる1592年の記憶～
11. 最初のハングル小説『洪吉童伝』～朝鮮ヒーローと琉球伝説に立ち込めるコロニアリズム
12. パンソリ「春香伝」～儒教的プロパガンダを被った朝鮮版フェミニズム～
13. 関連映画の鑑賞(2)
14. 関連映画の鑑賞(2)解説
15. 全体のまとめ
「授業アンケートFURIKAの実施」

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/ae8xnigoy6wghs0u2uoxeo9noz8a8d5g>)

金 慶湖

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.韓国・朝鮮の文学・社会・歴史についての基礎知識を身につけることができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.文学作品を通じてさまざまな人・社会・文化などを理解することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.朝鮮半島に生きた人々のあり様を理解することができる。(DP2-2) (知識・理解)

4.具体的な根拠をもって自分なりの観点を述べるができる。(DP3-1) (態度・志向性)

5.日韓・日朝関係についての自分なりの観点を得ることができる。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

朴 順伊

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：木・4時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

- - - 概要 - - -

この講義では、韓国・朝鮮文学の知識を学び、異文化というものを理解することを目的とする。

具体的には、近代文学の作品を中心に作品を読むことに焦点を置く。例えば、近年以後、異文化に接する機会が多い現在、私達は東アジア文化圏の中で生活していながらもいかにそれらの社会や文化を正しく理解していないところがある。そこで本講義は韓国文学に焦点を合わせその作品の背景にある社会的構造、歴史、文化等を学びながら作品に登場する人物を通して心理的な観点から価値観・行動様式等のバロメーターを幅広く紹介する。それに基づく画像資料などの副教材を使用する。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は全学部が受講するので先生が講義を行う。授業中必要に応じてミニテスト等を実施する。小テストは進行状況によって授業中に知らせる。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

韓国文学についての基礎知識を学ぶことができる。(DP1-1)(知識・理解)

文学の基礎知識に基づいて近代を学ぶことによって現代を認識することができ、新しい知識とともに物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

異文化に関連し、背景にある社会的な風習・道徳・慣習などの差異を考えることができ、それを通して自文化を考えさせる動機につながる。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：次回の授業に備えて分からない言葉等を含めて調べること。(80分)

復習：授業で習った内容について理解できなかったのを含めて全体を振り返って復習すること。(100分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

韓国文学に関する基礎知識を習得しているのか、またその知識を活かしてその時代の背景にある歴史、文化、人々の価値観の違いを理解しているのか等を基準にし以下の割合で判断する。

- ・定期テスト(50%)
- ・小テスト(30%)
- ・授業への参加度や態度、積極性・ミニテスト等(20%)

- - - テキスト - - -

- ・『アジア文化と文学思想 - 日韓比較の視点から -』朴順伊著、文眞堂
- ・ISBN 978-4-8309-4664-6

- - - 履修上の留意点 - - -

- ・遅刻しないこと。
- ・ノートかルーズリーフを準備すること。
- ・小テスト等は必ず受けること。

- - - 授業計画 - - -

第1回の授業は「動画」を配信します。
2回の授業からは対面授業になります。

- 1 授業概要の説明とイントロダクション(スタートアップ授業)
韓国・朝鮮文学とは?(動画配信)
- 2 韓国文学と儒教思想(1)
- 3 韓国文学と儒教思想(2)
- 4 李光洙の「反儒教思想」と近代思想
- 5 三綱五常と「忠」思想
- 6 三綱五常と「孝」思想
- 7 三綱五常と「貞」思想
- 8 『無常』における「家」思想
- 9 『無常』における「妓生」概念
- 10 作品と関連する映画鑑賞
- 11 『無常』における「婚姻制度」と新女性
- 12 『再生』における「恋愛観」
- 13 『再生』における「男性観」
- 14 『再生』における「教育観」
- 15 まとめ、「授業アンケートFURIKAの実施」

授業の進行に応じて少し変更することもあります。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/ig472xhx0oilhemr1zo88h47mmq9i33e>

朴 順伊

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.韓国文学についての基礎知識を学ぶことができる。（DP1-1）（知識・理解）

2.文学の基礎知識に基づいて近代を学ぶことによって現代を認識することができる、新しい知識とともに物事を多角的に見ることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3.異文化に関連し、背景にある社会的な風習・道徳・慣習などの差異を考慮することができ、それを通して自文化を考えさせる動機につながる。（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

間 ふさ子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：金・1時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

本授業は、講義形式とグループディスカッションの組み合わせにより進めます。

日本に隣接する中国文化圏（中国・香港・台湾）は、距離的に近いものの生活習慣や思考方法などにおいて日本とは大きな違いがあります。さらに同じ中国文化圏でも地域によって歴史や社会体制が異なり、人々の価値観もその影響を少なからず受けています。
19世紀末に生まれ20世紀に発展した映画は、まさにこれらの共通点や相違点を如実に表すことに優れたメディアであるといえます。

本講義では、中国文化圏の各地域および日本で制作された映画を鑑賞することで、それぞれの地域における映画の特徴を知り、作品に描かれる社会像や人々の価値観・考え方に対して理解を深めます。さらに、LTD話し合い学習法を用いて、自らが理解しえたことや疑問を他者に語り、かつ他者の意見を傾聴することで、複眼的な理解を進めることを目指します。

LTD (Learning Through Discussion) 学習法というのは、本来テキスト読解のために開発されたものですが、本講義ではそれを映像鑑賞に応用して実施します。受講者は映画作品を鑑賞し、その後あらかじめ決められたフォームに従って予習ノートを作成します。その予習ノートに基づいて4~5人のグループで語り合い、作品に対する理解をさらに深めていきます。

鑑賞する作品は、2000年以降に中国、香港、台湾そして日本で製作された「家族関係」を描く映画です。中国語圏の各地域では今もなお伝統的な家族観が根強く残る一方、台湾における同性婚の合法化など、新しい家族の形態も生まれつつあります。各作品に描かれた家族関係を通して、戦争を経て政治や社会の大きな変動を経験した中国語圏の人々の歩んできた道や将来への展望を知り、さらに各地域の違いや共通点を探ります。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業では、中国、香港、台湾、日本の映画作品を1本ずつ鑑賞し、作品ごとに以下の手順で授業を進めます。

教員による事前解説 映画鑑賞 予習ノートの作成・提出 LTD学習法によるグループディスカッション ディスカッションをふまえた感想文の作成・提出

このほか、毎回の授業のあとに振り返りのミニレポートを提出していただきます。課題の提出はmoodleを使って行います。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

中国語圏各地域の「家族関係」について映像を通して理解する。(DP2-1)(知識・理解)

LTDの実践を通じてディスカッションの作法を学ぶ。(DP1-1)(技能)

LTDの実践を通じてさまざまな他者の考え方・価値観を柔軟に受け止める。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

LTDのために予習ノートを作成する(90分)

鑑賞作品について感想文を執筆する(60分)

毎回の講義について振り返りを行う(30分)

--- 成績評価基準および方法 ---

本授業は以下の方法と割合で成績を評価します。

授業や討論に対する積極性、授業後に提出するミニレポートなど平常点30%
各鑑賞作品についてLTDのための予習ノート(4回)20%
LTDを踏まえた各鑑賞作品の感想文(4回)25%
各鑑賞作品から得られた中国文化圏各地域の「家族関係」についての期末レポート25%

特に と については、いかに自分自身の意見、観点を示すことができたかが評価のポイントになります。

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできません。

--- テキスト ---

特にもうけません。必要に応じて資料を配付(配信)しません。

--- 履修上の留意点 ---

本講義ではLTD話し合い学習法というグループ学習を行います。そのため予習ノートの作成は必須です。また欠席すると、グループ学習の進行に支障をきたしますので、欠かさず出席してください。

課題の提出はmoodleを使って行います。moodleの使い方は対面授業の1回目に説明します。

--- 授業計画 ---

- 01 イントロダクション(スタートアップ授業) 授業の進め方、取り組み等について 鑑賞作品の紹介
 - 02 中国文化圏映画発展略史、LTDグループ分け
 - 03 LTD話し合い学習法について
 - 04 [作品] 事前解説、中国映画作品鑑賞(前半)
 - 05 [作品] 作品鑑賞(後半)
 - 06 [作品] LTD
 - 07 [作品] 事前解説、香港映画作品鑑賞(前半)
 - 08 [作品] 作品鑑賞(後半)
 - 09 [作品] LTD
 - 10 [作品] 事前解説、台湾映画作品鑑賞(前半)
 - 11 [作品] 作品鑑賞(後半)
 - 12 [作品] LTD
 - 13 [作品] 事前解説、日本映画作品鑑賞(前半)
 - 14 [作品] 作品鑑賞(後半)
 - 15 [作品] LTD
- 全体のまとめ、授業アンケート

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/n5qtgf38z6vpnd15wdt9w65cgy6xtpa>)

間 ふうさ子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.中国語圏各地域の「家族関係」について映像を通して理解する。(DP2-1)
(知識・理解)

2.LTDの実践を通じてディスカッションの作法を学ぶ。(DP1-1) (技能)

3.LTDの実践を通じてさまざまな他者の考え方・価値観を柔軟に受け止める。
(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

何 憶 鶴

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：水・1時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

この授業では中国20世紀文学の全体像と個別作家論について学習します。

具体的に言えば、20世紀に書かれた中国文学や20世紀の中国を舞台とする映画などを手がかりとして、中国の「近代」とはどのような時代であったのか、近代中国の青年たちは何を追い求め、どのように生きていたのか、当時と現在とはどのように繋がっているのか、といった問題について考えます。単に文学史の流れを紹介し、重要な作家・作品を羅列するだけでなく、毎週一つの短編小説を取り上げて受講生と共に議論する。原典を実際に読むことによって、時代や作家に対する理解を深めます。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は教員が作成したスライドをもとに講義形式で行います。小説テキストや授業資料はMoodleを用いて配布します。ディスカッションや質疑応答の形式は受講人数によって変わります。ミニッツペーパーや感想文を提出してもらうことがあります。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

中国20世紀文学の流れや主要作家について説明できる(DP1-1)(知識・理解)

中国文学や文学批評に関心を持ち、自ら調べ、学ぶ姿勢をもつ(DP1-2)(態度・志向性)

中国社会・文化への理解が深まり、中国に関する問題について柔軟に考えることができる(DP2-1)(知識・理解)

特定の価値観を相対化し、物事を批判的に捉える姿勢をもつ(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前に配布された小説テキストを読み、あらすじや不明点をまとめる。(90分)

授業内容を振り返り、小説テキストを読み直す。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準

中国20世紀文学の流れや主要作家について説明できるか、近・現代中国に関する小説や映画についての的確な意見が言えるかを基準とする。

評価方法

授業態度、ミニッツペーパー、感想文などの平常点(40%)
 期末レポート(60%)

本科目は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

--- テキスト ---

不要

--- 参考書 ---

『中国文学をつまみ食い:『詩経』から『三体』まで』 ISBN 4623092836
 『中国二〇世紀文学を学ぶ人のために』 ISBN 9784790709947

--- 履修上の留意点 ---

事前に配布された資料を確認しておくこと。積極的な参加が求められます。

アジアの文学B(中国20世紀文学)と一緒に履修することをおすすめします。

--- 授業計画 ---

- 1.イントロダクション、中国近現代史の流れ
- 2.中国近代文学の発生(晩清から五四へ)
- 3.映画「グリーン・デスティニー」
- 4.映画「グリーン・デスティニー」
- 5.魯迅(「自序」、「狂人日記」)
- 6.魯迅(「傷逝」)、葉聖陶(「隔たり」)
- 7.フォローアップ授業
- 8.郁達夫(「鳶羅行」)
- 9.凌叔華(「刺繍の枕」)
- 10.冰心(「二つの家庭」)
- 11.馮沅君(「旅行」)
- 12.謝冰瑩(「ある女性兵士の自伝」)
- 13.映画「さらば、我が愛」
- 14.映画「さらば、我が愛」
- 15.議論、まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

括弧内は事前に配布する小説のテキスト

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ykjcwy3mlmqvdpd64ljupl216hztg1ex>)

何 憶 鴿

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.中国20世紀文学の流れや主要作家について説明できる (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.中国文学や文学批評に関心を持ち、自ら調べ、学ぶ姿勢をもつ (DP1-2) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.中国社会・文化への理解が深まり、中国に関する問題について柔軟に考えることができる (DP2-1) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.特定の価値観を相対化し、物事を批判的に捉える姿勢をもつ (DP2-2) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

東 英寿

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

- - - 概要 - - -

本授業は、中国の三国時代をテーマとします。魏・呉・蜀という三つの国が鼎立した三国時代は、曹操、劉備、関羽、張飛、諸葛亮、孫権など個性のある様々な人物が登場し、知略をめぐる作戦や壮絶な戦いが行われました。これらの史実を記録したのが陳寿編纂の歴史書『三国志』です。さらに後世、『三国志』に基づいた小説である『三国志演義』が刊行されました。

本授業では、三国の時代の流れを理解し、三国志に登場する人物、様々な戦いや出来事、三国時代に関連する詩文の読解などの視点から多面的に考察します。

さらに、三国時代を記録した正史『三国志』と、その後に編纂された小説『三国志演義』を比較しその違いについて分析することを通して、三国志の物語の伝承関係や、現在三国志といわれているものは、どちらに基づいているのか等についても考察します。加えて『三国志』魏志倭人伝を取り上げて、当時の日本(邪馬台国)の状況も理解します。

また、三国時代の英傑の生き方、特に魏を建国した曹操、蜀の劉備、呉の孫権は、現代の企業の経営者に例えることができ、そこから現代人に通じる生き方をうかがうことができます。

これを通して、三国志について総合的に学ぶことを目指します。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、事前に配布した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行います。また、適宜、授業に関連する映画や三国志アニメDVDの鑑賞することを通して、三国志について一層の理解を深めることができるよう授業を行います。2回の課題の提出を予定していますので、毎回の授業の重要事項を確認しながら受講するようにして下さい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

1, 三国志に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

2, 授業中に説明した三国志に関連する事項、事件、人物等について理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

3, 三国志や中国文化に関して、日本への影響を理解し、異文化への理解を深める。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：次の授業回の内容について、資料をよく読み、わからない点などについてあらかじめ調べておく。(90分)

復習：授業後は、授業で理解できなかった点がないかよく確認し、その回の内容を振り返って理解を深めておく。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：三国時代の詩文や時代情勢に関する知識を身につけ、授業の内容をきちんと理解できているかを評価の基準とする。

評価方法：授業中の三国志に関連する課題の提出を20% (到達目標1, 2, 3) と定期試験の回答内容を80% (到達目標1, 2) によって総合的に評価する。

- - - テキスト - - -

テキストは使用しませんが、事前に授業で使用するプリントを配布します。

- - - 履修上の留意点 - - -

注1) 毎回、授業で使用する資料は、事前にメールで送信しますので、授業中に配布しません。授業までに各自印刷するか、ダウンロードしてPC等を授業に持参するなりして、授業中にテキストを確認できるように準備しておいて下さい。

注2) 三国志について詳しく知らなくても、授業中に適宜、三国志に関するDVDや横山光輝のアニメ『三国志』を見るので、三国という時代を理解できると思います。なお、遅刻をしないようにして注意して下さい。

- - - 授業計画 - - -

第01回 授業概要の説明とイントロダクション(スタートアップ授業)

第02回 三国とはどのような時代なのか

第03回 三国志の登場人物 - 魏の曹操、蜀の劉備

第04回 三国志の登場人物 - 呉の孫権

第05回 三国時代にはどのような戦いがあったか

第06回 三国時代から日本を見る - 邪馬台国について

第07回 桃園の結義について

第08回 督郵の視察 - 劉備の対応

第09回 三顧の礼 - 諸葛孔明

第10回 苦肉の計 黄蓋の偽計

第11回 三国志最大の決戦 赤壁の戦い

第12回 三国志最大の決戦 赤壁の戦い

第13回 三国志の諸相

第14回 現代人と三国志 現代につながる三国志

第15回 全体の振り返りとまとめ

授業アンケートFURIKAの実施

* 講義の進度は受講生の理解の状況を見ながら変更する可能性があります。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/](https://fukuoka-u.box.com/s/33vu8qmmtn1gpn91wtnrwwycg83hthju)

[s/33vu8qmmtn1gpn91wtnrwwycg83hthju](https://fukuoka-u.box.com/s/33vu8qmmtn1gpn91wtnrwwycg83hthju))

東 英寿

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1, 三国志に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.2, 授業中に説明した三国志に関連する事項、事件、人物等について理解し、それらを説明することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.3, 三国志や中国文化に関して、日本への影響を理解し、異文化への理解を深める。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

金 慶湖

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・5時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

--- 概要 ---

最近の報告によると、2022年における韓国のコンテンツ産業の輸出額は124.5億ドルで、これは韓国の主力商品の一つの家電（86.7億ドル）などよりもだいぶ高い数値だ（韓国国際文化交流振興院刊『2022韓流白書』2023）そうです。大成功したビジネスを目の当たりにしている訳ですが、それはどのようにして収められたのでしょうか。韓流をめぐる国策や戦略などが功を奏したと言ったらそれまでかも知れません。しかし、ここでは一つ、まだ商品化していない原石（文学作品）を見て、これは売れるかどうか一緒に判断してみましょう。もちろん文学作品はそれ自体研ぎ澄まされている芸術品、十分すぎるほどの商品です。あくまでも文化コンテンツとして色んなメディアで再生産されても、人気を集め得るか問うてみるのです。

この授業では、こうした韓流コンテンツの様々なストーリーのルーツとなる、韓国・朝鮮の文学作品に関して、その知識と理解を得ることを目指します。そのために、近代化した日本と接し始める開化期から今日に至るまでの韓国・朝鮮文学の流れを学び、各時期の主な作品の内容と、その作品が置かれた歴史・社会・文化的な背景について学んでいきます。そして、文学テキストと共に、関連する複数のメディア（映画、ドラマ、漫画など）に触れながら、韓国・朝鮮という国、そしてそこに生きてきた人々に対する理解をより深いものにしていきましょう。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員の作成・配布した資料をもとに講義形式で行います。それに伴い、文学テキストを通してその時代と人物を追体験する一方、作品と関連する多様な情報を判断材料にし、当時の韓国・朝鮮の人、ひいては今を生きる我々の色んな有様について考えていきます。授業後には、自ら感じたところや疑問に思ったところなどを授業感想文として作成し、授業の内容を整理し理解を深めていきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

韓国・朝鮮の文学・社会・歴史についての基礎知識を身につけることができる。(DP1-1)(知識・理解)

文学作品を通じてさまざまな人・社会・文化などを理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

朝鮮半島に生きた人々のあり様を理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

具体的な根拠をもって自分なりの観点を述べるができる。(DP3-1)(態度・志向性)

日韓・日朝関係についての自分なりの観点を得ることができる。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前に配付する資料を予習すること。(60分)

授業後、授業の内容についての感想や疑問などを授業感想文として作成・提出すること。尚、復習時には、資料を再読し、不明な点などについては、参考文献の学習や次回の講義で質問するなど、解決に努めること。(60分)

映画鑑賞文や読書感想文などの課題に取り組むこと。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

韓国・朝鮮文学に関する基礎知識を習得しているのか、またその知識をもって具体的な例をあげながら韓国・朝鮮文学の特徴と内容を説明することができるかを評価基準とし、以下の割合で総合的に判断する。

- ・定期試験：40%
- ・作品鑑賞の感想文：20%（A4の1頁程度×2回提出）
- ・映画鑑賞の感想文：20%（A4の1頁程度×2回提出）
- ・授業への取り組み：20%（授業の内容に対する感想や質問など。）

--- テキスト ---

プリントを配布する。

--- 参考書 ---

- ・李光鎬編、尹相仁ほか訳『韓国の近現代文学』（法政大学出版局、2001年）ISBN：9784588080081
- ・李在銑著、丁貴連ほか訳『韓国文学はどこから来たのか』（白帝社、2005年）ISBN：9784891746735
- ・申明直ほか著、浦川登久恵ほか訳『韓国文学ノート』（白帝社、2008年）ISBN：9784891749491
- ・クォン・ヨンソク『「韓流」と「日流」：文化から読み解く日韓新時代』（日本放送出版協会、2010年）ISBN：9784140911600
- ・権寧珉編著、田尻浩幸訳『韓国近現代文学事典』（明石書店、2012年）ISBN：9784750331683
- ・秋月望監修『韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史』（キネマ旬報社、2016年）ISBN：9784873768175
- ・斎藤真理子編『韓国・フェミニズム・日本 完全版』（河出書房新社、2019年）ISBN：9784309028378
- ・波田野節子ほか編著『韓国文学を旅する60章』（明石書店、2020年）ISBN：9784750351070
- ・菅野朋子『韓国エンタメはなぜ世界で成功したのか』（文藝春秋、2022年）ISBN：9784166613472

--- 履修上の留意点 ---

- ・配布されたプリントを持参すること。
- ・授業中に取り上げる文学作品（2本）についての感想文を提出すること（2回）。
- ・授業中に鑑賞する映画（2本）についての感想文を提出すること（2回）。
- ・毎回の授業の最後に、感想や質問などを記入し提出すること。

--- 授業計画 ---

- オリエンテーション（スタートアップ授業）
- 韓国・朝鮮の近現代文学とは
- 開化期の新小説『血の涙』～親日と反日の岐路に立って～
- 植民地期の詩「懺悔録」～韓国で最も愛される詩人・尹東柱、満州で生まれ、福岡刑務所で散る～
- 植民地期の小説「翼」～明洞の三越百貨店と朝鮮半島のシュルレアリスム～
- 在日文学を考える～金史良「光の中に」（1939）と梁石日『血と骨』（1998）～
- 関連映画の鑑賞(1)
- 関連映画の鑑賞(2)解説
- 朝鮮戦争と文学『木々、坂に立つ』～突然の自分の存在（実存）との対峙～
- 軍部独裁下の文学『顔のない声』～ジョージ・オーウェルと村上春樹と寓話～
- 蒼舌両論分かれる『82年生まれキムジヨン』～フェミニズムなのかミサンドリーなのか～
- 韓国ウェブトゥーンのパラティプを考える
- 関連映画の鑑賞(2)
- 関連映画の鑑賞(2)解説
- 全体のまとめ
「授業アンケートFURIKAの実施」

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/nkqzct0te4jfgjebio4g1mxewo8s5t8c>)

金 慶湖

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.韓国・朝鮮の文学・社会・歴史についての基礎知識を身につけることができる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.文学作品を通じてさまざまな人・社会・文化などを理解することができる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.朝鮮半島に生きた人々のあり様を理解することができる。(DP2-2) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.具体的な根拠をもって自分なりの観点を述べるができる。(DP3-1) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.日韓・日朝関係についての自分なりの観点を得ることができる。(DP4-2) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

柳 忠熙

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・5時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

概要

みなさんは 韓流 という言葉をよく耳にしているかもしれません。最近、日本では、K-popやドラマや映画など、さまざまな韓国のコンテンツが紹介され、みなさんにも親しみのあるものになっていると思います。これまでの記憶と経験を思い出しながら、韓国・朝鮮の文学作品と映画の内容を確認し、韓国・朝鮮文化を考える新しい経験をしてみませんか。

この授業では、日本の隣の国である韓国・朝鮮の文学に関する概略的な知識と理解を得ることを目指します。

古代から現代にかけての韓国・朝鮮文学の流れを学び、各時期の韓国・朝鮮文学作品の内容と、その作品が置かれた歴史・社会・文化的な背景についての概略的な知識と理解を得ることができます。

そして、各時期の主な韓国・朝鮮文学テキストと関連映画に触れてみる(原文や日本語翻訳や映画の鑑賞など)ことを通じて、朝鮮半島に生きた人々の社会や歴史の変化を理解し、現在の韓国・朝鮮の歴史・社会・文化の特徴に対する自分なりの観点を持つこととなります。

授業の進行・方法

本授業は講義形式で行います。

授業はパワーポイントを利用して前回の授業感想文への教員の答えと本講義の形で進めていく。

映画を鑑賞する場合は、2回にわたって映画を観た上、教員による解説の講義を行う。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

韓国・朝鮮の文学・社会・歴史についての基礎知識を身につけることができる。(DP1-1)(知識・理解)

文学作品を通じてさまざまな人・社会・文化などを理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

朝鮮半島に生きた人々のあり様を理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

具体的な根拠をもって自分なりの観点を述べるができる。(DP3-1)(態度・志向性)

日韓・日朝関係についての自分なりの観点を得ることができる。(DP4-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

事前に配付するレジュメのファイルを予習すること。(40分)

復習時にプリントを再読し、不明な点については、参考文献の学習や次回の講義での質問など、解決に努めること。(40分)

授業後、授業の内容についての感想と疑問を授業感想文として作成すること。(40分)

映画鑑賞文や読書感想文などの課題に取り組むこと。(60分)

成績評価基準および方法

韓国・朝鮮文学に関する基礎知識を習得しているのか、またその知識をもって具体的な例をあげながら韓国・朝鮮文学の特徴と内容を説明することができるかを評価基準とし、以下の割合で総合的に判断する。

- ・定期試験：40%
- ・映画鑑賞の感想文：30% (A4の1頁程度×3回提出)
- ・作品の感想文：10% (A4の2頁程度)
- ・授業への取り組み：20% (授業の内容に対する感想や質問。教員の質問に対する返答。)

テキスト

授業レジュメのファイルを事前に配布する。各自手元に用意した上で(パソコン、タブレット、印刷など)、授業に参加すること。

参考書

李光鎬編、尹相仁・渡辺直紀訳『韓国の近現代文学』(法政大学出版局、2001年)ISBN: 4588080083

野崎充彦『朝鮮の物語』(大修館書店、1998)ISBN: 9784469231427

染谷智幸・鄭炳説編『韓国の古典小説』(ペリかん社、2008年)ISBN: 9784831512239

申明直・張世眞・権昶奎著、浦川登久恵・野口なごみ訳『韓国文学ノート』(白帝社、2008年)ISBN: 9784891749491

権寧珉編、田尻浩幸訳『韓国近現代文学事典』(明石書店、2012年)ISBN:9784750331683

小倉紀蔵『朝鮮思想全史』(ちくま新書、2017年)ISBN:9784480071040

秋月望監修『韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史』(キネマ旬報ムック、2015年)ISBN:4873768179

斎藤真理子編『韓国・フェミニズム・日本 完全版』(河出書房新社、2019年)ISBN:9784309028378

韓国映像資料院編・桑畑優香訳『韓国映画100選』(クオン、2019年)ISBN: 9784904855935

波田野節子・斎藤真理子編著ほか『韓国文学を旅する60章』(明石書店、2020年)ISBN:9784750351070

履修上の留意点

- ・配布されたプリントを毎回すべて持参すること。
- ・授業中に鑑賞する映画(3本)についての感想文を提出すること(3回)。
- ・韓国・朝鮮文学(日本語訳)の課題リストから1作品を選んで読んで、その感想文を提出すること。
- ・毎回授業後、指定の締切まで感想や質問などを記入し、FUポータルの課題に提出すること。
- ・授業の内容や評価方法は状況(例：遠隔授業など)によって変更の可能性はある。

授業計画

1. オリエンテーション(スタートアップ授業)
2. 韓国・朝鮮の文学とは
3. 韓国・朝鮮の古典文学(1)
4. 韓国・朝鮮の古典文学(2)
5. 古典文学関連映画の鑑賞(1)
6. 古典文学関連映画の鑑賞(2)解説
7. 開化期・植民地期の文学(1)
8. 開化期・植民地期の文学(2)
9. 近代文学関連映画の鑑賞(1)
10. 近代文学関連映画の鑑賞(2)解説
11. 韓国・朝鮮の現代文学(1)
12. 現代文学関連映画の鑑賞(2)
13. 現代文学関連映画の鑑賞(2)解説
14. 韓国・朝鮮の現代文学(3)
15. 全体のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

- ・時期区分とその内容
 - 韓国・朝鮮の古典文学：古代～朝鮮時代、例) 神話・郷歌・時調・漢詩文・パンソリ・古小説など)
 - 開化期・植民地期の文学：19世紀末～20世紀半ば、例) 新小説・翻訳翻案物・新体詩・代小説・日本語創作など)
 - 韓国・朝鮮の現代文学：20世紀半ば～現在、例) 高度成長期の文学、今日の韓国文学など。

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/qu34e99q192t08s9ng8px5b5kcsfjrxj>)

柳 忠熙

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.韓国・朝鮮の文学・社会・歴史についての基礎知識を身につけることができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.文学作品を通じてさまざまな人・社会・文化などを理解することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.朝鮮半島に生きた人々のあり様を理解することができる。(DP2-2) (知識・理解)

4.具体的な根拠をもって自分なりの観点を述べるができる。(DP3-1) (態度・志向性)

5.日韓・日朝関係についての自分なりの観点を得ることができる。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

間 ふさ子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：金・1時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

--- 概要 ---

中国人作家・三毛（サンマウ、1943-1991）は、1974年から翌75年までスペイン人の夫・ホセと共に北アフリカの西サハラに住み、そこで見聞きし経験したことを綴って台湾の新聞の文芸欄に発表しました。その文章は当時簡単には海外に行けなかった台湾の人々の心をつかみ、『サハラの物語』としてまとめられた単行本が一大ベストセラーとなりました。

その後1980年代には、中国大陸でも三毛の一大ブームが巻き起こり、没後30年となる今年に至るまで三毛を愛好する読者は後を絶ちません。その多くは彼女が遺した作品のみならず、人となりや生き方に魅了された人々です。

『サハラの物語』でデビューした三毛は、一人で異郷を旅し、見知らぬ世界の扉を果敢に押し開けた女性として認識されがちですが、実は非常に繊細で傷つきやすい心を持った人でした。

三毛は中国の伝統的道德観が強調される台湾で少女期を過ごし、中学二年のとき、教師の心ない仕打ちのために不登校となります。その後自力で古今東西の文学作品を読破、絵画や音楽の世界に触れることでようやく世間に足を踏み出す勇氣を持つに至ります。

その後、閉塞的な台湾社会を逃れてスペインへ遊学し、のちに夫となる七歳年下のホセと出会います。ドイツ、アメリカで学んだのち台湾に戻り、母校の教壇に立ったものの、ドイツ人の婚約者の急死にうちのめされた彼女は、傷心を抱いて再びスペインに赴き、そこでホセと再会し、ついに結婚を決意します。砂漠での激動の日々を経て、カナリア諸島に居を構えた三毛を待っていたのは、ホセの事故死という苛酷な現実でした。

失意の彼女は悩んだ末にホセとの思い出の場所を離れて台北に戻り、そこで作家活動を続けますが、1991年1月4日に自らの手で48年の人生を閉じました。彼女はその処女作から最後の作品まで、一貫して「自分」を語り続けた一人称の作家でした。

本授業では、三毛の主要な作品を単行本の発表順に読んでいき、当時の社会情勢をふまえつつ、今なお中国語圏の人々に愛され続ける彼女が人生のそれぞれの段階で何を思い、何を読者に伝えようとしたのか考えていきます。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、三毛の作品を単行本の発表順に読んでいきます。
授業の前に、当該授業で取り扱う作品あるいは関連資料をmoodleにアップしますので、予習としてそれに目を通しておいてください。
授業はこの作業がなされていることを前提に、講義方式で進めます。
授業後は、moodleの「フィードバック」から、ミニレポートとして、講義のまとめとそれに対する検討を提出していただきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

中国人作家・三毛の生涯を知る(DP1-1)(知識・理解)

中国人作家・三毛の作品に触れる(DP2-1)(知識・理解)

三毛が生きた時代の社会情勢とそれが作家に与えた影響を考える(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

指定された作品・資料を前もって読んでおく。(90分)

授業内容をまとめ、それに対する検討を行う。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

本授業は以下の方法と割合で成績を評価します。

- (1)定期試験：55%
- (2)授業に対する積極性、授業後に提出するミニレポートなどの平常点：45%

定期試験は、三毛についての知識と理解、講義で紹介した三毛作品についての理解、三毛と中国・台湾社会の関係についてなど講義で取り扱った諸問題についての理解度が評価の基準となります。
平常点は、その日の講義内容について問題意識を持ち検討を行っているかどうかを評価の基準とします。

--- テキスト ---

特にもうけません。必要に応じて資料を配付（配信）します。

--- 参考書 ---

サハラの歲月 ISBN 978-4-88344-289-8
三つの名を持つ少女 その孤独と愛の記憶 ISBN 978-4-8834-3093

--- 履修上の留意点 ---

大学が提供するmoodleを利用して授業資料の配付やフィードバックの入力を行います。

--- 授業計画 ---

- 01 イン트로ダクション（スタートアップ授業）
授業の進め方、取り組み等について
中国人作家・三毛について
- 02 『撒哈拉的故事』（サハラの物語）
- 03 『撒哈拉的故事』（サハラの物語）
- 04 『雨季不再来』（雨の季節はもう来ない）
- 05 『稻草人手記』（案山子の手記）
- 06 『哭泣的駱駝』（哀哭のラクダ）
- 07 『温柔的夜』（やさしい夜）
- 08 『背影』（後ろ姿）
- 09 『夢裡花落知多少』（夢に咲く花）
- 10 『万水千山走遍』（万水千山を行く）
- 11 『送你一匹馬』（馬をあなたに）
- 12 『傾城』
- 13 『鬧学記』
- 14 『滾滾紅塵』（レッドダスト）
- 15 まとめ：『回声』（こだま）
授業アンケート

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/hjpnveg6kr00kyvfdi7ltixkjwgvbaa>)

間 ふうさ子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.中国人作家・三毛の生涯を知る (DP1-1) (知識・理解)
- 2.中国人作家・三毛の作品に触れる (DP2-1) (知識・理解)
- 3.三毛が生きた時代の社会情勢とそれが作家に与えた影響を考える (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

何 憶 鶴

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：水・1時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

この授業では中国20世紀文学の全体像と個別作家論について学習します。

具体的に言えば、20世紀に書かれた中国文学や20世紀の中国を舞台とする映画などを手がかりとして、中国の「近代」とはどのような時代であったのか、近代中国の青年たちは何を追い求め、どのように生きていたのか、当時と現在とはどのように繋がっているのか、といった問題について考えます。単に文学史の流れを紹介し、重要な作家・作品を羅列するだけでなく、毎週一つの短編小説を取り上げて受講生と共に議論する。原典を実際に読むことによって、時代や作家に対する理解を深めます。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は教員が作成したスライドをもとに講義形式で行います。小説テキストや授業資料はMoodleを用いて配布します。ディスカッションや質疑応答の形式は受講人数によって変わります。ミニッツペーパーや感想文を提出してもらうことがあります。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

中国20世紀文学の流れや主要作家について説明できる(DP1-1)(知識・理解)

中国文学や文学批評に関心を持ち、自ら調べ、学ぶ姿勢をもつ(DP1-2)(態度・志向性)

中国社会・文化への理解が深まり、中国に関する問題について柔軟に考えることができる(DP2-1)(知識・理解)

特定の価値観を相対化し、物事を批判的に捉える姿勢をもつ(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前に配布された小説テキストを読み、あらすじや不明点をまとめる。(90分)

授業内容を振り返り、小説テキストを読み直す。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準

中国20世紀文学の流れや主要作家について説明できるか、近・現代中国に関する小説や映画についての的確な意見が言えるかを基準とする。

評価方法

授業態度、ミニッツペーパー、感想文などの平常点(40%)
 期末レポート(60%)

本科目は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

--- テキスト ---

不要

--- 参考書 ---

『中国文学をつまみ食い:『詩経』から『三体』まで』 ISBN 4623092836
 『中国二〇世紀文学を学ぶ人のために』 ISBN 9784790709947

--- 履修上の留意点 ---

事前に配布された資料を確認しておくこと。積極的な発言が求められます。

アジアの文学A(中国20世紀文学)と一緒に履修することをおすすめします。

--- 授業計画 ---

- 1.沈從文(「夫」)
- 2.老舎(「黒李と白李」)
- 3.蕭紅(「手」)
- 4.張愛玲
- 5.余華 映画「生きる」前半
- 6.余華 映画「生きる」後半
- 7.フォロワーアップ授業
- 8.莫言(「花束を抱く女」)
- 9.莫言 映画「故郷の香り」
- 10.莫言(「白い犬とブランコ」)
- 11.王安憶(「阿蹺略伝」)
- 12.中華SF
- 13.中華SF
- 14.郝景芳(「折りたたみ北京」)
- 15.まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

括弧内は事前に配布する小説のテキスト

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/zb48vci6pg1yp3yte3bbzhgy2c9r44c>)

何 憶 鴿

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.中国20世紀文学の流れや主要作家について説明できる (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.中国文学や文学批評に関心を持ち、自ら調べ、学ぶ姿勢をもつ (DP1-2) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.中国社会・文化への理解が深まり、中国に関する問題について柔軟に考えることができる (DP2-1) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.特定の価値観を相対化し、物事を批判的に捉える姿勢をもつ (DP2-2) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

東 英寿

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：木・1 時間 試験時間割：2025/01/21 4 時間

- - - 概要 - - -

本授業では、中国の唐代、宋代の詩を対象として、詩の中に読み込まれている情景や心情を鑑賞します。唐代の孟浩然、王昌齡、王維、李白、杜甫、劉禹錫、白居易、柳宗元、賈島、杜牧、魚玄機の11人、宋代は王安石、蘇軾の2人、合計13人の詩人を取り上げて、彼らの詩を読解し鑑賞します。詩人の経歴を理解した上で、詩の読解を行い、その詩が作成された経緯や背景を理解します。

さらに、本授業の特色の一つは、毎回、授業で取り上げた詩に関連するDVDを鑑賞することです。このDVDは「新漢詩紀行」というもので、詩が読まれた現地での取材を基にして構成されたものです。従って、その詩が作成された場所や風景を実際に見ることができて、詩に関する理解が一層深まります。詩の内容、作成の事情などを理解し、DVD（「新漢詩紀行」）の鑑賞を通して、その詩が読まれた背景や情景をリアルに学びとることができます。

また、唐代、宋代の詩には、たとえば「古稀」という語句や「推敲」という故事の出典があり、現代の我々につながる考え方も学ぶことができます。教養を高めることができます。

このようにして、唐代、宋代の詩について多角的に学ぶことを目的とします。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、事前に配布した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行います。また、適宜、授業に関連するDVDの鑑賞を取り入れます。2回の課題の提出を予定していますので、毎回の授業の重要事項を確認しながら受講するようにして下さい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

唐代、宋代の詩に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

授業中に説明した唐代、宋代の詩の内容、関連する背景、事項、人物について理解し、それらについて説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

中国古典の詩の日本への影響を理解し、異文化への理解を深める。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：次の授業回の内容について、資料をよく読み、わからない点などについてあらかじめ調べておく。(90分)

復習：授業後は、授業で理解できなかった点がないかよく確認し、その回の内容を振り返って理解を深めておく。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：唐代、宋代の詩に関する知識を身につけ、授業の内容をきちんと理解できているかを評価の基準とする。

評価方法：授業中の唐代、宋代の詩に関連する課題の提出を20%（到達目標1, 2, 3）と定期試験の回答内容を80%（到達目標1, 2）によって総合的に評価する。

- - - テキスト - - -

テキストは使用しませんが、事前に授業で使用するプリントを配布します。

- - - 履修上の留意点 - - -

毎回、授業で使用する資料は、事前にメールで送信しますので、授業中に配布しません。授業までに各自印刷するか、ダウンロードしてPC等を授業に持参するなりして、授業中にテキストを確認できるように準備しておいて下さい。

- - - 授業計画 - - -

第01回 授業概要の説明とイントロダクション（スタートアップ授業）

第02回 孟浩然の詩

第03回 王昌齡の詩

第04回 王維の詩

第05回 李白の詩

第06回 杜甫の詩

第07回 劉禹錫の詩

第08回 白居易の詩

第09回 柳宗元の詩

第10回 賈島の詩

第11回 杜牧の詩

第12回 魚玄機の詩

第13回 王安石の詩

第14回 蘇軾の詩

第15回 全体の振り返りとまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

* 講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性があります。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/nnpzac6qxmrvvcu0ef11lob9c0g2xe9g>)

東 英寿

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.唐代、宋代の詩に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。 (DP1-1) (知識・理解)

2.授業中に説明した唐代、宋代の詩の内容、関連する背景、事項、人物について理解し、それらについて説明することができる。 (DP2-1) (知識・理解)

3.中国古典の詩の日本への影響を理解し、異文化への理解を深める。 (DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

近藤 祐磨

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：火・1時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

地理学は、地域差を追究する学問であり、「空間」の科学である。地理学が扱う事象・現象は、自然的なものから人文・社会的なものまで幅広いが、人文地理学はそのなかでも人文・社会的なもの、すなわち人間活動に注目する分野である。

本授業では、人文地理学の基本的な立地に関する理論を学び、流通と消費、そして観光に関する現象を読み解く。「何がどこに立地するのか、それはなぜなのか」という問いは、地理学の古典的な関心事であり、近代地理学で発展が積み重ねられてきた。授業前半では、その古典的な理論について学び、現代における意義や限界も考察する。授業後半では、より私たちの生活に即した流通・消費や観光について取り上げる。こうしたヒトやモノの空間的移動という現象のメカニズムやそれが地域にもたらす影響について考察する。

これにより、地理学的な見方・考え方を修得するとともに、本授業以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できるようになることを目指す。

本授業は講義形式で行われる。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。講義資料は事前にMoodle上で掲載するので、各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

なお、本授業はアクティブ・ラーニング形式には該当しませんが、数々の問いを適宜受講者に対して投げかけます。そのため、受動的ではなく、積極的に思考しながら受講してください。

授業支援と双方向性確保のため、Moodle上に掲示板（フォーラム）を設置する予定です。授業を聞いて考えたことや質問などを自由に投稿してください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

人文地理学の基礎的な学説・理論を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

本講義以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。(DP1-1)(態度・志向性)

多様な考え方・価値観に触れ、地理的な事象を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで、自らの考えや立ち位置を表現することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

【予習】初めに挙げた文献を読んでおくこと。(60分)

【復習】その日に別途挙げた文献を読んでおくこと。また、授業で学んだ理論や事例について、各自追加で調べて、知見を深掘りしたり広げたりしておくこと。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準：授業内容に基づく地理学の見方・考え方や基本的な学説を理解できているか、そしてその学説について考察して自分の言葉で表現できるかを、授業内に実施する2回の振り返りのテストで評価します。

評価方法：振り返りのテスト（前半50%＋後半50%）。Moodle上で実施します。

加えて、掲示板（フォーラム）に書き込んだ内容のうち、特に授業への貢献度が高いものについては、上記の合計点に上限10点で加算します。

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

--- テキスト ---

使用しません。配布資料をMoodle上にアップロードします。各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

--- 参考書 ---

みわたす・つなげる人文地理学 ISBN 9784772281218
地理学で読み解く流通と消費 ISBN 9784860646950
現代観光地理学への誘い 観光地を読み解く視座と実践
ISBN 9784779516054
その他は適宜指示します。

--- 履修上の留意点 ---

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

振り返りのテストを実施する回では、Moodleを閲覧できるノートPCまたはタブレット端末、スマートフォンの持参が必要です。

履修にあたり、予備知識は特に要しません。高校での地理の履修の有無も問いません。

しかし、本授業は一斉型の講義形式ながらも、思考を促す場面を多く設定しています。人数の多い講義ですが、自分自身もこの講義を作る一員であることを意識して、受動的ではなく、能動的な態度で受講してください。

日常のさまざまな場面が地理学的な考察につながります。講義内容を日常生活のあらゆる場面と関連させ、興味のあることを自ら深めるようにしてください。

履修にあたって合理的配慮が必要な場合は、あらかじめ学生課に相談・申請してください。

--- 授業計画 ---

オリエンテーションと本講義の理念（スタートアップ授業）

地理学の基礎

立地論1 立地競争と地代

立地論2 農業立地と都市の内部構造

立地論3 工業立地論

立地論4 中心地理論 店舗や都市の立地法則

立地論5 都市システム論

前半の振り返り（テストと解説）

流通と消費1 人口移動と市場、買い物空間

流通と消費2 国土空間の圧縮と流通革新 高齢化

流通と消費3 地域性の再構築、持続可能性

観光地理学1 観光地化された空間

観光地理学2 観光地における人

観光地理学3 観光地の新しい潮流

後半の振り返り（テストと解説）・授業アンケート
FURIKAの実施

内容は進度などにより変更する場合があります

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/s3jpenickqkb36u0e4a4wjem14kzdx03>)

近藤 祐磨

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.人文地理学の基礎的な学説・理論を理解し、説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.本講義以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。（DP1-1）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.多様な考え方・価値観に触れ、地理的な事象を多角的に見ることができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで、自らの考えや立ち位置を表現することができる。（DP2-2）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

藤村 健一

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：月・二部 1 時限 試験時間割：2024/07/29 夜 1 限

- - - 概要 - - -

地理学は、「人文地理学」・「自然地理学」・「地誌学(地域地理学)」の3つに大別できる。この授業ではこれら3つのうち、人文地理学について概説する。

授業では、まず地理学と人文地理学に関して、研究目的・研究方法などの全体的な説明を行う。

次に、環境論(人間と自然環境の関係についての研究)の動向を中心とした、人文地理学の歴史について述べる。

そのあとで、人文地理学の下位分野である都市地理学と村落地理学の基礎を、地図を含む諸資料を用いて説明する。この中では、実際の研究事例や研究方法も紹介する。

このほか、学校での地理教育の現状・課題や、生活に役立つ技能としての地図の活用方法についても教える。

この授業では、人文地理学の基礎的な知識を理解し、地図を含む資料によって都市・村落の地理的特徴を把握することを目指す。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行う。授業各回の冒頭でプリントを配布し、これに沿って授業を進める。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

人文地理学の基礎的な知識を理解している。(DP1-1)(知識・理解)

都市や村落の地理的特徴を理解している(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回授業前に、前回授業の内容をプリントなどを使って復習してください。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：授業内容を理解し、人文地理学の基礎を理解できているかを評価の基準とする。

評価方法：定期試験

- - - テキスト - - -

なし(プリントを配布する)

- - - 参考書 - - -

藤井正ほか編『よくわかる都市地理学』 ISBN

9784623067237

稲垣稜『都市の人文地理学』 ISBN 9784772253253

浜谷正人『日本村落の社会地理』 ISBN 9784772213004

これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

- - - 授業計画 - - -

1. 【スタートアップ授業】イントロダクション、地理学とは何かⅠ(地理学の大分類、研究対象)
2. 地理学とは何かⅡ(研究目的・研究方法(1))
3. 地理学とは何かⅢ(研究目的・研究方法(2))
4. 中学・高校での地理教育Ⅰ(教科としての「地理」)
5. 中学・高校での地理教育Ⅱ(学習指導要領のキーワード、GIS、地理教育の課題)
6. 人文地理学史Ⅰ(地理学の起源、環境論の盛衰(1))
7. 人文地理学史Ⅱ(環境論の盛衰(2)、現代の地理学)
8. 都市地理学Ⅰ(都市の定義・特徴・機能、都市階層)
9. 都市地理学Ⅱ(都市の内部構造)
10. 都市地理学Ⅲ(都市化、都市人口)
11. 都市地理学Ⅳ(都市問題、都市の歴史的形態)
12. 村落地理学Ⅰ(村落の定義・分類・歴史)
13. 村落地理学Ⅱ(村落の社会構造、過疎問題)
14. 地図の種類と読み方Ⅰ(地図に必要な要素、地図の種類)
15. 地図の種類と読み方Ⅱ(インターネットで見る地図、地形図の読図)、授業アンケートFURIKAの実施
講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性がある。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/yjnttrr04qcikslaggqlxrc4do38ig44>)

藤村 健一

全学部学科: DP1-1,DP2-1

1.人文地理学の基礎的な知識を理解している。(DP1-1)(知識・理解)

2.都市や村落の地理的特徴を理解している(DP2-1)(知識・理解)

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

中村 未来

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：月・3時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

- - - 概要 - - -

グローバル化やボーダーレス化が進み、我々を取り巻く環境が目まぐるしく変化している昨今、他国と海を隔てた日本においても、異文化圏の人々と接する機会が大幅に増してきている。そのような異文化間の交流を通して、我々が強く感じるの、やはりアジア文化圏に共通する倫理観や人間観の存在であろう。

「人の性は善か、悪か」「忠と孝はどちらを優先すべきか」等、中国古代より幾度も論じられてきた問いは、現代においても、なお、考察すべき大きな意義を持つ。日本人の倫理観や人間観の根底にも、このような古代中国思想の影響が多分に含まれているものと考えられる。

そこで、本授業では『論語』や『孟子』等の中国の古典や、さらには近年相次いで出土し公開されてきている中国古代の新史料を用いて、東洋思想の原点、特に「人間観」について改めて考えてみたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、主に教員が作成した講義資料（FUboxに格納）をもとに講義形式で行う。大きなテーマが終わる毎に、授業内容の理解度を確認するため、小テストや論述課題に取り組んでもらう（全5回を予定）。また、授業では一部、関連する内容の視聴覚メディアを活用して、各自の理解や考えをより深められるようにしたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。(DP1-1)(知識・理解)

中国の古代思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

参考書や関連文献を読み、次回のテーマについて予習すること。(60分)

配付資料によく目を通し、内容の理解を深めること(復習)。(60分)

わからない語句があれば、参考書等を調べ、確認すること(予習・復習)。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

平常点(授業時のミニレポートや小テストなど:50%)と、定期試験(50%)を合わせて評価する。

平常点については、授業を通して5回程、授業内容に関するミニレポート、あるいは小テスト等を10分程度で記述(解答)し、提出してもらう。

なお、授業の大半を欠席した場合には、平常点(=ミニレポートや小テストによって、授業への参加度・授業への取り組み姿勢をはかる点数)は付けられないので、注意すること。

定期試験は、授業で取り上げた中国古典に見える人間観や道徳観念をどの程度理解しているか、またそれらに対してどの程度関心や問題意識を持っているか、という点から評価する。

- - - テキスト - - -

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。

- - - 参考書 - - -

湯浅邦弘『諸子百家 儒家・墨家・道家・法家・兵家』中公新書 ISBN 978-4121019899

湯浅邦弘編著『よくわかる中国思想』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623092598

溝口雄三・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』東京大学出版会 ISBN 978-4130100878

その他、授業中に適宜紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

毎回の授業プリント(配付資料)はFUboxに掲載する。授業までに各自で印刷するか、ダウンロードしてPC等を授業に持参し、授業中にテキストを確認できるように準備して頂きたい。

遅刻や途中退席、授業中の私語が多い場合には、減点の対象とする。

テストやレポート課題において、剽窃などの不正行為が見られた場合には、厳しく対処する。

- - - 授業計画 - - -

- 1.(スタートアップ授業)
授業内容や授業の進め方について
中国思想史の大まかな流れ
- 2.【テーマ1】天と人と
3. 天と人と
4. 天と人と
- 5.【テーマ2】性説
6. 性説
7. 性説
- 8.【テーマ3】孝と忠と
9. 孝と忠と
- 10.【テーマ4】欲について
- 11.【テーマ5】礼について
- 12.【テーマ6】聖人観
- 13.【テーマ7】聖人観(続)、戦争について
14. 戦争について
- 15.(授業のまとめ)
総括
授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/c6zyq608svtq9qdxhw1x930s2qe4opf0>)

中村 未来

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。 (DP1-1) (知識・理解)
2. 中国の古代思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。 (DP2-1) (知識・理解)
3. 授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。 (DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

中村 未来

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：月・1時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

- - - 概要 - - -

グローバル化やボーダーレス化が進み、我々を取り巻く環境が目まぐるしく変化している昨今、他国と海を隔てた日本においても、異文化圏の人々と接する機会が大幅に増してきている。そのような異文化間の交流を通して、我々が強く感じるの、やはりアジア文化圏に共通する倫理観や人間観の存在であろう。

「人の性は善か、悪か」「忠と孝はどちらを優先すべきか」等、中国古代より幾度も論じられてきた問いは、現代においても、なお、考察すべき大きな意義を持つ。日本人の倫理観や人間観の根底にも、このような古代中国思想の影響が多分に含まれているものと考えられる。

そこで、本授業では『論語』や『孟子』等の中国の古典や、さらには近年相次いで出土し公開されてきている中国古代の新史料を用いて、東洋思想の原点、特に「人間観」について改めて考えてみたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、主に教員が作成した講義資料（FUboxに格納）をもとに講義形式で行う。大きなテーマが終わる毎に、授業内容の理解度を確認するため、小テストや論述課題に取り組んでもらう（全5回を予定）。また、授業では一部、関連する内容の視聴覚メディアを活用して、各自の理解や考えをより深められるようにしたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。(DP1-1)(知識・理解)

中国の古代思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

参考書や関連文献を読み、次回のテーマについて予習すること。(60分)

配付資料によく目を通し、内容の理解を深めること(復習)。(60分)

わからない語句があれば、参考書等を調べ、確認すること(予習・復習)。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

平常点(授業時のミニレポートや小テストなど:50%)と、定期試験(50%)を合わせて評価する。

平常点については、授業を通して5回程、授業内容に関するミニレポート、あるいは小テスト等を10分程度で記述(解答)し、提出してもらおう。

なお、授業の大半を欠席した場合には、平常点(=ミニレポートや小テストによって、授業への参加度・授業への取り組み姿勢をはかる点数)は付けられないので、注意すること。

定期試験は、授業で取り上げた中国古典に見える人間観や道徳観念をどの程度理解しているか、またそれらに対してどの程度関心や問題意識を持っているか、という点から評価する。

- - - テキスト - - -

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。

- - - 参考書 - - -

湯浅邦弘『諸子百家 儒家・墨家・道家・法家・兵家』中公新書 ISBN 978-4121019899

湯浅邦弘編著『よくわかる中国思想』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623092598

溝口雄三・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』東京大学出版会 ISBN 978-4130100878

その他、授業中に適宜紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

毎回の授業プリント(配付資料)はFUboxに掲載する。授業までに各自で印刷するか、ダウンロードしてPC等を授業に持参し、授業中にテキストを確認できるように準備して頂きたい。

遅刻や途中退席、授業中の私語が多い場合には、減点の対象とする。

テストやレポート課題において、剽窃などの不正行為が見られた場合には、厳しく対処する。

- - - 授業計画 - - -

- 1.(スタートアップ授業)
授業内容や授業の進め方について
中国思想史の大まかな流れ
- 2.【テーマ1】天と人と
3. 天と人と
4. 天と人と
- 5.【テーマ2】性説
6. 性説
7. 性説
- 8.【テーマ3】孝と忠と
9. 孝と忠と
- 10.【テーマ4】欲について
- 11.【テーマ5】礼について
- 12.【テーマ6】聖人観
- 13.【テーマ7】聖人観(続)、戦争について
14. 戦争について
- 15.(授業のまとめ)
総括
授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/b02wsswy6ol0gbncw7mexpnflc2hcziz>)

中村 未来

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。 (DP1-1) (知識・理解)
2. 中国の古代思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。 (DP2-1) (知識・理解)
3. 授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。 (DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

中村 未来

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・2時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

- - - 概要 - - -

グローバル化やボーダーレス化が進み、我々を取り巻く環境が目まぐるしく変化している昨今、他国と海を隔てた日本においても、異文化圏の人々と接する機会が大幅に増してきている。そのような異文化間の交流を通して、我々が強く感じるの、やはりアジア文化圏に共通する倫理観や人間観の存在であろう。

「人の性は善か、悪か」「忠と孝はどちらを優先すべきか」等、中国古代より幾度も論じられてきた問いは、現代においても、なお、考察すべき大きな意義を持つ。日本人の倫理観や人間観の根底にも、このような古代中国思想の影響が多分に含まれているものと考えられる。

そこで、本授業では『論語』や『孟子』等の中国の古典や、さらには近年相次いで出土し公開されてきている中国古代の新史料を用いて、東洋思想の原点、特に「人間観」について改めて考えてみたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、主に教員が作成した講義資料（FUboxに格納）をもとに講義形式で行う。大きなテーマが終わる毎に、授業内容の理解度を確認するため、小テストや論述課題に取り組んでもらう（全5回を予定）。また、授業では一部、関連する内容の視聴覚メディアを活用して、各自の理解や考えをより深められるようにしたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。(DP1-1)(知識・理解)

中国の古代思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

参考書や関連文献を読み、次回のテーマについて予習すること。(60分)

配付資料によく目を通し、内容の理解を深めること(復習)。(60分)

わからない語句があれば、参考書等を調べ、確認すること(予習・復習)。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

平常点(授業時のミニレポートや小テストなど:50%)と、定期試験(50%)を合わせて評価する。

平常点については、授業を通して5回程、授業内容に関するミニレポート、あるいは小テスト等を10分程度で記述(解答)し、提出してもらう。

なお、授業の大半を欠席した場合には、平常点(=ミニレポートや小テストによって、授業への参加度・授業への取り組み姿勢をはかる点数)は付けられないので、注意すること。

定期試験は、授業で取り上げた中国古典に見える人間観や道徳観念をどの程度理解しているか、またそれらに対してどの程度関心や問題意識を持っているか、という点から評価する。

- - - テキスト - - -

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。

- - - 参考書 - - -

湯浅邦弘『諸子百家 儒家・墨家・道家・法家・兵家』中公新書 ISBN 978-4121019899

湯浅邦弘編著『よくわかる中国思想』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623092598

溝口雄三・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』東京大学出版会 ISBN 978-4130100878

その他、授業中に適宜紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

毎回の授業プリント(配付資料)はFUboxに掲載する。授業までに各自で印刷するか、ダウンロードしてPC等を授業に持参し、授業中にテキストを確認できるように準備して頂きたい。

遅刻や途中退席、授業中の私語が多い場合には、減点の対象とする。

テストやレポート課題において、剽窃などの不正行為が見られた場合には、厳しく対処する。

- - - 授業計画 - - -

- 1.(スタートアップ授業)
授業内容や授業の進め方について
中国思想史の大まかな流れ
- 2.【テーマ1】天と人と
3. 天と人と
4. 天と人と
- 5.【テーマ2】性説
6. 性説
7. 性説
- 8.【テーマ3】孝と忠と
9. 孝と忠と
- 10.【テーマ4】欲について
- 11.【テーマ5】礼について
- 12.【テーマ6】聖人観
- 13.【テーマ7】聖人観(続)、戦争について
14. 戦争について
- 15.(授業のまとめ)
総括
授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/gwss5y9grmjisezydxmw474vrcn190ht>)

中村 未来

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。 (DP1-1) (知識・理解)
2. 中国の古代思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。 (DP2-1) (知識・理解)
3. 授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。 (DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
-
- DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
-
- DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
-
- DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
-
- DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

広川 明

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・3時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

--- 概要 ---

宇宙が誕生して138億年もの時間が経過し、あるときあるところに特異な構造をもつ有機体が生じた。それが私であり、私はいま・ここに存在する。私はこれまで気が遠くなるほどの時間どこにも存在しなかったが、つかの間のあいだこの世界にとどまり、ふたたび無へと帰ってゆく。そしてそのあとには、永遠ともいえる時間が流れてゆくのだろう。

ところで、以上に述べたことのうちには、次の前提がふくまれている。いま・ここにいる「この私」は、過去から現在・未来にいたる歴史において宇宙のあらゆるところを探しても、たった一人しかいないということだ。「この私」とは唯一無二の存在であって、他のだれも「この私」ではありえない。それが私ということばのもっとも重要な意味であろう（この意味の私を、以後「私」と表記することとする）。

ここでこう問ってみよう。その唯一無二の「私」はなぜ、他のどこでもなく他のいつでもなく、いま・ここにいるのだろうか？ また、「私」がいま・ここに生まれたことに何か特別な意味があるのだろうか？ 「私」はどこから来て、またどこへと去ってゆくのか？

この授業では、こうした「私」の誕生という原事実へとさかのぼって、「私」の存在根拠について考えたい。

ただし、この問題は授業の後半にあつかうこととして、授業の前半では、古今の論者たちの知恵をかりて、生を通して死の意味を、また、死を通して生の意味を考えることとする。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、基本的には講義形式で行います。教員が準備した講義資料（空欄補充式）を毎回、FUポータルにアップロードします。空欄を埋めながら、そこに含まれる重要なポイントを解説し、また、教員からも質問を出してみなさんに考えていただきます。なお、授業中に何度かビデオ視聴を採り入れ、現代社会における生と死の変容を確認したいと思います。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

他者の死とは異なる、一人称（私）の死の特異性を説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

人間の限界を自覚し、生きることを新たな視点から見直すようになる。（DP1-1）（態度・志向性）

生と死について、洋の東西を問わず、様々な説があることを理解できる。（DP2-1）（知識・理解）

死後の問題を宗教的に考えることを通して、世界の多様な死生観を学ぶ。（DP2-2）（知識・理解）

他者の存在を前提として、その中に埋もれてしまわない自分の特異性について考えるようになる。（DP1-2）（態度・志向性）

--- 授業時間外の学習（予習・復習） ---

1. 空欄補充型の資料をFUポータルにアップロードするので、わからない用語の意味について調べておき、事前に課題が与えられた場合はそれについて考えておく。

(90分)

2. 空欄補充後、授業で理解できなかった点がないか確認し、よく読んで理解を深めておく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・定期試験では、(1)設問に対して適切に答えているか、(2)正しい日本語で論理的な表記ができているか、(3)死の人称的な意味を正しく理解しているか、(4)ハイデガーの実存思想を理解しているか、などの点を基準にして評価する。
・レポートは1回実施することとし（レポートのテーマは、「AIと労働」あるいは「死刑」（どちらを選んで可））、レポートの課題について十分なデータを集めたか、そのデータに基づいて自分の見解を明確に記述しているか、自分の意見に対して有効な論証を行っているか、などを評価の基準とする。
・定期試験の成績を80%、提出されたレポートの評価を20%で評価する。

--- テキスト ---

使用しません。空欄補充式の講義資料（B5で4ページ程度）を毎回配布します。講義資料から定期試験の問題を出題します。

--- 参考書 ---

トルストイ『イワン・イリッチの死』（米川正夫訳、岩波文庫） ISBN 4-00-326193-3

B.パスカル『パンセ』（前田・由木訳、中公文庫） ISBN 4-12-200060-2

ハイデガー『存在と時間（3）』（熊野純彦訳、岩波文庫） ISBN 978-4-00-336516-8

あくまでも参考書ということで、絶対に読む必要があるというわけではありません。特にハイデガーの本はたいへん読みにくいと思います。しかし、トルストイの小説は、短くてもじゅうぶん手ごたえのあるものなので、ぜひ読んでほしいと思います。

--- 履修上の留意点 ---

・前提とされる知識等はとくに必要ありません。
・質問を受けた場合は、自分の意見をはっきりと言うこと。分からない場合も、言葉にして表明する必要があります。

--- 授業計画 ---

- 1 イン트로ダクション（スタートアップ授業）授業の進行、成績評価についての説明など。
- 2 死の人称性：人称によって変わる死の意味
- 3 1人称の死：世界の中心の消滅、不在と無
- 4 死へとかわる存在：ハイデガーの死生観
- 5 本来性と非本来性：死をみつめて生きる
- 6 トルストイ『イワン・イリッチの死』をめぐって
- 7 映画『生きる』（黒澤明）にみる生と死
- 8 ビデオ視聴とレポート課題の提示：AIと労働（あるいは「死刑制度」）
- 9 死後の問題(1)：天国と地獄
- 10 死後の問題(2)：輪廻転生
- 11 魂のゆくえ：心脳同一説と魂の消滅
- 12 <私>が存在することの不思議さ
- 13 <私>の出生の偶然性：根源的分散（ばらまかれてあること）
- 14 原始偶然と運命愛（避けられない運命を受け入れる）
- 15 誕生の否定と肯定。授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/wm8fxxnppnz3j8kj6bp61a7ar8cpr0c7>)

広川 明

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.他者の死とは異なる、一人称(私)の死の特異性を説明できる。(DP1-1)
(知識・理解)

2.人間の限界を自覚し、生きることを新たな視点から見直すようになる。
(DP1-1) (態度・志向性)

3.生と死について、洋の東西を問わず、様々な説があることを理解できる。
(DP2-1) (知識・理解)

4.死後の問題を宗教的に考えることを通して、世界の多様な死生観を学ぶ。
(DP2-2) (知識・理解)

5.他者の存在を前提として、その中に埋もれてしまわない自分の特異性について考えるようになる。(DP1-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

広川 明

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・4時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

--- 概要 ---

宇宙が誕生して138億年もの時間が経過し、あるときあるところに特異な構造をもつ有機体が生じた。それが私であり、私はいま・ここに存在する。私はこれまで気が遠くなるほどの時間どこにも存在しなかったが、つかの間のあいだこの世界にとどまり、ふたたび無へと帰ってゆく。そしてそのあとには、永遠ともいえる時間が流れてゆくのだろう。

ところで、以上に述べたことのうちには、次の前提がふくまれている。いま・ここにいる「この私」は、過去から現在・未来にいたる歴史において宇宙のあらゆるところを探しても、たった一人しかいないということだ。「この私」とは唯一無二の存在であって、他のだれも「この私」ではありえない。それが私ということばのもっとも重要な意味であろう（この意味の私を、以後「私」と表記することとする）。

ここでこう問ってみよう。その唯一無二の「私」はなぜ、他のどこでもなく他のいつでもなく、いま・ここにいるのだろうか？ また、「私」がいま・ここに生まれたことに何か特別な意味があるのだろうか？ 「私」はどこから来て、またどこへと去ってゆくのか？

この授業では、こうした「私」の誕生という原事実へとさかのぼって、「私」の存在根拠について考えたい。

ただし、この問題は授業の後半にあつかうこととして、授業の前半では、古今の論者たちの知恵をかりて、生を通して死の意味を、また、死を通して生の意味を考えることとする。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、基本的には講義形式で行います。教員が準備した講義資料（空欄補充式）を毎回、FUポータルにアップロードします。空欄を埋めながら、そこに含まれる重要なポイントを解説し、また、教員からも質問を出してみなさんに考えていただきます。なお、授業中に何度かビデオ視聴を採り入れ、現代社会における生と死の変容を確認したいと思います。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

他者の死とは異なる、一人称（私）の死の特異性を説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

人間の限界を自覚し、生きることを新たな視点から見直すようになる。（DP1-2）（態度・志向性）

生と死について、洋の東西を問わず、様々な説があることを理解できる。（DP2-1）（知識・理解）

死後の問題を宗教的に考えることを通して、世界の多様な死生観を学ぶ。（DP2-2）（知識・理解）

他者の存在を前提として、その中に埋もれてしまわない自分の特異性について考えるようになる。（DP1-2）（態度・志向性）

--- 授業時間外の学習（予習・復習） ---

1. 空欄補充型の資料をFUポータルにアップロードするので、わからない用語の意味について調べておき、事前に課題が与えられた場合はそれについて考えておく。

(90分)

2. 空欄補充後、授業で理解できなかった点がないか確認し、よく読んで理解を深めておく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・定期試験では、(1)設問に対して適切に答えているか、(2)正しい日本語で論理的な表記ができていないか、(3)死の人称的な意味を正しく理解しているか、(4)ハイデガールの実存思想を理解しているか、などの点を基準にして評価する。
・レポートは1回実施することとし（レポートのテーマは、「AIと労働」あるいは「死刑」（どちらを選んで可））、レポートの課題について十分なデータを集めたか、そのデータに基づいて自分の見解を明確に記述しているか、自分の意見に対して有効な論証を行っているか、などを評価の基準とする。
・定期試験の成績を80%、提出されたレポートの評価を20%で評価する。

--- テキスト ---

使用しません。空欄補充式の講義資料（B5で4ページ程度）を毎回配布します。講義資料から定期試験の問題を出題します。

--- 参考書 ---

トルストイ『イワン・イリッチの死』（米川正夫訳、岩波文庫） ISBN 4-00-326193-3

B.パスカル『パンセ』（前田・由木訳、中公文庫） ISBN 4-12-200060-2

ハイデガー『存在と時間（3）』（熊野純彦訳、岩波文庫） ISBN 978-4-00-336516-8

あくまでも参考書ということで、絶対に読む必要があるというわけではありません。特にハイデガーの本はたいへん読みにくいと思います。しかし、トルストイの小説は、短くてもじゅうぶん手ごたえのあるものなので、ぜひ読んでほしいと思います。

--- 履修上の留意点 ---

・前提とされる知識等はとくに必要ありません。
・質問を受けた場合は、自分の意見をはっきりと言うこと。分からない場合も、言葉にして表明する必要があります。

--- 授業計画 ---

- 1 イン트로ダクション（スタートアップ授業）授業の進行、成績評価についての説明など。
- 2 死の人称性：人称によって変わる死の意味
- 3 1人称の死：世界の中心の消滅、不在と無
- 4 死へとかわる存在：ハイデガーの死生観
- 5 本来性と非本来性：死をみつめて生きる
- 6 トルストイ『イワン・イリッチの死』をめぐって
- 7 映画『生きる』（黒澤明）にみる生と死
- 8 ビデオ視聴とレポート課題の提示：AIと労働（あるいは「死刑制度」）
- 9 死後の問題(1)：天国と地獄
- 10 死後の問題(2)：輪廻転生
- 11 魂のゆくえ：心脳同一説と魂の消滅
- 12 「私」が存在することの不思議さ
- 13 「私」の出生の偶然性：根源的分散（ばらまかれてあること）
- 14 原始偶然と運命愛（避けられない運命を受け入れる）
- 15 誕生の否定と肯定 授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/z7njqa63tzghhcr41bm30z44dvlbd8u7>)

広川 明

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.他者の死とは異なる、一人称(私)の死の特異性を説明できる。(DP1-1)
(知識・理解)

2.人間の限界を自覚し、生きることを新たな視点から見直すようになる。
(DP1-2) (態度・志向性)

3.生と死について、洋の東西を問わず、様々な説があることを理解できる。
(DP2-1) (知識・理解)

4.死後の問題を宗教的に考えることを通して、世界の多様な死生観を学ぶ。
(DP2-2) (知識・理解)

5.他者の存在を前提として、その中に埋もれてしまわない自分の特異性について考えるようになる。(DP1-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

広川 明

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・1時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

--- 概要 ---

宇宙が誕生して138億年もの時間が経過し、あるときあるところに特異な構造をもつ有機体が生じた。それが私であり、私はいま・ここに存在する。私はこれまで気が遠くなるほどの時間どこにも存在しなかったが、つかの間のあいだこの世界にとどまり、ふたたび無へと帰ってゆく。そしてそのあとには、永遠ともいえる時間が流れてゆくのだろうか。

ところで、以上に述べたことのうちには、次の前提がふくまれている。いま・ここに「この私」は、過去から現在・未来にいたる歴史において宇宙のあらゆるところを探しても、たった一人しかいないということだ。「この私」とは唯一無二の存在であって、他のだれも「この私」ではありえない。それが私ということばのもっとも重要な意味であろう（この意味の私を、以後「私」と表記することとする）。

ここでこう問うてみよう。その唯一無二の「私」はなぜ、他のどこでもなく他のいつでもなく、いま・ここにいるのだろうか？ また、「私」がいま・ここに生まれたことに何か特別な意味があるのだろうか？ 「私」はどこから来て、またどこへと去ってゆくのか？

この授業では、こうした「私」の誕生という原事実へとさかのぼって、「私」の存在根拠について考えたい。

ただし、この問題は授業の後半にあつかうこととして、授業の前半では、古今の論者たちの知恵をかりて、生を通して死の意味を、また、死を通して生の意味を考えることとする。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、基本的には講義形式で行います。教員が準備した講義資料（空欄補充式）を毎回、FUポータルにアップロードします。空欄を埋めながら、そこに含まれる重要なポイントを解説し、また、教員からも質問を出してみなさんに考えていただきます。なお、授業中に何度かビデオ視聴を採り入れ、現代社会における生と死の変容を確認したいと思います。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

他者の死とは異なる、一人称（私）の死の特異性を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

人間の限界を自覚し、生きることを新たな視点から見直すようになる。(DP1-2)(態度・志向性)

生と死について、洋の東西を問わず、様々な説があることを理解できる。(DP2-1)(知識・理解)

死後の問題を宗教的に考えることを通して、世界の多様な死生観を学ぶ。(DP2-2)(知識・理解)

他者の存在を前提として、その中に埋もれてしまわない自分の特異性について考えるようになる。(DP1-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

1. 空欄補充型の資料をFUポータルにアップロードするので、わからない用語の意味について調べておき、事前に課題が与えられた場合はそれについて考えておく。(90分)

2. 空欄補充後、授業で理解できなかった点がないか確認し、よく読んで理解を深めておく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・定期試験では、(1)設問に対して適切に答えているか、(2)正しい日本語で論理的な

表記ができていないか、(3)死の人称的な意味を正しく理解しているか、(4)ハイデ

ガーの実存思想を理解しているか、などの点を基準にして評価する。

・レポートは1回実施することとし（レポートのテーマは、「AIと労働」あるいは

「死刑」（どちらを選んで可））、レポートの課題について十分なデータを

集めたか、そのデータに基づいて自分の見解を明確に記述しているか、自分の意見に

対して有効な論証を行っているか、などを評価の基準とする。

・定期試験の成績を80%、提出されたレポートの評価を20%で評価する。

--- テキスト ---

使用しません。空欄補充式の講義資料（B5で4ページ程度）を毎回配布します。講義資料から定期試験の問題を出題します。

--- 参考書 ---

トルストイ『イワン・イリッチの死』（米川正夫訳、岩波文庫） ISBN 4-00-326193-3

B.パスカル『パンセ』（前田・由木訳、中公文庫） ISBN 4-12-200060-2

ハイデガー『存在と時間（3）』（熊野純彦訳、岩波文庫） ISBN 978-4-00-336516-8

あくまでも参考書ということで、絶対に読む必要があるというわけではありません。特にハイデガーの本はたいへん読みにくいと思います。しかし、トルストイの小説は、短くてもじゅうぶん手ごたえのあるものなので、ぜひ読んでほしいと思います。

--- 履修上の留意点 ---

- ・前提とされる知識等はとくに必要ありません。
- ・質問を受けた場合は、自分の意見をはっきりと言うこと。分からない場合も、言葉にして表明する必要があります。

--- 授業計画 ---

- 1 イン트로ダクション（スタートアップ授業）授業の進行、成績評価についての説明など。
- 2 死の人称性：人称によって変わる死の意味
- 3 1人称の死：世界の中心の消滅、不在と無
- 4 死へとかわる存在：ハイデガーの死生観
- 5 本来性と非本来性：死をみつめて生きる
- 6 トルストイ『イワン・イリッチの死』をめぐって
- 7 映画『生きる』（黒澤明）にみる生と死
- 8 ビデオ視聴とレポート課題の提示：AIと労働（あるいは「死刑制度」）
- 9 死後の問題(1)：天国と地獄
- 10 死後の問題(2)：輪廻転生
- 11 魂のゆくえ：心脳同一説と魂の消滅
- 12 「私」が存在することの不思議さ
- 13 「私」の出生の偶然性：根源的分散（ばらまかれてあること）
- 14 原始偶然と運命愛（避けられない運命を受け入れる）
- 15 誕生の否定と肯定。授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/iq82ha1whvdiqfui0tdkyprdx2soxksu>)

広川 明

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.他者の死とは異なる、一人称(私)の死の特異性を説明できる。(DP1-1)
(知識・理解)

2.人間の限界を自覚し、生きることを新たな視点から見直すようになる。
(DP1-2) (態度・志向性)

3.生と死について、洋の東西を問わず、様々な説があることを理解できる。
(DP2-1) (知識・理解)

4.死後の問題を宗教的に考えることを通して、世界の多様な死生観を学ぶ。
(DP2-2) (知識・理解)

5.他者の存在を前提として、その中に埋もれてしまわない自分の特異性について考えるようになる。(DP1-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

安居 誠

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・4 時限 試験時間割：2024/07/29 1 時限

--- 概要 ---

私が大学への途中で誰かを撥ねたとします。避けようのない事故だったとしましょう。すぐに救急車を呼び、動転しながらも電話の指示に従って救命措置を施しました。できることは全て行い、病院への搬送も円滑だったのですが、打ち所が悪かったのか、その人は助かりませんでした。事故とはいえ、人ひとり死なせたことは、私自身の道徳的評価に当然影響します。また、相手が高齢者、子供、若い妊婦であったというような事情によっても、見方はかなり変わるのではないのでしょうか。

運や偶然が関わる要素を《道徳の外 部》と呼ぶことにします。それが「外 部」であるのは、私自身によるコントロールが全く及ばないからであり、「道徳の」に付いているのは、にもかかわらず、私に対する道徳的な視点と避けがたく関係しているからです。外部と言いつつ、実際には、どちらともつかない厄介な領域になります。われわれの道徳理論が、何が正しくて何が間違っているかを判定するための精巧な機械だったとして、運や偶然の要素全般を、この機械に外部から混入したノイズや夾雑物として扱うことは許されるのでしょうか。幸福（しあわせ）とは、本来「仕合わせ」と書いて、巡り合わせとか、偶然の経緯（いきさつ）ということです。それは、道徳機械の整合性を守るために、人生そのものを除外することになるのではないのでしょうか。

本講では、古代ギリシアの哲学やキリスト教の神学概念に依拠して、《道徳の外 部》について考察します。とりわけ後者において、われわれは自分自身の与り知らぬ所で罪あるものとされ、これまた全くの他人の十字架上の死によって、その罪を赦されます。これは不条理であるように思えますが、われわれが罪によって身を滅ぼす当事者でありながら、自分自身ではどうすることもできず、だからこそ外部の超越者に救いを求めるのだということであり、宗教や文化の違いを越えた普遍的なリアリティを持つものです。倫理や道徳は、単なるわれわれ自身の思い込みではなく、外の世界に対して開かれた、言わば客観的な足場を持ちます。講義では、そのことを多様な論点から明らかにします。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は講義形式で行い、FU_box上で公開されている授業資料を使用します。受講者は、事前にプリントアウトしたものを講義室に持ち込んだり、リアルタイムでスマホやタブレットに表示するなどして授業中に参照できるように準備すること。資料内容は授業の直前に更新されることがあるので、ご注意ください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

新たな倫理問題と思われたものが、実は、哲学史上の概念と結びついていることに気づいて、それらとの関連付けによってアプローチできるようになります。(DP1-1)(知識・理解)

多様な価値観の相克を解消するのではなく、多様性を多様なままに開いておき、かつ深刻な衝突を生まないための態度や志向が身につきます。(DP2-1)(態度・志向性)

倫理学を学ぶことと、そこで得られた知識を、実際の自分の人生に位置づける態度が養えます。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習は、参考文献に目を通したり、シラバス上のキーワードをネット検索で事前に調べるなどして行ってください。(60分)

復習をする場合は、個々の内容も大事ですが、項目間の関係などを理解することに重点を置いてください。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法：定期試験の結果が90%、受講態度を10%の割合で評価します。講義中に小テストを行った場合は、定期試験80%、小テスト10%のように定期試験の結果から割り引きます。

評価基準：到達目標にある「倫理問題」、「哲学史上の概念」や「多様な価値観」の内容とそれらの講義全体における位置付け、さらに各議論の詳細な脈絡、以上三点に関する理解の程度を基準として評価します。

--- テキスト ---

使用しません。

--- 参考書 ---

多岐にわたるため、講義で紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

大学の一般教養で、歴史や文学など人文諸科学を履修していることが望ましいですが、受講の前提ではありません。

--- 授業計画 ---

1. スタートアップ授業
キャラ、人格、エートス
2. 道徳的な運
3. 「べき」は「できる」を含意するか
4. 無知のヴェールとパスカル
5. 《悪》の身分
6. 「あるがままに」と「なせばなる」
7. 《意志》の所在
8. 魂の構造
9. 《アクラシア》の謎
10. 内なる人間
11. エルサレムのアイヒマン
12. 定言命法と「目的の国」
13. 大異端 vs ヒツポの司教
14. 原罪と十字架
15. 公正な世界
授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/1sprh8nzafpyuin2ldfypc85q1n9mau7>)

安居 誠

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 新たな倫理問題と思われたものが、実は、哲学史上の概念と結びついていることに気づいて、それらとの関連付けによってアプローチできるようになります。 (DP1-1) (知識・理解)

2. 多様な価値観の相克を解消するのではなく、多様性を多様なままに開いておき、かつ深刻な衝突を生まないための態度や志向が身につきます。 (DP2-1) (態度・志向性)

3. 倫理学を学ぶことと、そこで得られた知識を、実際の自分の人生に位置づける態度が養えます。 (DP2-2) (態度・志向性)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

安居 誠

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・5 時限 試験時間割：2024/07/29 1 時限

--- 概要 ---

私が大学への途中で誰かを撥ねたとします。避けようのない事故だったとしましょう。すぐに救急車を呼び、動転しながらも電話の指示に従って救命措置を施しました。できることは全て行い、病院への搬送も円滑だったのですが、打ち所が悪かったのか、その人は助かりませんでした。事故とはいえ、人ひとり死なせたことは、私自身の道徳的評価に当然影響します。また、相手が高齢者、子供、若い妊婦であったというような事情によっても、見方はかなり変わるのではないのでしょうか。

運や偶然が関わる要素を《道德の外部》と呼ぶことにします。それが「外部」であるのは、私自身によるコントロールが全く及ばないからであり、「道德の」と付いているのは、にもかかわらず、私に対する道徳的な視点と避けがたく関係しているからです。外部と言いつつ、実際には、どちらともつかない厄介な領域になります。われわれの道徳理論が、何が正しくて何が間違っているかを判定するための精巧な機械だったとして、運や偶然の要素全般を、この機械に外部から混入したノイズや夾雑物として扱うことは許されるでしょうか。幸福(しあわせ)とは、本来「仕合わせ」と書いて、巡り合わせとか、偶然の経緯(いきさつ)ということです。それは、道徳機械の整合性を守るために、人生そのものを除外することになるのではないのでしょうか。

本講では、古代ギリシアの哲学やキリスト教の神学概念に依拠して、《道德の外部》について考察します。とりわけ後者において、われわれは自分自身の与り知らぬ所で罪あるものとされ、これまた全くの他人の十字架上の死によって、その罪を赦されます。これは不条理であるように思えますが、われわれが罪によって身を滅ぼす当事者でありながら、自分自身ではどうすることもできず、だからこそ外部の超越者に救いを求めるのだということであり、宗教や文化の違いを越えた普遍的なリアリティを持つものです。倫理や道徳は、単なるわれわれ自身の思い込みではなく、外の世界に対して開かれた、言わば客観的な足場を持ちます。講義では、そのことを多様な論点から明らかにします。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は講義形式で行い、FU_box上で公開されている授業資料を使用します。受講者は、事前にプリントアウトしたものを講義室に持ち込んだり、リアルタイムでスマホやタブレットに表示するなどして授業中に参照できるように準備すること。資料内容は授業の直前に更新されることがあるので、ご注意ください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

新たな倫理問題と思われたものが、実は、哲学史上の概念と結びついていることに気づいて、それらとの関連付けによってアプローチできるようになります。(DP1-1)(知識・理解)

多様な価値観の相克を解消するのではなく、多様性を多様なままに開いておき、かつ深刻な衝突を生まないための態度や志向が身につきます。(DP2-1)(態度・志向性)

倫理学を学ぶことと、そこで得られた知識を、実際の自分の人生に位置づける態度が養えます。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習は、参考文献に目を通したり、シラバス上のキーワードをネット検索で事前に調べるなどして行ってください。(60分)

復習をする場合は、個々の内容も大事ですが、項目間の関係などを理解することに重点を置いてください。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法：定期試験の結果が90%、受講態度を10%の割合で評価します。講義中に小テストを行った場合は、定期試験80%、小テスト10%のように定期試験の結果から割り引きます。

評価基準：到達目標にある「倫理問題」、「哲学史上の概念」や「多様な価値観」の内容とそれらの講義全体における位置付け、さらに各議論の詳細な脈絡、以上三点に関する理解の程度を基準として評価します。

--- テキスト ---

使用しません。

--- 参考書 ---

多岐にわたるため、講義で紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

大学の一般教養で、歴史や文学など人文諸科学を履修していることが望ましいですが、受講の前提ではありません。

--- 授業計画 ---

1. スタートアップ授業
キャラ、人格、エートス
2. 道徳的な運
3. 「べき」は「できる」を含意するか
4. 無知のヴェールとパスカル
5. 《悪》の身分
6. 「あるがままに」と「なせばなる」
7. 《意志》の所在
8. 魂の構造
9. 《アクラシア》の謎
10. 内なる人間
11. エルサレムのアイヒマン
12. 定言命法と「目的の国」
13. 大異端 vs ヒツポの司教
14. 原罪と十字架
15. 公正な世界
授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/qm42skj25tnfnsmsm0tyl8g2061tk5y6>)

安居 誠

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 新たな倫理問題と思われたものが、実は、哲学史上の概念と結びついていることに気づいて、それらとの関連付けによってアプローチできるようになります。 (DP1-1) (知識・理解)

2. 多様な価値観の相克を解消するのではなく、多様性を多様なままに開いておき、かつ深刻な衝突を生まないための態度や志向が身につきます。 (DP2-1) (態度・志向性)

3. 倫理学を学ぶことと、そこで得られた知識を、実際の自分の人生に位置づける態度が養えます。 (DP2-2) (態度・志向性)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

安居 誠

期別: 前期 単位数: 2 開講年次: 1 授業の種類: 対面授業科目 授業形態: 講義 実務経験: 無し 科目水準: 入門 試験実施: 有り
授業時間割: 前期: 木・二部 1 時間 試験時間割: 2024/07/25 夜 1 限

--- 概要 ---

私が大学への途中で誰かを撥ねたとします。避けようのない事故だったとしましょう。すぐに救急車を呼び、動転しながらも電話の指示に従って救命措置を施しました。できることは全て行い、病院への搬送も円滑だったのですが、打ち所が悪かったのか、その人は助かりませんでした。事故とはいえ、人ひとり死なせたことは、私自身の道徳的評価に当然影響します。また、相手が高齢者、子供、若い妊婦であったというような事情によっても、見方はかなり変わるのではないのでしょうか。

運や偶然が関わる要素を《道徳の外部》と呼ぶことにします。それが「外部」であるのは、私自身によるコントロールが全く及ばないからであり、「道徳の」と付いているのは、にもかかわらず、私に対する道徳的な視点と避けがたく関係しているからです。外部と言いつつ、実際には、どちらともつかない厄介な領域になります。われわれの道徳理論が、何が正しくて何が間違っているかを判定するための精巧な機械だったとして、運や偶然の要素全般を、この機械に外部から混入したノイズや夾雑物として扱うことは許されるのでしょうか。幸福(しあわせ)とは、本来「仕合わせ」と書いて、巡り合わせとか、偶然の経緯(いきさつ)ということです。それは、道徳機械の整合性を守るために、人生そのものを除外することになるのではないのでしょうか。

本講では、古代ギリシアの哲学やキリスト教の神学概念に依拠して、《道徳の外部》について考察します。とりわけ後者において、われわれは自分自身の与り知らぬ所で罪あるものとされ、これまた全くの他人の十字架上の死によって、その罪を赦されます。これは不条理であるように思えますが、われわれが罪によって身を滅ぼす当事者でありながら、自分自身ではどうすることもできず、だからこそ外部の超越者に救いを求めるのだということであり、宗教や文化の違いを越えた普遍的なリアリティを持つものです。倫理や道徳は、単なるわれわれ自身の思い込みではなく、外の世界に対して開かれた、言わば客観的な足場を持ちます。講義では、そのことを多様な論点から明らかにします。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は講義形式で行い、FU_box上で公開されている授業資料を使用します。受講者は、事前にプリントアウトしたものを講義室に持ち込んだり、リアルタイムでスマホやタブレットに表示するなどして授業中に参照できるように準備すること。資料内容は授業の直前に更新されることがあるので、ご注意ください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

新たな倫理問題と思われたものが、実は、哲学史上の概念と結びついていることに気づいて、それらとの関連付けによってアプローチできるようになります。(DP1-1)(知識・理解)

多様な価値観の相克を解消するのではなく、多様性を多様なままに開いておき、かつ深刻な衝突を生まないための態度や志向が身につきます。(DP2-1)(態度・志向性)

倫理学を学ぶことと、そこで得られた知識を、実際の自分の人生に位置づける態度が養えます。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習は、参考文献に目を通したり、シラバス上のキーワードをネット検索で事前に調べるなどして行ってください。(60分)

復習をする場合は、個々の内容も大事ですが、項目間の関係などを理解することに重点を置いてください。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法: 定期試験の結果が90%、受講態度を10%の割合で評価します。講義中に小テストを行った場合は、定期試験80%、小テスト10%のように定期試験の結果から割り引きます。

評価基準: 到達目標にある「倫理問題」、「哲学史上の概念」や「多様な価値観」の内容とそれらの講義全体における位置付け、さらに各議論の詳細な脈絡、以上三点に関する理解の程度を基準として評価します。

--- テキスト ---

使用しません。

--- 参考書 ---

多岐にわたるため、講義で紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

大学の一般教養で、歴史や文学など人文諸科学を履修していることが望ましいですが、受講の前提ではありません。

--- 授業計画 ---

1. スタートアップ授業
キャラ、人格、エートス
2. 道徳的な運
3. 「べき」は「できる」を含意するか
4. 無知のヴェールとパスカル
5. 《悪》の身分
6. 「あるがままに」と「なせばなる」
7. 《意志》の所在
8. 魂の構造
9. 《アクラシア》の謎
10. 内なる人間
11. エルサレムのアイヒマン
12. 定言命法と「目的の国」
13. 大異端 vs ヒツポの司教
14. 原罪と十字架
15. 公正な世界
授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/gzsmbr989554rvuh84spvn4df3uj98n8>)

安居 誠

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1. 新たな倫理問題と思われたものが、実は、哲学史上の概念と結びついていることに気づいて、それらとの関連付けによってアプローチできるようになります。(DP1-1)(知識・理解)

2. 多様な価値観の相克を解消するのではなく、多様性を多様なままに開いておき、かつ深刻な衝突を生まないための態度や志向が身につきます。(DP2-1)(態度・志向性)

3. 倫理学を学ぶことと、そこで得られた知識を、実際の自分の人生に位置づける態度が養えます。(DP2-2)(態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

中村 未来

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

このゼミでは、『論語』や『孟子』等の中国の古典を精読し、人間とはいかなる存在か、どのように生きるべきか等、そこに示された人間観について議論していく。具体的には、「生と死」「善と悪」「忠と孝」「運命」等、東洋思想を貫く哲学的な問いについて考えてみたい。

日本人の倫理観の形成には隣国の大国・中国の影響が大きい。そのため、中国の古典に記された内容を深く検討することは、我々の思考の原点に立ち返ることにもなるであろう。

--- 授業の進行・方法 ---

この授業はゼミ形式で進めるため、受講者が主体的に課題に取り組み、発表・討論を重ね、議論の内容を深めていく必要がある。積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。

ゼミの第1～5回においては、中国の古典を講読する上でかせない専門用語や人物・文献、および漢文訓読法などを確認する(発表形式)。そして第6回以降において、受講者の興味関心に従い講読する文献を定め、その精読を通して東洋思想に見える人間観について考えてみる。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

中国の古代思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

中国の古典に触れ、文化の多様性と言語表現について理解し、説明できる。(DP2-1)(技能)

授業内容を通して、文化の多様性に関心を持ち、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる。(DP3-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

(予習) 演習で取り上げる専門用語や文献などを調べ・精読し、自分なりに興味・関心、あるいは疑問に感じた箇所をまとめておく。(60分)

(予習) 特に各回の発表者は、上記に加え、自身の考察を付けたレジュメを作成する。(120分)

(復習) 演習における討論を整理し統括しておく。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

[評価方法] 担当箇所の発表およびレジュメの内容を50%、課題への積極的な取り組み・授業への参加度を50%で評価する。(定期試験は実施しない。そのため、再試験も実施しない。)

[評価基準] 中国古代思想に関する基本的な学説を正確に把握し、自分の言葉で説明できているか、またそこから導き出された自らの見解を他者と冷静に議論し、深めることができているか、という点を評価の基準とする。

--- テキスト ---

必要に応じて資料を配付する。

--- 参考書 ---

田部井文雄・菅野礼行・江連隆・土屋泰男『社会人のための漢詩漢文小百科』大修館書店 ISBN 978-4469230727
 湯浅邦弘編著『教養としての中国古典』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623082759
 湯浅邦弘編著『概説 中国思想史』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623058204

その他、授業中に適宜紹介する。

--- 履修上の留意点 ---

受講者が主体的に発表・討論を行う演習形式の授業であるため、遅刻や無断欠席は厳禁。

高度な漢文読解能力の有無については問うところではないが、中国の古典に親しみや関心を持って授業に参加して欲しい。

--- 授業計画 ---

- (スタートアップ授業)
授業内容や授業の進め方について
関連文献の紹介
初回の課題説明
- 関連語句・文献についての発表
- 関連語句・文献についての発表
- 関連語句・文献についての発表
- 関連語句・文献についての発表
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- (授業のまとめ)
総括
授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/9h3j9umrvxrn3jrssq8ync141vvf660s>

中村 未来

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

- 1.中国の古代思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。(DP1-1)
(知識・理解)
- 2.中国の古典に触れ、文化の多様性と言語表現について理解し、説明できる。
(DP2-1) (技能)
- 3.授業内容を通して、文化の多様性に関心を持ち、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。(DP2-2) (態度・志向性)
- 4.授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる。(DP3-1)
(態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

中村 未来

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・1時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

- - - 概要 - - -

儒家が人間について思索し、人為（あるいは人為的努力）を肯定的に捉えたのに対し、道家は自然を尊崇し、人為に懐疑的な目を向けた。アジア文化圏に多大な影響を与えた中国の古典の多くが、人間の営みや統治思想を中心に語る中、万物の根源である「道」を説き、時間・空間を巨視的視点で描き出す道家の文献は、特異な存在であると言えるだろう。

ただし、道家が発する自己と他者の区別や、夢と現実、死生観等についての思索は、洋の東西を問わず、古来、学者たちが挑み続けた重要な哲学的問いでもある。

そこで、本授業では、『老子』や『荘子』等の中国の古典や、さらには近年相次いで出土し公開されてきている中国古代の新史料を用いて、逆説的・懐疑的な道家思想を読み解き、またその今日的な意義についても考えてみたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、主に教員が作成した講義資料（FUboxに格納）をもとに講義形式で行う。大きなテーマが終わる毎に、授業内容の理解度を確認するため、小テストや論述課題に取り組んでもらう（全5回を予定）。また、授業では一部、関連する内容の視聴覚メディアを活用して、各自の理解や考えをより深められるようにしたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。(DP1-1)(知識・理解)

中国の古代思想、特に道家の思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

参考書や関連文献を読み、次回のテーマについて予習すること。(60分)

配付資料によく目を通し、内容の理解を深めること(復習)。(60分)

わからない語句があれば、参考書等を調べ、確認すること(予習・復習)。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

平常点(授業時のミニレポートや小テストなど：50%)と、定期試験(50%)を合わせて評価する。

平常点については、授業を通して5回程、授業内容に関するミニレポート、あるいは小テスト等を10分程度で記述(解答)し、提出してもらう。

なお、授業の大半を欠席した場合には、平常点(=ミニレポートや小テストによって、授業への参加度・授業への取り組み姿勢をはかる点数)は付けられないので、注意すること。

定期試験は、授業で取り上げた中国古典に見える思想内容をどの程度理解しているか、またそれらに対してどの程度関心や問題意識を持っているか、という点から評価する。

- - - テキスト - - -

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。

- - - 参考書 - - -

湯浅邦弘編著『よくわかる中国思想』ミネルヴァ書房
ISBN 978-4623092598

森三樹三郎『老荘と仏教』講談社学術文庫 ISBN
978-4061596139

館野正美『老荘の思想を読む』(あじあブックス)大修
館書店 ISBN 978-4469233025

その他、授業中に適宜紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

毎回の授業プリント(配付資料)はFUboxに掲載する。授業までに各自で印刷するか、ダウンロードしてPC等を授業に持参し、授業中にテキストを確認できるように準備して頂きたい。

遅刻や途中退席、授業中の私語が多い場合には、減点の対象とする。

テストやレポート課題において、剽窃などの不正行為が見られた場合には、厳しく対処する。

- - - 授業計画 - - -

- 1.(スタートアップ授業)
授業内容や授業の進め方について
日本における老荘思想の受容
- 2.【テーマ1】宇宙のはじまり
3. 宇宙のはじまり
4. 宇宙のはじまり
「徳」とは何か
- 5.【テーマ2】理想の政治とは
6. 理想の政治とは
- 7.【テーマ3】万物斉同の思想
- 8.【テーマ4】学と知、無の思想
- 9.【テーマ5】真人について
10. 狂人について
- 11.【テーマ6】名家について
12. 道家と名家
- 13.【テーマ7】道家と道教・仏教
- 14.【テーマ8】『老子』の現代的意義
- 15.(授業のまとめ)
総括
授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/](https://fukuoka-u.box.com/s/0aqhqhpr24acoxkm4j8bc7mw0q8w9ryd)

[s/0aqhqhpr24acoxkm4j8bc7mw0q8w9ryd](https://fukuoka-u.box.com/s/0aqhqhpr24acoxkm4j8bc7mw0q8w9ryd))

中村 未来

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 中国の古代思想、特に道家の思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3. 授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。（DP2-2）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

中村 未来

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・4時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

- - - 概要 - - -

儒家が人間について思索し、人為（あるいは人為的努力）を肯定的に捉えたのに対し、道家は自然を尊崇し、人為に懐疑的な目を向けた。アジア文化圏に多大な影響を与えた中国の古典の多くが、人間の営みや統治思想を中心に語る中、万物の根源である「道」を説き、時間・空間を巨視的視点で描き出す道家の文献は、特異な存在であると言えるだろう。

ただし、道家が発する自己と他者の区別や、夢と現実、死生観等についての思索は、洋の東西を問わず、古来、学者たちが挑み続けた重要な哲学的問いでもある。

そこで、本授業では、『老子』や『荘子』等の中国の古典や、さらには近年相次いで出土し公開されてきている中国古代の新史料を用いて、逆説的・懐疑的な道家思想を読み解き、またその今日的な意義についても考えてみたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、主に教員が作成した講義資料（FUboxに格納）をもとに講義形式で行う。大きなテーマが終わる毎に、授業内容の理解度を確認するため、小テストや論述課題に取り組んでもらう（全5回を予定）。また、授業では一部、関連する内容の視聴覚メディアを活用して、各自の理解や考えをより深められるようにしたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。(DP1-1)(知識・理解)

中国の古代思想、特に道家の思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

参考書や関連文献を読み、次回のテーマについて予習すること。(60分)

配付資料によく目を通し、内容の理解を深めること(復習)。(60分)

わからない語句があれば、参考書等を調べ、確認すること(予習・復習)。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

平常点(授業時のミニレポートや小テストなど：50%)と、定期試験(50%)を合わせて評価する。

平常点については、授業を通して5回程、授業内容に関するミニレポート、あるいは小テスト等を10分程度で記述(解答)し、提出してもらう。

なお、授業の大半を欠席した場合には、平常点(=ミニレポートや小テストによって、授業への参加度・授業への取り組み姿勢をはかる点数)は付けられないので、注意すること。

定期試験は、授業で取り上げた中国古典に見える思想内容をどの程度理解しているか、またそれらに対してどの程度関心や問題意識を持っているか、という点から評価する。

- - - テキスト - - -

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。

- - - 参考書 - - -

湯浅邦弘編著『よくわかる中国思想』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623092598

森三樹三郎『老荘と仏教』講談社学術文庫 ISBN 978-4061596139

館野正美『老荘の思想を読む』(あじあブックス)大修館書店 ISBN 978-4469233025

その他、授業中に適宜紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

毎回の授業プリント(配付資料)はFUboxに掲載する。授業までに各自で印刷するか、ダウンロードしてPC等を授業に持参し、授業中にテキストを確認できるように準備して頂きたい。

遅刻や途中退席、授業中の私語が多い場合には、減点の対象とする。

テストやレポート課題において、剽窃などの不正行為が見られた場合には、厳しく対処する。

- - - 授業計画 - - -

- 1.(スタートアップ授業)
授業内容や授業の進め方について
日本における老荘思想の受容
- 2.【テーマ1】宇宙のはじまり
3. 宇宙のはじまり
4. 宇宙のはじまり
「徳」とは何か
- 5.【テーマ2】理想の政治とは
6. 理想の政治とは
- 7.【テーマ3】万物斉同の思想
- 8.【テーマ4】学と知、無の思想
- 9.【テーマ5】真人について
10. 狂人について
- 11.【テーマ6】名家について
12. 道家と名家
- 13.【テーマ7】道家と道教・仏教
- 14.【テーマ8】『老子』の現代的意義
- 15.(授業のまとめ)
総括
授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/vbv94lxqalrqrkooxj8piz2c1288hdge>)

中村 未来

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.中国の古代思想、特に道家の思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。（DP2-2）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

中村 未来

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・2時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

- - - 概要 - - -

儒家が人間について思索し、人為（あるいは人為的努力）を肯定的に捉えたのに対し、道家は自然を尊崇し、人為に懐疑的な目を向けた。アジア文化圏に多大な影響を与えた中国の古典の多くが、人間の営みや統治思想を中心に語る中、万物の根源である「道」を説き、時間・空間を巨視的視点で描き出す道家の文献は、特異な存在であると言えるだろう。

ただし、道家が発する自己と他者の区別や、夢と現実、死生観等についての思索は、洋の東西を問わず、古来、学者たちが挑み続けた重要な哲学的問いでもある。

そこで、本授業では、『老子』や『荘子』等の中国の古典や、さらには近年相次いで出土し公開されてきている中国古代の新史料を用いて、逆説的・懐疑的な道家思想を読み解き、またその今日的な意義についても考えてみたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、主に教員が作成した講義資料（FUboxに格納）をもとに講義形式で行う。大きなテーマが終わる毎に、授業内容の理解度を確認するため、小テストや論述課題に取り組んでもらう（全5回を予定）。また、授業では一部、関連する内容の視聴覚メディアを活用して、各自の理解や考えをより深められるようにしたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。(DP1-1)(知識・理解)

中国の古代思想、特に道家の思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

参考書や関連文献を読み、次回のテーマについて予習すること。(60分)

配付資料によく目を通し、内容の理解を深めること(復習)。(60分)

わからない語句があれば、参考書等を調べ、確認すること(予習・復習)。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

平常点(授業時のミニレポートや小テストなど：50%)と、定期試験(50%)を合わせて評価する。

平常点については、授業を通して5回程、授業内容に関するミニレポート、あるいは小テスト等を10分程度で記述(解答)し、提出してもらう。

なお、授業の大半を欠席した場合には、平常点(=ミニレポートや小テストによって、授業への参加度・授業への取り組み姿勢をはかる点数)は付けられないので、注意すること。

定期試験は、授業で取り上げた中国古典に見える思想内容をどの程度理解しているか、またそれらに対してどの程度関心や問題意識を持っているか、という点から評価する。

- - - テキスト - - -

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。

- - - 参考書 - - -

湯浅邦弘編著『よくわかる中国思想』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623092598

森三樹三郎『老荘と仏教』講談社学術文庫 ISBN 978-4061596139

館野正美『老荘の思想を読む』(あじあブックス)大修館書店 ISBN 978-4469233025

その他、授業中に適宜紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

毎回の授業プリント(配付資料)はFUboxに掲載する。授業までに各自で印刷するか、ダウンロードしてPC等を授業に持参し、授業中にテキストを確認できるように準備して頂きたい。

遅刻や途中退席、授業中の私語が多い場合には、減点の対象とする。

テストやレポート課題において、剽窃などの不正行為が見られた場合には、厳しく対処する。

- - - 授業計画 - - -

- 1.(スタートアップ授業)
授業内容や授業の進め方について
日本における老荘思想の受容
- 2.【テーマ1】宇宙のはじまり
3. 宇宙のはじまり
4. 宇宙のはじまり
「徳」とは何か
- 5.【テーマ2】理想の政治とは
6. 理想の政治とは
- 7.【テーマ3】万物斉同の思想
- 8.【テーマ4】学と知、無の思想
- 9.【テーマ5】真人について
10. 狂人について
- 11.【テーマ6】名家について
12. 道家と名家
- 13.【テーマ7】道家と道教・仏教
- 14.【テーマ8】『老子』の現代的意義
- 15.(授業のまとめ)
総括
授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/j4fyr1jrworutdb5w144jvx0ixr39a5h>)

中村 未来

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.アジアの歴史・思想・文化に関する知識を持つ。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.中国の古代思想、特に道家の思想について、基本的な考え方を理解し、説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.授業内容や他者の意見を通して、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。（DP2-2）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

広川 明

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・3時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

--- 概要 ---

人はなぜよいこと・正しいことをなすべきであり、わるいことをしてはいけないのか。この問いに対しては、そんなことを口にするのは不謹慎だ、ふざけている、というのが大方の反応であろう。それは、分別のある大人がする質問ではないのである。

しかし、分別をわきまえていない子どもからそう問われたとして、その問いにどう答えればいいのか。「わるいことをすれば法によって裁かれて処罰され、よいことをすれば周囲の人々から信頼されるからだ」というのが、初めに思いつく答えであろう。

しかし今、わるいことをしても発覚して処罰される心配はないと仮定したとすると（非現実的な仮定だと思われるかもしれないが、議論を続けるために受け入れていただきたい）、その仮定の下でなお道德的にふるまうべきよいことをなし、わるいことを慎む理由は何があるだろうか。そしてもし、それに対するじゅうぶんに納得できる答えがないとしたら、われわれは理由もなく道德に従っているだけなのであるだろうか。

実のところこの問題は、哲学の始まりとほぼ同じ時期に登場し、それ以来、道德の土台を掘りくずしかねない、きわどい問題でありつづけている。この授業では、その問いが意味するところを明らかにし、また、人々がそれにどのように答えてきたかをみてゆく。

ただし「なぜよいことをなし、わるいことを慎むべきか」（なぜ道德に従うべきか）という問いを、現代倫理学の観点からのみあつかうと、抽象的で難しい議論に終始することになりかねない。また、ギリシア哲学およびカント倫理学を素材として、この問いを通して、倫理学がどのように展開していったか理解することをめざしたい。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、基本的には講義形式で行います。教員が準備した講義資料（空欄補充型）を毎回、FUポータルにアップロードします。空欄を埋めながら、そこにふくまれる重要なポイントを解説し、また、教員からも質問を出して皆さんに考えていただきます。なお、授業中にビデオを視聴した後、レポート課題を提示することとします（レポートのテーマは、「生殖医療」あるいは「環境問題と未来世代」です。どちらを選んででもかまいません）。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

- 「なぜ道德的であるべきか」という問いの意味を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
- 古代ギリシアから、カント倫理学、現代倫理学を概観することを通して、道德・倫理の諸説を理解する。(DP2-1)(知識・理解)
- 倫理学が、自然科学があつかうような「事実」ではなく、「価値」にかかわる学問であり、価値の観点を通して人間の生を見直すものであるということを見出す。(DP1-2)(態度・志向性)
- 道德・倫理とは、自分と他者を公平に扱うことを要求するものであるということを理解し、社会のなかでの自分のあり方を追求するようになる。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

- 空欄補充型の資料をFUポータルにアップロードするので、わからない用語などについてあらかじめ調べておき、事前の学習課題が与えられた場合は、それについて調べておく。(90分)
- 空欄補充後、授業で理解できなかった点がないか確認し、資料を読み直して理解を深めておく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

- 定期試験に関しては、(1)設問に適切に答えているか、(2)正しい日本語で論理的に構成されているか、(3)道德（倫理）と人の生き方の関わりを理解しているか、(4)ソクラテス・プラトンの説を理解しているか、(5)アリストテレス倫理学の方法論を理解しているか、などの点から評価する。
- レポートを1回実施することとし（レポートのテーマは「エンハンスメント（治療を超えた医療上の処置）」と生殖医療」あるいは「環境問題と未来世代」。どちらを選んでも可）、レポートの課題について十分なデータを集めたか、そのデータに基づいて自分の意見を明確に記述しているか、自分の主張について有効な論証を行っているか、を評価の基準とする。
- レポート20%、定期試験80%で総合的に評価する。

--- テキスト ---

使用しません。空欄補充型の講義資料を毎回配布します（B5、4ページ程度）。講義資料から定期試験の問題を出題します。

--- 参考書 ---

プラトン『ゴルギアス』（加来彰俊訳、岩波文庫） ISBN 4-00-336012-5

I.カント『道德形而上学原論』（篠田英雄訳、岩波文庫） ISBN 4-00-336251-9

大庭・安彦・永井編『なぜ悪いことをしてはいけないのか』（ナカニシヤ出版） ISBN 4-88848-593-3

参考図書ということで、読むことが不可欠というわけではありません。ただし、プラトンの対話篇『ゴルギアス』は、構成も劇的で、演劇を見ているようにおもしろく読むことができるでしょう。一読をお勧めします。

--- 履修上の留意点 ---

- 前提とされる知識は必要ありません。
- 道德・倫理の問題というと、何か堅苦しい説教を思い浮かべるかもしれませんが、決してそんなことはありません。われわれの社会生活が道德・倫理によって成り立っていると同時に、いかに生きるかという、生き方の選択に道德・倫理はふかかくかかわっています。先入観をすてて、新しい目でのこの問題を見直すようにつとめてください。

--- 授業計画 ---

- イントロダクション（スタートアップ授業）授業の進行、成績評価の仕方などの説明。
- “Why be moral?”という問いの意味
- 道德と生き方の選択
- ソフィスト（ギリシア古代に、青年たちに学問を授けた職業的家庭教師）の人間本性論・道德論
- ソクラテスの生き方(1)：エレンコス（反駁的対話）
- ソクラテスの生き方(2)：魂への配慮
- グラウコン（プラトンの兄）の挑戦：道德の根拠を求めた問い
- ビデオ視聴とレポート課題の提示（「生殖医療」あるいは「環境問題と未来世代」）
- 国家と魂のアナロジー（プラトン）。国家と個人の魂を比べながら、正義とは何か考える。
- 国家の正義と魂の正義の成り立ち
- 究極目的としての幸福（アリストテレス）
- 過剰と不足の中間・中庸としての徳
- 一般的正義と特殊的正義
- 義務の倫理学（カント）。カントは道德を人間のなすべき義務と捉えた。
- 自律と自由：カントの考える自由のあり方。
- 道德に根拠は必要か。授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/o8iwudy4w00wu9b0o5s83l22njw314h9>)

広川 明

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1 . 「なぜ道徳的であるべきか」という問いの意味を説明できる。 (DP1-1)
(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2 . 古代ギリシアから、カント倫理学、現代倫理学を概観することを通して、
道徳・倫理の諸説を理解する。 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、
B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている
(A、B、C)

3.3 . 倫理学が、自然科学があつかうような「事実」ではなく、「価値」にか
か
わる学問であり、価値の観点を通して人間の生を見直すものであるという
ことを自覚する。 (DP1-2) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い
視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事
を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔
軟に接することができる (A、B、C)

4.4 . 道徳・倫理とは、自分と他者を公平に扱うことを要求するものであると
い
うことを理解し、社会のなかでの自分のあり方を追求するようになる。
(DP2-2) (態度・志向性)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、
C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発
揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活
用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長
に貢献することができる (B、C)

広川 明

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・4 時限 試験時間割：2025/01/22 1 時限

--- 概要 ---

人はなぜよいこと・正しいことをなすべきであり、わるいことをしてはいけないのか。この問いに対しては、そんなことを口にするのは不謹慎だ、ふざけている、というのが大方の反応であろう。それは、分別のある大人がする質問ではないのである。

しかし、分別をわきまえていない子どもからそう問われたとして、その問いにどう答えればいいのか。「わるいことをすれば法によって裁かれて処罰され、よいことをすれば周囲の人々から信頼されるからだ」というのが、初めに思いつく答えであろう。

しかし今、わるいことをしても発覚して処罰される心配はないと仮定したとすると（非現実的な仮定だと思われるかもしれないが、議論を続けるために受け入れていただきたい）、その仮定の下でなお道徳的にふるまうべきよいことをなし、わるいことを慎む理由は何があるだろうか。そしてもし、それに対するじゅうぶんに納得できる答えがないとしたら、われわれは理由もなく道徳に従っているだけなのであるだろうか。

実のところこの問題は、哲学の始まりとほぼ同じ時期に登場し、それ以来、道徳の土台を掘りくずしかねない、きわどい問題でありつづけている。この授業では、その問いが意味するところを明らかにし、また、人々がそれにどのように答えてきたかをみてゆく。

ただし「なぜよいことをなし、わるいことを慎むべきか」（なぜ道徳に従うべきか）という問いを、現代倫理学の観点からのみあつかうと、抽象的で難しい議論に終始することになりかねないので、ギリシア哲学およびカント倫理学を素材として、この問いを通して、倫理学がどのように展開していったか理解することをめざしたい。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、基本的には講義形式で行います。教員が準備した講義資料（空欄補充型）を毎回、FUポータルにアップロードします。空欄を埋めながら、そこにふくまれる重要なポイントを解説し、また、教員からも質問を出して皆さんに考えていただきます。なお、授業中にビデオを視聴した後、レポート課題を提示することとします（レポートのテーマは、「生殖医療」あるいは「環境問題と未来世代」です。どちらを選んででもかまいません）。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

- 「なぜ道徳的であるべきか」という問いの意味を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
- 古代ギリシアから、カント倫理学、現代倫理学を概観することを通して、道徳・倫理の諸説を理解する。(DP2-1)(知識・理解)
- 倫理学が、自然科学があつかうような「事実」ではなく、「価値」にかかわる学問であり、価値の観点をとおして人間の生を見直すものであるということを見出す。(DP1-2)(態度・志向性)
- 道徳・倫理とは、自分と他者を公平に扱うことを要求するものであるということを理解し、社会のなかでの自分のあり方を追求するようになる。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

- 空欄補充型の資料をFUポータルにアップロードするので、わからない用語などについてあらかじめ調べておき、事前の学習課題が与えられた場合は、それについて調べておく。(90分)
- 空欄補充後、授業で理解できなかった点がないか確認し、資料を読み直して理解を深めておく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

- 定期試験に関しては、(1)設問に適切に答えているか、(2)正しい日本語で論理的に構成されているか、(3)道徳（倫理）と人の生き方の関わりを理解しているか、(4)ソクラテス・プラトンの説を理解しているか、(5)アリストテレス倫理学の方法論を理解しているか、などの点から評価する。
- レポートを1回実施することとし（レポートのテーマは「エンハンスメント（治療を超えた医療上の処置）」と生殖医療」あるいは「環境問題と未来世代」。どちらを選んでも可）、レポートの課題について十分なデータを集めたか、そのデータに基づいて自分の意見を明確に記述しているか、自分の主張について有効な論証を行っているか、を評価の基準とする。
- レポート20%、定期試験80%で総合的に評価する。

--- テキスト ---

使用しません。空欄補充型の講義資料を毎回配布します（B5、4ページ程度）。講義資料から定期試験の問題を出題します。

--- 参考書 ---

- プラトン『ゴルギアス』（加来彰俊訳、岩波文庫） ISBN 4-00-336012-5
I.カント『道徳形而上学原論』（篠田英雄訳、岩波文庫） ISBN 4-00-336251-9
大庭・安彦・永井編『なぜ悪いことをしてはいけないのか』（ナカニシヤ出版） ISBN 4-88848-593-3
参考図書ということで、読むことが不可欠というのではありません。ただし、プラトンの対話篇『ゴルギアス』は、構成も劇的で、演劇を見ているようにおもしろく読むことができるでしょう。一読をお勧めします。

--- 履修上の留意点 ---

- 前提とされる知識は必要ありません。
- 道徳・倫理の問題というと、何か堅苦しい説教を思い浮かべるかもしれませんが、決してそんなことはありません。われわれの社会生活が道徳・倫理によって成り立っているとともに、いかに生きるかという、生き方の選択に道徳・倫理はふかくかかわっています。先入観をすてて、新しい目で見直そうにとつとめてください。

--- 授業計画 ---

- イントロダクション（スタートアップ授業）授業の進行、成績評価の仕方などの説明。
- “Why be moral?”という問いの意味
- 道徳と生き方の選択
- ソフィスト（ギリシア古代に、青年たちに学問を授けた職業的家庭教師）の人間本性論・道徳論
- ソクラテスの生き方(1)：エレンコス（反駁的対話）
- ソクラテスの生き方(2)：魂への配慮
- グラウコン（プラトンの兄）の挑戦：道徳の根拠を求める問い
- ビデオ視聴とレポート課題の提示（「生殖医療」あるいは「環境問題と未来世代」）
- 国家と魂のアナロジー（プラトン）。国家と個人の魂を比べながら、正義とは何か考える。
- 国家の正義と魂の正義の成り立ち
- 究極目的としての幸福（アリストテレス）
- 過剰と不足の中間・中庸としての徳
- 一般的正義と特殊的正義
- 義務の倫理学（カント）。カントは道徳を人間のなすべき義務と捉えた。
- 自律と自由：カントの考える自由のあり方。
- 道徳に根拠は必要か。授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/32ubq33166i9pfvx519hbbf81gb0jt6p>)

広川 明

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1 . 「なぜ道徳的であるべきか」という問いの意味を説明できる。 (DP1-1)
(知識・理解)

2.2 . 古代ギリシアから、カント倫理学、現代倫理学を概観することを通して、
道徳・倫理の諸説を理解する。 (DP2-1) (知識・理解)

3.3 . 倫理学が、自然科学があつかうような「事実」ではなく、「価値」にか
か
わる学問であり、価値の観点をおして人間の生を見直すものであるとい
うことを自覚する。 (DP1-2) (態度・志向性)

4.4 . 道徳・倫理とは、自分と他者を公平に扱うことを要求するものであると
い
うことを理解し、社会のなかでの自分のあり方を追求するようになる。
(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、
B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている
(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い
視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事
を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔
軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、
C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発
揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活
用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長
に貢献することができる(B、C)

広川 明

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：火・3時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

--- 概要 ---

人はなぜよいこと・正しいことをなすべきであり、わるいことをしてはいけないのか。この問いに対しては、そんなことを口にするのは不謹慎だ、ふざけている、というのが大方の反応であろう。それは、分別のある大人がする質問ではないのである。

しかし、分別をわきまえていない子どもからそう問われたとして、その問いにどう答えればいいのか。「わるいことをすれば法によって裁かれて処罰され、よいことをすれば周囲の人々から信頼されるからだ」というのが、初めに思いつく答えであろう。

しかし今、わるいことをしても発覚して処罰される心配はないと仮定したとすると（非現実的な仮定だと思われるかもしれないが、議論を続けるために受け入れていただきたい）、その仮定の下でお道徳的にふるまうべきよいことをなし、わるいことを慎む理由は何があるだろうか。そしてもし、それに対するじゅうぶんに納得できる答えがないとしたら、われわれは理由もなく道徳に従っているだけなのであるだろうか。

実のところこの問題は、哲学の始まりとほぼ同じ時期に登場し、それ以来、道徳の土台を掘りくずしかねない、きわどい問題でありつづけている。この授業では、その問いが意味するところを明らかにし、また、人々がそれにどのように答えてきたかをみてゆく。

ただし「なぜよいことをなし、わるいことを慎むべきか」（なぜ道徳に従うべきか）という問いを、現代倫理学の観点からのみあつかうと、抽象的で難しい議論に終始することになりかねないので、ギリシア哲学およびカント倫理学を素材として、この問いを通して、倫理学がどのように展開していったか理解することをめざしたい。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、基本的には講義形式で行います。教員が準備した講義資料（空欄補充型）を毎回、FUポータルにアップロードします。空欄を埋めながら、そこにふくまれる重要なポイントを解説し、また、教員からも質問を出して皆さんに考えていただきます。なお、授業中にビデオを視聴した後、レポート課題を提示することとします（レポートのテーマは、「生殖医療」あるいは「環境問題と未来世代」です。どちらを選んででもかまいません）。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

- 「なぜ道徳的であるべきか」という問いの意味を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
- 古代ギリシアから、カント倫理学、現代倫理学を概観することを通して、道徳・倫理の諸説を理解する。(DP2-1)(知識・理解)
- 倫理学が、自然科学があつかうような「事実」ではなく、「価値」にかかわる学問であり、価値の観点をとおして人間の生を見直すものであるということを見直す。(DP1-2)(態度・志向性)
- 道徳・倫理とは、自分と他者を公平に扱うことを要求するものであるということを理解し、社会のなかでの自分のあり方を追求するようになる。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

- 空欄補充型の資料をFUポータルにアップロードするので、わからない用語などについてあらかじめ調べておき、事前の学習課題が与えられた場合は、それについて調べておく。(90分)
- 空欄補充後、授業で理解できなかった点がないか確認し、資料を読み直して理解を深めておく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

- 定期試験に関しては、(1)設問に適切に答えているか、(2)正しい日本語で論理的に構成されているか、(3)道徳（倫理）と人の生き方の関わりを理解しているか、(4)ソクラテス・プラトンの説を理解しているか、(5)アリストテレス倫理学の方法論を理解しているか、などの点から評価する。
- レポートを1回実施することとし（レポートのテーマは「エンハンスメント（治療を超えた医療上の処置）」と生殖医療 あるいは「環境問題と未来世代」。どちらを選んでも可）、レポートの課題について十分なデータを集めたか、そのデータに基づいて自分の意見を明確に記述しているか、自分の主張について有効な論証を行っているか、を評価の基準とする。
- レポート20%、定期試験80%で総合的に評価する。

--- テキスト ---

使用しません。空欄補充型の講義資料を毎回配布します（B5、4ページ程度）。講義資料から定期試験の問題を出題します。

--- 参考書 ---

- プラトン『ゴルギアス』（加来彰俊訳、岩波文庫） ISBN 4-00-336012-5
I.カント『道徳形而上学原論』（篠田英雄訳、岩波文庫） ISBN 4-00-336251-9
大庭・安彦・永井編『なぜ悪いことをしてはいけないのか』（ナカニシヤ出版） ISBN 4-88848-593-3
参考図書ということで、読むことが不可欠というのではありません。ただし、プラトンの対話篇『ゴルギアス』は、構成も劇的で、演劇を見ているようにおもしろく読むことができるでしょう。一読をお勧めします。

--- 履修上の留意点 ---

- 前提とされる知識は必要ありません。
- 道徳・倫理の問題というと、何か堅苦しい説教を思い浮かべるかもしれませんが、決してそんなことはありません。われわれの社会生活が道徳・倫理によって成り立っているとともに、いかに生きるかという、生き方の選択に道徳・倫理はふかくかかわっています。先入観をすてて、新しい目で見直そうにとつとめてください。

--- 授業計画 ---

- イントロダクション（スタートアップ授業）授業の進行、成績評価の仕方などの説明。
- “Why be moral?”という問いの意味
- 道徳と生き方の選択
- ソフィスト（ギリシア古代に、青年たちに学問を授けた職業的家庭教師）の人間本性論・道徳論
- ソクラテスの生き方(1)：エレンコス（反駁的対話）
- ソクラテスの生き方(2)：魂への配慮
- グラウコン（プラトンの兄）の挑戦：道徳の根拠を求める問い
- ビデオ視聴とレポート課題の提示（「生殖医療」あるいは「環境問題と未来世代」）
- 国家と魂のアナロジー（プラトン）。国家と個人の魂を比べながら、正義とは何か考える。
- 国家の正義と魂の正義の成り立ち
- 究極目的としての幸福（アリストテレス）
- 過剰と不足の間・中庸としての徳
- 一般的正義と特殊的正義
- 義務の倫理学（カント）。カントは道徳を人間のなすべき義務と捉えた。
- 自律と自由：カントの考える自由のあり方。
- 道徳に根拠は必要か。授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/1ta111yi4s487v8511hh9p1zskqvfiruf>)

広川 明

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1 . 「なぜ道徳的であるべきか」という問いの意味を説明できる。 (DP1-1)
(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2 . 古代ギリシアから、カント倫理学、現代倫理学を概観することを通して、
道徳・倫理の諸説を理解する。 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

3.3 . 倫理学が、自然科学があつかうような「事実」ではなく、「価値」にかかわる学問であり、価値の観点をとおして人間の生を見直すものであるということを見出す。 (DP1-2) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

4.4 . 道徳・倫理とは、自分と他者を公平に扱うことを要求するものであるとい
うことを理解し、社会のなかでの自分のあり方を追求するようになる。
(DP2-2) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

安居 誠

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・4時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

--- 概要 ---

倫理学Aでは、《道徳の外部》と題して、人生における運や偶然の要素について検討しました。しかし、私自身に関わることで、自分のコントロールが利かない領域といえば、まず《無意識》が念頭に浮かびます。「無意識」の同義語は何でしょうか。夢や幻想を挙げ人が多いと思いますが、私自身に意識されることなく、私の行動を完全に支配しているのだから、それはむしろ「現実」とか「制度」と呼ばれるものに近いのではないかと。無意識が私の外にあるというのは奇妙に聞こえますが、意識や意図が私の内部だとすれば、意識されない領域は更にその内部にあるはずで、トポロジー的には、内部の内部は外部だということになっているので、その点では理屈が通っています。

倫理学Bでは、われわれの外に存在する制度のうち、とくに《お金＝貨幣》および資本主義を取り上げます。実際、われわれが「現実問題」と言うとき、たいていの場合、お金のことを指します。それは、運や偶然と同様、現にわれわれの人生を左右しているにも関わらず、倫理学が取り上げることのまずない、巨大な《道徳の外部》です。経済学が道徳哲学を起源とすることが、たまに思い出されるくらいでしょう。実際には、お金や資本主義が社会の無意識に属するという認識はむしろありふれていて、文献を見ても『資本主義の精神分析』や『資本主義と死の欲動』といったタイトルが目につきます。まるで、それらが口にするのも憚られる、暗い欲望の表現であるかのようです。

本講では、むしろ《貨幣の倫理性》に注目します。お金を得るという行為そのものは、とくに利他的なものと思えませんが、少なくとも《他者志向的》であるとは言えます。私が労働の対価として、ただの紙切れを喜んで受け取るのは、後に他者が、この紙切れを他のサービスや財を手放してでも受け取ってくれると思っているからです。紙切れを自分で消費する人はいないので、われわれはお金を受け取るたびに、言わば純粋な投機（＝根拠のない賭け）を行っていることとなります。それは、顔も名前も知らない他人と将来取引をするという遠い約束であり、親類縁者や共同体の狭い交流圏を越えた地平に自らを開くことを可能にするものです。講義では、そのことを説得的に論証します。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は講義形式で行い、FU_box上で公開されている授業資料を使用します。受講者は、事前にプリントアウトしたものを講義室に持ち込んだり、リアルタイムでスマホやタブレットに表示するなどして授業中に参照できるように準備すること。資料内容は授業の直前に更新されることがあるので、ご注意ください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

私利私欲の塊のように見える「お金」の本質を、むしろ社会全体の厚生に資するという観点から説明できるようになります。(DP1-1)(知識・理解)

社会政策、経済政策の内容を、公正さと妥当性の観点から評価する態度と志向が身につきます。(DP2-1)(態度・志向性)

お金について得られた社会的な知識を、自分の実人生に位置づける態度が養えます。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習は、参考文献に目を通したり、シラバス上のキーワードをネット検索で事前に調べるなどして行ってください。(60分)

復習をする場合は、個々の内容も大事ですが、項目間の関係などを理解することに重点を置いてください。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法：定期試験の結果が90%、受講態度を10%の割合で評価します。講義中に小テストを行った場合は、定期試験80%、小テスト10%のように定期試験の結果から割り引きます。

評価基準：到達目標にある「お金の本質」、「政策の公正さ」および「妥当性」の内容とそれらの講義全体における位置付け、さらに各議論の詳細な脈絡、以上三点に関する理解の程度を基準として評価します。

--- テキスト ---

使用しません。

--- 参考書 ---

多岐にわたるため、講義で紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

大学の一般教養で、経済学など社会科学を履修していることが望ましいですが、受講の前提ではありません。また、同じ担当者の倫理学Aを履修していなくても、独立に理解することができます。

--- 授業計画 ---

1. スタートアップ授業
倫理性：システムの外部
2. 《お金とは何か》
3. 「商品」、「投機」そして「貨幣」
4. クリスマス・キャロルと黄金餅
5. 流動性選好
6. 「お金で買えないもの」
7. 《効果的な利他主義》
8. 慈善活動とアービトラージ
9. 『マネー・ボール』考
10. オークション概論
11. ヘルマンとドロテア
12. 帝位競売とデモクラシー
13. ソロモン王のジレンマ
14. リベラル・トリレンマ
15. モラル・エコノミー
授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/6rx9y94he7xy8mxsj4fvimi0engqmag7>)

安居 誠

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 私利私欲の塊のように見える「お金」の本質を、むしろ社会全体の厚生に資するという観点から説明できるようになります。(DP1-1) (知識・理解)

2. 社会政策、経済政策の内容を、公正さと妥当性の観点から評価する態度と志向が身につきます。(DP2-1) (態度・志向性)

3. お金について得られた社会的な知識を、自分の実人生に位置づける態度が養えます。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

安居 誠

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・5時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

--- 概要 ---

倫理学Aでは、《道徳の外部》と題して、人生における運や偶然の要素について検討しました。しかし、私自身に関わることで、自分のコントロールが利かない領域といえば、まず《無意識》が念頭に浮かびます。「無意識」の同義語は何でしょうか。夢や幻想を挙げ人が多いと思いますが、私自身に意識されることなく、私の行動を完全に支配しているのだから、それはむしろ「現実」とか「制度」と呼ばれるものに近いのではないかと。無意識が私の外にあるというのは奇妙に聞こえますが、意識や意図が私の内部だとすれば、意識されない領域は更にその内部にあるはずで、トポロジー的には、内部の内部は外部だということになっているので、その点では理屈が通っています。

倫理学Bでは、われわれの外に存在する制度のうち、とくに《お金＝貨幣》および資本主義を取り上げます。実際、われわれが「現実問題」と言うとき、たいていの場合、お金のことを指します。それは、運や偶然と同様、現にわれわれの人生を左右しているにも関わらず、倫理学が取り上げることのまずない、巨大な《道徳の外部》です。経済学が道徳哲学を起源とすることが、たまに思い出されるくらいでしょう。実際には、お金や資本主義が社会の無意識に属するという認識はむしろありふれていて、文献を見ても『資本主義の精神分析』や『資本主義と死の欲動』といったタイトルが目につきます。まるで、それらが口にするのも憚られる、暗い欲望の表現であるかのようです。

本講では、むしろ《貨幣の倫理性》に注目します。お金を得るという行為そのものは、とくに利他的なものと思えませんが、少なくとも《他者志向的》であるとは言えます。私が労働の対価として、ただの紙切れを喜んで受け取るのは、後に他者が、この紙切れを他のサービスや財を手放してでも受け取ってくれると思っているからです。紙切れを自分で消費する人はいないので、われわれはお金を受け取るたびに、言わば純粋な投機（＝根拠のない賭け）を行っていることとなります。それは、顔も名前も知らない他人と将来取引をするという遠い約束であり、親類縁者や共同体の狭い交流圏を越えた地平に自らを開くことを可能にするものです。講義では、そのことを説得的に論証します。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は講義形式で行い、FU_box上で公開されている授業資料を使用します。受講者は、事前にプリントアウトしたものを講義室に持ち込んだり、リアルタイムでスマホやタブレットに表示するなどして授業中に参照できるように準備すること。資料内容は授業の直前に更新されることがあるので、ご注意ください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

私利私欲の塊のように見える「お金」の本質を、むしろ社会全体の厚生に資するという観点から説明できるようになります。(DP1-1)(知識・理解)

社会政策、経済政策の内容を、公正さと妥当性の観点から評価する態度と志向が身につきます。(DP2-1)(態度・志向性)

お金について得られた社会的な知識を、自分の実人生に位置づける態度が養えます。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習は、参考文献に目を通したり、シラバス上のキーワードをネット検索で事前に調べるなどして行ってください。(60分)

復習をする場合は、個々の内容も大事ですが、項目間の関係などを理解することに重点を置いてください。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法：定期試験の結果が90%、受講態度を10%の割合で評価します。講義中に小テストを行った場合は、定期試験80%、小テスト10%のように定期試験の結果から割り引きます。

評価基準：到達目標にある「お金の本質」、「政策の公正さ」および「妥当性」の内容とそれらの講義全体における位置づけ、さらに各議論の詳細な脈絡、以上三点に関する理解の程度を基準として評価します。

--- テキスト ---

使用しません。

--- 参考書 ---

多岐にわたるため、講義で紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

大学の一般教養で、経済学など社会科学を履修していることが望ましいですが、受講の前提ではありません。また、同じ担当者の倫理学Aを履修していなくても、独立に理解することができます。

--- 授業計画 ---

1. スタートアップ授業
倫理性：システムの外部
2. 《お金とは何か》
3. 「商品」、「投機」そして「貨幣」
4. クリスマス・キャロルと黄金餅
5. 流動性選好
6. 「お金で買えないもの」
7. 《効果的な利他主義》
8. 慈善活動とアービトラージ
9. 『マネー・ボール』考
10. オークション概論
11. ヘルマンとドロテア
12. 帝位競売とデモクラシー
13. ソロモン王のジレンマ
14. リベラル・トリレンマ
15. モラル・エコノミー

授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/wfcszl37et2qtx3urpn7k7llsbng3jym>)

安居 誠

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 私利私欲の塊のように見える「お金」の本質を、むしろ社会全体の厚生に資するという観点から説明できるようになります。（DP1-1）（知識・理解）

2. 社会政策、経済政策の内容を、公正さと妥当性の観点から評価する態度と志向が身につきます。（DP2-1）（態度・志向性）

3. お金について得られた社会的な知識を、自分の実人生に位置づける態度が養えます。（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

安居 誠

期別:後期 単位数:2 開講年次:1 授業の種類:対面授業科目 授業形態:講義 実務経験:無し 科目水準:入門 試験実施:有り
授業時間割:後期:木・二部1時限 試験時間割:2025/01/23 夜1限

--- 概要 ---

倫理学Aでは、《道徳の外部》と題して、人生における運や偶然の要素について検討しました。しかし、私自身に関わることで、自分のコントロールが利かない領域といえば、まず《無意識》が念頭に浮かびます。「無意識」の同義語は何でしょうか。夢や幻想を挙げる人が多いと思いますが、私自身に意識されることなく、私の行動を完全に支配しているのだから、それはむしろ「現実」とか「制度」と呼ばれるものに近いのではないかと。無意識が私の外にあるというのは奇妙に聞こえますが、意識や意図が私の内部だとすれば、意識されない領域は更にその内部にあるはずで、トポロジー的には、内部の内部は外部だということになっているので、その点では理屈が通っています。

倫理学Bでは、われわれの外に存在する制度のうち、とくに《お金=貨幣》および資本主義を取り上げます。実際、われわれが「現実問題」と言うとき、たいていの場合、お金のことを指します。それは、運や偶然と同様、現にわれわれの人生を左右しているにも関わらず、倫理学が取り上げることのまずない、巨大な《道徳の外部》です。経済学が道徳哲学を起源とすることが、たまに思い出されるくらいでしょう。実際には、お金や資本主義が社会の無意識に属するという認識はむしろありふれていて、文献を見ても『資本主義の精神分析』や『資本主義と死の欲動』といったタイトルが目につきます。まるで、それらが口にするのも憚られる、暗い欲望の表現であるかのようです。

本講では、むしろ《貨幣の倫理性》に注目します。お金を得るという行為そのものは、とくに利他的なものと思えませんが、少なくとも《他者志向的》であるとは言えます。私が労働の対価として、ただの紙切れを喜んで受け取るのは、後に他者が、この紙切れを他のサービスや財を手放してでも受け取ってくれると思っているからです。紙切れを自分で消費する人はいないので、われわれはお金を受け取るたびに、言わば純粋な投機(=根拠のない賭け)を行っていることとなります。それは、顔も名前も知らない他人と将来取引をするという遠い約束であり、親類縁者や共同体の狭い交流圏を越えた地平に自らを開くことを可能にするものです。講義では、そのことを説得的に論証します。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は講義形式で行い、FU_box上で公開されている授業資料を使用します。受講者は、事前にプリントアウトしたものを講義室に持ち込んだり、リアルタイムでスマホやタブレットに表示するなどして授業中に参照できるように準備すること。資料内容は授業の直前に更新されることがあるので、ご注意ください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

私利私欲の塊のように見える「お金」の本質を、むしろ社会全体の厚生に資するという観点から説明できるようになります。(DP1-1)(知識・理解)

社会政策、経済政策の内容を、公正さと妥当性の観点から評価する態度と志向が身につきます。(DP2-1)(態度・志向性)

お金について得られた社会的な知識を、自分の実人生に位置づける態度が養えます。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習は、参考文献に目を通したり、シラバス上のキーワードをネット検索で事前に調べるなどして行ってください。(60分)

復習をする場合は、個々の内容も大事ですが、項目間の関係などを理解することに重点を置いてください。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法:定期試験の結果が90%、受講態度を10%の割合で評価します。講義中に小テストを行った場合は、定期試験80%、小テスト10%のように定期試験の結果から割り引きます。

評価基準:到達目標にある「お金の本質」、「政策の公正さ」および「妥当性」の内容とそれらの講義全体における位置付け、さらに各議論の詳細な脈絡、以上三点に関する理解の程度を基準として評価します。

--- テキスト ---

使用しません。

--- 参考書 ---

多岐にわたるため、講義で紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

大学の一般教養で、経済学など社会科学を履修していることが望ましいですが、受講の前提ではありません。また、同じ担当者の倫理学Aを履修していなくても、独立に理解することができます。

--- 授業計画 ---

1. スタートアップ授業
倫理性:システムの外部
2. 《お金とは何か》
3. 「商品」、「投機」そして「貨幣」
4. クリスマス・キャロルと黄金餅
5. 流動性選好
6. 「お金で買えないもの」
7. 《効果的な利他主義》
8. 慈善活動とアービトラージ
9. 『マネー・ボール』考
10. オークション概論
11. ヘルマンとドロテア
12. 帝位競売とデモクラシー
13. ソロモン王のジレンマ
14. リベラル・トリレンマ
15. モラル・エコノミー
授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/czrmwiyppgih99ev3kj17pvcm6gtjt6h7>)

安居 誠

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 私利私欲の塊のように見える「お金」の本質を、むしろ社会全体の厚生に資するという観点から説明できるようになります。(DP1-1) (知識・理解)

2. 社会政策、経済政策の内容を、公正さと妥当性の観点から評価する態度と志向が身につきます。(DP2-1) (態度・志向性)

3. お金について得られた社会的な知識を、自分の実人生に位置づける態度が養えます。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

中村 未来

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：水・2時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

このゼミでは、『老子』や『荘子』等の中国の古典を精読し、「無為自然」や「道」の働きを理想とする道家的思索について議論していく。道家の思想は、後に神仙思想や民間信仰等を加えながら発展し、道教へと結実したと言われる。その思索には他の諸子百家のものとは異なり、「宇宙生成論」や「認識論」等、現代にも通ずる哲学的問いが多く見受けられる。これらの内容を丹念に読み解き、西洋の考え方と比較することにより、東洋における伝統思想の特質が明らかになると同時に、両者の相違がなぜ生じたのかについて考える足掛かりとすることができるであろう。

--- 授業の進行・方法 ---

この授業はゼミ形式で授業を進めるため、受講者が主体的に課題に取り組み、発表・討論を重ね、議論の内容を深めていく必要がある。積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。

ゼミの第1～5回においては、中国の古典を講読する上でかかせない専門用語や人物・文献、および漢文訓読法などを確認する（発表形式）。そして第6回以降において、受講者の興味関心に従い講読する文献を定め、その精読を通して道家思想に見える逆説的・懐疑的思索について検討する。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

道家思想（老子・荘子の思想）について、基本的な考え方を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

中国の古典に触れ、文化の多様性と言語表現について理解し、説明できる。(DP2-1)(技能)

授業内容を通して、文化の多様性に関心を持ち、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる。(DP3-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

(予習) 演習で取り上げる専門用語や文献などを調べ・精読し、自分なりに興味・関心、あるいは疑問に感じた箇所をまとめておく。(60分)

(予習) 特に各回の発表者は、上記に加え、自身の考察を付けたレジュメを作成する。(120分)

(復習) 演習における討論を整理し統括しておく。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

[評価方法] 担当箇所の発表およびレジュメの内容を50%、課題への積極的な取り組み・授業への参加度を50%で評価する。(定期試験は実施しない。そのため、再試験も実施しない。)

[評価基準] 中国古代思想（特に道家思想）に関する基本的な学説を正確に把握し、自分の言葉で説明できているか、またそこから導き出された自らの見解を他者と冷静に議論し、深めることができているか、という点を評価の基準とする。

--- テキスト ---

必要に応じて資料を配付する。

--- 参考書 ---

江連隆『漢文語法ハンドブック』大修館書店 ISBN 978-4469231359
 湯浅邦弘『入門 老荘思想』ちくま新書 ISBN 978-4480067838
 森三樹三郎『老荘と仏教』講談社学術文庫 ISBN 978-4061596139

その他、授業中に適宜紹介する。

--- 履修上の留意点 ---

受講者が主体的に発表・討論を行う演習形式の授業であるため、遅刻や無断欠席は厳禁。

高度な漢文読解能力の有無については問うところではないが、中国の古典に親しみや関心を持って授業に参加して欲しい。

--- 授業計画 ---

- (スタートアップ授業)
授業内容や授業の進め方について
関連文献の紹介
初回の課題説明
- 関連語句・文献についての発表
- 関連語句・文献についての発表
- 関連語句・文献についての発表
- 関連語句・文献についての発表
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- テキスト講読：発表と討論
- (授業のまとめ)
総括
授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/3d3hyq0y13lus4ti24yhq5w12b0ibg6w>

中村 未来

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1.道家思想(老子・荘子の思想)について、基本的な考え方を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1【学び続けていくための確かな基礎】

2.中国の古典に触れ、文化の多様性と言語表現について理解し、説明できる。(DP2-1)(技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.授業内容を通して、文化の多様性に関心を持ち、自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる。(DP3-1)(態度・志向性)

理念2【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

竹花 洋佑

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・5 時限 試験時間割：2024/07/29 1 時限

- - - 概要 - - -

この講義は、哲学という学問にこれまでまったく触れたことのない方を対象としています。哲学の基本問題を学ぶことを通して、哲学についての基本的な知識と哲学的な思考法とを理解してもらいます。そのことを前提として、自ら哲学的に考える主体的な能力の基礎を養ってもらうことが本講義の最終的な目的となります。

本講義の内容は、大きく言って、基礎的・一般的な部分と応用的な部分の二つ部分から構成されます。「応用的」というのは難解ということではありません。私自身の関心や考えがやや前面に出ている部分ということの意味します。哲学的思考法がどのようなものかを理解してもらうためには、私自身が哲学的な問題に対してどのように考えるかを示すしかありませんので、そのようなかたちを取ります。とはいっても、多くの文献で紹介されている内容や学説は同時にしっかりと解説しますので、哲学についての一般的な知識を身につけてもらうこともできます。

この講義の大きなテーマは二つあります。すなわち、人間とは何か、そしてその人間を取り巻く世界とは何か、です。前者の問いに関しては、人間が主に西洋の思想の中で歴史的にどのように理解されてきたかを明らかにすることをふまえて（基礎的部分）、フィクション、AI、そして想像力という観点から「人間とは何か」という問題に迫ります（応用的部分）。後者の問いに関しては、他者、社会、歴史、自然といった問題を扱うことを通して（基礎的部分）、世界とはいかなるものかという問いを行為という視点から明らかにします（応用的部分）。

授業は講義形式で行われます。毎回授業終了後にmoodleを用いて皆さんに授業内容について質問・意見を記入してもらいます。次の授業の冒頭で、みなさんから寄せられた質問・意見にお答えするようにします。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義形式の授業となります。毎回プリントを配布し、そこに板書内容を書きこんでもらいます。また、毎回、簡単な小テストと授業内容に関する質問・意見の記入を行います（moodleを使用します）。質問・意見については次回の授業の冒頭で紹介し、教員からコメントをするようにします。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。
(DP1-1)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について哲学史の視点から理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

講義で取り上げた様々な哲学の立場がなぜそのように主張されているのかを理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について様々な議論がなされているということが多角的に理解し、それらを説明することができる。(DP3-1)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について、自分の見解とその根拠を表明することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業内容を再度見直し、取り上げられた問題について意見・質問をmoodleに記入する。(30分)

授業の中で紹介された文献を読み、問題についての理解を深めておく。(150分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

授業終了後に授業内容についての質問や意見をmoodleに記入してもらいます。この記入をもって授業に出席したとみなします。

成績は定期試験の得点に基づいて評価します。試験問題は、哲学者の議論の内容、哲学的諸概念の知識とその内容、授業で取り上げた哲学的諸問題に対する論理的分析力の度合い、を問うものになります。

- - - テキスト - - -

特に使用しない。

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

・基本的なところから丁寧に説明していきますので、哲学に関する前提的知識は一切要りません。

・ただし、各回の授業は内容的につながっていますので、欠席が多くなったり、復習が不十分だったりすると、途端についていけなくなりますので、注意して下さい。

・期末試験の問題もかなりのボリュームがありますので、付け焼き刃の勉強では歯が立たないと思います。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）

2. 哲学とは何か

3. 哲学と宗教と科学

【第1部】人間とは何か

4. 人間はいかに理解されてきたか（1）

5. 人間はいかに理解されてきたか（2）

6. 人間はいかに理解されてきたか（3）

7. 想像力という問題

8. フィクションとリアリティ

9. AIが問いかけるもの

【第2部】人間を取り巻く世界とは何か

10. 他者という問題（1）

11. 他者という問題（2）

12. 社会のあり方を考えてみる（1）

13. 社会のあり方を考えてみる（2）

14. 歴史そして自然という世界（1）

15. 歴史そして自然という世界（2）、授業アンケート

FURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/d0lmuziuar1j3l9uwrflb1f8ut2lccpq>)

竹花 洋佑

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。
(DP1-1) (知識・理解)
2. 講義で取り上げた哲学の諸問題について哲学史の視点から理解し、それらを説明することができる。 (DP2-1) (知識・理解)
3. 講義で取り上げた様々な哲学の立場がなぜそのように主張されているのかを理解することができる。 (DP2-2) (知識・理解)
4. 講義で取り上げた哲学の諸問題について様々な議論がなされているということが多角的に理解し、それらを説明することができる。 (DP3-1) (知識・理解)
5. 講義で取り上げた哲学の諸問題について、自分の見解とその根拠を表明することができる。 (DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

竹花 洋佑

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・4 時限 試験時間割：2024/07/29 1 時限

- - - 概要 - - -

この講義は、哲学という学問にこれまでまったく触れたことのない方を対象としています。哲学の基本問題を学ぶことを通して、哲学についての基本的な知識と哲学的な思考法とを理解してもらいます。そのことを前提として、自ら哲学的に考える主体的な能力の基礎を養ってもらうことが本講義の最終的な目的となります。

本講義の内容は、大きく言って、基礎的・一般的な部分と応用的な部分の二つ部分から構成されます。「応用的」というのは難解ということではありません。私自身の関心や考えがやや前面に出ている部分ということの意味します。哲学的思考法がどのようなものかを理解してもらうためには、私自身が哲学的な問題に対してどのように考えるかを示すしかありませんので、そのようなかたちを取ります。とはいっても、多くの文献で紹介されている内容や学説は同時にしっかりと解説しますので、哲学についての一般的な知識を身につけてもらうこともできます。

この講義の大きなテーマは二つあります。すなわち、人間とは何か、そしてその人間を取り巻く世界とは何か、です。前者の問いに関しては、人間が主に西洋の思想の中で歴史的にどのように理解されてきたかを明らかにすることをふまえて（基礎的部分）、フィクション、AI、そして想像力という観点から「人間とは何か」という問題に迫ります（応用的部分）。後者の問いに関しては、他者、社会、歴史、自然といった問題を扱うことを通して（基礎的部分）、世界とはいかなるものかという問いを行為という視点から明らかにします（応用的部分）。

授業は講義形式で行われます。毎回授業終了後にmoodleを用いて皆さんに授業内容について質問・意見を記入してもらいます。次の授業の冒頭で、みなさんから寄せられた質問・意見にお答えするようにします。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義形式の授業となります。毎回プリントを配布し、そこに板書内容を書きこんでもらいます。また、毎回、簡単な小テストと授業内容に関する質問・意見の記入を行います（moodleを使用します）。質問・意見については次回の授業の冒頭で紹介し、教員からコメントをするようにします。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。
(DP1-1)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について哲学史の視点から理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

講義で取り上げた様々な哲学の立場がなぜそのように主張されているのかを理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について様々な議論がなされているということが多角的に理解し、それらを説明することができる。(DP3-1)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について、自分の見解とその根拠を表明することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業内容を再度見直し、取り上げられた問題について意見・質問をmoodleに記入する。(30分)

授業の中で紹介された文献を読み、問題についての理解を深めておく。(150分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

授業終了後に授業内容についての質問や意見をmoodleに記入してもらいます。この記入をもって授業に出席したとみなします。

成績は定期試験の得点に基づいて評価します。試験問題は、哲学者の議論の内容、哲学的諸概念の知識とその内容、授業で取り上げた哲学的諸問題に対する論理的分析力の度合い、を問うものになります。

- - - テキスト - - -

特に使用しない。

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

・基本的なところから丁寧に説明していきますので、哲学に関する前提的知識は一切要りません。

・ただし、各回の授業は内容的につながっていますので、欠席が多くなったり、復習が不十分だったりすると、途端についていけなくなりますので、注意して下さい。

・期末試験の問題もかなりのボリュームがありますので、付け焼き刃の勉強では歯が立たないと思います。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）

2. 哲学とは何か

3. 哲学と宗教と科学

【第1部】人間とは何か

4. 人間はいかに理解されてきたか（1）

5. 人間はいかに理解されてきたか（2）

6. 人間はいかに理解されてきたか（3）

7. 想像力という問題

8. フィクションとリアリティ

9. AIが問いかけるもの

【第2部】人間を取り巻く世界とは何か

10. 他者という問題（1）

11. 他者という問題（2）

12. 社会のあり方を考えてみる（1）

13. 社会のあり方を考えてみる（2）

14. 歴史そして自然という世界（1）

15. 歴史そして自然という世界（2）、授業アンケート

FURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ufv848dsqusf09s63x4buwqcadlyep2u>)

竹花 洋佑

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。
(DP1-1) (知識・理解)
2. 講義で取り上げた哲学の諸問題について哲学史の視点から理解し、それらを説明することができる。 (DP2-1) (知識・理解)
3. 講義で取り上げた様々な哲学の立場がなぜそのように主張されているのかを理解することができる。 (DP2-2) (知識・理解)
4. 講義で取り上げた哲学の諸問題について様々な議論がなされているということが多角的に理解し、それらを説明することができる。 (DP3-1) (知識・理解)
5. 講義で取り上げた哲学の諸問題について、自分の見解とその根拠を表明することができる。 (DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

飯泉 佑介

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：水・4時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

概要

本講義は、西洋の形而上学における根本問題を考えることによって、哲学ならではの主題や思考に親しみ、世界や自己についての理解を深めることを目的とする。哲学の中でも形而上学という分野は、「存在するとはどのようなことか」「なぜ世界は存在するのか」といった究極の問題を探究してきた。こうした問題は、日常生活で普段、意識するものではない。それでも、確かに私たちにわかりがある（私たちは「存在」しているし、「世界」の中で生きている！）。それゆえ、こうした根本的な事柄をあえて考えることで、今まで当たり前だと思っていた世界の見え方や価値観は揺さぶられることになる。その意味で、この授業は哲学入門である。

形而上学は現代でも研究されているが、この講義では、過去の哲学者たちが残した思想を学ぶことを通じて、形而上学の問題を考えていきたい。そうした思想は、文化や宗教、科学、芸術などと複雑に絡まり合っており、私たちの世界観や価値観を形作ってきたからである。ただし、歴史的な知見は、単に覚えるためのものではなく、自分で考え、ともに考えるための手がかりである。大事なことは、歴史に学びながら根本を考えようとする姿勢である。

哲学A・B「西洋形而上学からの哲学入門」では、西洋形而上学の伝統的な主題である「存在」「世界」「人間（心）」「神」に沿って授業を展開する。哲学Aでは「存在」と「世界」に焦点を当て、「存在と実体」「存在と認識」「世界の原理」「世界の意味」などのトピックを扱う。

授業の進行・方法

- ・教員が作成したパワーポイント教材を用いて講義を行う。教科書は使わないため、各自ノートを取って受講すること。
- ・教材はFUポータルを通じて配信する。プリントアウトされたものが必要な人は予め申し出ること。
- ・毎回、授業後にオンライン・フォーム上でリアクションペーパーを書いて提出してもらう。可能な限り、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。
- ・授業の冒頭で前回の内容のふり返りを行い、必要に応じて補足を行う。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる(DP1-2)(態度・志向性)

科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる(DP2-1)(知識・理解)

根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる(DP2-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

事前に予告されたトピックについて自分なりに調べて、要点や疑問点を明確にしておく(予習)(50分)

事前に「問い」が与えられているときは、自分なりの「答え」を用意しておく(予習)(40分)

ノートを見返して授業をふり返りながら、自分なりに学んだ内容を再構成する(復習)(50分)

リアクションペーパーに自分の考えや疑問を書いて提出する(復習)(40分)

成績評価基準および方法

成績評価基準

- ・哲学の概念や理論についての正確な理解をもつこと
- ・困難な問題に対して粘り強く考える姿勢と思考力をもつこと
- ・他者の考えを聞き、自らの考えを表現する際の多角的で柔軟な視点をもつこと

成績評価方法

- ・リアクションペーパー(40%)
- ・定期試験(60%)

テキスト

特に使用しない。必要に応じて、授業中にコピーを配布する。

参考書

図説・標準 哲学史 ISBN 4403250939
 よくわかる哲学・思想（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ） ISBN 4623084108
 近代哲学の精神 西洋形而上学の六つの大テーマと中世の終わり ISBN 4588004867

一つ目の文献は、重要な哲学者の考え方を図解付きで解説しており、授業を理解する上で参考になる。二つ目の文献は、さまざまな哲学のトピックを簡潔にまとめている。最後の文献はかなり難解だが、この授業で扱う問題の歴史的背景を知るには最適である。各回の参考文献は、授業の中で随時指示する。

履修上の留意点

- ・この授業では、前提知識がなくても学べるように、画像や映像などを用いてわかりやすい説明を心がける。ただし、履修者は、受け身ではなく、意欲と関心をもって主体的に学ぶことが求められる。欠席した場合には、参考文献を調べたり質問したりして自ら補うこと。
- ・毎回、授業後にリアクションペーパーを書いて提出してもらう。リアクションペーパーは、履修者の理解度と姿勢を評価する材料であるため、十分時間をかけて作成すること。欠席した場合は、事情に応じて後日の提出を認める。
- ・哲学B「西洋形而上学からの哲学入門」と合わせて受講することが望ましい。
- ・授業中の私語や他の学生への妨害となる行為は禁止する。
- ・授業計画は、履修者の理解度などに応じて変更になる可能性がある。

授業計画

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2.存在の意味 存在するってどういうこと？
- 3.存在と実体 何が存在するの？
- 4.存在と実体 本当の意味で存在するもの
- 5.存在と認識 私にとっての存在
- 6.存在と認識 私たちにとっての存在
- 7.存在と無 存在しないってどういうこと？
- 8.中間まとめ
- 9.世界の意味 世界って何？
- 10.世界の原理 世界の原理って何？
- 11.世界の原理 自然と精神
- 12.世界と認識 実在論と観念論
- 13.世界と認識 世界の限界
- 14.世界の存在 世界が存在する意味
- 15.まとめ・授業アンケート FURIKA の実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/nf60hhatm433uhthcs8dqytf7nlfj)

飯泉 佑介

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる（DP1-1）
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる（DP1-2）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる（DP2-1）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

4.根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる（DP2-2）（態度・志向性）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

飯泉 佑介

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：月・5時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

概要

本講義は、西洋の形而上学における根本問題を考えることによって、哲学ならではの主題や思考に親しみ、世界や自己についての理解を深めることを目的とする。哲学の中でも形而上学という分野は、「存在するとはどのようなことか」「なぜ世界は存在するのか」といった究極の問題を探究してきた。こうした問題は、日常生活で普段、意識するものではない。それでも、確かに私たちにわかりがある（私たちは「存在」しているし、「世界」の中で生きている！）。それゆえ、こうした根本的な事柄をあえて考えることで、今まで当たり前だと思っていた世界の見え方や価値観は揺さぶられることになる。その意味で、この授業は哲学入門である。

形而上学は現代でも研究されているが、この講義では、過去の哲学者たちが残した思想を学ぶことを通じて、形而上学の問題を考えていきたい。そうした思想は、文化や宗教、科学、芸術などと複雑に絡まり合っており、私たちの世界観や価値観を形作ってきたからである。ただし、歴史的な知見は、単に覚えるためのものではなく、自分で考え、ともに考えるための手がかりである。大事なことは、歴史に学びながら根本を考えようとする姿勢である。

哲学A・B「西洋形而上学からの哲学入門」では、西洋形而上学の伝統的な主題である「存在」「世界」「人間（心）」「神」に沿って授業を展開する。哲学Aでは「存在」と「世界」に焦点を当て、「存在と実体」「存在と認識」「世界の原理」「世界の意味」などのトピックを扱う。

授業の進行・方法

- ・教員が作成したパワーポイント教材を用いて講義を行う。教科書は使わないため、各自ノートを取って受講すること。
- ・教材はFUポータルを通じて配信する。プリントアウトされたものが必要な人は予め申し出ること。
- ・毎回、授業後にオンライン・フォーム上でリアクションペーパーを書いて提出してもらう。可能なかぎり、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。
- ・授業の冒頭で前回の内容のふり返りを行い、必要に応じて補足を行う。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる(DP1-2)(態度・志向性)

科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる(DP2-1)(知識・理解)

根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる(DP2-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

事前に予告されたトピックについて自分なりに調べて、要点や疑問点を明確にしておく(予習)(50分)

事前に「問い」が与えられているときは、自分なりの「答え」を用意しておく(予習)(40分)

ノートを見返して授業をふり返りながら、自分なりに学んだ内容を再構成する(復習)(50分)

リアクションペーパーに自分の考えや疑問を書いて提出する(復習)(40分)

成績評価基準および方法

成績評価基準

- ・哲学の概念や理論についての正確な理解をもつこと
- ・困難な問題に対して粘り強く考える姿勢と思考力をもつこと
- ・他者の考えを聞き、自らの考えを表現する際の多角的で柔軟な視点をもつこと

成績評価方法

- ・リアクションペーパー(40%)
- ・定期試験(60%)

テキスト

特に使用しない。必要に応じて、授業中にコピーを配布する。

参考書

図説・標準 哲学史 ISBN 4403250939
 よくわかる哲学・思想（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ） ISBN 4623084108
 近代哲学の精神 西洋形而上学の六つの大テーマと中世の終わり ISBN 4588004867

一つ目の文献は、重要な哲学者の考え方を図解付きで解説しており、授業を理解する上で参考になる。二つ目の文献は、さまざまな哲学のトピックを簡潔にまとめている。最後の文献はかなり難解だが、この授業で扱う問題の歴史的背景を知るには最適である。各回の参考文献は、授業の中で随時指示する。

履修上の留意点

・この授業では、前提知識がなくても学べるように、画像や映像などを用いてわかりやすい説明を心がける。ただし、履修者は、受け身ではなく、意欲と関心をもって主体的に学ぶことが求められる。欠席した場合には、参考文献を調べたり質問したりして自ら補うこと。

・毎回、授業後にリアクションペーパーを書いて提出してもらう。リアクションペーパーは、履修者の理解度と姿勢を評価する材料であるため、十分時間をかけて作成すること。欠席した場合は、事情に応じて後日の提出を認める。

・哲学B「西洋形而上学からの哲学入門」と合わせて受講することが望ましい。

・授業中の私語や他の学生への妨害となる行為は禁止する。

・授業計画は、履修者の理解度などに応じて変更になる可能性がある。

授業計画

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2.存在の意味 存在するってどういうこと？
- 3.存在と実体 何が存在するの？
- 4.存在と実体 本当の意味で存在するもの
- 5.存在と認識 私にとっての存在
- 6.存在と認識 私たちにとっての存在
- 7.存在と無 存在しないってどういうこと？
- 8.中間まとめ
- 9.世界の意味 世界って何？
- 10.世界の原理 世界の原理って何？
- 11.世界の原理 自然と精神
- 12.世界と認識 実在論と観念論
- 13.世界と認識 世界の限界
- 14.世界の存在 世界が存在する意味
- 15.まとめ・授業アンケート FURIKA の実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/00xq7uade9ycrwemnl8o1ude43r0oj5k)

飯泉 佑介

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる（DP1-1）
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる（DP1-2）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

3.科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる（DP2-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

4.根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる（DP2-2）（態度・志向性）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

飯泉 佑介

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：火・2時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

概要

本講義は、西洋の形而上学における根本問題を考えることによって、哲学ならではの主題や思考に親しみ、世界や自己についての理解を深めることを目的とする。哲学の中でも形而上学という分野は、「存在するとはどのようなことか」「なぜ世界は存在するのか」といった究極の問題を探究してきた。こうした問題は、日常生活で普段、意識するものではない。それでも、確かに私たちにわかりがある（私たちは「存在」しているし、「世界」の中で生きている！）。それゆえ、こうした根本的な事柄をあえて考えることで、今まで当たり前だと思っていた世界の見え方や価値観は揺さぶられることになる。その意味で、この授業は哲学入門である。

形而上学は現代でも研究されているが、この講義では、過去の哲学者たちが残した思想を学ぶことを通じて、形而上学の問題を考えていきたい。そうした思想は、文化や宗教、科学、芸術などと複雑に絡まり合っており、私たちの世界観や価値観を形作ってきたからである。ただし、歴史的な知見は、単に覚えるためのものではなく、自分で考え、ともに考えるための手がかりである。大事なことは、歴史に学びながら根本を考えようとする姿勢である。

哲学A・B「西洋形而上学からの哲学入門」では、西洋形而上学の伝統的な主題である「存在」「世界」「人間（心）」「神」に沿って授業を展開する。哲学Aでは「存在」と「世界」に焦点を当て、「存在と実体」「存在と認識」「世界の原理」「世界の意味」などのトピックを扱う。

授業の進行・方法

- ・教員が作成したパワーポイント教材を用いて講義を行う。教科書は使わないため、各自ノートを取って受講すること。
- ・教材はFUポータルを通じて配信する。プリントアウトされたものが必要な人は予め申し出ること。
- ・毎回、授業後にオンライン・フォーム上でリアクションペーパーを書いて提出してもらう。可能な限り、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。
- ・授業の冒頭で前回の内容のふり返りを行い、必要に応じて補足を行う。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる(DP1-2)(態度・志向性)

科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる(DP2-1)(知識・理解)

根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる(DP2-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

事前に予告されたトピックについて自分なりに調べて、要点や疑問点を明確にしておく(予習)(50分)

事前に「問い」が与えられているときは、自分なりの「答え」を用意しておく(予習)(40分)

ノートを見返して授業をふり返りながら、自分なりに学んだ内容を再構成する(復習)(50分)

リアクションペーパーに自分の考えや疑問を書いて提出する(復習)(40分)

成績評価基準および方法

成績評価基準

- ・哲学の概念や理論についての正確な理解をもつこと
- ・困難な問題に対して粘り強く考える姿勢と思考力をもつこと
- ・他者の考えを聞き、自らの考えを表現する際の多角的で柔軟な視点をもつこと

成績評価方法

- ・リアクションペーパー(40%)
- ・定期試験(60%)

テキスト

特に使用しない。必要に応じて、授業中にコピーを配布する。

参考書

図説・標準 哲学史 ISBN 4403250939
 よくわかる哲学・思想（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ） ISBN 4623084108
 近代哲学の精神 西洋形而上学の六つの大テーマと中世の終わり ISBN 4588004867

一つ目の文献は、重要な哲学者の考え方を図解付きで解説しており、授業を理解する上で参考になる。二つ目の文献は、さまざまな哲学のトピックを簡潔にまとめている。最後の文献はかなり難解だが、この授業で扱う問題の歴史的背景を知るには最適である。各回の参考文献は、授業の中で随時指示する。

履修上の留意点

- ・この授業では、前提知識がなくても学べるように、画像や映像などを用いてわかりやすい説明を心がける。ただし、履修者は、受け身ではなく、意欲と関心をもって主体的に学ぶことが求められる。欠席した場合には、参考文献を調べたり質問したりして自ら補うこと。
- ・毎回、授業後にリアクションペーパーを書いて提出してもらう。リアクションペーパーは、履修者の理解度と姿勢を評価する材料であるため、十分時間をかけて作成すること。欠席した場合は、事情に応じて後日の提出を認める。
- ・哲学B「西洋形而上学からの哲学入門」と合わせて受講することが望ましい。
- ・授業中の私語や他の学生への妨害となる行為は禁止する。
- ・授業計画は、履修者の理解度などに応じて変更になる可能性がある。

授業計画

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2.存在の意味 存在するってどういうこと？
- 3.存在と実体 何が存在するの？
- 4.存在と実体 本当の意味で存在するもの
- 5.存在と認識 私にとっての存在
- 6.存在と認識 私たちにとっての存在
- 7.存在と無 存在しないってどういうこと？
- 8.中間まとめ
- 9.世界の意味 世界って何？
- 10.世界の原理 世界の原理って何？
- 11.世界の原理 自然と精神
- 12.世界と認識 実在論と観念論
- 13.世界と認識 世界の限界
- 14.世界の存在 世界が存在する意味
- 15.まとめ・授業アンケート FURIKA の実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/v5mgie7howzy0cye7kopcmqrltqgpdmm)

飯泉 佑介

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる（DP1-1）
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる（DP1-2）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

3.科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる（DP2-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

4.根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる（DP2-2）（態度・志向性）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

飯泉 佑介

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：水・2時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

概要

本講義は、西洋の形而上学における根本問題を考えることによって、哲学ならではの主題や思考に親しみ、世界や自己についての理解を深めることを目的とする。哲学の中でも形而上学という分野は、「存在するとはどのようなことか」「なぜ世界は存在するのか」といった究極の問題を探究してきた。こうした問題は、日常生活で普段、意識するものではない。それでも、確かに私たちにかかわりがある（私たちは「存在」しているし、「世界」の中で生きている！）。それゆえ、こうした根本的な事柄をあえて考えることで、今まで当たり前だと思っていた世界の見え方や価値観は揺さぶられることになる。その意味で、この授業は哲学入門である。

形而上学は現代でも研究されているが、この講義では、過去の哲学者たちが残した思想を学ぶことを通じて、形而上学の問題を考えていきたい。そうした思想は、文化や宗教、科学、芸術などと複雑に絡まり合っており、私たちの世界観や価値観を形作ってきたからである。ただし、歴史的な知見は、単に覚えるためのものではなく、自分で考え、ともに考えるための手がかりである。大事なことは、歴史に学びながら根本を考えようとする姿勢である。

哲学A・B「西洋形而上学からの哲学入門」では、西洋形而上学の伝統的な主題である「存在」「世界」「人間（心）」「神」に沿って授業を展開する。哲学Aでは「存在」と「世界」に焦点を当て、「存在と実体」「存在と認識」「世界の原理」「世界の意味」などのトピックを扱う。

授業の進行・方法

- ・教員が作成したパワーポイント教材を用いて講義を行う。教科書は使わないため、各自ノートを取って受講すること。
- ・教材はFUポータルを通じて配信する。プリントアウトされたものが必要な人は予め申し出ること。
- ・毎回、授業後にオンライン・フォーム上でリアクションペーパーを書いて提出してもらう。可能なかぎり、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。
- ・授業の冒頭で前回の内容のふり返りを行い、必要に応じて補足を行う。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる(DP1-2)(態度・志向性)

科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる(DP2-1)(知識・理解)

根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる(DP2-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

事前に予告されたトピックについて自分なりに調べて、要点や疑問点を明確にしておく(予習)(50分)

事前に「問い」が与えられているときは、自分なりの「答え」を用意しておく(予習)(40分)

ノートを見返して授業をふり返りながら、自分なりに学んだ内容を再構成する(復習)(50分)

リアクションペーパーに自分の考えや疑問を書いて提出する(復習)(40分)

成績評価基準および方法

成績評価基準

- ・哲学の概念や理論についての正確な理解をもつこと
- ・困難な問題に対して粘り強く考える姿勢と思考力をもつこと
- ・他者の考えを聞き、自らの考えを表現する際の多角的で柔軟な視点をもつこと

成績評価方法

- ・リアクションペーパー(40%)
- ・定期試験(60%)

テキスト

特に使用しない。必要に応じて、授業中にコピーを配布する。

参考書

図説・標準 哲学史 ISBN 4403250939
 よくわかる哲学・思想（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ） ISBN 4623084108
 近代哲学の精神 西洋形而上学の六つの大テーマと中世の終わり ISBN 4588004867

一つ目の文献は、重要な哲学者の考え方を図解付きで解説しており、授業を理解する上で参考になる。二つ目の文献は、さまざまな哲学のトピックを簡潔にまとめている。最後の文献はかなり難解だが、この授業で扱う問題の歴史的背景を知るには最適である。各回の参考文献は、授業の中で随時指示する。

履修上の留意点

- ・この授業では、前提知識がなくても学べるように、画像や映像などを用いてわかりやすい説明を心がける。ただし、履修者は、受け身ではなく、意欲と関心をもって主体的に学ぶことが求められる。欠席した場合には、参考文献を調べたり質問したりして自ら補うこと。
- ・毎回、授業後にリアクションペーパーを書いて提出してもらう。リアクションペーパーは、履修者の理解度と姿勢を評価する材料であるため、十分時間をかけて作成すること。欠席した場合は、事情に応じて後日の提出を認める。
- ・哲学B「西洋形而上学からの哲学入門」と合わせて受講することが望ましい。
- ・授業中の私語や他の学生への妨害となる行為は禁止する。
- ・授業計画は、履修者の理解度などに応じて変更になる可能性がある。

授業計画

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2.存在の意味 存在するってどういうこと？
- 3.存在と実体 何が存在するの？
- 4.存在と実体 本当の意味で存在するもの
- 5.存在と認識 私にとっての存在
- 6.存在と認識 私たちにとっての存在
- 7.存在と無 存在しないってどういうこと？
- 8.中間まとめ
- 9.世界の意味 世界って何？
- 10.世界の原理 世界の原理って何？
- 11.世界の原理 自然と精神
- 12.世界と認識 実在論と観念論
- 13.世界と認識 世界の限界
- 14.世界の存在 世界が存在する意味
- 15.まとめ・授業アンケート FURIKA の実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/eh14b2tegswtai3ryg7jbdctdoyk0qh1)

飯泉 佑介

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる（DP1-1）
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる（DP1-2）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

3.科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる（DP2-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

4.根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる（DP2-2）（態度・志向性）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

大西 克智

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：木・2時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

この授業では、西洋哲学が古代世界においてどのようにして始められ、その後、中世を通じてどのように展開されていったのか、原典テキスト(分かりやすい邦訳版)を読みながら、明らかにしてゆく。ただし、たんに遠い過去の事実を学び知るためではない。哲学の始まりとその後の展開のなかに、時代的にも地理的にも遠く離れた現代日本に生きる私たちにとってもきわめて重要な問題がいくつも含まれていることを知り、そうした問題を、出席者が自分自身の生活実感に照らして考えるためである。哲学と倫理学(道徳)と宗教が、「よく生きること」そして「自分自身を知ること」をめぐる連動することになるだろう。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業は、教員による講義を軸に進める。板書形式をとるが、教員が口頭で述べるにとどまった事項も含めてノートを作成する積極性が求められる。また、学期を通じて6回程度、授業内容を私たちの日常に引き寄せるための質問に答えるリアクショーパーを書いてもらう。提出されたものから数通を選び、次の授業で共有する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

哲学の始まりに関する基礎的な知識を理解し、それらを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

哲学と倫理の関係を理解し、それを説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

哲学と宗教の関係を理解し、それらを説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

隔たった時代と土地の価値観を自分自身に関連づけて柔軟に考えることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

ひとつひとつの判断について理由を明示した、明晰な文章を書くことができる。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：前回までのストーリーの流れを資料と自分のノートに照らして再確認する。また、moodleにアップされたその日の資料を事前に熟読する。(90分)

復習：板書漏れがないか記憶の鮮明なうちに振り返りつつ、授業内容を自分で追体験する。また、質問への答えを提出した回は、別の答えがありえないかどうか考え直してみる。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

・成績評価基準

(1) 計6回のリアクショーパー(到達目標4, 5に対する到達度により評価)

(2) 最終レポート(到達目標1, 2, 3, 4, 5に対する到達度により評価)

・成績評価方法

リアクション・ペーパー(30点：5点×6回)と、最終レポート(70点)の成績で評価する。

- - - テキスト - - -

教科書は使用しない。授業中に検討するテキストおよびその他の資料は各回ごと事前にmoodleにアップする。

- - - 参考書 - - -

大西克智『『エッセー』読解入門 モンテーニュと西洋の精神史』 ISBN 978-4065283615

- - - 履修上の留意点 - - -

(1) この授業は全体が一つのストーリーになっているため、理解のためには安定した出席が望まれる。また、リアクショーパーはその場で回収し、事後提出は認めないので、この点でも出席が重要になる。

(2) 授業で使用するテキストその他資料は紙媒体で配布するが、欠席した場合は、moodleにアップされたファイルを自分で印刷して持参すること。

(3) この授業は定期試験を行わない「開講期間内評価科目」であり、再試験の対象にはならないので、注意してもらいたい。

(4) 1回目のスタートアップ授業は遠隔で行う。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション：スタートアップ授業
2. すべての発端：ソクラテス裁判
3. ソクラテスの毒杯(1)：不気味な伝承
4. ソクラテスの毒杯(2)：「君自身のことを知りなさい」
5. 哲学の始まり：プラトンがソクラテスから継承したもの
6. 哲学と倫理学：「よく生きること」
7. 概念 というものについて
8. もう一つの発端：イエスという男
9. キリスト教(新約聖書と教団)の生成：磔刑の忘却
10. 哲学とキリスト教神学(1)：神学って何?
11. 哲学とキリスト教神学(2)：信じること/知ること
12. 哲学とキリスト教神学(3)：関係の逆転
13. 近代世界へ向かって：魔女狩り
14. 一枚の絵画作品：赤裸々なもの
15. 講義全体のまとめと授業アンケート

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/fq89fisnb363qqyfx9fqkbrh7rnelgv>)

大西 克智

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.哲学の始まりに関する基礎的な知識を理解し、それらを説明できる。
(DP1-1) (知識・理解)

2.哲学と倫理の関係を理解し、それを説明できる。 (DP2-1) (知識・理解)

3.哲学と宗教の関係を理解し、それらを説明できる。 (DP2-1) (知識・理解)

4.隔たった時代と土地の価値観を自分自身に関連づけて柔軟に考えることができる。 (DP2-2) (態度・志向性)

5.ひとつひとつの判断について理由を明示した、明晰な文章を書くことができる。 (DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

大西 克智

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：木・3時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

この授業では、西洋哲学が古代世界においてどのようにして始められ、その後、中世を通じてどのように展開されていったのか、原典テキスト(分かりやすい邦訳版)を読みながら、明らかにしてゆく。ただし、たんに遠い過去の事実を学び知るためではない。哲学の始まりとその後の展開のなかに、時代的にも地理的にも遠く離れた現代日本に生きる私たちにとってもきわめて重要な問題がいくつも含まれていることを知り、そうした問題を、出席者が自分自身の生活実感に照らして考えるためである。哲学と倫理学(道徳)と宗教が、「よく生きること」そして「自分自身を知ること」をめぐる連動することになるだろう。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業は、教員による講義を軸に進める。板書形式をとるが、教員が口頭で述べるにとどまった事項も含めてノートを作成する積極性が求められる。また、学期を通じて6回程度、授業内容を私たちの日常に引き寄せるための質問に答えるリアクショーパーを書いてもらう。提出されたものから数通を選び、次の授業で共有する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

哲学の始まりに関する基礎的な知識を理解し、それらを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

哲学と倫理の関係を理解し、それを説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

哲学と宗教の関係を理解し、それらを説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

隔たった時代と土地の価値観を自分自身に関連づけて柔軟に考えることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

ひとつひとつの判断について理由を明示した、明晰な文章を書くことができる。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：前回までのストーリーの流れを資料と自分のノートに照らして再確認する。また、moodleにアップされたその日の資料を事前に熟読する。(90分)

復習：板書漏れがないか記憶の鮮明なうちに振り返りつつ、授業内容を自分で追体験する。また、質問への答えを提出した回は、別の答えがありえないかどうか考え直してみる。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

・成績評価基準

(1) 計6回のリアクショーパー(到達目標4, 5に対する到達度により評価)

(2) 最終レポート(到達目標1, 2, 3, 4, 5に対する到達度により評価)

・成績評価方法

リアクション・ペーパー(30点：5点×6回)と、最終レポート(70点)の成績で評価する。

- - - テキスト - - -

教科書は使用しない。授業中に検討するテキストおよびその他の資料は各回ごと事前にmoodleにアップする。

- - - 参考書 - - -

大西克智『『エッセー』読解入門 モンテーニュと西洋の精神史』 ISBN 978-4065283615

- - - 履修上の留意点 - - -

(1) この授業は全体が一つのストーリーになっているため、理解のためには安定した出席が望まれる。また、リアクショーパーはその場で回収し、事後提出は認めないので、この点でも出席が重要になる。

(2) 授業で使用するテキストその他資料は紙媒体で配布するが、欠席した場合は、moodleにアップされたファイルを自分で印刷して持参すること。

(3) この授業は定期試験を行わない「開講期間内評価科目」であり、再試験の対象にはならないので、注意してもらいたい。

(4) 1回目のスタートアップ授業は遠隔で行う。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション：スタートアップ授業
2. すべての発端：ソクラテス裁判
3. ソクラテスの毒杯(1)：不気味な伝承
4. ソクラテスの毒杯(2)：「君自身のことを知りなさい」
5. 哲学の始まり：プラトンがソクラテスから継承したもの
6. 哲学と倫理学：「よく生きること」
7. 概念 というものについて
8. もう一つの発端：イエスという男
9. キリスト教(新約聖書と教団)の生成：磔刑の忘却
10. 哲学とキリスト教神学(1)：神学って何?
11. 哲学とキリスト教神学(2)：信じること/知ること
12. 哲学とキリスト教神学(3)：関係の逆転
13. 近代世界へ向かって：魔女狩り
14. 一枚の絵画作品：赤裸々なもの
15. 講義全体のまとめと授業アンケート

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/g77n8xsgrspb6808n7ur9i8gcx15et8e>)

大西 克智

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.哲学の始まりに関する基礎的な知識を理解し、それらを説明できる。
(DP1-1) (知識・理解)

2.哲学と倫理の関係を理解し、それを説明できる。 (DP2-1) (知識・理解)

3.哲学と宗教の関係を理解し、それらを説明できる。 (DP2-1) (知識・理解)

4.隔たった時代と土地の価値観を自分自身に関連づけて柔軟に考えることができる。 (DP2-2) (態度・志向性)

5.ひとつひとつの判断について理由を明示した、明晰な文章を書くことができる。 (DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

竹花 洋佑

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：水・2時限 試験時間割：定期試験なし

概要

哲学の入門書として定評のある、スティーブン・ロウ『考える力をつける 哲学問題集』を教科書に、意識、他人の心、道徳、自由、芸術、時間などといった、哲学および倫理学の現代的な基礎問題について学んでいきます。

議論の内容や結論を単に知識として学ぶというのではなく、どのようにしてそこにたどり着いたかの思考のプロセスをたどってみるという哲学的思索の疑似体験を通じて、皆さん自身に思考の技能を身につけてもらうことが授業の第一の目標です。

授業はグループワークを中心に進めます。3人から4人のまとまりを1グループとし、グループの中で与えられたテーマについて議論してもらいます。また、議論の内容を授業全体で紹介してもらい、グループ間でも議論してもらいます。

自らの頭で考え、自らの言葉で表現することを中心とする授業ですので、哲学についての予備知識は一切不要です。ただ、それぞれのテーマについて、哲学の世界で現在どのような議論が行われているかを教員から紹介し、また受講者自身にも調べてもらいますので、授業を通して、哲学の基礎知識を身につけることもできます。

授業の進行・方法

授業はゼミ形式で行われます。具体的には授業の流れは次のようになります。

- (1) 参加者全員が教科書の該当範囲を熟読し、その箇所についての内容に関する小テストを行った上で、質問・意見を記入する（授業前の準備としてmoodleにおいて実施する）。
- (2) 担当が前回の議論についてのまとめを発表する。参加者から発表内容について質問・意見をもらい、教員が補足説明をする。
- (3) テキストを今回の該当箇所を個別に簡単に読んだ上で、グループ毎に分かれて、内容を板書を用いて発表する。
- (4) その上で、当該箇所で主題となっている哲学的問いについてグループ毎に議論する。
- (5) 議論の内容をグループ毎に紹介し、それをめぐりグループ間でさらに議論をする。
- (6) 必要があれば、議論について教員が補足説明をする。

担当者には授業における議論の内容と、授業で取り上げたテーマに関する文献の内容とを、次の授業で発表してもらいます（授業全体を通して1人1回行ってもらいます）。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

哲学の主要な現代的トピックスについて基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

哲学の主要な現代的トピックスについてどのような議論が立場があるのかについて基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

グループワークなどの発言の機会において、自分の見解を責任をもって表現することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

哲学の諸問題について、粘り強く主体的に考えることができる。(DP3-2)(技能)

哲学の諸問題を考察する際に用いられている思考方法やアプローチを、他の問題にも適用することができる。(DP4-1)(知識・理解)

司会者や書記などを担当して、グループでの議論の活性化に貢献できる。(DP4-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

教科書の該当箇所をまず熟読する(予習)。(45分)

moodleで該当箇所の内容に関する小テストを受ける(予習)。(30分)

moodleで該当箇所の内容に意見・質問を記入する(予習)。(15分)

授業で紹介された文献を読み、扱ったテーマに関する議論の構図をまとめる。(90分)

成績評価基準および方法

(1) moodleで実施する内容理解に関する小テストの点数(2割)、(2) 授業内容およびそれに関する文献内容の報告(2割)、(3) 授業での積極性(2割)、(4) レポート(4割)、によって評価します。

(2) については、調査した文献の理解の精度および発表の的確さ、(3) については、発言の回数や内容、グループワークにおける積極性や協調性、問題発見能力、課題分析力、プレゼンテーション能力等を評価します。(4) のレポートの評価については、授業内容を正確に理解しているかどうかと、レポートの論述の完成度および着眼点の独創性を基準とします。

定期試験期間中に筆記試験は実施しません。よって再試験も実施しません

テキスト

スティーブン・ロウ『考える力をつける 哲学問題集』中山元訳、ちくま学芸文庫、2013年、ISBN: 4480095667

参考書

参考文献について授業内で、配布および紹介します。

履修上の留意点

哲学の予備知識は一切不要ですが、テキストを粘り強く読み解く姿勢と、自分の頭で考え、かつ他者の意見をよく聞く姿勢が求められます。

授業計画

1. イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）
2. 問題をめぐるディスカッション
3. 問題をめぐるディスカッション
4. 問題をめぐるディスカッション
5. 問題をめぐるディスカッション
6. 問題をめぐるディスカッション
7. 問題をめぐるディスカッション
8. 問題をめぐるディスカッション
9. 問題をめぐるディスカッション
10. 問題をめぐるディスカッション
11. 問題をめぐるディスカッション
12. 問題をめぐるディスカッション
13. 問題をめぐるディスカッション
14. 問題をめぐるディスカッション
15. まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/snw5mm60alac14mfs2jhofzfx57c6uxj>)

竹花 洋佑

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。
(DP1-1) (知識・理解)
- 2.哲学の主要な現代的トピックスについて基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。 (DP2-1) (知識・理解)
- 3.哲学の主要な現代的トピックスについてどのような議論が立場があるのかについて基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。 (DP2-2) (知識・理解)
- 4.グループワークなどの発言の機会において、自分の見解を責任をもって表現することができる。 (DP3-1) (態度・志向性)
- 5.哲学の諸問題について、粘り強く主体的に考えることができる。 (DP3-2) (技能)
- 6.哲学の諸問題を考察する際に用いられている思考方法やアプローチを、他の問題にも適用することができる。 (DP4-1) (知識・理解)
- 7.司会者や書記などを担当して、グループでの議論の活性化に貢献できる。
(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

竹花 洋佑

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・1 時間 試験時間割：2025/01/22 1 時間

--- 概要 ---

この講義は、哲学という学問にこれまでまったく触れたことのない方を対象としています。哲学の基本問題を学ぶことを通して、哲学についての基本的な知識と哲学的な思考法とを理解してもらいます。そのことを前提として、自ら哲学的に考える主体的な能力の基礎を養ってもらうことが本講義の最終的な目的となります。

本講義の内容は、大きく言って、基礎的・一般的な部分と応用的な部分の二つ部分から構成されます。「応用的」というのは難解ということではありません。私自身の関心や考えがやや前面に出ている部分ということの意味します。哲学的思考法がどのようなものを理解してもらうためには、私自身が哲学的な問題に対してどのように考えるかを示すしかありませんので、そのようなかたちを取ります。とはいっても、多くの文献で紹介されている内容や学説は同時にしっかりと解説しますので、哲学についての一般的な知識を身につけてもらうこともできます。

この講義の大きなテーマは二つあります。すなわち、私とは何か、そして私が生きること死ぬこととはいかなることか、です。前者の問いに関しては、私という問題が西洋哲学において歴史的にどのように議論され、かつ現在どのようにされているかを理解した上で（基礎的部分）、東洋思想および近代日本哲学の視点からこの問題に迫ります（応用的部分）。後者の問いに関しては、幸福、人生の意味、そして生と死という問題に対する哲学的議論の基本的な構図をおさえた上で（基礎的部分）、幸福と人生の意味という問題については時間論的な視点から、死と誕生という問題については死者および未出現という視点から明らかにします（応用的部分）。

授業は講義形式で行われます。毎回授業終了後にmoodleを用いて皆さんに授業内容について質問・意見を記入してもらいます。次の授業の冒頭で、みなさんから寄せられた質問・意見にお答えするようにします。

--- 授業の進行・方法 ---

講義形式の授業となります。毎回プリントを配布し、そこに板書内容を書きこんでもらいます。また、毎回、簡単な小テストと授業内容に関する質問・意見の記入を行います（moodleを使用します）。質問・意見については次の授業の冒頭で紹介し、教員からコメントをするようにします。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。
(DP1-1)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について哲学史の視点から理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

講義で取り上げた様々な哲学の立場がなぜそのように主張されているのかを理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について様々な議論がなされているということをも角的に理解し、それらを説明することができる。(DP3-1)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について、自分の見解とその根拠を表明することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業内容を再度見直し、取り上げられた問題について意見・質問をmoodleに記入する。(30分)

授業の中で紹介された文献を読み、問題についての理解を深めておく。(150分)

--- 成績評価基準および方法 ---

授業終了後に授業内容についての質問や意見をmoodleに記入してもらいます。この記入をもって授業に出席したとみなします。

成績は定期試験の得点に基づいて評価します。試験問題は、哲学者の議論の内容、哲学的諸概念の知識とその内容、授業で取り上げた哲学的諸問題に対する論理的分析力の度合い、を問うものになります。

--- テキスト ---

特に使用しない。

--- 参考書 ---

授業中に適宜指示する。

--- 履修上の留意点 ---

・基本的なところから丁寧に説明していきますので、哲学に関する前提的知識は一切要りません。

・ただし、各回の授業は内容的につながっていますので、欠席が多くなったり、復習が不十分だったりすると、途端についていけなくなりますので、注意して下さい。

・期末試験の問題もかなりのボリュームがありますので、付け焼き刃の勉強では歯が立たないと思います。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）

2. 哲学とは何か

【第1部】私を哲学的に考えてみる

3. 私とはそもそも何か？（1）

4. 私とはそもそも何か？（2）

5. 他者との関わりの中での私

6. 私は存在しない!?(1)

7. 私は存在しない!?(2)

8. かけがえのない私

【第2部】生と死

9. 幸福と人生の意味（1）

10. 幸福と人生の意味（2）

11. 幸福と人生の意味（3）

12. 死と死者の哲学（1）

13. 死と死者の哲学（2）

14. 死と死者の哲学（3）

15. 誕生という問題、授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/qbj7ib0knp90q2ncrh1jpw8kfvtru2k>)

竹花 洋佑

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。
(DP1-1) (知識・理解)
2. 講義で取り上げた哲学の諸問題について哲学史の視点から理解し、それらを説明することができる。 (DP2-1) (知識・理解)
3. 講義で取り上げた様々な哲学の立場がなぜそのように主張されているのかを理解することができる。 (DP2-2) (知識・理解)
4. 講義で取り上げた哲学の諸問題について様々な議論がなされているということが多角的に理解し、それらを説明することができる。 (DP3-1) (知識・理解)
5. 講義で取り上げた哲学の諸問題について、自分の見解とその根拠を表明することができる。 (DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

竹花 洋佑

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・4 時限 試験時間割：2025/01/22 1 時限

--- 概要 ---

この講義は、哲学という学問にこれまでまったく触れたことのない方を対象としています。哲学の基本問題を学ぶことを通して、哲学についての基本的な知識と哲学的な思考法とを理解してもらいます。そのことを前提として、自ら哲学的に考える主体的な能力の基礎を養ってもらうことが本講義の最終的な目的となります。

本講義の内容は、大きく言って、基礎的・一般的な部分と応用的な部分の二つ部分から構成されます。「応用的」というのは難解ということではありません。私自身の関心や考えがやや前面に出ている部分ということの意味します。哲学的思考法がどのようなものを理解してもらうためには、私自身が哲学的な問題に対してどのように考えるかを示すしかありませんので、そのようなかたちを取ります。とはいっても、多くの文献で紹介されている内容や学説は同時にしっかりと解説しますので、哲学についての一般的な知識を身につけてもらうこともできます。

この講義の大きなテーマは二つあります。すなわち、私とは何か、そして私が生きること死ぬこととはいかなることか、です。前者の問いに関しては、私という問題が西洋哲学において歴史的にどのように議論され、かつ現在どのようにされているかを理解した上で（基礎的部分）、東洋思想および近代日本哲学の視点からこの問題に迫ります（応用的部分）。後者の問いに関しては、幸福、人生の意味、そして生と死という問題に対する哲学的議論の基本的な構図をおさえた上で（基礎的部分）、幸福と人生の意味という問題については時間論的な視点から、死と誕生という問題については死者および未出現という視点から明らかにします（応用的部分）。

授業は講義形式で行われます。毎回授業終了後にmoodleを用いて皆さんに授業内容について質問・意見を記入してもらいます。次の授業の冒頭で、みなさんから寄せられた質問・意見にお答えするようにします。

--- 授業の進行・方法 ---

講義形式の授業となります。毎回プリントを配布し、そこに板書内容を書きこんでもらいます。また、毎回、簡単な小テストと授業内容に関する質問・意見の記入を行います（moodleを使用します）。質問・意見については次の授業の冒頭で紹介し、教員からコメントをするようにします。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。
(DP1-1)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について哲学史の視点から理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

講義で取り上げた様々な哲学の立場がなぜそのように主張されているのかを理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について様々な議論がなされているということをも角的に理解し、それらを説明することができる。(DP3-1)(知識・理解)

講義で取り上げた哲学の諸問題について、自分の見解とその根拠を表明することができる。(DP4-2)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業内容を再度見直し、取り上げられた問題について意見・質問をmoodleに記入する。(30分)

授業の中で紹介された文献を読み、問題についての理解を深めておく。(150分)

--- 成績評価基準および方法 ---

授業終了後に授業内容についての質問や意見をmoodleに記入してもらいます。この記入をもって授業に出席したとみなします。

成績は定期試験の得点に基づいて評価します。試験問題は、哲学者の議論の内容、哲学的諸概念の知識とその内容、授業で取り上げた哲学的諸問題に対する論理的な分析力の度合い、を問うものになります。

--- テキスト ---

特に使用しない。

--- 参考書 ---

授業中に適宜指示する。

--- 履修上の留意点 ---

・基本的なところから丁寧に説明していきますので、哲学に関する前提的知識は一切要りません。

・ただし、各回の授業は内容的につながっていますので、欠席が多くなったり、復習が不十分だったりすると、途端についていけなくなりますので、注意して下さい。

・期末試験の問題もかなりのボリュームがありますので、付け焼き刃の勉強では歯が立たないと思います。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）

2. 哲学とは何か

【第1部】私を哲学的に考えてみる

3. 私とはそもそも何か？（1）

4. 私とはそもそも何か？（2）

5. 他者との関わりの中での私

6. 私には存在しない!?（1）

7. 私には存在しない!?（2）

8. かけがえのない私

【第2部】生と死

9. 幸福と人生の意味（1）

10. 幸福と人生の意味（2）

11. 幸福と人生の意味（3）

12. 死と死者の哲学（1）

13. 死と死者の哲学（2）

14. 死と死者の哲学（3）

15. 誕生という問題、授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/273biy9j3pr4u7el0t2mb3jm9jynvc60>)

竹花 洋佑

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。
(DP1-1) (知識・理解)
2. 講義で取り上げた哲学の諸問題について哲学史の視点から理解し、それらを説明することができる。 (DP2-1) (知識・理解)
3. 講義で取り上げた様々な哲学の立場がなぜそのように主張されているのかを理解することができる。 (DP2-2) (知識・理解)
4. 講義で取り上げた哲学の諸問題について様々な議論がなされているということが多角的に理解し、それらを説明することができる。 (DP3-1) (知識・理解)
5. 講義で取り上げた哲学の諸問題について、自分の見解とその根拠を表明することができる。 (DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

飯泉 佑介

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：水・4時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

概要

本講義は、西洋の形而上学における根本問題を考えることによって、哲学ならではの主題や思考に親しみ、世界や自己についての理解を深めることを目的とする。哲学の中でも形而上学という分野は、「存在するとはどのようなことか」「なぜ世界は存在するのか」といった究極の問題を探究してきた。こうした問題は、日常生活で普段、意識するものではない。それでも、確かに私たちにわかりがある（私たちは「存在」しているし、「世界」の中で生きている！）。それゆえ、こうした根本的な事柄をあえて考えることで、今まで当たり前だと思っていた世界の見え方や価値観は揺さぶられることになる。その意味で、この授業は哲学入門である。

形而上学は現代でも研究されているが、この講義では、過去の哲学者たちが残した思想を学ぶことを通じて、形而上学の問題を考えていきたい。そうした思想は、文化や宗教、科学、芸術などと複雑に絡まり合っており、私たちの世界観や価値観を形作ってきたからである。ただし、歴史的な知見は、単に覚えるためのものではなく、自分で考え、ともに考えるための手がかりである。大事なことは、歴史に学びながら根本を考えようとする姿勢である。

哲学A・B「西洋形而上学からの哲学入門」では、西洋形而上学の伝統的な主題である「存在」「世界」「人間（心）」「神」に沿って授業を展開する。哲学Bでは「人間」と「神」に焦点を当て、「心と身体」「自由と運命」などのトピックを扱う。

授業の進行・方法

- ・教員が作成したパワーポイント教材を用いて講義を行う。教科書は使わないため、各自ノートを取って受講すること。
- ・教材はFUポータルを通じて配信する。プリントアウトされたものが必要な人は予め申し出ること。
- ・毎回、授業後にオンライン・フォーム上でリアクションペーパーを書いて提出してもらう。可能なかぎり、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。
- ・授業の冒頭で前回の内容のふり返りを行い、必要に応じて補足を行う。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる(DP1-2)(態度・志向性)

科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる(DP2-1)(知識・理解)

根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる(DP2-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

事前に予告されたトピックについて自分なりに調べて、要点や疑問点を明確にしておく(予習)(50分)

事前に「問い」が与えられているときは、自分なりの「答え」を用意しておく(予習)(40分)

ノートを見返して授業をふり返りながら、自分なりに学んだ内容を再構成する(復習)(50分)

リアクションペーパーに自分の考えや疑問を書いて提出する(復習)(40分)

成績評価基準および方法

成績評価基準

- ・哲学の概念や理論についての正確な理解をもつこと
- ・困難な問題に対して粘り強く考える姿勢と思考力をもつこと
- ・他者の考えを聞き、自らの考えを表現する際の多角的で柔軟な視点をもつこと

成績評価方法

- ・リアクションペーパー(40%)
- ・定期試験(60%)

テキスト

特に使用しない。必要に応じて、授業中にコピーを配布する。

参考書

図説・標準 哲学史 ISBN 4403250939
 よくわかる哲学・思想（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ） ISBN 4623084108
 近代哲学の精神 西洋形而上学の六つの大テーマと中世の終わり ISBN 4588004867

一つ目の文献は、重要な哲学者の考え方を図解付きで解説しており、授業を理解する上で参考になるだろう。二つ目の文献は、さまざまな哲学のトピックを簡潔にまとめている。最後の文献はかなり難解だが、この授業の背景を知るには最適である。各回の参考文献は、授業の中で随時指示する。

履修上の留意点

- ・この授業では、前提知識がなくても学べるように、画像や映像などを用いてわかりやすい説明を心がける。ただし、履修者は、受け身ではなく、意欲と関心をもって主体的に学ぶことが求められる。欠席した場合には、参考文献を調べたり質問したりして自ら補うこと。
- ・毎回、授業後にリアクションペーパーを書いて提出してもらう。リアクションペーパーは、履修者の理解度と姿勢を評価する材料であるため、十分時間をかけて作成すること。欠席した場合は、事情に応じて後日の提出を認める。
- ・哲学A「西洋形而上学からの哲学入門」と合わせて受講することが望ましい。
- ・授業中の私語や他の学生への妨害となる行為は禁止する。
- ・授業計画は、履修者の理解度などに応じて変更になる可能性がある。

授業計画

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2.人間の存在
- 3.心の能力
- 4.心の能力
- 5.心と身体
- 6.心と身体
- 7.人間と世界
- 8.中間まとめ
- 9.哲学と神
- 10.世界の根拠
- 11.世界の根拠
- 12.自由と運命
- 13.自由と運命
- 14.世界の無根拠
- 15.まとめ・授業アンケート FURIKA の実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/mbupzxa6aam90h3ygggyze6rgpzixl51)

飯泉 佑介

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる（DP1-1）
（知識・理解）

2.根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる（DP1-2）（態度・志向性）

3.科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる（DP2-1）（知識・理解）

4.根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

飯泉 佑介

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・5時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

--- 概要 ---

本講義は、西洋の形而上学における根本問題を考えることによって、哲学ならではの主題や思考に親しみ、世界や自己についての理解を深めることを目的とする。哲学の中でも形而上学という分野は、「存在するとはどのようなことか」「なぜ世界は存在するのか」といった究極の問題を探究してきた。こうした問題は、日常生活で普段、意識するものではない。それでも、確かに私たちにわかりがある（私たちは「存在」しているし、「世界」の中で生きている！）。それゆえ、こうした根本的な事柄をあえて考えることで、今まで当たり前だと思っていた世界の見え方や価値観は揺さぶられることになる。その意味で、この授業は哲学入門である。

形而上学は現代でも研究されているが、この講義では、過去の哲学者たちが残した思想を学ぶことを通じて、形而上学の問題を考えていきたい。そうした思想は、文化や宗教、科学、芸術などと複雑に絡まり合っており、私たちの世界観や価値観を形作ってきたからである。ただし、歴史的な知見は、単に覚えるためのものではなく、自分で考え、ともに考えるための手がかりである。大事なことは、歴史に学びながら根本を考えようとする姿勢である。

哲学A・B「西洋形而上学からの哲学入門」では、西洋形而上学の伝統的な主題である「存在」「世界」「人間（心）」「神」に沿って授業を展開する。哲学Bでは「人間」と「神」に焦点を当て、「心と身体」「自由と運命」などのトピックを扱う。

--- 授業の進行・方法 ---

- ・教員が作成したパワーポイント教材を用いて講義を行う。教科書は使わないため、各自ノートを取って受講すること。
- ・教材はFUポータルを通じて配信する。プリントアウトされたものが必要な人は予め申し出ること。
- ・毎回、授業後にオンライン・フォーム上でリアクションペーパーを書いて提出してもらう。可能な限り、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。
- ・授業の冒頭で前回の内容のふり返りを行い、必要に応じて補足を行う。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる(DP1-2)(態度・志向性)

科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる(DP2-1)(知識・理解)

根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前に予告されたトピックについて自分なりに調べて、要点や疑問点を明確にしておく(予習)(50分)

事前に「問い」が与えられているときは、自分なりの「答え」を用意しておく(予習)(40分)

ノートを見返して授業をふり返りながら、自分なりに学んだ内容を再構成する(復習)(50分)

リアクションペーパーに自分の考えや疑問を書いて提出する(復習)(40分)

--- 成績評価基準および方法 ---

成績評価基準

- ・哲学の概念や理論についての正確な理解をもつこと
- ・困難な問題に対して粘り強く考える姿勢と思考力をもつこと
- ・他者の考えを聞き、自らの考えを表現する際の多角的で柔軟な視点をもつこと

成績評価方法

- ・リアクションペーパー(40%)
- ・定期試験(60%)

--- テキスト ---

特に使用しない。必要に応じて、授業中にコピーを配布する。

--- 参考書 ---

図説・標準 哲学史 ISBN 4403250939

よくわかる哲学・思想（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ） ISBN 4623084108

近代哲学の精神 西洋形而上学の六つの大テーマと中世の終わり ISBN 4588004867

一つ目の文献は、重要な哲学者の考え方を図解付きで解説しており、授業を理解する上で参考になるだろう。二つ目の文献は、さまざまな哲学のトピックを簡潔にまとめている。最後の文献はかなり難解だが、この授業の背景を知るには最適である。各回の参考文献は、授業の中で随時指示する。

--- 履修上の留意点 ---

・この授業では、前提知識がなくても学べるように、画像や映像などを用いてわかりやすい説明を心がける。ただし、履修者は、受け身ではなく、意欲と関心をもって主体的に学ぶことが求められる。欠席した場合には、参考文献を調べたり質問したりして自ら補うこと。

・毎回、授業後にリアクションペーパーを書いて提出してもらう。リアクションペーパーは、履修者の理解度と姿勢を評価する材料であるため、十分時間をかけて作成すること。欠席した場合は、事情に応じて後日の提出を認める。

・哲学A「西洋形而上学からの哲学入門」と合わせて受講することが望ましい。

・授業中の私語や他の学生への妨害となる行為は禁止する。

・授業計画は、履修者の理解度などに応じて変更になる可能性がある。

--- 授業計画 ---

- 1.イントロダクション（スタートアップ授業）
- 2.人間の存在
- 3.心の能力
- 4.心の能力
- 5.心と身体
- 6.心と身体
- 7.人間と世界
- 8.中間まとめ
- 9.哲学と神
- 10.世界の根拠
- 11.世界の根拠
- 12.自由と運命
- 13.自由と運命
- 14.世界の無根拠
- 15.まとめ・授業アンケート FURIKA の実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/mnu9q4lhjmk40cxf7x9qjhzn0kn8y11>)

飯泉 佑介

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる (DP1-1)
(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる (DP1-2) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

3.科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる (DP2-1) (知識・理解)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

4.根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる (DP2-2) (態度・志向性)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

飯泉 佑介

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：月・4時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

概要

本講義は、西洋の形而上学における根本問題を考えることによって、哲学ならではの主題や思考に親しみ、世界や自己についての理解を深めることを目的とする。哲学の中でも形而上学という分野は、「存在するとはどのようなことか」「なぜ世界は存在するのか」といった究極の問題を探究してきた。こうした問題は、日常生活で普段、意識するものではない。それでも、確かに私たちにわかりがある（私たちは「存在」しているし、「世界」の中で生きている！）。それゆえ、こうした根本的な事柄をあえて考えることで、今まで当たり前だと思っていた世界の見え方や価値観は揺さぶられることになる。その意味で、この授業は哲学入門である。

形而上学は現代でも研究されているが、この講義では、過去の哲学者たちが残した思想を学ぶことを通じて、形而上学の問題を考えていきたい。そうした思想は、文化や宗教、科学、芸術などと複雑に絡まり合っており、私たちの世界観や価値観を形作ってきたからである。ただし、歴史的な知見は、単に覚えるためのものではなく、自分で考え、ともに考えるための手がかりである。大事なことは、歴史に学びながら根本を考えようとする姿勢である。

哲学A・B「西洋形而上学からの哲学入門」では、西洋形而上学の伝統的な主題である「存在」「世界」「人間（心）」「神」に沿って授業を展開する。哲学Bでは「人間」と「神」に焦点を当て、「心と身体」「自由と運命」などのトピックを扱う。

授業の進行・方法

- ・教員が作成したパワーポイント教材を用いて講義を行う。教科書は使わないため、各自ノートを取って受講すること。
- ・教材はFUポータルを通じて配信する。プリントアウトされたものが必要な人は予め申し出ること。
- ・毎回、授業後にオンライン・フォーム上でリアクションペーパーを書いて提出してもらう。可能な限り、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。
- ・授業の冒頭で前回の内容のふり返りを行い、必要に応じて補足を行う。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる(DP1-2)(態度・志向性)

科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる(DP2-1)(知識・理解)

根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる(DP2-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

事前に予告されたトピックについて自分なりに調べて、要点や疑問点を明確にしておく(予習)(50分)

事前に「問い」が与えられているときは、自分なりの「答え」を用意しておく(予習)(40分)

ノートを見返して授業をふり返りながら、自分なりに学んだ内容を再構成する(復習)(50分)

リアクションペーパーに自分の考えや疑問を書いて提出する(復習)(40分)

成績評価基準および方法

成績評価基準

- ・哲学の概念や理論についての正確な理解をもつこと
- ・困難な問題に対して粘り強く考える姿勢と思考力をもつこと
- ・他者の考えを聞き、自らの考えを表現する際の多角的で柔軟な視点をもつこと

成績評価方法

- ・リアクションペーパー(40%)
- ・定期試験(60%)

テキスト

特に使用しない。必要に応じて、授業中にコピーを配布する。

参考書

図説・標準 哲学史 ISBN 4403250939
 よくわかる哲学・思想（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ） ISBN 4623084108
 近代哲学の精神 西洋形而上学の六つの大テーマと中世の終わり ISBN 4588004867

一つ目の文献は、重要な哲学者の考え方を図解付きで解説しており、授業を理解する上で参考になるだろう。二つ目の文献は、さまざまな哲学のトピックを簡潔にまとめている。最後の文献はかなり難解だが、この授業の背景を知るには最適である。各回の参考文献は、授業の中で随時指示する。

履修上の留意点

- ・この授業では、前提知識がなくても学べるように、画像や映像などを用いてわかりやすい説明を心がける。ただし、履修者は、受け身ではなく、意欲と関心をもって主体的に学ぶことが求められる。欠席した場合には、参考文献を調べたり質問したりして自ら補うこと。
- ・毎回、授業後にリアクションペーパーを書いて提出してもらう。リアクションペーパーは、履修者の理解度と姿勢を評価する材料であるため、十分時間をかけて作成すること。欠席した場合は、事情に応じて後日の提出を認める。
- ・哲学A「西洋形而上学からの哲学入門」と合わせて受講することが望ましい。
- ・授業中の私語や他の学生への妨害となる行為は禁止する。
- ・授業計画は、履修者の理解度などに応じて変更になる可能性がある。

授業計画

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2.人間の存在
- 3.心の能力
- 4.心の能力
- 5.心と身体
- 6.心と身体
- 7.人間と世界
- 8.中間まとめ
- 9.哲学と神
- 10.世界の根拠
- 11.世界の根拠
- 12.自由と運命
- 13.自由と運命
- 14.世界の無根拠
- 15.まとめ・授業アンケート FURIKA の実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/mmrkt7dtgda8z7o9qfevi9plgn9iqpuu)

飯泉 佑介

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる（DP1-1）
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる（DP1-2）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

3.科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる（DP2-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

4.根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる（DP2-2）（態度・志向性）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

飯泉 佑介

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・2時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

--- 概要 ---

本講義は、西洋の形而上学における根本問題を考えることによって、哲学ならではの主題や思考に親しみ、世界や自己についての理解を深めることを目的とする。哲学の中でも形而上学という分野は、「存在するとはどのようなことか」「なぜ世界は存在するのか」といった究極の問題を探究してきた。こうした問題は、日常生活で普段、意識するものではない。それでも、確かに私たちにわかりがある（私たちは「存在」しているし、「世界」の中で生きている！）。それゆえ、こうした根本的な事柄をあえて考えることで、今まで当たり前だと思っていた世界の見え方や価値観は揺さぶられることになる。その意味で、この授業は哲学入門である。

形而上学は現代でも研究されているが、この講義では、過去の哲学者たちが残した思想を学ぶことを通じて、形而上学の問題を考えていきたい。そうした思想は、文化や宗教、科学、芸術などと複雑に絡まり合っており、私たちの世界観や価値観を形作ってきたからである。ただし、歴史的な知見は、単に覚えるためのものではなく、自分で考え、ともに考えるための手がかりである。大事なことは、歴史に学びながら根本を考えようとする姿勢である。

哲学A・B「西洋形而上学からの哲学入門」では、西洋形而上学の伝統的な主題である「存在」「世界」「人間（心）」「神」に沿って授業を展開する。哲学Bでは「人間」と「神」に焦点を当て、「心と身体」「自由と運命」などのトピックを扱う。

--- 授業の進行・方法 ---

- ・教員が作成したパワーポイント教材を用いて講義を行う。教科書は使わないため、各自ノートを取って受講すること。
- ・教材はFUポータルを通じて配信する。プリントアウトされたものが必要な人は予め申し出ること。
- ・毎回、授業後にオンライン・フォーム上でリアクションペーパーを書いて提出してもらう。可能な限り、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。
- ・授業の冒頭で前回の内容のふり返りを行い、必要に応じて補足を行う。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる(DP1-2)(態度・志向性)

科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる(DP2-1)(知識・理解)

根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前に予告されたトピックについて自分なりに調べて、要点や疑問点を明確にしておく(予習)(50分)

事前に「問い」が与えられているときは、自分なりの「答え」を用意しておく(予習)(40分)

ノートを見返して授業をふり返りながら、自分なりに学んだ内容を再構成する(復習)(50分)

リアクションペーパーに自分の考えや疑問を書いて提出する(復習)(40分)

--- 成績評価基準および方法 ---

成績評価基準

- ・哲学の概念や理論についての正確な理解をもつこと
- ・困難な問題に対して粘り強く考える姿勢と思考力をもつこと
- ・他者の考えを聞き、自らの考えを表現する際の多角的で柔軟な視点をもつこと

成績評価方法

- ・リアクションペーパー(40%)
- ・定期試験(60%)

--- テキスト ---

特に使用しない。必要に応じて、授業中にコピーを配布する。

--- 参考書 ---

図説・標準 哲学史 ISBN 4403250939

よくわかる哲学・思想（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ） ISBN 4623084108

近代哲学の精神 西洋形而上学の六つの大テーマと中世の終わり ISBN 4588004867

一つ目の文献は、重要な哲学者の考え方を図解付きで解説しており、授業を理解する上で参考になるだろう。二つ目の文献は、さまざまな哲学のトピックを簡潔にまとめている。最後の文献はかなり難解だが、この授業の背景を知るには最適である。各回の参考文献は、授業の中で随時指示する。

--- 履修上の留意点 ---

・この授業では、前提知識がなくても学べるように、画像や映像などを用いてわかりやすい説明を心がける。ただし、履修者は、受け身ではなく、意欲と関心をもって主体的に学ぶことが求められる。欠席した場合には、参考文献を調べたり質問したりして自ら補うこと。

・毎回、授業後にリアクションペーパーを書いて提出してもらう。リアクションペーパーは、履修者の理解度と姿勢を評価する材料であるため、十分時間をかけて作成すること。欠席した場合は、事情に応じて後日の提出を認める。

・哲学A「西洋形而上学からの哲学入門」と合わせて受講することが望ましい。

・授業中の私語や他の学生への妨害となる行為は禁止する。

・授業計画は、履修者の理解度などに応じて変更になる可能性がある。

--- 授業計画 ---

- 1.イントロダクション（スタートアップ授業）
- 2.人間の存在
- 3.心の能力
- 4.心の能力
- 5.心と身体
- 6.心と身体
- 7.人間と世界
- 8.中間まとめ
- 9.哲学と神
- 10.世界の根拠
- 11.世界の根拠
- 12.自由と運命
- 13.自由と運命
- 14.世界の無根拠
- 15.まとめ・授業アンケート FURIKA の実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/vwjrlnv26m4zsgwx3s3mtty8p7vpqzep>)

飯泉 佑介

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋形而上学の基礎的な問題や概念、理論を理解することができる（DP1-1）
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.根本的な問題を粘り強く考え、物事を探究し続ける基本的な姿勢を身に付けることができる（DP1-2）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

3.科学や文化のルーツの一つである形而上学を学ぶことで、それぞれの専門分野に分かれる前に、広い視野と多角的な視点を培うことができる（DP2-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

4.根本的な問題であっても異なる考え方があることを学ぶことで、他者との対話や自己反省の必要性を理解することができる（DP2-2）（態度・志向性）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

大西 克智

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：木・2時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

この授業では、西洋哲学が近世・近代世界においてどのように展開されていったのかを、重要な思想家・哲学者の原典テキスト（分かりやすい邦訳版）を読みながら、明らかにしてゆく。ただし、たんに遠い過去の事実を学び知るためではない。現代の日本におけるものの考え方に直結している哲学的思索の営みのなかに、私たち自身にとっても切実な問題が含まれていることを知り、そうした問題を、出席者が自分自身の生活実感に照らして考えるためである。焦点は私たちの誰にも関係する「私」に合わせられることになるだろう。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業は、教員による講義を軸に進める。板書形式をとるが、教員が口頭で述べるにとどまった事項も含めてノートを作成する積極性が求められる。また、学期を通じて6回程度、授業内容を私たちの日常に引き寄せるための質問に答えるリアクシヨーパーを書いてもらう。その中から数通を選び、次の授業で共有する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

取り上げる思想家・哲学者たちそれぞれの見解を理解し、それらを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

取り上げる思想家・哲学者たちの見解の相互関係と推移を理解し、それらを説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

「私」というものの何が問題となるのかを理解し、それらを説明できる。(DP2-2)(態度・志向性)

隔たった時代と土地の価値観を自分自身に関連づけて柔軟に考えることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

ひとつひとつの判断について理由を明示した、明晰な文章を書くことができる。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：前回までのストーリーの流れを資料と自分のノートに照らして再確認する。また、moodleにアップされたその日の資料を事前に熟読する。(90分)

復習：板書漏れがないか記憶の鮮明なうちに振り返りつつ、授業内容を自分で追体験する。また、質問への答えを提出した回は、別の答えがありえないかどうか考え直してみる。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

・成績評価基準

(1) 計6回のリアクシヨーパー（到達目標4, 5に対する到達度により評価）

(2) 最終レポート（到達目標1, 2, 3, 4, 5に対する到達度により評価）

・成績評価方法

リアクシヨーパー（40点：5点×6回）と、最終レポート（70点）の成績で評価する。

- - - テキスト - - -

教科書は使用しない。授業中に検討するテキストおよびその他の資料は各回ごと事前にmoodleにアップする。

- - - 参考書 - - -

大西克智『『エッセ』読解入門 モンテーニュと西洋の精神史』 ISBN 978-4065283615

- - - 履修上の留意点 - - -

(1) この授業は全体が一つのストーリーになっているため、理解のためには安定した出席が望まれる。また、リアクシヨーパーはその場で回収し、事後提出は認めないので、この点でも出席が重要になる。

(2) この授業の内容は、哲学A（哲学の始まり：古代・中世を舞台に）の延長線上にあるが、哲学B単体で理解可能となるように講義するので、哲学Aの履修は条件ではない。

(3) 授業で使用するテキストその他の資料は紙媒体で配布するが、欠席した場合はmoodleにアップされたファイルを自分で印刷して持参すること。

(4) この授業は定期試験を行わない「開講期間内評価科目」であり、再試験の対象にはならないので、注意してもらいたい。

(5) 1回目のスタートアップ授業は遠隔で行う。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション：スタートアップ授業
2. なぜ「再開」なのか：古代・中世から近世・近代へ
3. モンテーニュの思想（1）：時代の例外者
4. モンテーニュの思想（2）：「私」をめぐる探求
5. モンテーニュの思想（3）：「アイデンティティ・クライシス」の先駆者
6. デカルトの哲学（1）：近世哲学の祖
7. デカルトの哲学（2）：懐疑とエゴ
8. デカルトの哲学（3）：神を存在させるということ
9. パスカルの思想（1）：「私とは憎むべきものである」
10. パスカルの思想（2）：「私」の存在に対する不安
11. ライブニッツの哲学（1）：モナドとエゴ
12. ライブニッツの哲学（2）：エゴロジー
13. ライブニッツの哲学（3）：拡散する「私」
14. 「私」のゆくえ：カントの診断
15. 講義全体のまとめと授業アンケート

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/zcrephgmaux5rlg8ygvmyinbea6vzanu>)

大西 克智

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 取り上げる思想家・哲学者たちそれぞれの見解を理解し、それらを説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

2. 取り上げる思想家・哲学者たちの見解の相互関係と推移を理解し、それらを説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

3. 「私」というものの何が問題となるのかを理解し、それらを説明できる。（DP2-2）（態度・志向性）

4. 隔たった時代と土地の価値観を自分自身に関連づけて柔軟に考えることができる。（DP2-2）（態度・志向性）

5. ひとつひとつの判断について理由を明示した、明晰な文章を書くことができる。（DP3-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

大西 克智

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：木・3時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

この授業では、西洋哲学が近世・近代世界においてどのように展開されていったのかを、重要な思想家・哲学者の原典テキスト（分かりやすい邦訳版）を読みながら、明らかにしてゆく。ただし、たんに遠い過去の事実を学び知るためではない。現代の日本におけるものの考え方に直結している哲学的思索の営みのなかに、私たち自身にとっても切実な問題が含まれていることを知り、そうした問題を、出席者が自分自身の生活実感に照らして考えるためである。焦点は私たちの誰にも関係する「私」に合わせられることになるだろう。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業は、教員による講義を軸に進める。板書形式をとるが、教員が口頭で述べるにとどまった事項も含めてノートを作成する積極性が求められる。また、学期を通じて6回程度、授業内容を私たちの日常に引き寄せるための質問に答えるリアクシヨーパーを書いてもらう。その中から数通を選び、次の授業で共有する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

取り上げる思想家・哲学者たちそれぞれの見解を理解し、それらを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

取り上げる思想家・哲学者たちの見解の相互関係と推移を理解し、それらを説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

「私」というものの何が問題となるのかを理解し、それらを説明できる。(DP2-2)(態度・志向性)

隔たった時代と土地の価値観を自分自身に関連づけて柔軟に考えることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

ひとつひとつの判断について理由を明示した、明晰な文章を書くことができる。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：前回までのストーリーの流れを資料と自分のノートに照らして再確認する。また、moodleにアップされたその日の資料を事前に熟読する。(90分)

復習：板書漏れがないか記憶の鮮明なうちに振り返りつつ、授業内容を自分で追体験する。また、質問への答えを提出した回は、別の答えがありえないかどうか考え直してみる。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

・成績評価基準

(1) 計6回のリアクシヨーパー（到達目標4, 5に対する到達度により評価）

(2) 最終レポート（到達目標1, 2, 3, 4, 5に対する到達度により評価）

・成績評価方法

リアクシヨーパー（40点：5点×6回）と、最終レポート（70点）の成績で評価する。

- - - テキスト - - -

教科書は使用しない。授業中に検討するテキストおよびその他の資料は各回ごと事前にmoodleにアップする。

- - - 参考書 - - -

大西克智『『エッセ』読解入門 モンテーニュと西洋の精神史』 ISBN 978-4065283615

- - - 履修上の留意点 - - -

(1) この授業は全体が一つのストーリーになっているため、理解のためには安定した出席が望まれる。また、リアクシヨーパーはその場で回収し、事後提出は認めないので、この点でも出席が重要になる。

(2) この授業の内容は、哲学A（哲学の始まり：古代・中世を舞台に）の延長線上にあるが、哲学B単体で理解可能となるように講義するので、哲学Aの履修は条件ではない。

(3) 授業で使用するテキストその他の資料は紙媒体で配布するが、欠席した場合はmoodleにアップされたファイルを自分で印刷して持参すること。

(4) この授業は定期試験を行わない「開講期間内評価科目」であり、再試験の対象にはならないので、注意してもらいたい。

(5) 1回目のスタートアップ授業は遠隔で行う。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション：スタートアップ授業
2. なぜ「再開」なのか：古代・中世から近世・近代へ
3. モンテーニュの思想（1）：時代の例外者
4. モンテーニュの思想（2）：「私」をめぐる探求
5. モンテーニュの思想（3）：「アイデンティティ・クライシス」の先駆者
6. デカルトの哲学（1）：近世哲学の祖
7. デカルトの哲学（2）：懐疑とエゴ
8. デカルトの哲学（3）：神を存在させるということ
9. パスカルの思想（1）：「私とは憎むべきものである」
10. パスカルの思想（2）：「私」の存在に対する不安
11. ライブニッツの哲学（1）：モナドとエゴ
12. ライブニッツの哲学（2）：エゴロジー
13. ライブニッツの哲学（3）：拡散する「私」
14. 「私」のゆくえ：カントの診断
15. 講義全体のまとめと授業アンケート

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/fgdh04boogtq9r331d70y2rq7dpaqx32>)

大西 克智

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 取り上げる思想家・哲学者たちそれぞれの見解を理解し、それらを説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

2. 取り上げる思想家・哲学者たちの見解の相互関係と推移を理解し、それらを説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

3. 「私」というものの何が問題となるのかを理解し、それらを説明できる。（DP2-2）（態度・志向性）

4. 隔たった時代と土地の価値観を自分自身に関連づけて柔軟に考えることができる。（DP2-2）（態度・志向性）

5. ひとつひとつの判断について理由を明示した、明晰な文章を書くことができる。（DP3-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

竹花 洋佑

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

概要

政治哲学の入門書として定評のある、デイヴィット・ミラー『はじめての政治哲学』（原題: Political Philosophy: A Very Short Introduction）を教科書に、政治的権威、民主主義、自由、正義、多文化主義、国家、グローバリズムなどといった、政治哲学の基本問題について学んでいきます。

議論の内容や結論を単に知識として学ぶというのではなく、どのようにしてそこにたどり着いたかの思考のプロセスをたどってみるという哲学的思索の疑似体験を通じて、皆さん自身に思考の技能を身につけてもらうことが授業の第一の目標です。

授業はグループワークを中心に進行します。3人から4人のまとまりを1グループとし、グループの中で与えられたテーマについて議論してもらいます。また、議論の内容を授業全体で紹介してもらい、グループ間でも議論をしてもらいます。

自らの頭で考え、自らの言葉で表現することを中心とする授業です。哲学についての予備知識は一切不要です。ただ、それぞれのテーマについて、政治哲学の世界で現在どのような議論が行われているかを教員から紹介し、また受講者自身にも調べてもらいますので、授業を通して、政治哲学の基礎知識を身につけることもできます。

授業の進行・方法

授業はゼミ形式で行われます。具体的には授業の流れは次のようになります。

- 参加者全員が教科書の該当範囲を熟読し、その箇所についての内容に関する小テストを行った上で、質問・意見を記入する（授業前の準備としてmoodleにおいて実施する）。
- 担当者が前回の議論についてのまとめを発表する。参加者から発表内容について質問・意見をもらい、教員が補足説明をする。
- テキストを今回の該当箇所を個別に簡単に読んだ上で、グループ毎に分かれて、内容を板書を用いて発表する。
- その上で、当該箇所が主題となっている哲学的問いについてグループ毎に議論する。
- 議論の内容をグループ毎に紹介し、それをめぐりグループ間でさらに議論をする。
- 必要があれば、議論について教員が補足説明をする。

担当者には授業における議論の内容と、授業で取り上げたテーマに関する文献の内容とを、次の授業で発表してもらいます（授業全体を通して1人1回行ってもらいます）。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

政治哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

政治哲学の主要な現代のトピックスについて基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

政治哲学の主要な現代のトピックスについてどのような議論が立場があるのかについて基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

グループワークなどの発言の機会において、自分の見解を責任をもって表現することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

政治哲学の諸問題について、粘り強く主体的に考えることができる。(DP3-2)(技能)

政治哲学の諸問題を考察する際に用いられている思考方法やアプローチを、他の問題にも適用することができる。(DP4-1)(知識・理解)

司会者や書記などを担当して、グループでの議論の活性化に貢献できる。(DP4-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

教科書の該当箇所をまず熟読する（予習）。(45分)

moodleで該当箇所の内容に関する小テストを受ける（予習）。(30分)

moodleで該当箇所の内容に意見・質問を記入する（予習）。(15分)

授業で紹介された文献を読み、扱ったテーマに関する議論の構図をまとめる。(90分)

成績評価基準および方法

(1) moodleで実施する内容理解に関する小テストの点数(2割)、(2) 授業内容およびそれに関する文献内容の報告(2割)、(3) 授業での積極性(2割)、(4) レポート(4割)、によって評価します。

(2) については、調査した文献の理解の精度および発表の的確さ、(3) については、発言の回数や内容、グループワークにおける積極性や協調性、問題発見能力、課題分析力、プレゼンテーション能力等を評価します。(4) のレポートの評価については、授業内容を正確に理解しているかどうかと、レポートの論述の完成度および着眼点の独創性を基準とします。

定期試験期間中に筆記試験は実施しません。よって再試験も実施しません

テキスト

デイヴィット・ミラー『はじめての政治哲学』山岡龍一・森達也訳、岩波現代文庫、2019年、ISBN: 4006004036

参考書

参考文献について授業内で、配布および紹介します。

履修上の留意点

哲学の予備知識は一切不要ですが、テキストを粘り強く読み解く姿勢と、自分の頭で考え、かつ他者の意見をよく聞く姿勢が求められます。

授業計画

- イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- 問題をめぐるディスカッション
- まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ubihmwsgjsjgdjz2od02zwuz9jcrry2i>)

竹花 洋佑

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.政治哲学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。
(DP1-1) (知識・理解)

2.政治哲学の主要な現代的トピックスについて基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。 (DP2-1) (知識・理解)

3.政治哲学の主要な現代的トピックスについてどのような議論が立場があるのかについて基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。 (DP2-2) (知識・理解)

4.グループワークなどの発言の機会において、自分の見解を責任をもって表現することができる。 (DP3-1) (態度・志向性)

5.政治哲学の諸問題について、粘り強く主体的に考えることができる。
(DP3-2) (技能)

6.政治哲学の諸問題を考察する際に用いられている思考方法やアプローチを、他の問題にも適用することができる。 (DP4-1) (知識・理解)

7.司会者や書記などを担当して、グループでの議論の活性化に貢献できる。
(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

森 丈夫

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：水・5時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

本授業は講義形式で行います。本授業では、世界史に関する概説を講義する。大学の講義で世界史が扱われる場合、西洋や東洋（あるいはその一部）など特定の地域が取り上げられることが多い。それに対して、本授業は、古代から現代までの世界全体を歴史を扱うことを特徴としている。むろん、対象がこれだけ広い範囲にまたがるために、個々の歴史的事実を逐一説明することは困難である。そのため本授業では、「古代」「中世」「近世」「近代」など大まかな時代区分を採用し、各時代において、世界の各地にどのような歴史的世界が生成したのかについて論じていく。例えば「古代世界」の場合、ギリシア、ローマで起こった個別の出来事ではなく、どのような大きな世界の中において文明が生成していったかを考える。加えて、広い範囲を取り扱うことから、諸地域の間にもどのようなつながりがあったのかについても論じていく。Aでは、古代から中世までの段階を扱う。

本授業では、このような講義を通じて、受講生が世界史の全体像を把握し、自ら説明できるようになることを目標とする。そのため、予習による事前学習のほか、講義の後半に授業内容から問いを考えるなどの実践を行う。

初回は動画配信によるスタートアップ授業となる。残りの14回も動画配信の講義とする。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業はオンデマンドで行います。毎週、動画を配信しますので、視聴すること。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

世界史に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。(DP1-1)(知識・理解)

各学問が生まれた時代背景について基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。(DP2-1)(知識・理解)

他者や異文化に関する歴史的背景について、それらを説明できるようにする。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

各授業の前に前回の授業のビデオを復習しておくこと。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：成績は、世界史に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できているかなど到達目標の理解度によって評価する。

評価方法：レポート(2回)100点で評価する。定期試験を実施しない科目のため、再試験も実施しません。

- - - テキスト - - -

特になし。

- - - 授業計画 - - -

- 1 スタートアップ授業(動画配信)(森)
：半期の授業のイントロダクション
 - 2 古代文明と古代帝国の時代(森)
 - 3 アジアの地勢と環境(山根)
 - 4 ギリシア・ローマ世界の誕生と発展(森)
 - 5 アジアの枢軸時代(山根)
 - 6 ギリシア・ローマ世界の誕生と発展(森)
 - 7 農耕の帝国と遊牧の帝国(山根)
 - 8 ヨーロッパ中世世界の展開(森)
 - 9 中華と仏教(山根)
 - 10 イスラーム世界の展開(森)
 - 11 隋唐世界帝国(山根)
 - 12 イスラーム世界の展開(森)
 - 13 マルチステイツシステムの時代(山根)
 - 14 絶対王政と宗教改革(森)
 - 15 アジア的「近世」の誕生(山根)
- 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/0bnbn8053ztn8ir2zcog6bprrw6nsshy>

森 丈夫

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.世界史に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。
(DP1-1) (知識・理解)

2.各学問が生まれた時代背景について基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。 (DP2-1) (知識・理解)

3.他者や異文化に関する歴史的背景について、それらを説明できるようにする。 (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

森 丈夫

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：水・5時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

本授業は講義形式で行います。本授業では、世界史に関する概説を講義する。大学の講義で世界史が扱われる場合、西洋や東洋（あるいはその一部）など特定の地域が取り上げられることが多い。それに対して、本授業は、古代から現代までの世界全体を歴史を扱うことを特徴としている。むろん、対象がこれだけ広い範囲にまたがるために、個々の歴史的事実を逐一説明することは困難である。そのため本授業では、「古代」「中世」「近世」「近代」など大まかな時代区分を採用し、各時代において、世界の各地にどのような歴史的世界が生成したのかについて論じていく。例えば第2回で取り上げる「古代世界」の場合、ギリシア、ローマで起こった個別の出来事ではなく、どのような大きな世界の中において文明が生成していったかを考える。加えて、広い範囲を取り扱うことから、諸地域の間になどどのようなつながりがあったのかについても論じていく。

本授業では、このような講義を通じて、受講生が世界史の全体像を把握し、自ら説明できるようになることを目標とする。そのため、予習による事前学習のほか、講義の後半に授業内容から問いを考えるなどの実践を行う。

初回は動画配信によるスタートアップ授業とし、残りの14回も動画配信の講義とする。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業はオンデマンドで行います。毎週、動画を配信しますので、視聴すること。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

世界史に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。(DP1-1)(知識・理解)

各学問が生まれた時代背景について基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。(DP2-1)(知識・理解)

他者や異文化に関する歴史的背景について、それらを説明できるようにする。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

各授業の前に前回の授業のビデオを復習しておくこと。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：成績は、世界史に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できているかなど到達目標の理解度によって評価する。

評価方法：レポート(2回)100点で評価する。定期試験を実施しない科目のため、再試験も実施しません。

- - - テキスト - - -

特になし。

- - - 授業計画 - - -

- 1 スタートアップ授業(動画配信)(森)：半期の授業のイントロダクション
 - 2 大航海とグローバル世界の形成(森)
 - 3 パクス・モンゴリカ(山根)
 - 4 大航海とグローバル世界の形成(森)
 - 5 ポスト・モンゴル(山根)
 - 6 アメリカとフランスの革命(森)
 - 7 「近世」の社会構造(山根)
 - 8 近代国民国家の形成と展開(森)
 - 9 「近世」の社会構造(山根)
 - 10 帝国主義と第一次世界大戦(森)
 - 11 「ウエスタン・インパクト」とアジア(山根)
 - 12 戦間期の世界と第二次世界大戦(森)
 - 13 第二次世界大戦とアジア(山根)
 - 14 現代社会の形成(森)
 - 15 世界史を学ぶこと(山根)
- 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/wkmjvpa50h5is2bd685k2ffutphz749n>

森 丈夫

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.世界史に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。
(DP1-1) (知識・理解)

2.各学問が生まれた時代背景について基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。 (DP2-1) (知識・理解)

3.他者や異文化に関する歴史的背景について、それらを説明できるようにする。 (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

小笠原 史樹

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：月・1 時限 試験時間割：2024/07/30 4 時限

- - - 概要 - - -

【生の教説】

様々な宗教思想は、「どのように生きるべきか」という素朴な問いへの多様な解答例、解答集でもあり得る。諸宗教の聖典や宗教的な古典において、神の命令として、あるいは仏の教えとして、あるいは聖者・賢者の知恵として、然るべき生き方が示される。それらの生き方をそのまま自分の生き方として採用するかどうかはともかく、諸宗教における伝統的な「生の教説」に触れることは、宗教について勉強し始める出発点として有効であるのみならず、生に関する自分の考え方、自分の価値観を相対化し、問い直す契機ともなるだろう。

以上の見通しに基づき、この授業では諸宗教の聖典や宗教的な古典を研究対象とし、それらの聖典・古典に見られる「生の教説」について、思想的・哲学的に検討する。そのような検討の過程で、諸宗教の思想に関する基礎知識を獲得し、また、聖典や古典を読解する能力を身につけること、さらに、自分の考え方を相対化する能力を身につけることを目指す。

授業は、講義形式で行う。

前期は、聖書や『クルアーン』、西ヨーロッパの古典などを扱う。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、授業資料と板書による講義形式で行う。授業資料は事前にFU_boxで、主にPDFファイルで公開する。

毎回、授業の冒頭で前回の復習を行い、授業の最後に、当日の授業内容に関する小テストを課す。授業に関する質問などは、小テストの「質問・コメント欄」で受け付け、次回の授業資料に担当教員からの応答を掲載する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1)(技能)

異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、事前に授業資料を通読し、ポイントや疑問点などをまとめておく。(90分)

復習として、改めて授業資料を読み直し、小テストの問題を中心に授業内容を再検討する。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

毎回の授業時間中に実施される小テスト(計14回、40%)と定期試験(60%)に基づき、評価する。

小テストに関しては、各回の授業内容を理解し、正確に説明できるかどうかを、主な評価基準とする。フィードバックとして、次回の授業資料に、担当教員作成の模範解答を掲載する。

定期試験に関しては、諸宗教の思想に関する基礎知識、聖典や古典の読解能力、自分の考え方を相対化する能力、という三つを身につけているか否かを、主な評価基準とする。

- - - テキスト - - -

テキストは使用しない。

毎回の授業前にFU_boxで、主にPDFファイルで授業資料を公開する。

- - - 参考書 - - -

適宜、授業中に指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

予備知識は前提しないが、授業への十分な意欲は必要とされる。

授業中の私語や無断退室は決して許されない。厳格な受講態度が求められる。

- - - 授業計画 - - -

01. ガイダンス(スタートアップ授業)

02. 序論

03. 旧約聖書

04. 旧約聖書

05. 古代ギリシア

06. 古代ローマ

07. 福音書

08. 福音書

09. パウロ書簡

10. 『クルアーン』

11. 『クルアーン』

12. 近世キリスト教

13. 無神論

14. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

15. 補論

授業の進捗状況などに応じて、上記の計画が変更・修正される場合もある。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/jsw3roqw81b2ut224ey8kcteeq0b2566>)

小笠原 史樹

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

2. 諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1) (技能)

3. 異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

大坪 加奈子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：水・4 時限 試験時間割：2024/07/30 4 時限

- - - 概要 - - -

この授業は、東南アジア大陸部に位置するタイ・ミャンマー・ラオス・カンボジアなどの国々で信仰・実践されている仏教についての理解を深めることを目的としています。

今から約2500年前にインドで生まれた仏教は、それを受容した国々・地域で多様な変容を遂げています。東南アジアの上座部仏教徒社会において、仏教は人びとの日常生活に埋め込まれており、日本で信仰されている仏教とは大きく異なる実践が見られます。また、東南アジア大陸部の国々では共通の仏典が採用されながらも、各国の政教関係、文化や習慣、地理的環境を背景として、さまざまな仏教実践が展開されていることも特徴としてあげられます。各国の仏教実践の差異、民間信仰との関わり、政教関係やジェンダーをめぐる問題についても検討します。

授業では、主に教員のフィールドであるカンボジアの事例を中心にしながら、東南アジア大陸部諸国の具体的な事例をもとに進めていきます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業は、スライド資料を用いて講義形式で実施します。毎回、授業の理解度を確認するため、授業内容についてのリアクションペーパー（授業内容について理解した点や質問事項等を記入）を提出してもらいます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

東南アジアの仏教についての基礎的な知識を身につけることができる。(DP1-1)(知識・理解)

東南アジアの仏教について、異なる学問の観点から考察することができる。(DP2-1)(知識・理解)

東南アジアの仏教についての学習を通して、他者・異文化・異文脈への理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業中に自分で筆記した内容を確認しながら、テーマの問題を自分の視点でとらえ直し、理解した点や疑問点をまとめてください。(45分)

参考図書等を用いて、講義で指摘された重要事項や不明な語句の意味を確認し、講義の内容の理解を深めるようにしてください。(45分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

毎回の授業後に提出してもらおうリアクションペーパー（40%）と定期試験（60%）に基づき、評価します。

- - - テキスト - - -

指定なし

- - - 参考書 - - -

東南アジア上座部仏教への招待 ISBN 4894893045
授業中に適宜指示します。

- - - 授業計画 - - -

- 1.ガイダンス（スタートアップ授業・動画配信）
- 2.仏教教団の成立と展開
- 3.東南アジアにおける仏教の受容
- 4.上座部仏教の思想と実践（出家者）
- 5.上座部仏教の思想と実践（在家者）
- 6.上座部仏教の思想と実践（在家者）
- 7.女性の仏教実践
- 8.寺院の役割と運営組織
- 9.民間信仰と仏教
- 10.政治と仏教
- 11.社会主義体制と仏教の断絶・復興
- 12.仏教の社会貢献
- 13.マインドフルネス瞑想
- 14.日本における上座部仏教の展開
- 15.まとめ・授業アンケートの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/ig0fcm5wz26jml729prce2xa7ajqgtxd>)

大坪 加奈子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 東南アジアの仏教についての基礎的な知識を身につけることができる。
(DP1-1) (知識・理解)

2. 東南アジアの仏教についての学習を通して、他者・異文化・異文脈への理解を深めることができる。(DP2-2) (知識・理解)

3. 東南アジアの仏教について、異なる学問の観点から考察することができる。
(DP2-1) (知識・理解)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

小笠原 史樹

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・二部 1 時限 試験時間割：2024/07/30 夜 1 限

- - - 概要 - - -

【生の教説】

様々な宗教思想は、「どのように生きるべきか」という素朴な問いへの多様な解答例、解答集でもあり得る。諸宗教の聖典や宗教的な古典において、神の命令として、あるいは仏の教えとして、あるいは聖者・賢者の知恵として、然るべき生き方が示される。それらの生き方をそのまま自分の生き方として採用するかどうかはともかく、諸宗教における伝統的な「生の教説」に触れることは、宗教について勉強し始める出発点として有効であるのみならず、生に関する自分の考え方、自分の価値観を相対化し、問い直す契機ともなるだろう。

以上の見通しに基づき、この授業では諸宗教の聖典や宗教的な古典を研究対象とし、それらの聖典・古典に見られる「生の教説」について、思想的・哲学的に検討する。そのような検討の過程で、諸宗教の思想に関する基礎知識を獲得し、また、聖典や古典を読解する能力を身につけること、さらに、自分の考え方を相対化する能力を身につけることを目指す。

授業は、講義形式で行う。

前期は、聖書や『クルアーン』、西ヨーロッパの古典などを扱う。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、授業資料と板書による講義形式で行う。授業資料は事前にFU_boxで、主にPDFファイルで公開する。

毎回、授業の冒頭で前回の復習を行い、授業の最後に、当日の授業内容に関する小テストを課す。授業に関する質問などは、小テストの「質問・コメント欄」で受け付け、次回の授業資料に担当教員からの応答を掲載する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1)(技能)

異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、事前に授業資料を通読し、ポイントや疑問点などをまとめておく。(90分)

復習として、改めて授業資料を読み直し、小テストの問題を中心に授業内容を再検討する。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

毎回の授業時間中に実施される小テスト(計14回、40%)と定期試験(60%)に基づき、評価する。

小テストに関しては、各回の授業内容を理解し、正確に説明できるかどうかを、主な評価基準とする。フィードバックとして、次回の授業資料に、担当教員作成の模範解答を掲載する。

定期試験に関しては、諸宗教の思想に関する基礎知識、聖典や古典の読解能力、自分の考え方を相対化する能力、という三つを身につけているか否かを、主な評価基準とする。

- - - テキスト - - -

テキストは使用しない。

毎回の授業前にFU_boxで、主にPDFファイルで授業資料を公開する。

- - - 参考書 - - -

適宜、授業中に指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

予備知識は前提しないが、授業への十分な意欲は必要とされる。

授業中の私語や無断退室は決して許されない。厳格な受講態度が求められる。

- - - 授業計画 - - -

01. ガイダンス(スタートアップ授業)

02. 序論

03. 旧約聖書

04. 旧約聖書

05. 旧約聖書

06. 古代ギリシア

07. 古代ローマ

08. 福音書

09. 福音書

10. パウロ書簡

11. 『クルアーン』

12. 『クルアーン』

13. 近世キリスト教

14. 無神論

15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

授業の進捗状況などに応じて、上記の計画が変更・修正される場合もある。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/y1ar5ger4mf7pjpnt3zgmnx47i7ayiy>)

小笠原 史樹

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

2. 諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1) (技能)

3. 異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

岸根 敏幸

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：月・2 時限 試験時間割：2024/07/30 4 時限

--- 概要 ---

宗教は人間にとって欠かすことのできない文化上の重要な営みと言えます。したがって、日本の文化を知り、それを受け継いでいく上でも、日本の宗教に対する理解が必要となります。本授業では日本の宗教について、以下に示す三つのテーマに基づいて、詳しく検討していきます。

第一のテーマは「八幡信仰の展開」です。八幡神は日本を代表する神の一つとして、この神に対する信仰は長期にわたって展開し続けました。国家守護神、神仏習合神、軍神、各地の鎮守神など、八幡神が見せる多種多様な姿は、日本の宗教史をそのまま映し出す鏡となるでしょう。このテーマでは、その展開について検討します。

第二のテーマは「怨霊と御霊」です。日本では古来、無念の死を遂げた者や目覚ましい活躍をした者の靈魂には特別な力が存在すると捉えて、その靈魂を神として祭ってきました。それが「御霊」と呼ばれるものです。このテーマでは、怨霊が御霊化していく経緯や、御霊信仰から始まり、やがて独自の信仰へと展開していった天神信仰について検討します。

第三のテーマは「神と仏の邂逅」です。日本古来の神祇信仰は、新たに伝来した仏教に対して、当初は反発していましたが、やがて深く結びついていくこととなります。「神仏習合」と呼ばれるこの現象こそ、日本の宗教史を特色づける一大潮流として捉えられるものです。このテーマでは、この現象について様々な観点から検討します。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式でおこないます。担当教員が作成した教科書に基づいて、随時、それに解説や補足を加えながら、講義していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

・日本の宗教に関わる基礎的な内容を理解することができる。
(DP1-1)(知識・理解)

・日本の宗教に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。(DP2-1)(知識・理解)

・日本の宗教に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

・教科書を精読し、不明な箇所は自分で調べてください。(90分)

・筆記した内容を確認しながら、教科書を再読してください。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・授業に関わる基礎的な内容を理解し、その重要点を指摘できるかということを成績評価基準とします。

・定期試験の結果(100%)で成績評価をおこないます。

--- テキスト ---

・岸根敏幸著『日本の宗教 その諸様相』、晃洋書房、2300円(税別)、ISBN 978-4-7710-1519-7

--- 履修上の留意点 ---

出席状況が成績評価に直接影響することはありませんが、定期試験では、授業に出席していないと解答できない問題も出題されます。

--- 授業計画 ---

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 八幡神の起源
- 3 託宣する神
- 4 八幡大菩薩の誕生
- 5 鶴岡八幡宮の創建とその意義
- 6 死霊としての靈魂
- 7 御霊とは何か
- 8 牛頭天王とは何か
- 9 「道真公の祟り」と囁かれる出来事
- 10 仏教の受容と神仏習合
- 11 伊勢神宮と仏教
- 12 山王神道
- 13 熊野信仰
- 14 授業のまとめ
- 15 授業アンケートFURIKAの実施、成績評価に関わる説明

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/qxor63l2it4w5gpuni8t69470qqw9t9w>)

岸根 敏幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 日本の宗教に関わる基礎的な内容を理解することができる。（DP1-1）
（知識・理解）

2. 日本の宗教に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3. 日本の宗教に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

岸根 敏幸

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：月・3時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

--- 概要 ---

宗教は人間にとって欠かすことのできない文化上の重要な営みと言えます。したがって、日本の文化を知り、それを受け継いでいく上でも、日本の宗教に対する理解が必要となります。本授業では日本の宗教について、以下に示す三つのテーマに基づいて、詳しく検討していきます。

第一のテーマは「八幡信仰の展開」です。八幡神は日本を代表する神の一つとして、この神に対する信仰は長期にわたって展開し続けました。国家守護神、神仏習合神、軍神、各地の鎮守神など、八幡神が見せる多種多様な姿は、日本の宗教史をそのまま映し出す鏡となるでしょう。このテーマでは、その展開について検討します。

第二のテーマは「怨霊と御霊」です。日本では古来、無念の死を遂げた者や目覚ましい活躍をした者の靈魂には特別な力が存在すると捉えて、その靈魂を神として祭ってきました。それが「御霊」と呼ばれるものです。このテーマでは、怨霊が御霊化していく経緯や、御霊信仰から始まり、やがて独自の信仰へと展開していった天神信仰について検討します。

第三のテーマは「神と仏の邂逅」です。日本古来の神祇信仰は、新たに伝来した仏教に対して、当初は反発していましたが、やがて深く結びついていくこととなります。「神仏習合」と呼ばれるこの現象こそ、日本の宗教史を特色づける一大潮流として捉えられるものです。このテーマでは、この現象について様々な観点から検討します。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式でおこないます。担当教員が作成した教科書に基づいて、随時、それに解説や補足を加えながら、講義していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

・日本の宗教に関わる基礎的な内容を理解することができる。
(DP1-1)(知識・理解)

・日本の宗教に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。(DP2-1)(知識・理解)

・日本の宗教に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

・教科書を精読し、不明な箇所は自分で調べてください。(90分)

・筆記した内容を確認しながら、教科書を再読してください。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・授業に関わる基礎的な内容を理解し、その重要点を指摘できるかということを成績評価基準とします。

・定期試験の結果(100%)で成績評価をおこないます。

--- テキスト ---

・岸根敏幸著『日本の宗教 その諸様相』、晃洋書房、2300円(税別)、ISBN 978-4-7710-1519-7

--- 履修上の留意点 ---

出席状況が成績評価に直接影響することはありませんが、定期試験では、授業に出席していないと解答できない問題も出題されます。

--- 授業計画 ---

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 八幡神の起源
- 3 託宣する神
- 4 八幡大菩薩の誕生
- 5 鶴岡八幡宮の創建とその意義
- 6 死霊としての靈魂
- 7 御霊とは何か
- 8 牛頭天王とは何か
- 9 「道真公の祟り」と囁かれる出来事
- 10 仏教の受容と神仏習合
- 11 伊勢神宮と仏教
- 12 山王神道
- 13 熊野信仰
- 14 授業のまとめ
- 15 授業アンケートFURIKAの実施、成績評価に関わる説明

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/a3ssrjxovqu5ewt4wywu575khotldj70>)

岸根 敏幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 日本の宗教に関わる基礎的な内容を理解することができる。（DP1-1）
（知識・理解）

2. 日本の宗教に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3. 日本の宗教に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

岸根 敏幸

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：水・2時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

--- 概要 ---

宗教は人間にとって欠かすことのできない文化上の重要な営みと言えます。したがって、日本の文化を知り、それを受け継いでいく上でも、日本の宗教に対する理解が必要となります。本授業では日本の宗教について、以下に示す三つのテーマに基づいて、詳しく検討していきます。

第一のテーマは「八幡信仰の展開」です。八幡神は日本を代表する神の一つとして、この神に対する信仰は長期にわたって展開し続けました。国家守護神、神仏習合神、軍神、各地の鎮守神など、八幡神が見せる多種多様な姿は、日本の宗教史をそのまま映し出す鏡となるでしょう。このテーマでは、その展開について検討します。

第二のテーマは「怨霊と御霊」です。日本では古来、無念の死を遂げた者や目覚ましい活躍をした者の靈魂には特別な力が存在すると捉えて、その靈魂を神として祭ってきました。それが「御霊」と呼ばれるものです。このテーマでは、怨霊が御霊化していく経緯や、御霊信仰から始まり、やがて独自の信仰へと展開していった天神信仰について検討します。

第三のテーマは「神と仏の邂逅」です。日本古来の神祇信仰は、新たに伝来した仏教に対して、当初は反発していましたが、やがて深く結びついていくこととなります。「神仏習合」と呼ばれるこの現象こそ、日本の宗教史を特色づける一大潮流として捉えられるものです。このテーマでは、この現象について様々な観点から検討します。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式でおこないます。担当教員が作成した教科書に基づいて、随時、それに解説や補足を加えながら、講義していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

・日本の宗教に関わる基礎的な内容を理解することができる。
(DP1-1)(知識・理解)

・日本の宗教に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。(DP2-1)(知識・理解)

・日本の宗教に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

・教科書を精読し、不明な箇所は自分で調べてください。(90分)

・筆記した内容を確認しながら、教科書を再読してください。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・授業に関わる基礎的な内容を理解し、その重要点を指摘できるかということを成績評価基準とします。

・定期試験の結果(100%)で成績評価をおこないます。

--- テキスト ---

・岸根敏幸著『日本の宗教 その諸様相』、晃洋書房、2300円(税別)、ISBN 978-4-7710-1519-7

--- 履修上の留意点 ---

出席状況が成績評価に直接影響することはありませんが、定期試験では、授業に出席していないと解答できない問題も出題されます。

--- 授業計画 ---

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 八幡神の起源
- 3 託宣する神
- 4 八幡大菩薩の誕生
- 5 鶴岡八幡宮の創建とその意義
- 6 死霊としての靈魂
- 7 御霊とは何か
- 8 牛頭天王とは何か
- 9 「道真公の祟り」と囁かれる出来事
- 10 仏教の受容と神仏習合
- 11 伊勢神宮と仏教
- 12 山王神道
- 13 熊野信仰
- 14 授業のまとめ
- 15 授業アンケートFURIKAの実施、成績評価に関わる説明

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/iikojd0dmcoflc0dq2szfq1nq970sbc>)

岸根 敏幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 日本の宗教に関わる基礎的な内容を理解することができる。（DP1-1）
（知識・理解）

2. 日本の宗教に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3. 日本の宗教に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

岸根 敏幸

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：水・3時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

--- 概要 ---

宗教は人間にとって欠かすことのできない文化上の重要な営みと言えます。したがって、日本の文化を知り、それを受け継いでいく上でも、日本の宗教に対する理解が必要となります。本授業では日本の宗教について、以下に示す三つのテーマに基づいて、詳しく検討していきます。

第一のテーマは「八幡信仰の展開」です。八幡神は日本を代表する神の一つとして、この神に対する信仰は長期にわたって展開し続けました。国家守護神、神仏習合神、軍神、各地の鎮守神など、八幡神が見せる多種多様な姿は、日本の宗教史をそのまま映し出す鏡となるでしょう。このテーマでは、その展開について検討します。

第二のテーマは「怨霊と御霊」です。日本では古来、無念の死を遂げた者や目覚ましい活躍をした者の靈魂には特別な力が存在すると捉えて、その靈魂を神として祭ってきました。それが「御霊」と呼ばれるものです。このテーマでは、怨霊が御霊化していく経緯や、御霊信仰から始まり、やがて独自の信仰へと展開していった天神信仰について検討します。

第三のテーマは「神と仏の邂逅」です。日本古来の神祇信仰は、新たに伝来した仏教に対して、当初は反発していましたが、やがて深く結びついていくこととなります。「神仏習合」と呼ばれるこの現象こそ、日本の宗教史を特色づける一大潮流として捉えられるものです。このテーマでは、この現象について様々な観点から検討します。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式でおこないます。担当教員が作成した教科書に基づいて、随時、それに解説や補足を加えながら、講義していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

・日本の宗教に関わる基礎的な内容を理解することができる。
(DP1-1)(知識・理解)

・日本の宗教に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。(DP2-1)(知識・理解)

・日本の宗教に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

・教科書を精読し、不明な箇所は自分で調べてください。(90分)

・筆記した内容を確認しながら、教科書を再読してください。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・授業に関わる基礎的な内容を理解し、その重要点を指摘できるかということを成績評価基準とします。

・定期試験の結果(100%)で成績評価をおこないます。

--- テキスト ---

・岸根敏幸著『日本の宗教 その諸様相』、晃洋書房、2300円(税別)、ISBN 978-4-7710-1519-7

--- 履修上の留意点 ---

出席状況が成績評価に直接影響することはありませんが、定期試験では、授業に出席していないと解答できない問題も出題されます。

--- 授業計画 ---

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 八幡神の起源
- 3 託宣する神
- 4 八幡大菩薩の誕生
- 5 鶴岡八幡宮の創建とその意義
- 6 死霊としての靈魂
- 7 御霊とは何か
- 8 牛頭天王とは何か
- 9 「道真公の祟り」と囁かれる出来事
- 10 仏教の受容と神仏習合
- 11 伊勢神宮と仏教
- 12 山王神道
- 13 熊野信仰
- 14 授業のまとめ
- 15 授業アンケートFURIKAの実施、成績評価に関わる説明

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/zttzswnv8jidbei080cmf2qjkh9paz1e>)

岸根 敏幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 日本の宗教に関わる基礎的な内容を理解することができる。（DP1-1）
（知識・理解）

2. 日本の宗教に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3. 日本の宗教に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

高橋 沙奈美

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：木・5 時限 試験時間割：2024/07/30 4 時限

- - - 概要 - - -

宗教とは何か、この答えのない問いへの誘いがこの授業です。身の回りで起こるさまざまな問題（ジェンダー格差、貧困、マイノリティへの差別）から、グローバルな紛争に至るまでを宗教という観点から読み直します。

宗教を学ぶということは、特定の宗教の教義や歴史を知ることばかりではありません。宗教と密接に関わった慣習、儀礼、集合的アイデンティティ、価値観等、様々な切り口から社会を分析・考察することこそが、宗教を学ぶことにほかなりません。この授業を通じて、宗教のもつ多様な機能や問題を知り、論理的に考える力を身につけると同時に、さまざまな宗教の価値観を尊重し、共生するための態度（=宗教リテラシー）について理解することを目指します。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業では、教員のフィールドであるロシア・ウクライナをはじめとする外国の事例と、学生の皆さんにとって身近な日本の事例を織り交ぜて具体的な事例をもとに話を進めます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

現代社会における宗教についての基礎的な考え方を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会と宗教のかかわりが多様であり、他者・異文化・異文化脈への理解を深め、それらを説明することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

社会科学としての宗教研究について、基礎的な用語や学説史を理解し、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

社会科学分野の宗教研究について、その学説史、主要著作、主要研究者、アプローチの違いを理解し、現代社会の諸問題と結びつけて考えることができる。(DP4-1)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業スライドを復習し、理解できた点と疑問点を自分なりにまとめる(30分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

毎回の授業の後に、授業を通して理解できた点と疑問点をまとめたリフレクションシートを提出してもらいます。

リフレクションシートの提出をもって、理解度を評価します。

上記の到達目標は、定期試験とリフレクションシートで達成度を評価します。定期試験の割合は6割、リフレクションシートの割合が4割です。

- - - テキスト - - -

指定なし

- - - 参考書 - - -

よくわかる宗教学 ISBN 4623072754
 現代社会を宗教文化で読み解く ISBN 9784623093830
 授業中に適宜指示します。

- - - 授業計画 - - -

- 1) オリエンテーション（スタートアップ授業）
- 2) 宗教の概念と定義
- 3) 宗教の否定と世俗化
- 4) 現代日本における宗教の諸相（1）
- 5) 現代日本における宗教の諸相（2）
- 6) 宗教とツーリズム（1）
- 7) 宗教とツーリズム（2）
- 8) 公共宗教論
- 9) 宗教と地域社会（1）
- 10) 宗教と地域社会（2）
- 11) 宗教とジェンダー
- 12) 宗教とナショナリズム（1）
- 13) 宗教とナショナリズム（2）
- 14) 宗教と暴力
- 15) 政教分離と良心の自由

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/wf9muir48kdcnrcx7r130ck5a18066pl>

高橋 沙奈美

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.現代社会における宗教についての基礎的な考え方を身につけ、それらを説明することができる。 (DP1-1) (知識・理解)

2.現代社会と宗教のかかわりが多様であり、他者・異文化・異文脈への理解を深め、それらを説明することができる。 (DP2-2) (態度・志向性)

3.社会科学としての宗教研究について、基礎的な用語や学説史を理解し、説明することができる。 (DP2-1) (知識・理解)

4.社会科学分野の宗教研究について、その学説史、主要著作、主要研究者、アプローチの違いを理解し、現代社会の諸問題と結びつけて考えることができる。 (DP4-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

大坪 加奈子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：水・5 時間 試験時間割：2024/07/30 4 時間

- - - 概要 - - -

この授業は、東南アジア大陸部に位置するタイ・ミャンマー・ラオス・カンボジアなどの国々で信仰・実践されている仏教についての理解を深めることを目的としています。

今から約2500年前にインドで生まれた仏教は、それを受容した国々・地域で多様な変容を遂げています。東南アジアの上座部仏教徒社会において、仏教は人びとの日常生活に埋め込まれており、日本で信仰されている仏教とは大きく異なる実践が見られます。また、東南アジア大陸部の国々では共通の仏典が採用されながらも、各国の政教関係、文化や習慣、地理的環境を背景として、さまざまな仏教実践が展開されていることも特徴としてあげられます。各国の仏教実践の差異、民間信仰との関わり、政教関係やジェンダーをめぐる問題についても検討します。

授業では、主に教員のフィールドであるカンボジアの事例を中心にしながら、東南アジア大陸部諸国の具体的な事例をもとに進めていきます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業は、スライド資料を用いて講義形式で実施します。毎回、授業の理解度を確認するため、授業内容についてのリアクションペーパー（授業内容について理解した点や質問事項等を記入）を提出してもらいます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

東南アジアの仏教についての基礎的な知識を身につけることができる。(DP1-1)(知識・理解)

東南アジアの仏教について、異なる学問の観点から考察することができる。(DP2-1)(知識・理解)

東南アジアの仏教についての学習を通して、他者・異文化・異文脈への理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業中に自分で筆記した内容を確認しながら、テーマの問題を自分の視点でとらえ直し、理解した点や疑問点をまとめてください。(45分)

参考図書等を用いて、講義で指摘された重要事項や不明な語句の意味を確認し、講義の内容の理解を深めるようにしてください。(45分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

毎回の授業後に提出してもらおうリアクションペーパー（40%）と定期試験（60%）に基づき、評価します。

- - - テキスト - - -

指定なし

- - - 参考書 - - -

東南アジア上座部仏教への招待 ISBN 4894893045
授業中に適宜指示します。

- - - 授業計画 - - -

- 1.ガイダンス（スタートアップ授業・動画配信）
- 2.仏教教団の成立と展開
- 3.東南アジアにおける仏教の受容
- 4.上座部仏教の思想と実践（出家者）
- 5.上座部仏教の思想と実践（在家者）
- 6.上座部仏教の思想と実践（在家者）
- 7.女性の仏教実践
- 8.寺院の役割と運営組織
- 9.民間信仰と仏教
- 10.政治と仏教
- 11.社会主義体制と仏教の断絶・復興
- 12.仏教の社会貢献
- 13.マインドフルネス瞑想
- 14.日本における上座部仏教の展開
- 15.まとめ・授業アンケートの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/3azw0vaxj2z9x5vqib9p9jaudvyrt9b1>)

大坪 加奈子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 東南アジアの仏教についての基礎的な知識を身につけることができる。
(DP1-1) (知識・理解)

2. 東南アジアの仏教について、異なる学問の観点から考察することができる。
(DP2-1) (知識・理解)

3. 東南アジアの仏教についての学習を通して、他者・異文化・異文脈への理解を深めることができる。 (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

東谷 孝一

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・3時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

--- 概要 ---

古代ギリシアに始まる西洋の哲学思想の歴史において、「神」についての探求は最も根本的で重要なことがらであったと言えます。すなわち、「神」は人々によって信じられ崇拜されてきただけでなく、人間の理性にとって最も根源的で包括的な課題として様々な仕方論じられ探求されてきました。宗教は様々な宗教的儀式や建築、音楽や美術などを生み出すのみならず、学問をも発展させたのです。こうして西洋に生まれた神学や哲学はヨーロッパ文化を形成する大切な一部分となりました。

神を信じるということはどのようなことなのか？神を信じることと人間が生きることはどのようにかかわっているのか？信じることと知ることとはどのようにかかわっているのか？何らかの証拠にもとづかなくとも神の存在を信じることは合理性をもちうるのか？神が存在することは論証されうるのか？このような問題は西洋思想における重要な探求課題であったわけです。

この講義においては、信仰と理性、神の存在論証など西洋の宗教哲学における主要な問題を皆さんと一緒に考えていきます。

なお、本授業は講義形式で行います。ポイントをメモしながら学ぶことが大切です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式で行います。予め配布された資料に目を通してもらった上で、解説を加えていきます。毎回の講義を聴講して、共感したことや疑問に思ったことなど、様々な感想が浮かんでくるとと思います。それらをミニツツペーパーに書いて毎回、授業終了後に提出していただきます。それらの質問・感想等を互いに共有し、再考することを通じて授業の双方向性・対話性（アクティブラーニング）を実現していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

1.宗教哲学的な探求のあり方の特徴がわかる。(DP1-1)(知識・理解)

2.宗教哲学の探求テーマについて、その重要性が理解できる。(DP2-1)(知識・理解)

3.ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質が理解できる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

1.事前に配布された資料をあらかじめよく読んでおくこと。(60分)

2.紹介された参考図書等を通じて復習し、理解を深めること。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法：ミニツツペーパー（30%）定期試験(70%)

評価基準：宗教哲学における探求の特色、宗教哲学における探求テーマの重要性、ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質、にかんする理解の程度を基準として評価します。

--- テキスト ---

なし。必要に応じてプリントを配布します。

--- 参考書 ---

授業中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

集中して聴講し、重要事項をしっかりとメモすることは学習の重要な基本です。感想や疑問を自分の言葉で表現すると、学ぶ楽しみを実感できます。ミニツツペーパーを活用しましょう。

--- 授業計画 ---

- 1 イントロダクション（スタートアップ授業・動画配信）
- 2 「神」という概念について
- 3 神の顕現と超越（預言者エリヤの物語）
- 4 続
- 5 苦難と救い（『ヨブ記』を読む）
- 6 続
- 7 知ることと信じること
- 8 続
- 9 神存在の宇宙論的論証
- 10 続
- 11 神存在の目的論的論証
- 12 続
- 13 神存在の存在論的論証
- 14 奇跡について
- 15 まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/21yfv4i9ggasicixjvatdsrat3p0kwn2>)

東谷 孝一

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.1. 宗教哲学的な探求のあり方の特徴がわかる。 (DP1-1) (知識・理解)
- 2.2. 宗教哲学の探求テーマについて、その重要性が理解できる。 (DP2-1) (知識・理解)
- 3.3. ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質が理解できる。 (DP2-2) (知識・理解)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)
- DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)
- DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)
- DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)
- DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

東谷 孝一

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・4時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

--- 概要 ---

古代ギリシアに始まる西洋の哲学思想の歴史において、「神」についての探求は最も根本的で重要なことがらであったと言えます。すなわち、「神」は人々によって信じられ崇拜されてきただけでなく、人間の理性にとって最も根源的で包括的な課題として様々な仕方論じられ探求されてきました。宗教は様々な宗教的儀式や建築、音楽や美術などを生み出すのみならず、学問をも発展させたのです。こうして西洋に生まれた神学や哲学はヨーロッパ文化を形成する大切な一部分となりました。

神を信じるということはどのようなことなのか？神を信じることと人間が生きることはどのようにかかわっているのか？信じることと知ることはどのようにかかわっているのか？何らかの証拠にもとづかなくとも神の存在を信じることは合理性をもちうるのか？神が存在することは論証されるのか？このような問題は西洋思想における重要な探求課題であったわけです。

この講義においては、信仰と理性、神の存在論証など西洋の宗教哲学における主要な問題を皆さんと一緒に考えていきます。

なお、本授業は講義形式で行います。ポイントをメモしながら学ぶことが大切です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式で行います。予め配布された資料に目を通してもらった上で、解説を加えていきます。毎回の講義を聴講して、共感したことや疑問に思ったことなど、様々な感想が浮かんでくるとと思います。それらをミニツツペーパーに書いて毎回、授業終了後に提出していただきます。それらの質問・感想等を互いに共有し、再考することを通じて授業の双方向性・対話性（アクティブラーニング）を実現していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

1.宗教哲学的な探求のあり方の特徴がわかる。(DP1-1)(知識・理解)

2.宗教哲学の探求テーマについて、その重要性が理解できる。(DP2-1)(知識・理解)

3.ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質が理解できる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

1.事前に配布された資料をあらかじめよく読んでおくこと。(60分)

2.紹介された参考図書等を通じて復習し、理解を深めること。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法：ミニツツペーパー（30%）定期試験(70%)

評価基準：宗教哲学における探求の特色、宗教哲学における探求テーマの重要性、ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質、にかんする理解の程度を基準として評価します。

--- テキスト ---

なし。必要に応じてプリントを配布します。

--- 参考書 ---

授業中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

集中して聴講し、重要事項をしっかりとメモすることは学習の重要な基本です。感想や疑問を自分の言葉で表現すると、学ぶ楽しみを実感できます。ミニツツペーパーを活用しましょう。

--- 授業計画 ---

- 1 イントロダクション（スタートアップ授業・動画配信）
- 2 「神」という概念について
- 3 神の顕現と超越（預言者エリヤの物語）
- 4 続
- 5 苦難と救い（『ヨブ記』を読む）
- 6 続
- 7 知ることと信じること
- 8 続
- 9 神存在の宇宙論的論証
- 10 続
- 11 神存在の目的論的論証
- 12 続
- 13 神存在の存在論的論証
- 14 奇跡について
- 15 まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/qjv235fhnokiaimtfkdl3d9qlfknaezd>)

東谷 孝一

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.1. 宗教哲学的な探求のあり方の特徴がわかる。 (DP1-1) (知識・理解)
- 2.2. 宗教哲学の探求テーマについて、その重要性が理解できる。 (DP2-1) (知識・理解)
- 3.3. ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質が理解できる。 (DP2-2) (知識・理解)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
- DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
- DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
- DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
- DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

小笠原 史樹

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：金・5時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

【生の教説】

様々な宗教思想は、「どのように生きるべきか」という素朴な問いへの多様な解答例、解答集でもあり得る。諸宗教の聖典や宗教的な古典において、神の命令として、あるいは仏の教えとして、あるいは聖者・賢者の知恵として、然るべき生き方が示される。それらの生き方をそのまま自分の生き方として採用するかどうかはともかく、諸宗教における伝統的な「生の教説」に触れることは、宗教について勉強し始める出発点として有効であるのみならず、生に関する自分の考え方、自分の価値観を相対化し、問い直す契機ともなるだろう。

以上の見通しに基づき、この授業では諸宗教の聖典や宗教的な古典を研究対象とし、それらの聖典・古典に見られる「生の教説」について、思想的・哲学的に検討する。そのような検討の過程で、諸宗教の思想に関する基礎知識を獲得し、また、聖典や古典を読解する能力を身につけること、さらに、自分の考え方を相対化する能力と、丁寧に議論しようとする意欲とを身につけることを目指す。

授業は、演習形式で行う。

前期は、聖書や『クルアーン』、西ヨーロッパの古典などを扱う。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は演習形式で行い、全体討論の回とグループ討論の回とを交互に繰り返しながら進める。授業資料は事前にFU_boxで、主にPDFファイルで公開する。

全体討論の回では、受講者全員が事前に提出するコメント課題などに基づき、クラス全体で議論する。グループ討論の回では幾つかのチームに分かれて、授業の前半、担当教員の出題する課題に各チームで取り組み、授業の後半で各チームの発表、及び質疑応答を行う。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1)(技能)

異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2)(技能)

自分の見解を的確に言語化し、かつ他者の発言を傾聴して、丁寧に議論しようとする意欲を持つ。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、事前に授業資料を通読し、自分の見解や疑問点について口頭で説明できるように準備したり、課題のコメントを作成したりしておく。(90分)

復習として、改めて授業資料を読み直し、授業中の議論などを踏まえて自分の理解や意見を再検討する。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験は実施しない。成績は、コメント作成などの課題(計5回、50%)と、授業中の発言や討論への貢献度などによる平常点(50%)に基づいて評価する。

課題に関しては、授業資料の内容を理解し、諸宗教の思想に関する基礎知識を得た上で、聖典や古典を的確に読解し、分析できているかどうかを、主な評価基準とする。フィードバックとして、提出された課題を添削して授業資料に掲載する。

平常点に関しては、自分の考え方を相対化する能力、丁寧に議論しようとする意欲、という二つを身につけているか否かを、主な評価基準とする。

- - - テキスト - - -

テキストは使用しない。

毎回の授業前にFU_boxで、主にPDFファイルで授業資料を公開する。

- - - 参考書 - - -

適宜、授業中に指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

予備知識は前提しないが、授業への十分な意欲は必要とされる。相当量の課題が課されるだけでなく、授業中も積極的・主体的な発言が要求されるため、「定期試験がない」という理由で履修するのは賢明ではない。

遅刻や無断欠席、課題提出の遅れなども決して許されない。

なお、定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできない。

- - - 授業計画 - - -

01. ガイダンス(スタートアップ授業)
02. 導入
03. 旧約聖書 : 全体討論
04. 旧約聖書 : グループ討論
05. 古代ギリシア・ローマ : 全体討論
06. 古代ギリシア・ローマ : グループ討論
07. 新約聖書 : 全体討論
08. 新約聖書 : グループ討論
09. 中間考察
10. 『クルアーン』 : 全体討論
11. 『クルアーン』 : グループ討論
12. 近世キリスト教 : 全体討論
13. 近世キリスト教 : グループ討論
14. 補論
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

授業の進捗状況などに応じて、上記の計画が変更・修正される場合もある。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/brwjdjuk1etsvzoslou94vi1zt5b9kny>)

小笠原 史樹

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1) (知識・理解)
2. 諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1) (技能)
3. 異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2) (技能)
4. 自分の見解を的確に言語化し、かつ他者の発言を傾聴して、丁寧に議論しようとする意欲を持つ。(DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

小笠原 史樹

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・1時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

- - - 概要 - - -

【生の教説】

様々な宗教思想は、「どのように生きるべきか」という素朴な問いへの多様な解答例、解答集でもあり得る。諸宗教の聖典や宗教的な古典において、神の命令として、あるいは仏の教えとして、あるいは聖者・賢者の知恵として、然るべき生き方が示される。それらの生き方をそのまま自分の生き方として採用するかどうかはともかく、諸宗教における伝統的な「生の教説」に触れることは、宗教について勉強し始める出発点として有効であるのみならず、生に関する自分の考え方、自分の価値観を相対化し、問い直す契機ともなるだろう。

以上の見通しに基づき、この授業では諸宗教の聖典や宗教的な古典を研究対象とし、それらの聖典・古典に見られる「生の教説」について、思想的・哲学的に検討する。そのような検討の過程で、諸宗教の思想に関する基礎知識を獲得し、また、聖典や古典を読解する能力を身につけること、さらに、自分の考え方を相対化する能力を身につけることを目指す。

授業は、講義形式で行う。

後期は、古代インドや中国、日本の聖典・古典などを扱う。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、授業資料と板書による講義形式で行う。授業資料は事前にFU_boxで、主にPDFファイルで公開する。

毎回、授業の冒頭で前回の復習を行い、授業の最後に、当日の授業内容に関する小テストを課す。授業に関する質問などは、小テストの「質問・コメント欄」で受け付け、次回の授業資料に担当教員からの応答を掲載する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1)(技能)

異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、事前に授業資料を通読し、ポイントや疑問点などをまとめておく。(90分)

復習として、改めて授業資料を読み直し、小テストの問題を中心に授業内容を再検討する。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

毎回の授業時間中に実施される小テスト(計14回、40%)と定期試験(60%)に基づき、評価する。

小テストに関しては、各回の授業内容を理解し、正確に説明できるかどうかを、主な評価基準とする。フィードバックとして、次回の授業資料に、担当教員作成の模範解答を掲載する。

定期試験に関しては、諸宗教の思想に関する基礎知識、聖典や古典の読解能力、自分の考え方を相対化する能力、という三つを身につけているか否かを、主な評価基準とする。

- - - テキスト - - -

テキストは使用しない。

毎回の授業前にFU_boxで、主にPDFファイルで授業資料を公開する。

- - - 参考書 - - -

適宜、授業中に指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

予備知識は前提しないが、授業への十分な意欲は必要とされる。

授業中の私語や無断退室は決して許されない。厳格な受講態度が求められる。

- - - 授業計画 - - -

01. ガイダンス(スタートアップ授業)

02. 序論

03. 原始仏典

04. 原始仏典

05. 『バガヴァッド・ギーター』

06. 『バガヴァッド・ギーター』

07. 『論語』

08. 『老子』・『莊子』

09. 『日本霊異記』

10. 『歎異抄』

11. 『歎異抄』

12. 『正法眼蔵随聞記』

13. 『正法眼蔵随聞記』

14. 補論

15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

授業の進捗状況などに応じて、上記の計画が変更・修正される場合もある。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/119u7dwv5o7bgtlqa22i0innww6m9t67>)

小笠原 史樹

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

2. 諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1) (技能)

3. 異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

徳安 祐子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：火・4時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

--- 概要 ---

日本人の多くは、自分が「無宗教である」「宗教とは関係がない」と考えているといわれます。しかし、私たちの社会では、初詣やお葬式など宗教的な習わしや儀礼がおこなわれ、神社や寺院が身近にあります。宗教に関わる場面は身の周りにたくさんあり、それを経験することも珍しくありません。

一方で、現在の日本社会では宗教を含む多文化共生が重要な課題であり、また世界情勢をめぐるニュースでも宗教が取り上げられることがあります。このような社会状況のなかで、宗教について「知らない」「関係ない」ですませることができなくなっています。

本講義では、宗教学的な知見をもとに、さまざまな宗教について知識を深めていきます。自分とは違う価値観を持つ人がいることを理解し、広い視野、柔軟な考え方を身につけ、宗教や文化の異なる他者に対してどのように向き合うべきかを自ら考えることができるようになることを目的としています。講義では、まず宗教学の考え方について概説し、その後世界の中のさまざまな宗教をとりあげます。世界の宗教、アジアの宗教、そして日本社会における宗教についてとりあげていきます。

授業は主に講義形式で行います。適宜映像資料を用いて、宗教実践を行う人々について具体的なイメージをもとに考えていきたいと思えます。数回の授業ではグループワークやプレゼンテーション形式を取り入れる予定です（形式は受講人数によって変わります）。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、テキストと教員が作成した講義資料を用いて講義形式で行います。毎回授業内容の理解を確かめるために最後の10分間でミニッツペーパーを記入、提出してもらいます。また、数回の授業ではグループワークやプレゼンテーションを行います（形式は受講人数によって変わります）。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

宗教についての基礎的な知識を身につけ、説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

さまざまな宗教について学び、多様な価値観・考え方を理解するという宗教学の考え方を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

さまざまな考え方・価値観について学ぶことによって、広い視野と柔軟な考え方を身につけ、他者や異文化を理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業前(予習)：次の授業回の範囲のテキストを読み、わからない用語などを調べておく。事前に準備が必要な場合(グループワークなど)は別途指定するので、それに取り組んでおく。(90分)

授業後(復習)：授業後はテキストの該当箇所や配布資料を読みなおし、毎回確実に理解するようにする。また、学んだ範囲については、関心を持ってニュースに接するなどして学びを深め、特に関心のある部分については、授業中に紹介する書籍等を読んでさらに理解を深める。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法は、定期試験、ミニッツペーパー、レポート、授業への参加度を総合して評価します。それぞれに、重視することと割合は下のとおりです。

定期試験：講義期間を通して授業で学んだことを理解しているか、30%
ミニッツペーパー：毎回の授業を理解しているか、関心を持って授業を聞いているか、30%

レポート：授業で学んだことを踏まえて自分の考えを自分の言葉で述べているか、20%

授業への参加度：グループワークやプレゼンテーションに積極的に取り組んでいるか、20%

--- テキスト ---

櫻井義秀・平藤喜久子、『よくわかる宗教学(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』、ミネルヴァ書房、2640円、ISBN978-4623072750

--- 履修上の留意点 ---

授業中の私語や不要不急の教室の出入りなど、他の受講者の妨げとなることはしないこと。

グループワークやプレゼンテーションでは、積極的な発言が求められます。

毎回ミニッツペーパーを提出してもらう際にはe-Learningシステム(Moodle)などのオンラインシステムを使用する予定なので、スマートフォン、タブレット、ノートPCのいずれかを持参してください。

--- 授業計画 ---

- 1 インTRODクシヨン(スタートアップ授業)
- 2 宗教をどうとらえるか
- 3 世界の宗教 : ユダヤ教
- 4 世界の宗教 : キリスト教
- 5 世界の宗教 : イスラーム
- 6 世界の宗教 : ヒンドゥー教
- 7 世界の宗教 : 仏教
- 8 世界の宗教 : グループワーク/プレゼンテーション
- 9 アジアの宗教 : 東南アジアの仏教
- 10 アジアの宗教 : 東南アジアの精霊信仰
- 11 日本の宗教 : 日本の民俗信仰
- 12 日本の宗教 : 日本の仏教
- 13 日本の宗教 : 日本の神道
- 14 日本の宗教 : グループワーク/プレゼンテーション
- 15 まとめ・授業アンケート(FURIKA)実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/o0korbyrzbid52bbn5c86dqey4a32dmc>)

徳安 祐子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.宗教についての基礎的な知識を身につけ、説明することができる。（DP1-1）
（知識・理解）

2.さまざまな宗教について学び、多様な価値観・考え方を理解するという宗教学の考え方を理解することができる。（DP2-1）（知識・理解）

3.さまざまな考え方・価値観について学ぶことによって、広い視野と柔軟な考え方を身につけ、他者や異文化を理解することができる。（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

小笠原 史樹

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：火・二部 1 時間 試験時間割：2025/01/21 夜 1 限

- - - 概要 - - -

【生の教説】

様々な宗教思想は、「どのように生きるべきか」という素朴な問いへの多様な解答例、解答集でもあり得る。諸宗教の聖典や宗教的な古典において、神の命令として、あるいは仏の教えとして、あるいは聖者・賢者の知恵として、然るべき生き方が示される。それらの生き方をそのまま自分の生き方として採用するかどうかはともかく、諸宗教における伝統的な「生の教説」に触れることは、宗教について勉強し始める出発点として有効であるのみならず、生に関する自分の考え方、自分の価値観を相対化し、問い直す契機ともなるだろう。

以上の見通しに基づき、この授業では諸宗教の聖典や宗教的な古典を研究対象とし、それらの聖典・古典に見られる「生の教説」について、思想的・哲学的に検討する。そのような検討の過程で、諸宗教の思想に関する基礎知識を獲得し、また、聖典や古典を読解する能力を身につけること、さらに、自分の考え方を相対化する能力を身につけることを目指す。

授業は、講義形式で行う。

後期は、古代インドや中国、日本の聖典・古典などを扱う。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、授業資料と板書による講義形式で行う。授業資料は事前にFU_boxで、主にPDFファイルで公開する。

毎回、授業の冒頭で前回の復習を行い、授業の最後に、当日の授業内容に関する小テストを課す。授業に関する質問などは、小テストの「質問・コメント欄」で受け付け、次回の授業資料に担当教員からの応答を掲載する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1)(技能)

異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、事前に授業資料を通読し、ポイントや疑問点などをまとめておく。(90分)

復習として、改めて授業資料を読み直し、小テストの問題を中心に授業内容を再検討する。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

毎回の授業時間中に実施される小テスト(計14回、40%)と定期試験(60%)に基づき、評価する。

小テストに関しては、各回の授業内容を理解し、正確に説明できるかどうかを、主な評価基準とする。フィードバックとして、次回の授業資料に、担当教員作成の模範解答を掲載する。

定期試験に関しては、諸宗教の思想に関する基礎知識、聖典や古典の読解能力、自分の考え方を相対化する能力、という三つを身につけているか否かを、主な評価基準とする。

- - - テキスト - - -

テキストは使用しない。

毎回の授業前にFU_boxで、主にPDFファイルで授業資料を公開する。

- - - 参考書 - - -

適宜、授業中に指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

予備知識は前提しないが、授業への十分な意欲は必要とされる。

授業中の私語や無断退室は決して許されない。厳格な受講態度が求められる。

- - - 授業計画 - - -

01. ガイダンス(スタートアップ授業)

02. 序論

03. ブッダとイエス

04. 原始仏典

05. 原始仏典

06. 原始仏典

07. 『バガヴァッド・ギーター』

08. 『バガヴァッド・ギーター』

09. 中国古典

10. 『日本霊異記』

11. 『歎異抄』

12. 『歎異抄』

13. 『正法眼蔵随聞記』

14. 『正法眼蔵随聞記』

15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

授業の進捗状況などに応じて、上記の計画が変更・修正される場合もある。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/vyt1sk8xiim663sjovfgu6q57i9o4i4w>)

小笠原 史樹

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1. 諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

2. 諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1) (技能)

3. 異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

岸根 敏幸

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：月・2時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

--- 概要 ---

神話は宗教とも密接に関係する、人間にとって欠かすことのできない文化上の重要な営みです。したがって、日本の文化を知り、それを受け継いでいく上でも、日本の神話に対する理解が必要となるでしょう。本授業では日本の神話について、以下に示す三つのテーマに基づいて、詳しく検討していきます。

第一のテーマは「日本の神話の世界像」です。日本の神話には、地上にある葦原の中つ国という世界以外にも、高天原、黄泉つ国、根の堅州国、常世の国などといった様々な世界が登場しており、古代の日本人が実に多彩な世界像を持っていたことが窺われます。このテーマでは、その世界像について具体的に検討します。

第二のテーマは「日本の神話における神観念」です。日本の神話には実に多くの神が登場していますが、そもそも日本の神話において神はどのような存在として位置づけられているのでしょうか。このテーマでは、その問題の核心に迫るために、神という観念について様々な観点から検討します。

第三のテーマは「ホノニギとホワリの神話」です。『古事記』と『日本書紀』の最後を飾る神話は「日向神話」とも呼ばれており、南九州を舞台に展開されています。このテーマでは、コノハナノサクヤビメと結婚する話や、海中にあるワタツミの宮殿を訪ねる話など、ホノニギとホワリを軸に展開される神話について検討します。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式でおこないます。担当教員が作成した教科書に基づいて、随時、それに解説や補足を加えながら、講義していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

・日本の神話に関わる基礎的な内容を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

・日本の神話に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。(DP2-1)(知識・理解)

・日本の神話に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

・教科書を精読し、不明な箇所は自分で調べてください。(90分)

・筆記した内容を確認しながら、教科書を再読してください。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・授業に関わる基礎的な内容を理解し、その重要点を指摘できるかということを成績評価基準とします。

・定期試験の結果(100%)で成績評価をおこないます。

--- テキスト ---

・岸根敏幸著『日本の神話 その諸様相』、晃洋書房、2300円(税別)、ISBN 978-4-7710-1833-4

--- 履修上の留意点 ---

出席状況が成績評価に直接影響することはありませんが、定期試験では、授業に出席していないと解答できない問題も出題されます。

--- 授業計画 ---

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 世界の神話における世界像
- 3 高天原に関する記述
- 4 「葦原の中つ国」の意味
- 5 黄泉つ国と根の堅州国
- 6 日本の神話における「神」
- 7 神の誕生の仕方
- 8 自然神という性格
- 9 観念神という性格
- 10 日向神話とは
- 11 オホヤマツミのウケヒ
- 12 ウミサチビコとヤマサチビコ
- 13 ホデリの服従と隼人の位置づけ
- 14 授業のまとめ
- 15 授業アンケートFURIKAの実施、成績評価に関わる説明

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/1l7esvnovifz9svpgj0lbwchr7idrgjt>)

岸根 敏幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 日本の神話に関わる基礎的な内容を理解することができる。（DP1-1）
（知識・理解）

2. 日本の神話に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3. 日本の神話に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

岸根 敏幸

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：月・3時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

--- 概要 ---

神話は宗教とも密接に関係する、人間にとって欠かすことのできない文化上の重要な営みです。したがって、日本の文化を知り、それを受け継いでいく上でも、日本の神話に対する理解が必要となるでしょう。本授業では日本の神話について、以下に示す三つのテーマに基づいて、詳しく検討していきます。

第一のテーマは「日本の神話の世界像」です。日本の神話には、地上にある葦原の中つ国という世界以外にも、高天原、黄泉つ国、根の堅州国、常世の国などといった様々な世界が登場しており、古代の日本人が実に多彩な世界像を持っていたことが窺われます。このテーマでは、その世界像について具体的に検討します。

第二のテーマは「日本の神話における神観念」です。日本の神話には実に多くの神が登場していますが、そもそも日本の神話において神はどのような存在として位置づけられているのでしょうか。このテーマでは、その問題の核心に迫るために、神という観念について様々な観点から検討します。

第三のテーマは「ホノニギとホワリの神話」です。『古事記』と『日本書紀』の最後を飾る神話は「日向神話」とも呼ばれており、南九州を舞台に展開されています。このテーマでは、コノハナノサクヤビメと結婚する話や、海中にあるワタツミの宮殿を訪ねる話など、ホノニギとホワリを軸に展開される神話について検討します。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式でおこないます。担当教員が作成した教科書に基づいて、随時、それに解説や補足を加えながら、講義していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

・日本の神話に関わる基礎的な内容を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

・日本の神話に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。(DP2-1)(知識・理解)

・日本の神話に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

・教科書を精読し、不明な箇所は自分で調べてください。(90分)

・筆記した内容を確認しながら、教科書を再読してください。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・授業に関わる基礎的な内容を理解し、その重要点を指摘できるかということを成績評価基準とします。

・定期試験の結果(100%)で成績評価をおこないます。

--- テキスト ---

・岸根敏幸著『日本の神話 その諸様相』、晃洋書房、2300円(税別)、ISBN 978-4-7710-1833-4

--- 履修上の留意点 ---

出席状況が成績評価に直接影響することはありませんが、定期試験では、授業に出席していないと解答できない問題も出題されます。

--- 授業計画 ---

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 世界の神話における世界像
- 3 高天原に関する記述
- 4 「葦原の中つ国」の意味
- 5 黄泉つ国と根の堅州国
- 6 日本の神話における「神」
- 7 神の誕生の仕方
- 8 自然神という性格
- 9 観念神という性格
- 10 日向神話とは
- 11 オホヤマツミのウケヒ
- 12 ウミサチビコとヤマサチビコ
- 13 ホデリの服従と隼人の位置づけ
- 14 授業のまとめ
- 15 授業アンケートFURIKAの実施、成績評価に関わる説明

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/tbe4ouk20w64za25qhmvg1j5058fq9zy>

岸根 敏幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 日本の神話に関わる基礎的な内容を理解することができる。（DP1-1）
（知識・理解）

2. 日本の神話に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3. 日本の神話に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

岸根 敏幸

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・2時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

--- 概要 ---

神話は宗教とも密接に関係する、人間にとって欠かすことのできない文化上の重要な営みです。したがって、日本の文化を知り、それを受け継いでいく上でも、日本の神話に対する理解が必要となるでしょう。本授業では日本の神話について、以下に示す三つのテーマに基づいて、詳しく検討していきます。

第一のテーマは「日本の神話の世界像」です。日本の神話には、地上にある葦原の中つ国という世界以外にも、高天原、黄泉つ国、根の堅州国、常世の国などといった様々な世界が登場しており、古代の日本人が実に多彩な世界像を持っていたことが窺われます。このテーマでは、その世界像について具体的に検討します。

第二のテーマは「日本の神話における神観念」です。日本の神話には実に多くの神が登場していますが、そもそも日本の神話において神はどのような存在として位置づけられているのでしょうか。このテーマでは、その問題の核心に迫るために、神という観念について様々な観点から検討します。

第三のテーマは「ホノニギとホワリの神話」です。『古事記』と『日本書紀』の最後を飾る神話は「日向神話」とも呼ばれており、南九州を舞台に展開されています。このテーマでは、コノハナノサクヤビメと結婚する話や、海中にあるワタツミの宮殿を訪ねる話など、ホノニギとホワリを軸に展開される神話について検討します。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式でおこないます。担当教員が作成した教科書に基づいて、随時、それに解説や補足を加えながら、講義していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

・日本の神話に関わる基礎的な内容を理解することができる。
(DP1-1)(知識・理解)

・日本の神話に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。(DP2-1)(知識・理解)

・日本の神話に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

・教科書を精読し、不明な箇所は自分で調べてください。(90分)

・筆記した内容を確認しながら、教科書を再読してください。
(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・授業に関わる基礎的な内容を理解し、その重要点を指摘できるかということを成績評価基準とします。

・定期試験の結果(100%)で成績評価をおこないます。

--- テキスト ---

・岸根敏幸著『日本の神話 その諸様相』、晃洋書房、2300円(税別)、ISBN 978-4-7710-1833-4

--- 履修上の留意点 ---

出席状況が成績評価に直接影響することはありませんが、定期試験では、授業に出席していないと解答できない問題も出題されます。

--- 授業計画 ---

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 世界の神話における世界像
- 3 高天原に関する記述
- 4 「葦原の中つ国」の意味
- 5 黄泉つ国と根の堅州国
- 6 日本の神話における「神」
- 7 神の誕生の仕方
- 8 自然神という性格
- 9 観念神という性格
- 10 日向神話とは
- 11 オホヤマツミのウケヒ
- 12 ウミサチビコとヤマサチビコ
- 13 ホデリの服従と隼人の位置づけ
- 14 授業のまとめ
- 15 授業アンケートFURIKAの実施、成績評価に関わる説明

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/gs50o8o8sfwk2t32a0xn1syn4l6mm5gs>)

岸根 敏幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 日本の神話に関わる基礎的な内容を理解することができる。（DP1-1）
（知識・理解）

2. 日本の神話に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3. 日本の神話に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

岸根 敏幸

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・3時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

--- 概要 ---

神話は宗教とも密接に関係する、人間にとって欠かすことのできない文化上の重要な営みです。したがって、日本の文化を知り、それを受け継いでいく上でも、日本の神話に対する理解が必要となるでしょう。本授業では日本の神話について、以下に示す三つのテーマに基づいて、詳しく検討していきます。

第一のテーマは「日本の神話の世界像」です。日本の神話には、地上にある葦原の中つ国という世界以外にも、高天原、黄泉つ国、根の堅州国、常世の国などといった様々な世界が登場しており、古代の日本人が実に多彩な世界像を持っていたことが窺われます。このテーマでは、その世界像について具体的に検討します。

第二のテーマは「日本の神話における神観念」です。日本の神話には実に多くの神が登場していますが、そもそも日本の神話において神はどのような存在として位置づけられているのでしょうか。このテーマでは、その問題の核心に迫るために、神という観念について様々な観点から検討します。

第三のテーマは「ホノニギとホワリの神話」です。『古事記』と『日本書紀』の最後を飾る神話は「日向神話」とも呼ばれており、南九州を舞台に展開されています。このテーマでは、コノハナノサクヤビメと結婚する話や、海中にあるワタツミの宮殿を訪ねる話など、ホノニギとホワリを軸に展開される神話について検討します。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式でおこないます。担当教員が作成した教科書に基づいて、随時、それに解説や補足を加えながら、講義していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

・日本の神話に関わる基礎的な内容を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

・日本の神話に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。(DP2-1)(知識・理解)

・日本の神話に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

・教科書を精読し、不明な箇所は自分で調べてください。(90分)

・筆記した内容を確認しながら、教科書を再読してください。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・授業に関わる基礎的な内容を理解し、その重要点を指摘できるかということを成績評価基準とします。

・定期試験の結果(100%)で成績評価をおこないます。

--- テキスト ---

・岸根敏幸著『日本の神話 その諸様相』、晃洋書房、2300円(税別)、ISBN 978-4-7710-1833-4

--- 履修上の留意点 ---

出席状況が成績評価に直接影響することはありませんが、定期試験では、授業に出席していないと解答できない問題も出題されます。

--- 授業計画 ---

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 世界の神話における世界像
- 3 高天原に関する記述
- 4 「葦原の中つ国」の意味
- 5 黄泉つ国と根の堅州国
- 6 日本の神話における「神」
- 7 神の誕生の仕方
- 8 自然神という性格
- 9 観念神という性格
- 10 日向神話とは
- 11 オホヤマツミのウケヒ
- 12 ウミサチビコとヤマサチビコ
- 13 ホデリの服従と隼人の位置づけ
- 14 授業のまとめ
- 15 授業アンケートFURIKAの実施、成績評価に関わる説明

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/lma1rc74mpmqcnqrhvvfa3z6oqhjnpp>)

岸根 敏幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 日本の神話に関わる基礎的な内容を理解することができる。（DP1-1）
（知識・理解）

2. 日本の神話に対する学習を通して、文化の多様性について理解を深めることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3. 日本の神話に対する学習を通して、古代人の思想文化について理解を深めることができる。（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

徳安 祐子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

--- 概要 ---

日本人の多くは、自分が「無宗教である」「宗教とは関係がない」と考えているといわれます。しかし、私たちの社会では、初詣やお葬式など宗教的な習わしや儀礼がおこなわれ、神社や寺院が身近にあります。宗教に関わる場面は身の周りにたくさんあり、それを体験することも珍しくありません。一方で、現在の日本社会では宗教を含む多文化共生が重要な課題であり、また世界情勢をめぐるニュースでも宗教が取り上げられることがあります。このような社会状況のなかで、宗教について「知らない」「関係ない」ですませることができなくなっています。本講義では、宗教学的な知見をもとに、さまざまな宗教について知識を深めていきます。自分とは違う価値観を持つ人がいることを理解し、広い視野、柔軟な考え方を身につけ、宗教や文化の異なる他者に対してどのように向き合うべきかを自ら考えることができるようになることを目的としています。講義では、まず宗教学の考え方について概説し、その後世界の中のさまざまな宗教をとりあげます。世界の宗教、アジアの宗教、そして日本社会における宗教についてとりあげていきます。授業は主に講義形式で行います。適宜映像資料を用いて、宗教実践を行う人々について具体的なイメージをもとに考えていきたいと思います。数回の授業ではグループワークやプレゼンテーション形式を取り入れる予定です（形式は受講人数によって変わります）。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、テキストと教員が作成した講義資料を用いて講義形式で行います。毎回授業内容の理解を確かめるために最後の10分間でミニッツペーパーを記入、提出してもらいます。また、数回の授業ではグループワークやプレゼンテーションを行います（形式は受講人数によって変わります）。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

宗教についての基礎的な知識を身につけ、説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

さまざまな宗教について学び、多様な価値観・考え方を理解するという宗教学の考え方を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

さまざまな考え方・価値観について学ぶことによって、広い視野と柔軟な考え方を身につけ、他者や異文化を理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業前(予習)：次の授業回の範囲のテキストを読み、わからない用語などを調べておく。事前に準備が必要な場合(グループワークなど)は別途指定するので、それに取り組んでおく。(90分)

授業後(復習)：授業後はテキストの該当箇所や配布資料を読みなおし、毎回確実に理解するようにする。また、学んだ範囲については、関心を持ってニュースに接するなどして学びを深め、特に関心のある部分については、授業中に紹介する書籍等を読んでさらに理解を深める。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法は、定期試験、ミニッツペーパー、レポート、授業への参加度を総合して評価します。それぞれに、重視することと割合は下のとおりです。

定期試験：講義期間を通して授業で学んだことを理解しているか、30%
ミニッツペーパー：毎回の授業を理解しているか、関心を持って授業を聞いているか、30%

レポート：授業で学んだことを踏まえて自分の考えを自分の言葉で述べているか、20%

授業への参加度：グループワークやプレゼンテーションに積極的に取り組んでいるか、20%

--- テキスト ---

櫻井義秀・平藤喜久子、『よくわかる宗教学(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』、ミネルヴァ書房、2640円、ISBN978-4623072750

--- 履修上の留意点 ---

授業中の私語や不要不急の教室の出入りなど、他の受講者の妨げとなることはしないこと。グループワークやプレゼンテーションでは、積極的な発言が求められます。毎回ミニッツペーパーを提出してもらう際にはe-Learningシステム(Moodle)などのオンラインシステムを使用する予定なので、スマートフォン、タブレット、ノートPCのいずれかを持参してください。

--- 授業計画 ---

- 1 インTRODククション(スタートアップ授業)
- 2 宗教をどうとらえるか
- 3 世界の宗教 : ユダヤ教
- 4 世界の宗教 : キリスト教
- 5 世界の宗教 : イスラーム
- 6 世界の宗教 : ヒンドゥー教
- 7 世界の宗教 : 仏教
- 8 世界の宗教 : グループワーク/プレゼンテーション
- 9 アジアの宗教 : 東南アジアの仏教
- 10 アジアの宗教 : 東南アジアの精霊信仰
- 11 日本の宗教 : 日本の民俗信仰
- 12 日本の宗教 : 日本の仏教
- 13 日本の宗教 : 日本の神道
- 14 日本の宗教 : グループワーク/プレゼンテーション
- 15 まとめ・授業アンケート(FURIKA)実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/s34cpbwr47seq11t6aiowvslqz5ajaug>)

徳安 祐子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.宗教についての基礎的な知識を身につけ、説明することができる。（DP1-1）
（知識・理解）

2.さまざまな宗教について学び、多様な価値観・考え方を理解するという宗教学の考え方を理解することができる。（DP2-1）（知識・理解）

3.さまざまな考え方・価値観について学ぶことによって、広い視野と柔軟な考え方を身につけ、他者や異文化を理解することができる。（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

飯嶋 秀治

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：木・1 時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

本授業では、主に講義形式とディスカッション形式を組み合わせを進める。

「宗教」や「信仰」について尋ねると、戦後日本の統計では、約7割が自らとは関係がないものとして考えていることが分かっている。

ところが質問を変えて「行動」について尋ねると、約7割が「墓参り」にゆき「初詣」に行くことも分かっている。墓参りの場所はほぼ仏教寺院であるし、初詣の場所はほぼ神社であるから、これは仏教や神道の施設ということになる。

このように、個人的には「宗教」や「信仰」の自覚がないのだが、「行動」としては多くの日本人が従っているのが日本の宗教の姿である。

海外旅行に出かけたり、海外から来た訪問者との間で、お互いの国の宗教というのはしばしば話題になるが、上に書いたような状況を把握していないため、日本の宗教について説明できる日本人はごく少ない、といえよう。

なので、本授業では、複数の話題に触れながら、自らが行ってきた体験を振り返り、宗教と言われる現象とどのような関係があるのかをディスカッションして、授業を受ける前と異なって宗教に対する自らの体験の複雑性に気づけるようにしたいと考えている。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業では、まず授業の前に必ず、履修生が教科書の1つの章を読んで授業に来ることが前提です。

授業では、読んできた内容を前提にして、その章ごとの主題についてディスカッションしてもらいます。

また授業では、教科書とディスカッションに関連した補足知識を講義します。

最後にこの3つの体験を毎回小テストに書いてもらいます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

「宗教」に関する基本的な事実が説明できるようになる(DP1-1)(知識・理解)

「宗教」に関する基本的知識が職場でも活かせるようになる(DP1-2)(知識・理解)

世界には様々な「宗教」があることに気づけるようになる(DP2-2)(態度・志向性)

授業中の発言では根拠を明らかにしながら話せるようになる(DP3-1)(態度・志向性)

異なった体験や意見に対しても対話の姿勢を放棄しないようになる(DP4-2)(技能)

「宗教」への様々な学問からのアプローチがあることを説明できるようになる(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

指定された教科書の内容を読んだうえで授業に参加すること。(180分)

--- 成績評価基準および方法 ---

毎回の授業の最後に10分程度の時間を設け、それぞれの回の授業について小レポートを書いてもらいます。初回の説明は2%として全員に付与し、その後の14回では1回のレポートを7%とします。

--- テキスト ---

伊原木大祐・竹内綱史・古荘匡義編2023『宗教学(3STEPシリーズ)』昭和堂(2530円)

--- 履修上の留意点 ---

定期試験は実施しないため、再試験を受験することもできません。

--- 授業計画 ---

第1回はイントロダクション(スタートアップ授業)としてオンデマンド配信の予定です。

第2~4回は「宗教について考えるために」基礎的な構えを身につけます。

第5~9回は「宗教学の基本テーマを学ぶ」ことにします。

第10~15回は「宗教学の最新テーマを学ぶ」ことにします。

また、14回目か15回目に授業アンケートFURIKAを実施します。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/608k3ahxyxe8n44nlqt9pcy0ctt8q071>)

飯嶋 秀治

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 「宗教」に関する基本的な事実が説明できるようになる（DP1-1）（知識・理解）
2. 「宗教」に関する基本的知識が職場でも活かせるようになる（DP1-2）（知識・理解）
3. 世界には様々な「宗教」があることに気づけるようになる（DP2-2）（態度・志向性）
4. 授業中の発言では根拠を明らかにしながら話せるようになる（DP3-1）（態度・志向性）
5. 異なった体験や意見に対しても対話の姿勢を放棄しないようになる（DP4-2）（技能）
6. 「宗教」への様々な学問からのアプローチがあることを説明できるようになる（DP2-1）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

東谷 孝一

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・3時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

--- 概要 ---

西洋の思想は大局的にはギリシア・ヘレニズム思想とユダヤ・キリスト教思想が互いに影響し合うなかで形成されたといえるでしょう。ユダヤ・キリスト教の宗教思想は西洋世界における世界観・人間観の形成において極めて大きな影響を与えています。それは「世界のあること」や「人間であること」そのものについて、根本的にその意味を探求させるものでありました。なぜならば宗教は世界があることやその在り方についての私たちの理解の仕方に深くかかわるメッセージを伝えているからです。また他方、宗教は人間の幸福や自己実現、また人格と他者とのまじわり、人生における苦難や試練とその克服などの重要なことがかんして私たちに根本的な反省を迫るものともいえます。

この講義では、宗教と科学、神と経験、愛など、宗教哲学における中心的なテーマを皆さんと一緒に考察していきます。宗教哲学的な探求は私たちに自分が今までわかりきったことと思っていた事柄への再考をうながし、ものごとを新たな光の下で考える機会を与えてくれます。一緒に探求してみましょう。

なお、本授業は講義形式で行います。ポイントをメモしながら学ぶことが大切です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式で行います。予め配布された資料に目を通してもらった上で、解説を加えていきます。毎回の講義を聴講して、共感したことや疑問に思ったことなど、様々な感想が浮かんでくるとと思います。それらをミニツツペーパーに書いて毎回、授業終了後に提出していただきます。それらの質問・感想等を互いに共有し、再考することを通じて授業の双方向性・対話性（アクティブラーニング）を実現していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

- 1.宗教哲学的な探求のあり方の特徴がわかる。(DP1-1)(知識・理解)
- 2.宗教哲学の探求テーマについて、その重要性が理解できる。(DP2-1)(知識・理解)
- 3.ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質が理解できる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

- 1.事前に配布された資料をあらかじめよく読んでおくこと。(60分)
- 2.紹介された参考図書等を通じて復習し、理解を深めること。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法：ミニツツペーパー（30%）定期試験(70%)
 評価基準：宗教哲学における探求の特色、宗教哲学における探求テーマの重要性、ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質、にかんする理解の程度を基準として評価します。

--- テキスト ---

なし。必要に応じてプリントを配布します。

--- 参考書 ---

授業中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

集中して聴講し、重要事項をしっかりとメモすることは学習の重要な基本です。感想や疑問を自分の言葉で表現すると、学ぶ楽しみを実感できます。ミニツツペーパーを活用しましょう。

--- 授業計画 ---

- 1 イントロダクション（スタートアップ授業・動画配信）
- 2 啓示と神
- 3 続
- 4 宗教と科学
- 5 続
- 6 続
- 7 神と経験
- 8 続
- 9 プラグマティズムの宗教観
- 10 続
- 11 愛について、愛情（affection）
- 12 続 恋愛（eros）
- 13 続 友愛（friendship）
- 14 続 恵愛（charity）
- 15 まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/qhq97br3yff8m40mezffnkxn6ynr1nes>

東谷 孝一

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.1. 宗教哲学的な探求のあり方の特徴がわかる。 (DP1-1) (知識・理解)
- 2.2. 宗教哲学の探求テーマについて、その重要性が理解できる。 (DP2-1) (知識・理解)
- 3.3. ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質が理解できる。 (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

東谷 孝一

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・4時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

--- 概要 ---

西洋の思想は大局的にはギリシア・ヘレニズム思想とユダヤ・キリスト教思想が互いに影響し合うなかで形成されたといえるでしょう。ユダヤ・キリスト教の宗教思想は西洋世界における世界観・人間観の形成において極めて大きな影響を与えています。それは「世界のあること」や「人間であること」そのものについて、根本的にその意味を探求させるものでありました。なぜならば宗教は世界があることやその在り方についての私たちの理解の仕方に深くかかわるメッセージを伝えているからです。また他方、宗教は人間の幸福や自己実現、また人格と他者とのまじわり、人生における苦難や試練とその克服などの重要なことがかんして私たちに根本的な反省を迫るものともいえます。

この講義では、宗教と科学、神と経験、愛など、宗教哲学における中心的なテーマを皆さんと一緒に考察していきます。宗教哲学的な探求は私たちに自分が今までわかりきったことと思っていた事柄への再考をうながし、ものごとを新たな光の下で考える機会を与えてくれます。一緒に探求してみましょう。

なお、本授業は講義形式で行います。ポイントをメモしながら学ぶことが大切です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式で行います。予め配布された資料に目を通してもらった上で、解説を加えていきます。毎回の講義を聴講して、共感したことや疑問に思ったことなど、様々な感想が浮かんでくると思います。それらをミニツツペーパーに書いて毎回、授業終了後に提出していただきます。それらの質問・感想等を互いに共有し、再考することを通じて授業の双方向性・対話性（アクティブラーニング）を実現していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

- 1.宗教哲学的な探求のあり方の特徴がわかる。(DP1-1)(知識・理解)
- 2.宗教哲学の探求テーマについて、その重要性が理解できる。(DP2-1)(知識・理解)
- 3.ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質が理解できる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

- 1.事前に配布された資料をあらかじめよく読んでおくこと。(60分)
- 2.紹介された参考図書等を通じて復習し、理解を深めること。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価方法：ミニツツペーパー（30%）定期試験(70%)
 評価基準：宗教哲学における探求の特色、宗教哲学における探求テーマの重要性、ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質、にかんする理解の程度を基準として評価します。

--- テキスト ---

なし。必要に応じてプリントを配布します。

--- 参考書 ---

授業中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

集中して聴講し、重要事項をしっかりとメモすることは学習の重要な基本です。感想や疑問を自分の言葉で表現すると、学ぶ楽しみを実感できます。ミニツツペーパーを活用しましょう。

--- 授業計画 ---

- 1 イントロダクション（スタートアップ授業・動画配信）
- 2 啓示と神
- 3 続
- 4 宗教と科学
- 5 続
- 6 続
- 7 神と経験
- 8 続
- 9 プラグマティズムの宗教観
- 10 続
- 11 愛について、愛情（affection）
- 12 続 恋愛（eros）
- 13 続 友愛（friendship）
- 14 続 恵愛（charity）
- 15 まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/gkb2i49yu2igmo3e18xvf4vjjs0o2dy>

東谷 孝一

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.1. 宗教哲学的な探求のあり方の特徴がわかる。 (DP1-1) (知識・理解)
- 2.2. 宗教哲学の探求テーマについて、その重要性が理解できる。 (DP2-1) (知識・理解)
- 3.3. ユダヤ・キリスト教的世界観および人間観の特質が理解できる。 (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

小笠原 史樹

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：金・5時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

【生の教説】

様々な宗教思想は、「どのように生きるべきか」という素朴な問いへの多様な解答例、解答集でもあり得る。諸宗教の聖典や宗教的な古典において、神の命令として、あるいは仏の教えとして、あるいは聖者・賢者の知恵として、然るべき生き方が示される。それらの生き方をそのまま自分の生き方として採用するかどうかはともかく、諸宗教における伝統的な「生の教説」に触れることは、宗教について勉強し始める出発点として有効であるのみならず、生に関する自分の考え方、自分の価値観を相対化し、問い直す契機ともなるだろう。

以上の見通しに基づき、この授業では諸宗教の聖典や宗教的な古典を研究対象とし、それらの聖典・古典に見られる「生の教説」について、思想的・哲学的に検討する。そのような検討の過程で、諸宗教の思想に関する基礎知識を獲得し、また、聖典や古典を読解する能力を身につけること、さらに、自分の考え方を相対化する能力と、丁寧に議論しようとする意欲とを身につけることを目指す。

授業は、演習形式で行う。

後期は、古代インドや中国、日本の聖典・古典などを扱う。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は演習形式で行い、全体討論の回とグループ討論の回とを交互に繰り返しながら進める。授業資料は事前にFU_boxで、主にPDFファイルで公開する。

全体討論の回では、受講者全員が事前に提出するコメント課題などに基づき、クラス全体で議論する。グループ討論の回では幾つかのチームに分かれて、授業の前半、担当教員の出題する課題に各チームで取り組み、授業の後半で各チームの発表、及び質疑応答を行う。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1)(技能)

異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2)(技能)

自分の見解を的確に言語化し、かつ他者の発言を傾聴して、丁寧に議論しようとする意欲を持つ。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、事前に授業資料を通読し、自分の見解や疑問点について口頭で説明できるように準備したり、課題のコメントを作成したりしておく。(90分)

復習として、改めて授業資料を読み直し、授業中の議論などを踏まえて自分の理解や意見を再検討する。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験は実施しない。成績は、コメント作成などの課題（計5回、50%）と、授業中の発言や討論への貢献度などによる平常点（50%）に基づいて評価する。

課題に関しては、授業資料の内容を理解し、諸宗教の思想に関する基礎知識を得た上で、聖典や古典を的確に読解し、分析できているかどうかを、主な評価基準とする。フィードバックとして、提出された課題を添削して授業資料に掲載する。

平常点に関しては、自分の考え方を相対化する能力、丁寧に議論しようとする意欲、という二つを身につけているか否かを、主な評価基準とする。

- - - テキスト - - -

テキストは使用しない。
毎回の授業前にFU_boxで、主にPDFファイルで授業資料を公開する。

- - - 参考書 - - -

適宜、授業中に指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

予備知識は前提しないが、授業への十分な意欲は必要とされる。相当量の課題が課されるだけでなく、授業中も積極的・主体的な発言が要求されるため、「定期試験がない」という理由で履修するのは賢明ではない。

遅刻や無断欠席、課題提出の遅れなども決して許されない。

なお、定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできない。

- - - 授業計画 - - -

01. ガイダンス（スタートアップ授業）
02. 導入
03. 原始仏典：全体討論
04. 原始仏典：グループ討論
05. 『バガヴァッド・ギーター』：全体討論
06. 『バガヴァッド・ギーター』：グループ討論
07. 中国古典：全体討論
08. 中国古典：グループ討論
09. 中間考察
10. 『歎異抄』：全体討論
11. 『歎異抄』：グループ討論
12. 『正法眼蔵随聞記』：全体討論
13. 『正法眼蔵随聞記』：グループ討論
14. 補論
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

授業の進捗状況などに応じて、上記の計画が変更・修正される場合もある。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/js82yjvfqc8uu7kpak5c4exsgjekn2ul>)

小笠原 史樹

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 諸宗教の思想に関する基礎知識を持ち、それらについて正確に説明できる。(DP1-1) (知識・理解)
2. 諸宗教の聖典や宗教的な古典を読解し、分析することができる。(DP2-1) (技能)
3. 異なる様々な考え方を踏まえて、自分の考え方を相対化し、問い直すことができる。(DP2-2) (技能)
4. 自分の見解を的確に言語化し、かつ他者の発言を傾聴して、丁寧に議論しようとする意欲を持つ。(DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

久保 知里

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：月・4 時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

本科目では、日本列島における人々の生活の移り変わりについて学ぶ。中世（室町時代）までを対象の時期とし、歴史の大きな流れ、具体的には、日本列島に出現してくる文化や政権および為政者・権力者の動向、さらに対外的な交流を追うことにより、日本社会の変化を考える。

集団の形成、古代国家の成立、貴族中心から武家中心社会への転換など、日本社会は時代とともに変革を遂げていくが、その際、国際社会（世界）から大きな影響を受けている。中世までの日本にとって、国際社会とは主に東アジア世界を指し、国際社会の動向が「国づくり」を行う上で大きく関わっている。よって本講義では「世界」と「日本」の関わりにも注目しつつ、日本社会の変化を考えていく。

現在の日本社会を捉え、今後を考えるために「日本」がどのような歴史をたどってきたのか、どのような環境の中に存在してきたのかを理解することは、とても重要である。単に「歴史好き」としての知識習得ではなく、現代社会を考えるために歴史を学ぶことを主題とする。

授業は講義資料（スライド）を使用し、遠隔授業（オンデマンド）で行うため理解度確認の課題などの作成も適宜取り入れながら進める。そのなかで、自ら疑問を持つ、考える、文章で表現する等して、学習内容を自分のものとして獲得するようにしてほしい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

遠隔（オンデマンド配信）授業

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

理解した内容を論理的な文章によって表現することができる(DP1-1) (技能)

社会人として必要な知見、様々なことを考えるための素養を身につける(DP2-1)(知識・理解)

「日本」のはじまりから室町時代までの政治や文化の変化、対外関係について理解し、説明することができる(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

歴史の大きな流れを取り扱うため、細かな出来事の説明は省略することがある。各自で用語など（高校日本史程度）は予習・復習をすること(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

【評価基準】

歴史的事象について、歴史の大きな流れを理解し、日本社会の変化等を単なる暗記ではなく、原因や結果、その影響などを含め、論理的に表現することができるかを評価基準とする。

またオンデマンド（動画配信）授業のため、きちんと受講をしているかを含んだ理解度確認の課題を課す。毎回、課題を提出を持って出欠確認を行う。

【評価方法】

毎回（2～14回目）の授業で実施する理解度確認等課題(40%)、最終授業回（15回目）に課すレポート課題(60%)を目安として総合的に評価する。なお、最終講義に課すレポート課題は講義内容を踏まえた上で、論理的な文章で表現することが必要である。

定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

- - - テキスト - - -

使用しない。毎回講義資料を準備する（ダウンロード可能）。

- - - 参考書 - - -

『全集 日本の歴史』（1～8巻 小学館）、『日本の歴史』（00～14 講談社学術文庫 講談社）など。

- - - 履修上の留意点 - - -

ただ授業を聞くだけでは、学習にはならない。本授業を通じ、自ら疑問を持つ、考える、文章で表現する等して、学習をしてほしい。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イン트로ダクション：スタートアップ授業（動画配信）
- 2 「日本史」とは
- 3 日本列島での生活のはじまり
- 4 巨大な墓をつくる
- 5 日本の文化と古代国家の形成
- 6 「日本」の登場
- 7 国づくりの様相
- 8 平安京と文化の隆盛
- 9 武士の活躍と権力の移行
- 10 武士の活躍と権力の移行
- 11 武家政権「鎌倉」
- 12 中世の博多
- 13 権力者の交代と室町幕府
- 14 室町幕府の対外政策
- 15 総括

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ecb57g217cbxkj8v5zblew1ah07zih50>)

久保 知里

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.理解した内容を論理的な文章によって表現することができる (DP1-1) (技能)

2.社会人として必要な知見、様々なことを考えるための素養を身につける (DP2-1) (知識・理解)

3.「日本」のはじまりから室町時代までの政治や文化の変化、対外関係について理解し、説明することができる (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

久保 知里

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：月・4時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

本科目では、特に近世（江戸時代）以降の日本社会の動向について学ぶ。前近世の日本にとって「世界」とは主に東アジア世界を指していたが、ヨーロッパにおける大航海時代の始まりとともに、日本にとっての「世界」も広がりを見せ始める。

日本国内では、15世紀中頃以降の戦乱の時代を経て、「泰平」の近世（江戸時代）が訪れる。18世紀後半以降、日本がそれまでとは違う外国の諸勢力と出会い、混乱を経験しながら近代を迎え、戦争へ向かっていく。

世界の広がり、すなわち「グローバル化」への対応、関係する諸外国と日本社会がどのように関わり、展開し、行動をとるのか。また近代以降、戦争の時代へ突入する世界情勢のなかで「日本」とは何なのかを考えていく。

現在の日本社会を捉え、今後を考えるために日本がどのような歴史をたどってきたのか、どのような体験をしてきたのかを理解することは、とても重要である。単に「歴史好き」としての知識習得ではなく、現代社会と考えるために歴史を学ぶことを主題とする。

授業は講義資料（スライド）を使用した動画配信（オンデマンド）形式で行う。授業の理解度確認の課題等も適宜取り入れながら進める。そのなかで、自ら疑問を持つ、考える、文章で表現する等して、学習内容を自分のものとして獲得するようにしてほしい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

遠隔（オンデマンド配信）授業

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

理解した内容を論理的な文章によって表現することができる(DP1-1)
(技能)

社会人として必要な知見、様々なことを考えるための素養を身につける(DP2-1)(知識・理解)

「日本」のはじまりから室町時代までの政治や文化の変化、対外関係について理解し、説明することができる(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

歴史の大きな流れを取り扱うため、細かな出来事の説明は省略することがある。各自で用語など（高校日本史程度）は予習・復習をすること(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

【評価基準】

歴史的事象について、歴史の大きな流れを理解し、日本社会の変化等を単なる暗記ではなく、原因や結果、その影響などを含め、論理的に表現することができるかを評価基準とする。

またオンデマンド（動画配信）授業のため、きちんと受講をしているかを含んだ理解度確認の課題を課す。毎回、課題を提出を持って出欠確認を行う。

【評価方法】

毎回（2～14回目）の授業で実施する理解度確認等課題(40%)、最終授業回（15回目）に課すレポート課題(60%)を目安として総合的に評価する。なお、最終講義に課すレポート課題は講義内容を踏まえた上で、論理的な文章で表現することが必要である。

定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

- - - テキスト - - -

使用しない。毎回講義資料を準備する（ダウンロード可能）。

- - - 参考書 - - -

『全集 日本の歴史』（1～8巻 小学館）、『日本の歴史』（00～14 講談社学術文庫 講談社）など。

- - - 履修上の留意点 - - -

ただ授業を聞くだけでは、学習にはならない。本授業を通じ、自ら疑問を持つ、考える、文章で表現する等して、学習をしてほしい。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）
- 2 博多町割
- 3 織豊政権と福岡
- 4 「唐入り」と北部九州
- 5 「世界」の変化と対外政策
- 6 幕府とは何か
- 7 思想の転換
- 8 「停滞／成熟」の18世紀
- 9 江戸時代の生活
- 10 「内憂外患」の時代
- 11 テロと時代の変革
- 12 近代における戦争と日本
- 13 100年前の日本とは？
- 14 拡大する「日本」
- 15 総括

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/8m0bvlunwa2r2v2ide28e9lk175wp048>)

久保 知里

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.理解した内容を論理的な文章によって表現することができる (DP1-1) (技能)

2.社会人として必要な知見、様々なことを考えるための素養を身につける (DP2-1) (知識・理解)

3.「日本」のはじまりから室町時代までの政治や文化の変化、対外関係について理解し、説明することができる (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山田 貴司

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

--- 概要 ---

本講義は、特定の歴史上の人物にスポットをあて、その動向・事績・死後の評価等を検証していくことで、前近代の日本において政治史・経済史・軍事史・文化史の大きな転換点となった戦国時代から桃山時代にかけての歴史について、理解を深めること、私たちが持っている当時の社会や人物像に対するイメージ、あるいは通説といわれるものが、じつはそれ自体が歴史の産物であり、こんにちの研究で解明されつつある実像としばしば乖離している実態を把握し、歴史認識の“揺らぎやすさ”について考えることを目的とするものです。当時の古文書や日記等を駆使し、読み込んで展開されている歴史研究の手続きを少しずつ示しながら、進めていきます。

こうした目的に即して、講義の中では、近年急速に研究が進展しつつある明智光秀、細川ガラシャ、加藤清正などを取り上げる予定です。彼等は日本史に興味を持つ人であれば一度は耳にしたことのある著名な人物。近世から現代まで、小説、演劇、絵画、映画、ドラマ等のメディアにおいてそれぞれ個性的なキャラクターとして語られ、描かれ、その歴史的イメージが再生産されてきました。ところが、研究で明らかにされつつある実像は、じつはそれとはまったく異なっています。どうしてそういったギャップが生まれるのか。最新の研究成果も紹介しながら、この点も一緒に考えていきましょう。

--- 授業の進行・方法 ---

・授業はパワーポイントを主として用い、用語説明等を板書で補足する講義形式の授業を実施します。資料は毎回プリントで配布します。また、必要に応じて動画資料も用います。
・授業期間中に、内容に関する問いに答える課題に2回程度取り組み、提出してもらいます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

史料にもとづいて歴史を読みとき、確実な根拠を踏まえて歴史上の人物の事績を説明することができる。(DP1-1)(技能)

歴史上の人物に付随する歴史的イメージが形成されてきた経緯やその根拠を理解し、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

同じ人物の事績であっても、時代や地域の状況によっては受け止められ方が異なっていることを理解し、説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業前に、前回配布されたプリントや提示された参考文献に目を通すこと。(90分)

授業後に、授業時に配布されたプリントを見直し、内容を復習しておくこと。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

定期試験を70%、授業中に課す課題30%で評価します。

定期試験の評価は到達目標の達成度に即して行います。具体的には、適切な用語を用いて設定した問題に答えているか、筋だてた日本語として説明できているか、内容は的確であるか、授業内容を理解しているか、という点におきます。

授業中に課す課題についても、評価基準は同様です。

なお、遅刻・早退を繰り返したり、スマートフォン等で講義に関係ないことをしたり、私語等により周囲に迷惑をかけるなど、受講態度に問題がある受講生については、警告のうえで減点します。

--- テキスト ---

とくにありません。プリントを配布します。

--- 参考書 ---

講義の中で、参考文献を提示します。必要に応じて、それを読んでください。

--- 履修上の留意点 ---

- 1 講義にあたり、プリント配布します。なくさず、ファイルして毎回持参してください。
- 2 ミニッツペーパーを配布し、感想や意見を書いてもらうことがあります。
- 3 私語や遅刻、飲食など、他の受講者の迷惑となる行為を行った者には、ペナルティーを科します。スマートフォン等で講義に関係ない作業・行為を行なっている場合も同様です。甚だしい場合は、退出を要求します。
- 4 なお、「授業計画」については、受講者数や進行具合などにより、変更する場合があります。

--- 授業計画 ---

- 1 シラバス説明及びイントロダクション(スタートアップ授業、動画配信)
- 2 歴史認識について考える
- 3 日本の戦国時代、桃山時代
- 4 明智光秀の実像とその語られ方(出自論)
- 5 明智光秀の実像とその語られ方(織田家臣として)
- 6 明智光秀の実像とその語られ方(本能寺の変)
- 7 ガラシャの実像とその語られ方(本能寺の変まで)
- 8 ガラシャの実像とその語られ方(キリスト教改宗)
- 9 ガラシャの実像とその語られ方(関ヶ原合戦)
- 10 ガラシャの実像とその語られ方(死後の語り)
- 11 加藤清正の実像とその語られ方(豊臣家臣として)
- 12 加藤清正の実像とその語られ方(肥後の大名時代)
- 13 加藤清正の実像とその語られ方(領国支配と貿易)
- 14 加藤清正の実像とその語られ方(死後の語り)
- 15 まとめ 授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/etydxo7e0fzy2bqd8atm2o9rfsmj90a4>)

山田 貴司

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.史料にもとづいて歴史を読みとき、確実な根拠を踏まえて歴史上の人物の事績を説明することができる。(DP1-1) (技能)

2.歴史上の人物に付随する歴史的イメージが形成されてきた経緯やその根拠を理解し、説明することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.同じ人物の事績であっても、時代や地域の状況によっては受け止められ方が異なっていることを理解し、説明することができる。(DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山田 貴司

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・5時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

--- 概要 ---

本講義は、特定の歴史上の人物にスポットをあて、その動向・事績・死後の評価等を検証していくことで、前近代の日本において政治史・経済史・軍事史・文化史の大きな転換点となった戦国時代から桃山時代にかけての歴史について、理解を深めること、私たちが持っている当時の社会や人物像に対するイメージ、あるいは通説といわれるものが、じつはそれ自体が歴史の産物であり、こんにちの研究で解明されつつある実像としばしば乖離している実態を把握し、歴史認識の“揺らぎやすさ”について考えることを目的とするものです。当時の古文書や日記等を駆使し、読み込んで展開されている歴史研究の手続きを少しずつ示しながら、進めていきます。

こうした目的に即して、講義の中では、近年急速に研究が進展しつつある明智光秀、細川ガラシャ、加藤清正などを取り上げる予定です。彼等は日本史に興味を持つ人であれば一度は耳にしたことのある著名な人物。近世から現代まで、小説、演劇、絵画、映画、ドラマ等のメディアにおいてそれぞれ個性的なキャラクターとして語られ、描かれ、その歴史的イメージが再生産されてきました。ところが、研究で明らかにされつつある実像は、じつはそれとはまったく異なっています。どうしてそういったギャップが生まれるのか。最新の研究成果も紹介しながら、この点も一緒に考えていきましょう。

--- 授業の進行・方法 ---

・授業はパワーポイントを主として用い、用語説明等を板書で補足する講義形式の授業を実施します。資料は毎回プリントで配布します。また、必要に応じて動画資料も用います。
・授業期間中に、内容に関する問いに答える課題に2回程度取り組み、提出してもらいます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

史料にもとづいて歴史を読みとき、確実な根拠を踏まえて歴史上の人物の事績を説明することができる。(DP1-1)(技能)

歴史上の人物に付随する歴史的イメージが形成されてきた経緯やその根拠を理解し、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

同じ人物の事績であっても、時代や地域の状況によっては受け止められ方が異なっていることを理解し、説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業前に、前回配布されたプリントや提示された参考文献に目を通すこと。(90分)

授業後に、授業時に配布されたプリントを見直し、内容を復習しておくこと。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

定期試験を70%、授業中に課す課題30%で評価します。

定期試験の評価は到達目標の達成度に即して行います。具体的には、適切な用語を用いて設定した問題に答えているか、筋だてた日本語として説明できているか、内容は的確であるか、授業内容を理解しているか、という点におきます。

授業中に課す課題についても、評価基準は同様です。

なお、遅刻・早退を繰り返したり、スマートフォン等で講義に関係ないことをしたり、私語等により周囲に迷惑をかけるなど、受講態度に問題がある受講生については、警告のうえで減点します。

--- テキスト ---

とくにありません。プリントを配布します。

--- 参考書 ---

講義の中で、参考文献を提示します。必要に応じて、それを読んでください。

--- 履修上の留意点 ---

- 1 講義にあたり、プリント配布します。なくさず、ファイルして毎回持参してください。
- 2 ミニッツペーパーを配布し、感想や意見を書いてもらうことがあります。
- 3 私語や遅刻、飲食など、他の受講者の迷惑となる行為を行った者には、ペナルティーを科します。スマートフォン等で講義に関係ない作業・行為を行なっている場合も同様です。甚だしい場合は、退出を要求します。
- 4 なお、「授業計画」については、受講者数や進行具合などにより、変更する場合があります。

--- 授業計画 ---

- 1 シラバス説明及びイントロダクション(スタートアップ授業、動画配信)
- 2 歴史認識について考える
- 3 日本の戦国時代、桃山時代
- 4 明智光秀の実像とその語られ方(出自論)
- 5 明智光秀の実像とその語られ方(織田家臣として)
- 6 明智光秀の実像とその語られ方(本能寺の変)
- 7 ガラシャの実像とその語られ方(本能寺の変まで)
- 8 ガラシャの実像とその語られ方(キリスト教改宗)
- 9 ガラシャの実像とその語られ方(関ヶ原合戦)
- 10 ガラシャの実像とその語られ方(死後の語り)
- 11 加藤清正の実像とその語られ方(豊臣家臣として)
- 12 加藤清正の実像とその語られ方(肥後の大名時代)
- 13 加藤清正の実像とその語られ方(領国支配と貿易)
- 14 加藤清正の実像とその語られ方(死後の語り)
- 15 まとめ 授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/b0ar1878ub7e2t40htbirwu5wylwwn9c>)

山田 貴司

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.史料にもとづいて歴史を読みとき、確実な根拠を踏まえて歴史上の人物の事績を説明することができる。(DP1-1) (技能)

2.歴史上の人物に付随する歴史的イメージが形成されてきた経緯やその根拠を理解し、説明することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.同じ人物の事績であっても、時代や地域の状況によっては受け止められ方が異なっていることを理解し、説明することができる。(DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

松木 俊暁

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：水・4時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

--- 概要 ---

この授業は、古代の通史を題材として「日本」という枠組みの成立過程を検討する。日本史とは「日本」の歴史である。では、「日本」とは何か。この授業のねらいは、ともすれば自明と考えがちな「日本」という枠組みを、古代史に題材をとって再検討することにある。「日本」という国号が成立したのは7世紀末と考えられており、それ以前には「日本」も、「日本人」も存在しなかった。一國史観（ひとつの国の中でのみ歴史を考える態度）ではなく、古代東アジア世界の国際情勢の中で、ヤマト政権や律令国家の仕組みを概観しながら、古代国家の成立過程、ひいては「日本」のなりたちを考えていく。

事件や人名の暗記ではなく、その事件がなぜ起きたのか（原因や背景）、その事件によって何がどう変わったのか（結果や意義）、その事件を起こした人物はなぜそのような行動を取ったのか（意図や動機）などを中心に説明していく。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、配布した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式である。史料を読み解き、解説・板書を行う。また、各回の授業内容の理解度を確認するために、授業時間外では毎回、FUポータルを通じた小テストや論述課題に取り組んでもらう。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

日本古代史の基礎的な事項・概念について理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

弥生時代の「クニ」、ヤマト政権、律令国家など、日本列島の古代の政治的なまとまりが成立していった要因や、その内部構造（仕組み）について理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

上記の政治的なまとまりが成立した背景として、中国王朝や朝鮮半島諸国との関係など、古代東アジアの国際関係・国際情勢について理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

単に事件名等の暗記ではなく、各時代の人々の立場や考えを想像し、「なぜそうなったのか」「その結果どうなったのか」など、歴史的事件の意義（因果関係）を理解・説明しようとする意識をもつ。(DP2-2)(態度・志向性)

歴史を学ぶことの意味を考え、自分なりの意見をもつようになる。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

(予習)各回の配付資料(プリント)で、次回でふれる資料を提示する。それらを下読みして資料の内容を把握する、知らない・わからない用語(事件名等)についてはあらかじめ調べるなど、授業の準備しておくこと。次回の授業は、下読み・準備を前提として進める。(80分)

(復習)各回の配付資料(プリント)で、今回の授業内容を整理するための設問を提示する。ノートなどを見返して授業内容を整理し、文章として説明できるようにしておくこと。また、FUポータルを通じての小テスト・論述課題に取り組むこと。もちろん参考文献の該当部分を読むことも推奨する。(100分)

--- 成績評価基準および方法 ---

1. 評価基準
・定期試験
歴史的用語や概念を覚えているかだけでなく、事件・制度の意味や、事項同士の関連性・因果関係を問い、授業内容を理解できているかを測る(到達目標1,2,3,4)。
・各回の小テスト
定期試験に準じる。各回の授業内容を理解しているか、その都度の確認のために行う(到達目標2,3)。授業への取り組みを測る指標にもなる。
・論述課題(ミニレポート)
これはテストではない。暗記科目と思っ込んで(であろう)皆さんに、歴史の学び方・考え方について考える機会を持ってもらい、各自の意見を書いてもらうものである。主体的に考えているか、積極的に意見表明しているか、が評価対象となる(到達目標5)。フィードバックとして、次回以降の授業で設問の意図等について解説を行う。

2. 評価方法

以下の割合を基本として総合的に評価する。

- ・定期試験：60%
- ・各回の小テスト：25%
- ・論述課題(ミニレポート)：15%

--- テキスト ---

特定のテキストは使用しない。
資料(プリント)を配付する。

--- 参考書 ---

吉田孝『日本の誕生』岩波新書 ISBN 4004305101
中谷功治『歴史を冒険するために』関西学院大学出版会
ISBN 486283034X

--- 履修上の留意点 ---

欠席に注意し、準備や復習(特に毎回の小テストやミニレポートの提出)を忘れないこと。

疑問点は質問をすること(個別にでも受け付ける)。

状況に応じて授業計画を変更する場合がある。

初回の授業(スタートアップ授業)で進め方・ルール等について説明するので、必ず視聴すること。

プリントは授業内容を説明するための材料であり、授業内容をまとめたレジュメではない。授業では、それらの材料を用いて説明・板書していくので、ノートを取ることを。

授業計画では各回で完結する内容となっているが、当然のことながら、授業は前回(もしくはそれ以前)の内容を踏まえて進んでいくので、内容の関連性に注意すること。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション(スタートアップ授業) / 歴史とはどんな学問か、授業の進め方などについて

2. 文明の周縁 クニの形成 / 稲作の伝来は、日本列島の社会をどんな風に変えたのか

3. 農業開始は進歩か / 農業開始によって得たもの・失ったもの

4. 東アジアと倭 朝貢と冊封 / 奴国や邪馬台国の中国王朝への使節派遣の意味、古代東アジアの国際秩序

5. ヤマト政権の成立 前方後円墳とは / 前方後円墳の意味・倭の五王の朝貢の意味

6. 治天下大王の出現 天下とは / ヤマト政権の「大王」の政治的意味

7. ヤマト政権の支配体制1 国造制と屯倉制 / ヤマト政権の内部構造について、国造と屯倉

8. ヤマト政権の支配体制2 氏姓制度と部民制 / ヤマト政権の内部構造について、氏姓制度と部民制

9. 六世紀の国際情勢 改革の前提 / 7世紀の改革の前提としての国際情勢、遣隋使の意味

10. 七世紀の政治改革1 推古朝 / 冠位十二階・憲法十七条の意味

11. 七世紀の政治改革2 大化改新 / 乙巳の変・改新の詔・公地公民・評制の意味

12. 七世紀の政治改革3 「日本」の成立 / 白村江の戦・庚午年籍・壬申の乱・飛鳥浄御原令・藤原京の意味

13. 律令国家1 官僚制 / 律令による朝廷組織・官位相当制・蔭位の制の意味

14. 律令国家2 籍帳制 / 律令による農民支配・戸籍・班田収授・租庸調の意味

15. 「日本」とは何だろうか 古代史の視点から / 改革の結果、成立した「日本」とは。授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/yzab59winxit6h77tidlg8ilejgxoikk>)

松木 俊暁

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.日本古代史の基礎的な事項・概念について理解し、説明できる。(DP1-1)
(知識・理解)

2.弥生時代の「クニ」、ヤマト政権、律令国家など、日本列島の古代の政治的なまとまりが成立していった要因や、その内部構造(仕組み)について理解し、説明できる。(DP2-1) (知識・理解)

3.上記の政治的なまとまりが成立した背景として、中国王朝や朝鮮半島諸国との関係など、古代東アジアの国際関係・国際情勢について理解し、説明できる。(DP2-1) (知識・理解)

4.単に事件名等の暗記ではなく、各時代の人々の立場や考えを想像し、「なぜそうなったのか」「その結果どうなったのか」など、歴史的イベントの意義(因果関係)を理解・説明しようとする意識をもつ。(DP2-2) (態度・志向性)

5.歴史を学ぶことの意味を考え、自分なりの意見をもつようになる。(DP2-2)
(態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

松木 俊暁

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：水・5時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

--- 概要 ---

この授業は、古代の通史を題材として「日本」という枠組みの成立過程を検討する。日本史とは「日本」の歴史である。では、「日本」とは何か。この授業のねらいは、ともすれば自明と考えがちな「日本」という枠組みを、古代史に題材をとって再検討することにある。「日本」という国号が成立したのは7世紀末と考えられており、それ以前には「日本」も、「日本人」も存在しなかった。一國史観（ひとつの国の中でのみ歴史を考える態度）ではなく、古代東アジア世界の国際情勢の中で、ヤマト政権や律令国家の仕組みを概観しながら、古代国家の成立過程、ひいては「日本」のなりたちを考えていく。

事件や人名の暗記ではなく、その事件がなぜ起きたのか（原因や背景）、その事件によって何がどう変わったのか（結果や意義）、その事件を起こした人物はなぜそのような行動を取ったのか（意図や動機）などを中心に説明していく。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、配布した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式である。史料を読み解き、解説・板書を行う。また、各回の授業内容の理解度を確認するために、授業時間外では毎回、FUポータルを通じた小テストや論述課題に取り組んでもらう。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

日本古代史の基礎的な事項・概念について理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

弥生時代の「クニ」、ヤマト政権、律令国家など、日本列島の古代の政治的なまとまりが成立していった要因や、その内部構造（仕組み）について理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

上記の政治的なまとまりが成立した背景として、中国王朝や朝鮮半島諸国との関係など、古代東アジアの国際関係・国際情勢について理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

単に事件名等の暗記ではなく、各時代の人々の立場や考えを想像し、「なぜそうなったのか」「その結果どうなったのか」など、歴史的イベントの意義（因果関係）を理解・説明しようとする意識をもつ。(DP2-2)(態度・志向性)

歴史を学ぶことの意味を考え、自分なりの意見をもつようになる。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

(予習) 各回の配付資料(プリント)で、次回でふれる資料を提示する。それらを下読みして資料の内容を把握する、知らない・わからない用語(事件名等)についてはあらかじめ調べるなど、授業の準備しておくこと。次回の授業は、下読み・準備を前提として進める。(80分)

(復習) 各回の配付資料(プリント)で、今回の授業内容を整理するための設問を提示する。ノートなどを見返して授業内容を整理し、文章として説明できるようにしておくこと。また、FUポータルを通じての小テスト・論述課題に取り組むこと。もちろん参考文献の該当部分を読むことも推奨する。(100分)

--- 成績評価基準および方法 ---

1. 評価基準

・定期試験
歴史的用語や概念を覚えているかだけでなく、事件・制度の意味や、事項同士の関連性・因果関係を問い、授業内容を理解できているかを測る(到達目標1,2,3,4)。

・各回の小テスト

定期試験に準じる。各回の授業内容を理解しているか、その都度の確認のために行う(到達目標2,3)。授業への取り組みを測る指標にもなる。

・論述課題(ミニレポート)

これはテストではない。暗記科目と思いついて(であろう)皆さんに、歴史の学び方・考え方について考える機会を持ってもらい、各自の意見を書いてもらうものである。主体的に考えているか、積極的に意見表明しているか、が評価対象となる(到達目標5)。フィードバックとして、次回以降の授業で設問の意図等について解説を行う。

2. 評価方法

以下の割合を基本として総合的に評価する。

- ・定期試験：60%
- ・各回の小テスト：25%
- ・論述課題(ミニレポート)：15%

--- テキスト ---

特定のテキストは使用しない。
資料(プリント)を配付する。

--- 参考書 ---

吉田孝『日本の誕生』岩波新書 ISBN 4004305101
中谷功治『歴史を冒険するために』関西学院大学出版会
ISBN 486283034X

--- 履修上の留意点 ---

欠席に注意し、準備や復習(特に毎回の小テストやミニレポートの提出)を忘れないこと。

疑問点は質問をすること(個別にでも受け付ける)。

状況に応じて授業計画を変更する場合がある。

初回の授業(スタートアップ授業)で進め方・ルール等について説明するので、必ず視聴すること。

プリントは授業内容を説明するための材料であり、授業内容をまとめたレジュメではない。授業では、それらの材料を用いて説明・板書していくので、ノートを取る。

授業計画では各回で完結する内容となっているが、当然のことながら、授業は前回(もしくはそれ以前)の内容を踏まえて進んでいくので、内容の関連性に注意すること。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション(スタートアップ授業) / 歴史とはどんな学問か、授業の進め方などについて

2. 文明の周縁 クニの形成 / 稲作の伝来は、日本列島の社会をどんな風に変えたのか

3. 農業開始は進歩か / 農業開始によって得たもの・失ったもの

4. 東アジアと倭 朝貢と冊封 / 奴国や邪馬台国の中国王朝への使節派遣の意味、古代東アジアの国際秩序

5. ヤマト政権の成立 前方後円墳とは / 前方後円墳の意味・倭の五王の朝貢の意味

6. 治天下大王の出現 天下とは / ヤマト政権の「大王」の政治的意味

7. ヤマト政権の支配体制1 国造制と屯倉制 / ヤマト政権の内部構造について、国造と屯倉

8. ヤマト政権の支配体制2 氏姓制度と部民制 / ヤマト政権の内部構造について、氏姓制度と部民制

9. 六世紀の国際情勢 改革の前提 / 7世紀の改革の前提としての国際情勢、遣隋使の意味

10. 七世紀の政治改革1 推古朝 / 冠位十二階・憲法十七条の意味

11. 七世紀の政治改革2 大化改新 / 乙巳の変・改新の詔・公地公民・評制の意味

12. 七世紀の政治改革3 「日本」の成立 / 白村江の戦・庚午年籍・壬申の乱・飛鳥浄御原令・藤原京の意味

13. 律令国家1 官僚制 / 律令による朝廷組織・官位相当制・蔭位の制の意味

14. 律令国家2 籍帳制 / 律令による農民支配・戸籍・班田収授・租庸調の意味

15. 「日本」とは何だろうか 古代史の視点から / 改革の結果、成立した「日本」とは。授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/p3ey6707ch7fq6vixmustq5g50vhov03>)

松木 俊暁

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.日本古代史の基礎的な事項・概念について理解し、説明できる。(DP1-1)
(知識・理解)

2.弥生時代の「クニ」、ヤマト政権、律令国家など、日本列島の古代の政治的なまとまりが成立していった要因や、その内部構造（仕組み）について理解し、説明できる。(DP2-1) (知識・理解)

3.上記の政治的なまとまりが成立した背景として、中国王朝や朝鮮半島諸国との関係など、古代東アジアの国際関係・国際情勢について理解し、説明できる。(DP2-1) (知識・理解)

4.単に事件名等の暗記ではなく、各時代の人々の立場や考えを想像し、「なぜそうなったのか」「その結果どうなったのか」など、歴史的イベントの意義（因果関係）を理解・説明しようとする意識をもつ。(DP2-2) (態度・志向性)

5.歴史を学ぶことの意味を考え、自分なりの意見をもつようになる。(DP2-2)
(態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

井手 麻衣子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・5時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

- - - 概要 - - -

この授業では、日本近世の政治史を中心に、江戸初期～中期の政治機構、社会集団、対外関係、経済や文化について学ぶ。近世社会の主要なテーマを広く学ぶことで、江戸時代のしくみを概説的に理解することを目的とする。また、授業で扱う内容がどのような作業を経て通説となっているか、史実として確定されていくのか、その一端を解説する。「歴史」となる過程を知ることで、歴史学の思考法を会得してほしい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で進め、毎回の授業の終わりにリアクションペーパーの提出を求める。授業内容について感想や質問をアウトプットする作業を繰り返すことにより、内容の理解を深めるとともに、自身の考えを言語化する力を培ってほしい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

日本近世史に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

日本近世史の重要な諸概念を理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

歴史学の諸問題へアプローチするための思考法を会得できる。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：参考文献の該当部分を読んでおくこと。(90分)

復習：授業中に補足した事項を想起しながら参考文献の該当部分を読むこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

- ・リアクションペーパー(14点)(到達目標1・2・3に対する到達度により評価)
- ・中間課題(16点)(到達目標1・2・3に対する到達度により評価)
- ・定期試験(70点)(到達目標1・2・3に対する到達度により評価)

- - - テキスト - - -

適宜プリントを配布する。

- - - 参考書 - - -

高埜利彦『シリーズ日本近世史 天下泰平の時代』
ISBN 978-4-00-431524-7
倉地克直『江戸文化をよむ』 ISBN 4-642-07958-0

- - - 授業計画 - - -

- 第01回：イントロダクション(スタートアップ授業)
- 第02回：江戸幕府の機構と制度(1)
- 第03回：江戸幕府の機構と制度(2)
- 第04回：朝廷と公家(1)
- 第05回：朝廷と公家(2)
- 第06回：宗教勢力
- 第07回：東アジアと日本
- 第08回：綱吉期の政策と社会(1)
- 第09回：綱吉期の政策と社会(2)
- 第10回：新田開発と経済発展(1)
- 第11回：新田開発と経済発展(2)
- 第12回：武家文化・公家文化
- 第13回：町人文化
- 第14回：古文書を読もう
- 第15回：まとめ 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/vgwis2d6rbnjg8f3if6x1e0a35j71mtb>)

井手 麻衣子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.日本近世史に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.日本近世史の重要な諸概念を理解し、それらを説明することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.歴史学の諸問題へアプローチするための思考法を会得できる。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

福嶋 寛之

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：月・二部 1 時限 試験時間割：2024/07/29 夜 1 限

- - - 概要 - - -

現在、しばしば単一の「日本」なるものの虚構性を指摘し、多様な「日本」の存在でもって、それに対置させようとする言説を多く確認することができる。これはこれで誤りというわけではない。ただ、それではなぜ、そしてどのように単一の「日本」としてイメージされてきたのか、という問題は依然として残り続ける。本講義では、やや大胆に、膨張を繰り返してきた帝国日本としての戦前日本、1945年の敗戦による帝国解体とそれとパラレルに進行した戦後日本の形成、という対比のもと、上記問題に取り組みたい。

以上の日本の近現代史の歩みを理解することにより、自国認識を相対化し、異文化社会に対して複眼的な視点から評価できるようになることを目指す。

- - - 授業の進行・方法 - - -

教員が作成した紙の資料とスライド資料を用いて講義形式で行う。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

日本史に関する基本的な知識を獲得し、その展開について理解し説明することが出来る。(DP1-1)(知識・理解)

日本の近現代史に関する基本的な歴史資料の読解能力を養い、歴史を再構成する技能を身につける。(DP2-1)(技能)

歴史学的な思考に基づいて自国認識を相対化し、異文化社会に対して複眼的な視点から評価できる。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

事前学習としては、右に掲げた参考書を授業進度に応じて読む。あわせて、授業中に適宜紹介する文献で補う。(90分)

事後学習としては、授業の際に配布したプリントで骨格を再現し、自筆のノートで再構成・整理する。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

論述形式の定期試験において判定する(100%)。評価基準は、まずは日本の近現代史に関する基本的な展開を理解できているか、次に基本的な歴史資料の読解を通じ自分なりに歴史像の再現・構築する能力が出来ているか、最後に日本の近現代史を世界史的な視点から整理しなおし、以上を自身の言葉で論理的に表現できるか否かとする。

- - - テキスト - - -

無し。

- - - 参考書 - - -

授業全般を理解するにあたっては、小熊英二『日本人の境界』(新曜社、1998年)を挙げておく。個別の主題に関するものは、授業中に紹介していきたい。

- - - 履修上の留意点 - - -

一連の話として展開していくので、欠席すると理解が困難になることに注意してほしい。

- - - 授業計画 - - -

- 1 導入(スタートアップ授業)
- 2 近現代「日本」の輪郭
- 3 移民から見る日本の近代 北米・南米編
- 4 移民から見る日本の近代 アジア編
- 5 近代世界の形成と日本
- 6 近代日本の出発
- 7 北海道・沖縄の「日本」編入
- 8 東アジアの近代
- 9 植民地帝国日本の形成
- 10 植民地帝国日本の形成
- 11 植民地帝国日本の構造
- 12 植民地帝国日本の構造
- 13 戦時動員と帝国日本の流動化
- 14 帝国日本の解体と戦後日本の形成
- 15 総括および授業アンケート F U R I K A の実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/ljfohmfgb2esfkjod7uxf5tz207aiscy)

福嶋 寛之

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1.日本史に関する基本的な知識を獲得し、その展開について理解し説明することが出来る。(DP1-1)(知識・理解)

2.日本の近現代史に関する基本的な歴史資料の読解能力を養い、歴史を再構成する技能を身につける。(DP2-1)(技能)

3.歴史的な思考に基づいて自国認識を相対化し、異文化社会に対して複眼的な視点から評価できる。(DP2-2)(態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

梶原 良則

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：月・3時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

田中彰氏の『小国主義』をテキストとして、小国主義と大国主義をキーワードとして、明治維新直後の岩倉使節団から第二次世界大戦敗戦後の日本国憲法の制定にいたる日本近代史の大きな流れを理解したうえで、現在議論を巻き起こしている問題、例えば憲法改正問題などについて全員で討論(ディベート)を行う。

本授業は、与えられたテーマに関するグループワークを中心とした授業で、グループ発表に対する質疑応答や討論を行いながら授業を進行する。

- - - 授業の進行・方法 - - -

ゼミナール(ゼミ)形式の科目なので、学生によるグループ報告と質疑・討論を中心とした授業となる。

まず、受講生全員が少人数(4・5人程度)のグループに分かれ、テキストおよび関連するテーマについて調査・報告を行い、その報告に対して質疑応答を行う形で進め、最後に全員で憲法改正問題などについて討論(ディベート)を行う。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

日本近代史の大きな流れを理解し説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

小国主義の基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

自分たちのグループ報告に対する他者の意見に敬意を表し、冷静に議論することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

他のグループの報告に対して適切な質問や意見を述べるができる。(DP2-2)(技能)

グループ内で担当した役割を果たし、より良いグループ報告となるよう努力することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

自分の所属するグループ報告の準備。(120分)

他のグループ報告に該当するテキストを読み、質問などを考えておく。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

ゼミ形式の科目なので定期試験は実施しない。

グループ報告および討論について、1.グループのグループの方針についてグループ内で十分に話し合いを行うことができたか。2.グループの方針に沿って自らの役割を理解し、十分な調査を行い、適切な報告資料を作成することができたか。3.報告資料に基づきわかりやすい口頭発表を行うことができたか。4.他グループの報告に対して、事前にテキストの該当部分を読むなどの準備をして授業に臨み、質問意見を述べることができたか。これらの到達度合いを総合的に判断して評価を行う。評価の割合は、概ね1.~3.を7割、4.を3割と想定している。

- - - テキスト - - -

田中彰『小国主義』(岩波新書、1999年)

- - - 参考書 - - -

テキストに記載されている参考文献の他、授業中にも随時紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

ゼミ形式の科目なので出席することが前提となる。

1年生を対象とし、全員が報告できるように15名を受講者数の上限とする。

定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできない。

- - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 テキストの紹介と調査・報告方法の説明
- 3 グループ分けと報告内容・順番の決定
- 4 グループ報告と質疑応答
- 5 グループ報告と質疑応答
- 6 グループ報告と質疑応答
- 7 グループ報告と質疑応答
- 8 グループ報告と質疑応答
- 9 グループ報告と質疑応答
- 10 グループ報告と質疑応答
- 11 グループ報告と質疑応答
- 12 討論(ディベート)1
- 13 討論(ディベート)2
- 14 討論(ディベート)3
- 15 総括 授業アンケートFURIKAの実施(予定)

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/9qd1qj7ogn7dizil2npvz8pn8qyx0k51>

梶原 良則

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1.日本近代史の大きな流れを理解し説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.小国主義の基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.自分たちのグループ報告に対する他者の意見に敬意を表し、冷静に議論することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.他のグループの報告に対して適切な質問や意見を述べるができる。(DP2-2)(技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.グループ内で担当した役割を果たし、より良いグループ報告となるよう努力することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山田 貴司

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：木・5時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

- - - 概要 - - -

本講義は、荘園や村落といった地域社会の側に視点を据え、中世後期から中近世移行期にかけての政治・経済・社会の状況を見直すことにより、前近代の日本において政治史・経済史・軍事史・文化史の大きな転換点となった室町時代から桃山時代にかけての歴史について、理解を深めること、私たちが持っている当時の社会や村落、百姓等に対するイメージが、こんにちの研究で解明されつつある実像としばしば乖離している実態を把握することを目的とするものです。戦乱の中、民衆は逃げ惑うばかりだったのか、搾取されるばかりだったのか。「惣村」を「生命維持装置」として、したたかに乱世を生きのびようとしていた人々の実像を学んでいきましょう。

当時の古文書や日記等を駆使し、読み込んで展開されている歴史研究の手続きも少しずつ示しながら、進めていきます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

- ・授業はパワーポイントを主として用い、用語説明等を板書で補足する講義形式の授業を実施します。資料は毎回プリントで配布します。また、必要に応じて動画資料も用います。
- ・授業期間中に、内容に関する問いに答える課題に2回程度取り組み、提出してもらいます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

史料にもとづいて歴史を読みとき、確実な根拠を踏まえて歴史的な事象を説明することができる。(DP1-1)(技能)

中世の日本列島社会の様相を理解し、そこに成立していた村落共同体の特質を説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

こんにちとは異なる中世民衆の行動原理や志向性、共同体のあり様を理解し、その歴史的変遷を説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業前に、配布されたプリントや提示された参考文献に目を通すこと。(90分)

授業後に、授業時に配布されたプリントを見直し、内容を復習しておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験を70%、授業中に課す課題30%で評価します。

定期試験の評価は到達目標の達成度に即して行います。具体的には、適切な用語を用いて設定した問題に答えているか、筋だてた日本語として説明できているか、内容は的確であるか、授業内容を理解しているか、という点におきます。

授業中に課す課題についても、評価基準は同様です。

なお、遅刻・早退を繰り返したり、スマートフォン等で講義に関係ないことをしたり、私語等により周囲に迷惑をかけるなど、受講態度に問題がある受講生については、警告のうえで減点します。

- - - テキスト - - -

とくにありません。プリントを配布します。

- - - 参考書 - - -

講義の中で、参考文献を提示します。必要に応じて、それを読んでください。

- - - 履修上の留意点 - - -

- 1 講義にあたり、プリント配布します。なくさず、ファイルして毎回持参してください。
- 2 ミニッツペーパーを配布し、感想や意見を書いてもらうことがあります。
- 3 私語や遅刻、飲食など、他の受講者の迷惑となる行為を行った者には、ペナルティーを科します。スマートフォン等で講義に関係ない作業・行為を行なっている場合も同様です。甚だしい場合は、退出を要求します。
- 4 なお、「授業計画」については、受講者数や進行具合などにより、変更する場合があります。

- - - 授業計画 - - -

- 1 シラバス説明及びイントロダクション(スタートアップ授業、動画配信)
- 2 日本の中世とは(時代区分、封建制、武者の世)
- 3 日本の中世とは(戦争の時代、対外関係)
- 4 中世民衆の生活舞台(村落、市、町)
- 5 中世民衆の生活舞台(村の構造)
- 6 中世の自然環境・生活環境
- 7 中世にみられた自力救済・当事者主義
- 8 惣村の自治的・国家的性格(構成員と身分、惣掟)
- 9 惣村の自治的・国家的性格(自検断、村の武力)
- 10 惣村の自治的・国家的性格(村請、村の習俗)
- 11 惣村と外部勢力(近隣の村との対立)
- 12 惣村と外部勢力(近隣の村との紛争解決)
- 13 惣村と外部勢力(近隣の村との友好関係)
- 14 惣村と外部勢力(領主との契約・交渉・駆け引き)
- 15 まとめ 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/mz415zvcgl75vvrnt5p5sgz1j8yt9p6b>

山田 貴司

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.史料にもとづいて歴史を読みとき、確実な根拠を踏まえて歴史的事象を説明することができる。(DP1-1) (技能)

2.中世の日本列島社会の様相を理解し、そこに成立していた村落共同体の特質を説明することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.こんにちとは異なる中世民衆の行動原理や志向性、共同体のあり様を理解し、その歴史的変遷を説明することができる。(DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

森 茂暁

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：水・3時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

- - - 概要 - - -

現代日本の庶民文化の源流をたどると、14世紀の南北朝時代に達するといわれる。日本の南北朝時代とは、この14世紀の半分以上をしめる時期であるが、この時代は実に大きな変革のときであった。

本講義では、その変革の時代が生んだ「佐々木導誉」という人物に注目する。佐々木導誉は、「バサラ大名」の威名をとる著名な南北朝動乱の主人公の一人であるが、この人物の生涯を史料実証的な手法によって追跡することをとおして、南北朝時代がいったいどのような内容と特質をもっているのか、具体的に考察する。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業は講義形式で行います。
 まず、基本的なことを説明し、そののち、テキストの叙述にそ
 うかたちで、時代状況などについての講述を行う。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

歴史的人物の生きた時代の特徴を理解する(DP1-1)(技能)

歴史的人物の、時代との関わりの深化を段階的に理解できる
 (DP2-1)(知識・理解)

歴史とそれを作る人物との関係についての理解を活用できる
 (DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

テキスト、および参考書として指定した書籍を前もって読んで
 授業にのぞむこと、また授業ののちは、再読して復習すること
 (180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

主題についての理解がどの程度までできているかを、定期試
 験の成績によって評価する。

- - - テキスト - - -

森茂暁『佐々木導誉』吉川弘文館 1994年 1803
 円
 ISBN：9784642052016

- - - 参考書 - - -

森茂暁『戦争の日本史8 南北朝の動乱』吉川弘文館 2
 007年 2500円 ISBN 9784642063180

- - - 履修上の留意点 - - -

欠席しないこと。途中欠席して欠けると話の筋道がわから
 なくなるので、全部出ること。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イン트로ダクション(スタートアップ授業)
- 2 歴史と人物との関係
- 3～6 佐々木導誉の動向
- 7～10 佐々木導誉の動向
- 11～14 佐々木導誉の動向
- 15 まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
 ([https://fukuoka-u.box.com/s/
 j6l0ctg2imf1efrulxr976h96nn8vmp6](https://fukuoka-u.box.com/s/j6l0ctg2imf1efrulxr976h96nn8vmp6))

森 茂暁

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

- 1.歴史的人物の生きた時代の特質を理解する（DP1-1）（技能）
- 2.歴史的人物の、時代との関わりの深化を段階的に理解できる（DP2-1）（知識・理解）
- 3.歴史とそれを作る人物との関係についての理解を活用できる（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

松木 俊暁

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・4時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

--- 概要 ---

この授業では、仏教が伝来して、元来の神々への信仰（神祇信仰）と混ざり合っていく道筋を、史料（典籍、文学作品など）を用いて概観していく。信仰や教義の内容・変遷だけでなく、その背景として、社会情勢や政治のあり方との関連を検討していく。

まず神仏習合の前提として、神祇信仰・大乘仏教、それぞれの成り立ちからや基本的事項を取り上げる。次にそれらを踏まえ、神仏習合が本格化する奈良時代後半から鎌倉時代ころまでの信仰や教説の変化を見てゆき、その背景にある社会の変化や人々の考え方の変化を考える。

事件や教説の暗記ではなく、その事件がなぜ起きたのか・その変化を起こした人々はどんな社会状況に置かれていたのか（原因や背景）、その事件によって何がどう変わったのか（結果や意義）などを中心に説明していく。信仰を支えた人々の立場を考察・想像できるようにすることも目的とする。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、配布した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式である。史料を読み解き、解説・板書を行う。また、各回の授業内容の理解度を確保するために、授業時間外では毎回、FUポータルを通じた小テストや論述課題に取り組んでもらう。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

古代・中世期の歴史的な文化現象についての基礎的な事項・概念を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

神仏習合に関わる信仰の歴史的な変化（仏教伝来・神宮寺・御霊信仰・浄土信仰・中世日本紀・神国思想など）と、その時代の社会状況とを、関連づけて理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

上記の歴史的な動きの前提である、神祇信仰と大乘仏教の特質・特徴の概要について理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

単に事件名等の暗記ではなく、各時代の人々の立場や考えを想像し、「なぜそうなったのか」「その結果どうなったのか」など、歴史的事件の意義（因果関係）を理解・説明しようとする意識をもつ。(DP2-2)(態度・志向性)

歴史を学ぶことの意味を考え、自分なりの意見をもつようになる。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

(予習)各回の配付資料(プリント)で、次回でふれる資料を提示する。それらを下読みして資料の内容を把握する、知らない・わからない用語(事件名等)についてはあらかじめ調べるなど、授業の準備しておくこと。次回の授業は、下読み・準備を前提として進める。(80分)

(復習)各回の配付資料(プリント)で、今回の授業内容を整理するための設問を提示する。ノートなどを見返して授業内容を整理し、文章として説明できるようにしておくこと。また、FUポータルを通じての小テスト・論述課題に取り組むこと。もちろん参考文献の該当部分を読むことも推奨する。(100分)

--- 成績評価基準および方法 ---

1. 評価基準
・定期試験
歴史的用語や概念を覚えているかだけでなく、事件・制度の意味や、事項同士の関連性・因果関係を問い、授業内容を理解できているかを測る(到達目標1,2,3,4)。
・各回の小テスト
定期試験に準じる。各回の授業内容を理解しているか、その都度の確認のために行う(到達目標2,3)。授業への取り組みを測る指標にもなる。
・論述課題(ミニレポート)
これはテストではない。暗記科目と思っ込んで(であろう)皆さんに、歴史の学び方・考え方について考える機会を持ってもらい、各自の意見を書いてもらうものである。主体的に考えているか、積極的に意見表明しているか、が評価対象となる(到達目標5)。フィードバックとして、次回以降の授業で設問の意図等について解説を行う。

2. 評価方法
以下の割合を基本として総合的に評価する。
・定期試験：60%
・各回の小テスト：25%
・論述課題(ミニレポート)：15%

--- テキスト ---

特定のテキストは使用しない。
資料(プリント)を配付する。

--- 参考書 ---

義江彰夫『神仏習合』岩波新書 ISBN 4004304539
佐藤弘夫『神国日本』ちくま新書 ISBN 4480062955

--- 履修上の留意点 ---

欠席に注意し、準備や復習(特に毎回の小テストやミニレポートの提出)を忘れないこと。
疑問点は質問をすること(個別にでも受け付ける)。
状況に応じて授業計画を変更する場合がある。
初回の授業(スタートアップ授業)で進め方・ルール等について説明するので、必ず視聴すること。
プリントは授業内容を説明するための材料であり、授業内容をまとめたレジュメではない。授業では、それらの材料を用いて説明・板書していくので、ノートを取ること。
授業計画では各回で完結する内容となっているが、当然のことながら、授業は前回(もしくはそれ以前)の内容を踏まえて進んでいくので、内容の関連性に注意すること。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション(スタートアップ授業) / 歴史学とはどんな学問か、授業の進め方などについて
2. 神祇信仰1 神祇信仰とは / 神祇信仰の基礎事項・当時の人々にとって神とは
3. 神祇信仰2 信仰と権力の関係 / 古代における租税に潜む神への供物の要素、幣帛・初穂・租庸調・記紀神話
4. 神祇信仰3 律令国家の神祇政策 / 律令国家は神々をどう扱ったか、神祇官・班幣
5. 仏教伝来1 仏教のなりたち / 初期仏教・上座部仏教・大乘仏教までの変遷について
6. 仏教伝来2 仏教の受容 / 倭国はすんなり仏教を受容したのか、仏教公伝・飛鳥寺・聖徳太子
7. 仏教伝来3 国家仏教 / なぜ朝廷は仏教を振興したのか、鎮護国家・国分寺
8. 神宮寺成立の背景1 仏になろうとする神 / 8世紀後半、誰が神宮寺を造営し始めたのか、神仏習合のはじまり
9. 神宮寺成立の背景2 社会の変容 / 神宮寺造営を促した8世紀後半の社会の変化とは、神仏習合の社会的背景、共同体と個人
10. 神宮寺成立の背景3 仲立としての密教 / 空海が伝えた密教の意味とは、顕教・密教・雑密・純密
11. 神仏習合の展開1 御霊信仰 / 御霊信仰・御霊会とは、その社会的背景とは
12. 神仏習合の展開2 ケガレ / ケガレ(穢)とは、平安期の人々はなぜケガレを忌避したのか、大祓・禊・物忌
13. 神仏習合の展開3 浄土信仰 / 浄土信仰はなぜ広まったか、往生要集・浄土と穢土
14. 神仏習合の展開4 本地垂迹説と「中世日本紀」 / 本地垂迹説とは、それに基づいた記紀神話の読み替えとは
15. 神仏習合の展開5 神国思想 / 日本を神国とする思想の仏教的背景について。授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/ssx6z4pfvjyolt92wa3rpjvwwzo68son>)

松木 俊暁

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.古代・中世期の歴史的な文化現象についての基礎的な事項・概念を理解し、説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

2.神仏習合に関わる信仰の歴史的な変化(仏教伝来・神宮寺・御霊信仰・浄土信仰・中世日本紀・神国思想など)と、その時代の社会状況とを、関連づけて理解し、説明できる。(DP2-1) (知識・理解)

3.上記の歴史的な動きの前提である、神祇信仰と大乘仏教の特質・特徴の概要について理解し、説明できる。(DP2-1) (知識・理解)

4.単に事件名等の暗記ではなく、各時代の人々の立場や考えを想像し、「なぜそうなったのか」「その結果どうなったのか」など、歴史的イベントの意義(因果関係)を理解・説明しようとする意識をもつ。(DP2-2) (態度・志向性)

5.歴史を学ぶことの意味を考え、自分なりの意見をもつようになる。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

松木 俊暁

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・5時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

--- 概要 ---

この授業では、仏教が伝来して、元来の神々への信仰（神祇信仰）と混ざり合っていく道筋を、史料（典籍、文学作品など）を用いて概観していく。信仰や教義の内容・変遷だけでなく、その背景として、社会情勢や政治のあり方との関連を検討していく。

まず神仏習合の前提として、神祇信仰・大乘仏教、それぞれの成り立ちからや基本的事項を取り上げる。次にそれらを踏まえ、神仏習合が本格化する奈良時代後半から鎌倉時代ころまでの信仰や教説の変化を見てゆき、その背景にある社会の変化や人々の考え方の変化を考える。

事件や教説の暗記ではなく、その事件がなぜ起きたのか・その変化を起こした人々はどんな社会状況に置かれていたのか（原因や背景）、その事件によって何がどう変わったのか（結果や意義）などを中心に説明していく。信仰を支えた人々の立場を考察・想像できるようにすることも目的とする。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、配布した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式である。史料を読み解き、解説・板書を行う。また、各回の授業内容の理解度を確認するために、授業時間外では毎回、FUポータルを通じた小テストや論述課題に取り組んでもらう。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

古代・中世期の歴史的な文化現象についての基礎的な事項・概念を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

神仏習合に関わる信仰の歴史的な変化（仏教伝来・神宮寺・御霊信仰・浄土信仰・中世日本紀・神国思想など）と、その時代の社会状況とを、関連づけて理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

上記の歴史的な動きの前提である、神祇信仰と大乘仏教の特質・特徴の概要について理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

単に事件名等の暗記ではなく、各時代の人々の立場や考えを想像し、「なぜそうなったのか」「その結果どうなったのか」など、歴史的イベントの意義（因果関係）を理解・説明しようとする意識をもつ。(DP2-2)(態度・志向性)

歴史を学ぶことの意味を考え、自分なりの意見をもつようになる。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

(予習) 各回の配付資料（プリント）で、次回でふれる資料を提示する。それらを下読みして資料の内容を把握する、知らない・わからない用語（事件名等）についてはあらかじめ調べるなど、授業の準備しておくこと。次回の授業は、下読み・準備を前提として進める。(80分)

(復習) 各回の配付資料（プリント）で、今回の授業内容を整理するための設問を提示する。ノートなどを見返して授業内容を整理し、文章として説明できるようにしておくこと。また、FUポータルを通じての小テスト・論述課題に取り組むこと。もちろん参考文献の該当部分を読むことも推奨する。(100分)

--- 成績評価基準および方法 ---

1. 評価基準
・定期試験
歴史的用語や概念を覚えているかだけでなく、事件・制度の意味や、事項同士の関連性・因果関係を問い、授業内容を理解できているかを測る（到達目標1,2,3,4）。
・各回の小テスト
定期試験に準じる。各回の授業内容を理解しているか、その都度の確認のために行う（到達目標2,3）。授業への取り組みを測る指標にもなる。
・論述課題（ミニレポート）
これはテストではない。暗記科目と思いついて（であろう）皆さんに、歴史の学び方・考え方について考える機会を持ってもらい、各自の意見を書いてもらうものである。主体的に考えているか、積極的に意見表明しているか、が評価対象となる（到達目標5）。フィードバックとして、次回以降の授業で設問の意図等について解説を行う。

2. 評価方法
以下の割合を基本として総合的に評価する。

- ・定期試験：60%
- ・各回の小テスト：25%
- ・論述課題（ミニレポート）：15%

--- テキスト ---

特定のテキストは使用しない。
資料（プリント）を配付する。

--- 参考書 ---

義江彰夫『神仏習合』岩波新書 ISBN 4004304539
佐藤弘夫『神国日本』ちくま新書 ISBN 4480062955

--- 履修上の留意点 ---

欠席に注意し、準備や復習（特に毎回の小テストやミニレポートの提出）を忘れないこと。

疑問点は質問をすること（個別にでも受け付ける）。

状況に応じて授業計画を変更する場合がある。

初回の授業（スタートアップ授業）で進め方・ルール等について説明するので、必ず視聴すること。

プリントは授業内容を説明するための材料であり、授業内容をまとめたレジュメではない。授業では、それらの材料を用いて説明・板書していくので、ノートを取ることに。

授業計画では各回で完結する内容となっているが、当然のことながら、授業は前回（もしくはそれ以前）の内容を踏まえて進んでいくので、内容の関連性に注意すること。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション（スタートアップ授業） / 歴史学とはどんな学問か、授業の進め方などについて
2. 神祇信仰1 神祇信仰とは / 神祇信仰の基礎事項・当時の人々にとって神とは
3. 神祇信仰2 信仰と権力の関係 / 古代における租税に潜む神への供物の要素、幣帛・初穂・租庸調・記紀神話
4. 神祇信仰3 律令国家の神祇政策 / 律令国家は神々をどう扱ったか、神祇官・班幣
5. 仏教伝来1 仏教のなりたち / 初期仏教・上座部仏教・大乘仏教までの変遷について
6. 仏教伝来2 仏教の受容 / 倭国はすんなり仏教を受容したのか、仏教公伝・飛鳥寺・聖徳太子
7. 仏教伝来3 国家仏教 / なぜ朝廷は仏教を振興したのか、鎮護国家・国分寺
8. 神宮寺成立の背景1 仏になるとうとする神 / 8世紀後半、誰が神宮寺を造営し始めたのか、神仏習合のはじまり
9. 神宮寺成立の背景2 社会の変容 / 神宮寺造営を促した8世紀後半の社会の変化とは、神仏習合の社会的背景、共同体と個人
10. 神宮寺成立の背景3 仲立としての密教 / 空海が伝えた密教の意味とは、顕教・密教・雑密・純密
11. 神仏習合の展開1 御霊信仰 / 御霊信仰・御霊会とは、その社会的背景とは
12. 神仏習合の展開2 ケガレ / ケガレ(穢)とは、平安期の人々はなぜケガレを忌避したのか、大祓・禊・物忌
13. 神仏習合の展開3 浄土信仰 / 浄土信仰はなぜ広まったか、往生要集・浄土と穢土
14. 神仏習合の展開4 本地垂迹説と「中世日本紀」 / 本地垂迹説とは、それに基づいた記紀神話の読み替えとは
15. 神仏習合の展開5 神国思想 / 日本を神国とする思想の仏教的背景について。授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/y06u7icny1g7it2n3zbgv5ppyjr0c9k1>)

松木 俊暁

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.古代・中世期の歴史的な文化現象についての基礎的な事項・概念を理解し、説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

2.神仏習合に関わる信仰の歴史的な変化（仏教伝来・神宮寺・御霊信仰・浄土信仰・中世日本紀・神国思想など）と、その時代の社会状況とを、関連づけて理解し、説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

3.上記の歴史的な動きの前提である、神祇信仰と大乘仏教の特質・特徴の概要について理解し、説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

4.単に事件名等の暗記ではなく、各時代の人々の立場や考えを想像し、「なぜそうなったのか」「その結果どうなったのか」など、歴史的イベントの意義（因果関係）を理解・説明しようとする意識をもつ。（DP2-2）（態度・志向性）

5.歴史を学ぶことの意味を考え、自分なりの意見をもつようになる。（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

桃崎 祐輔

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・1時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

- - - 概要 - - -

玄界灘に面した福岡は太古の昔から、中国大陸や朝鮮半島などの交渉・外交の窓口でした。このため福岡周辺には、古代から中世にかけての対外交渉や、国際戦争にかかわる遺跡がたくさん見つかり、日本全国の中でも特異な環境です。

本講義では、福岡周辺の具体的な遺跡をとりあげ、最新の研究成果を踏まえながら、その特徴や出土品について解説するとともに、そこからみえてくる福岡、および日本全体、さらに東アジア全体の歴史について考えていきたいと思います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業では、事前にWeb配信した教材の内容を踏まえながら、これに沿ったパワーポイントで遺跡・遺物・史跡・文献史料などの画像を提示し、これらの資料内容について説明するとともに、そこからどのような歴史が描けるのか解説します。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

福岡の著名遺跡について基礎知識を身に付け歴史的意義を理解する。(知識・理解)(DP1-1)(知識・理解)

教材文書を理解する読解力、正しく音読する訓読力をつける。(技能)(DP2-2)(技能)

歴史都市福岡に相応しい文化的志向性を育てる(態度・志向性)(DP1-2)(態度・志向性)

自身の居住する地域する地域の文化財や歴史を他地域の人に紹介する(技能)。(DP4-1)(技能)

文化財や史跡の特性や注目点の自分の志向や価値観に沿って評価できる(知識)。(DP3-1)(知識・理解)

遺跡や歴史の知識や理解を通じて自治体に主体的に参画・貢献する(態度・志向性)(DP4-2)(態度・志向性)

考古学という学問分野の存在を理解し、文化財保護の精神を学ぶ(知識・理解)(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

教材プリントを配信した場合は、必ず出力・保管し熟読すること。

(30分)

プリントに参考文献を記載するので、興味をもったものは探して読んでみる。

(30分)

授業で扱った遺跡や博物館を可能な範囲で見学すること。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験80%、平常点(授業への積極的参加)20%とする。
定期試験では、授業で取り扱った遺跡・歴史への理解、自身の居住する地域の文化財に対する理解の姿勢と具体的な事例の探索を評価基準とする。

- - - テキスト - - -

特にもうけない。必要に応じて講義前に資料をFUBOXで配布する。

- - - 履修上の留意点 - - -

授業では、オンラインで教材プリント配布します。配布したプリントは、配布日以後にも使用します。出力しファイルして毎回持参してください。

配布したプリントは、主な試験範囲にもなりますので、大切に保管してください。

ミニッツペーパーを配布し、感想や意見を書いてもらうことがあります。真面目に書いてください。

私語や遅刻など、他者の迷惑となる行為を行った者には、ペナルティーを科す場合があります。また、場合によっては退出を要求します。

下記の「授業計画」については、進行具合などにより変更する場合があります。

- - - 授業計画 - - -

- 1.はじめに(スタートアップ授業：動画配信)
- 2.浜の町貝塚と柏原遺跡からみた縄文時代
- 3.板付遺跡と吉武高木遺跡からみた稲作と青銅器
- 4.須玖遺跡と三雲遺跡からみた弥生時代のクニ
- 5.那珂八幡古墳・藤崎遺跡と三角縁神獣鏡
- 6.宗像沖ノ島の祭祀遺跡
- 7.福岡大学の中にある小袖古墳と首塚古墳
- 8.那珂比恵遺跡と那津官家
- 9.船原古墳・阿恵遺跡と糟屋屯倉
- 10.鴻臚館と遣唐使・遣新羅使
- 11.大宰府天満宮の創建と藤原純友の乱
- 12.英彦山山岳信仰遺跡の歴史
- 13.博多・筥崎宮とチャイナタウン
- 14.黒田長溥と火薬生産の遺跡
- 15.FURIKA実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/03qpb8qhiysfjb4xfa5giwq5yqrucrgb>)

桃崎 祐輔

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.福岡の著名遺跡について基礎知識を身に付け歴史的意義を理解する。(知識・理解) (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.教材文書を理解する読解力、正しく音読する訓読力をつける。(技能) (DP2-2) (技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.歴史都市福岡に相応しい文化的志向性を育てる(態度・志向性) (DP1-2) (態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.自身の居住する地域の文化財や歴史を他地域の人に紹介する(技能)。 (DP4-1) (技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.文化財や史跡の特性や注目点の自分の志向や価値観に沿って評価できる(知識)。 (DP3-1) (知識・理解)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

6.遺跡や歴史の知識や理解を通じて自治体に主体的に参画・貢献する(態度・志向性) (DP4-2) (態度・志向性)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

7.考古学という学問分野の存在を理解し、文化財保護の精神を学ぶ(知識・理解) (DP2-1) (知識・理解)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山田 貴司

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・二部 1 時限 試験時間割：2025/01/20 夜 1 限

- - - 概要 - - -

本講義は、荘園や村落といった地域社会の側に視点を据え、中世後期から中近世移行期にかけての政治・経済・社会の状況を見直すことにより、前近代の日本において政治史・経済史・軍事史・文化史の大きな転換点となった室町時代から桃山時代にかけての歴史について、理解を深めること、私たちが持っている当時の社会や村落、百姓等に対するイメージが、こんにちの研究で解明されつつある実像としばしば乖離している実態を把握することを目的とするものです。戦乱の中、民衆は逃げ惑うばかりだったのか、搾取されるばかりだったのか。「惣村」を「生命維持装置」として、したたかに乱世を生きのびようとしていた人々の実像を学んでいきましょう。

当時の古文書や日記等を駆使し、読み込んで展開されている歴史研究の手続きも少しずつ示しながら、進めていきます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

- ・授業はパワーポイントを主として用い、用語説明等を板書で補足する講義形式の授業を実施します。資料は毎回プリントで配布します。また、必要に応じて動画資料も用います。
- ・授業期間中に、内容に関する問いに答える課題に2回程度取り組み、提出してもらいます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

史料にもとづいて歴史を読みとき、確実な根拠を踏まえて歴史的事象を説明することができる。(DP1-1)(技能)

中世の日本列島社会の様相を理解し、そこに成立していた村落共同体の特質を説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

こんにちとは異なる中世民衆の行動原理や志向性、共同体のあり様を理解し、その歴史的変遷を説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業前に、配布されたプリントや提示された参考文献に目を通すこと。(90分)

授業後に、授業時に配布されたプリントを見直し、内容を復習しておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験を70%、授業中に課す課題30%で評価します。

定期試験の評価は到達目標の達成度に即して行います。具体的には、適切な用語を用いて設定した問題に答えているか、筋だてた日本語として説明できているか、内容は的確であるか、授業内容を理解しているか、という点におきます。

授業中に課す課題についても、評価基準は同様です。

なお、遅刻・早退を繰り返したり、スマートフォン等で講義に関係ないことをしたり、私語等により周囲に迷惑をかけるなど、受講態度に問題がある受講生については、警告のうえで減点します。

- - - テキスト - - -

とくにありません。プリントを配布します。

- - - 参考書 - - -

講義の中で、参考文献を提示します。必要に応じて、それを読んでください。

- - - 履修上の留意点 - - -

- 1 講義にあたり、プリント配布します。なくさず、ファイルして毎回持参してください。
- 2 ミニツッペーパーを配布し、感想や意見を書いてもらうことがあります。
- 3 私語や遅刻、飲食など、他の受講者の迷惑となる行為を行った者には、ペナルティーを科します。スマートフォン等で講義に関係ない作業・行為を行なっている場合も同様です。甚だしい場合は、退出を要求します。
- 4 なお、「授業計画」については、受講者数や進行具合などにより、変更する場合があります。

- - - 授業計画 - - -

- 1 シラバス説明及びイントロダクション(スタートアップ授業、動画配信)
- 2 日本の中世とは(時代区分、封建制、武者の世)
- 3 日本の中世とは(戦争の時代、対外関係)
- 4 中世民衆の生活舞台(村落、市、町)
- 5 中世民衆の生活舞台(村の構造)
- 6 中世の自然環境・生活環境
- 7 中世にみられた自力救済・当事者主義
- 8 惣村の自治的・国家的性格(構成員と身分、惣掟)
- 9 惣村の自治的・国家的性格(自検断、村の武力)
- 10 惣村の自治的・国家的性格(村請、村の習俗)
- 11 惣村と外部勢力(近隣の村との対立)
- 12 惣村と外部勢力(近隣の村との紛争解決)
- 13 惣村と外部勢力(近隣の村との友好関係)
- 14 惣村と外部勢力(領主との契約・交渉・駆け引き)
- 15 まとめ 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/g0d3aqbit4swiwxhp4u8mmgmj4jmyfnh>)

山田 貴司

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1.史料にもとづいて歴史を読みとき、確実な根拠を踏まえて歴史的事象を説明することができる。(DP1-1)(技能)

2.中世の日本列島社会の様相を理解し、そこに成立していた村落共同体の特質を説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

3.こんにちとは異なる中世民衆の行動原理や志向性、共同体のあり様を理解し、その歴史的変遷を説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

梶原 良則

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：月・3時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

まず、琉球・沖縄の歴史に関する啓蒙書の中で高い評価を得ている高良倉吉氏の『琉球王国』をテキストとして、琉球王国を中心とした前近代の沖縄の歴史に対する理解を深める。次に、明治政府によって日本に併合され(琉球処分)、第二次世界大戦敗戦後のアメリカ軍統治時代を経て日本への復帰(沖縄返還・本土復帰)をはたすという、近代の沖縄がたどった歴史を理解した上で、現在沖縄が抱えている問題、例えばアメリカ軍基地問題などについて討論(ディベート)を行う。

本授業は、与えられたテーマに関するグループワークを中心とした授業で、グループ発表に対する質疑応答や討論を行いながら授業を進行する。

- - - 授業の進行・方法 - - -

ゼミナール(ゼミ)形式の科目なので、学生によるグループ報告と質疑・討論を中心とした授業となる。

まず、受講生全員が少人数(4・5人程度)のグループに分かれ分担してテキストおよび関連するテーマについて調査・報告を行い、その報告に対して全員による質疑応答を行う形で進め、最後に全員でアメリカ軍基地問題など現在の沖縄が抱える問題について討論(ディベート)を行う。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

沖縄史の基礎的な知識を身につけ、説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

沖縄の現代的課題について多角的に分析し、解決策を考えることができる。(DP2-1)(知識・理解)

自分たちのグループ報告に対する他者の意見に敬意を表し、冷静に議論することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

他のグループの報告に対して適切な質問や意見を述べるができる。(DP2-2)(技能)

グループ内で担当した役割を果たし、より良いグループ報告となるよう努力することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

自分の所属するグループ報告の準備。(120分)

他のグループ報告に該当するテキストを読み、質問などを考えておく。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

ゼミ形式の科目なので定期試験は実施しない。
 グループ報告および討論について、1.グループの方針についてグループ内で十分に話し合いを行うことができたか。2.グループの方針に沿って自らの役割を理解し、十分な調査を行い、適切な報告資料を作成することができたか。3.報告資料に基づきわかりやすい口頭発表を行うことができたか。4.他グループの報告に対して、事前にテキストの該当部分を読むなどの準備をして授業に臨み、質問意見を述べることができたか。これらの到達度合いを総合的に判断して評価を行う。評価の割合は、概ね1.~3.を7割、4.を3割と想定している。

- - - テキスト - - -

高良倉吉『琉球王国』(岩波新書、1993年)

- - - 参考書 - - -

『新琉球史 古琉球編・近世編・近代現代編』(琉球新報社、1989-1992年)
 安里進他『沖縄県の歴史』(山川出版社、2004年)
 その他、テキストに記載されている参考文献を参照。

- - - 履修上の留意点 - - -

ゼミ形式の科目なので出席が前提となる。
 一年次生を対象とし、全員が報告できるように15名を限度とする。

定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできない。

- - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 テキストの紹介と調査・報告方法の説明
- 3 グループ分けと報告内容・順番の決定
- 4 グループ報告と質疑応答
- 5 グループ報告と質疑応答
- 6 グループ報告と質疑応答
- 7 グループ報告と質疑応答
- 8 グループ報告と質疑応答
- 9 グループ報告と質疑応答
- 10 グループ報告と質疑応答
- 11 グループ報告と質疑応答
- 12 討論(ディベート)1
- 13 討論(ディベート)2
- 14 討論(ディベート)3
- 15 総括 授業アンケートFURIKAの実施(予定)

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/yfwjoamniw1o0kmqabdcgbc2wqwmhayg>

梶原 良則

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1.沖縄史の基礎的な知識を身につけ、説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1【学び続けていくための確かな基礎】

2.沖縄の現代的課題について多角的に分析し、解決策を考えることができる。(DP2-1)(知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.自分たちのグループ報告に対する他者の意見に敬意を表し、冷静に議論することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.他のグループの報告に対して適切な質問や意見を述べるができる。(DP2-2)(技能)

理念2【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.グループ内で担当した役割を果たし、より良いグループ報告となるよう努力することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

木村 政伸

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：火・4時限 試験時間割：2025/01/27 6時限

- - - 概要 - - -

現在の日本に生きる私たちは、当たり前のように学校に行き学んでいます。しかし、そうした考え方が「不登校」などを「社会問題」としてとらえる基盤になっています。

では、いつどのような理由で私たちは学校に通い、学校以外に学ぶ場がないと思うようになったのでしょうか。そうした問いを、中世からの子育てと学びの歴史をたどって考えてみたいと思います。

その際、教育や学校の歴史にとどまらず、ひろく「人が成長する」「人が変わる」という意味で関連がある宗教や芸能、文学などまで視野をひろげて検証します。

本授業は、講義形式で行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業では、講義形式と演習形式を組み合わせ実施します。基本的には講義を主とした授業形態で進行しますが、2回ほど授業の後半に現代的な教育課題と密接に関連した課題を中心とした20分程度のグループディスカッションを取り入れる予定です。その際、各班ごとのレポート提出（全2回）を行います。

・スライドを主として用い、補足的に史料を配布する講義形式の授業を実施します。スライド資料は、事前にFUポータル上にアップロードしますので、確認してください。

・授業5回ごとに小テストを2回行います。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

日本の教育の歴史に関する関心を持ち、基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

日本の教育の歴史を通じて、世界の教育や日本社会について理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

現在とは異なる社会の在り方を学び、多文化・異文化への理解を深め、それらを説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

授業に積極的に参加し、責任ある発言ができる。(DP3-1)(態度・志向性)

教育問題を通して現在の社会の課題を認識し、課題解決に主体的に参加しようとする。(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：毎回の授業の前に提示される資料及び映像を必ず閲覧し、指定された課題についての回答を用意しておく(90分)

復習：毎回の授業で示されたスライドおよび資料を概念ごとに整理する。特に歴史史料は、十分に読みこなしておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

1. 日本教育史に関する基本的な用語及び概念を正確に説明できる。
2. 評価方法は、中間試験（50パーセント）と期末試験（50パーセント）で行う。
3. 中間試験及び期末試験で6割以上の得点を合格とする。

- - - テキスト - - -

片桐芳雄・木村元編著『教育から見る日本の社会と歴史』
八千代出版、2021年、2640円 ISBN978-4-8429-1698-9

- - - 履修上の留意点 - - -

グループワークや討論では積極的な発言が求められる。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 中世の宗教と教育
3. 近世社会の子育てシステム
4. 西鶴が描いた子育てと学び
5. 近世社会における読み書き
6. 近代学校制度の成立
7. 国民国家と教育
8. 天皇制教育の確立
9. 資本主義社会と大正自由教育
10. 女子教育へのまなざし
11. 総動員体制下の教育
12. 戦後教育改革
13. 高度経済成長と中等学校
14. 新しい国家主義と教育
15. まとめ（授業アンケートFURIKAの実施）

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/pu2agzfkagu7qxrreo01sa1asmpynsqg>)

木村 政伸

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.日本の教育の歴史に関する関心を持ち、基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.日本の教育の歴史を通じて、世界の教育や日本社会について理解し、それらを説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.現在とは異なる社会の在り方を学び、多文化・異文化への理解を深め、それらを説明することができる。（DP2-2）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.授業に積極的に参加し、責任ある発言ができる。（DP3-1）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.教育問題を通して現在の社会の課題を認識し、課題解決に主体的に参加しようとする。（DP4-2）（態度・志向性）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

木村 政伸

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：2025/01/27 6時限

- - - 概要 - - -

現在の日本に生きる私たちは、当たり前のように学校に行き学んでいます。しかし、そうした考え方が「不登校」などを「社会問題」としてとらえる基盤になっています。

では、いつどのような理由で私たちは学校に通い、学校以外に学ぶ場がないと思うようになったのでしょうか。そうした問いを、中世からの子育てと学びの歴史をたどって考えてみたいと思います。

その際、教育や学校の歴史にとどまらず、ひろく「人が成長する」「人が変わる」という意味で関連がある宗教や芸能、文学などまで視野をひろげて検証します。

本授業は、講義形式で行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業では、講義形式と演習形式を組み合わせで実施します。基本的には講義を主とした授業形態で進行しますが、2回ほど授業の後半に現代的な教育課題と密接に関連した課題を中心とした20分程度のグループディスカッションを取り入れる予定ですその際、各班ごとのレポート提出（全2回）を行います。

・スライドを主として用い、補足的に史料を配布する講義形式の授業を実施します。スライド資料は、事前にFUポータル上にアップロードしますので、確認してください。

・授業5回ごとに小テストを2回行います。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

日本の教育の歴史に関する関心を持ち、基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

日本の教育の歴史を通じて、世界の教育や日本社会について理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

現在とは異なる社会の在り方を学び、多文化・異文化への理解を深め、それらを説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

授業に積極的に参加し、責任ある発言ができる。(DP3-1)(態度・志向性)

教育問題を通して現在の社会の課題を認識し、課題解決に主体的に参加しようとする。(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：毎回の授業の前に提示される資料及び映像を必ず閲覧し、指定された課題についての回答を用意しておく(90分)

復習：毎回の授業で示されたスライドおよび資料を概念ごとに整理する。特に歴史史料は、十分に読みこなしておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

1. 日本教育史に関する基本的な用語及び概念を正確に説明できる。
2. 評価方法は、中間試験（50パーセント）と期末試験（50パーセント）で行う。
3. 中間試験及び期末試験で6割以上の得点を合格とする。

- - - テキスト - - -

片桐芳雄・木村元編著『教育から見る日本の社会と歴史』
八千代出版、2021年、2640円 ISBN978-4-8429-1698-9

- - - 履修上の留意点 - - -

グループワークや討論では積極的な発言が求められる。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 中世の宗教と教育
3. 近世社会の子育てシステム
4. 西鶴が描いた子育てと学び
5. 近世社会における読み書き
6. 近代学校制度の成立
7. 国民国家と教育
8. 天皇制教育の確立
9. 資本主義社会と大正自由教育
10. 女子教育へのまなざし
11. 総動員体制下の教育
12. 戦後教育改革
13. 高度経済成長と中等学校
14. 新しい国家主義と教育
15. まとめ（授業アンケートFURIKAを実施）

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/o1urnxwxb18qu6zc6bfjh7sgtchsv6l7>)

木村 政伸

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.日本の教育の歴史に関する関心を持ち、基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

2.日本の教育の歴史を通じて、世界の教育や日本社会について理解し、それらを説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

3.現在とは異なる社会の在り方を学び、多文化・異文化への理解を深め、それらを説明することができる。（DP2-2）（知識・理解）

4.授業に積極的に参加し、責任ある発言ができる。（DP3-1）（態度・志向性）

5.教育問題を通して現在の社会の課題を認識し、課題解決に主体的に参加しようとする。（DP4-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

勝山 吉章

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：火・2時限 試験時間割：2025/01/27 6時限

- - - 概要 - - -

本講義は、幕末以降、戦前までの教育と、戦後から今日に至るまでの日本の教育について述べていく。

まず、富国強兵政策を国是とした近代日本は、国民皆学を目指し、中央集権的教育制度の実現をはかった。そして天皇を頂点とする天皇制国家を確立するために、忠君愛国を支配イデオロギーとする国家主義的教育を行った。そのことは第二次大戦において、日本ファシズムの成立要因として重要な役割を果たした。

戦後、日本国憲法と1947教育基本法体制により、平和で民主的な人格形成が教育の目的となったが、東西冷戦下の高度経済成長政策の下、教育の主要課題は企業主義的統合と独占資本に貢献する国民育成となった。そして冷戦終了後は、グローバル化においてグローバル企業への貢献が、教育の役割となり、教育基本法が改変され、いま、改憲が目指されている。

本講義では、戦前と戦後の教育の相違と連続性を基盤にしながら、今日の日本の教育がいかなる方向性に向かいつつあるのかを論じてみたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本講義は講義形式で行う。授業はテキストの内容に基づきながら、レジュメを準備して進める。受講生は、授業予定分のテキストの内容を事前に読み、理解しておくことが求められる。また各授業毎に、Moodleをつかって授業の理解度をはかり、それに応じて授業を進めていく。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

日本の教育の歴史について基礎的な知識を有する。(DP1-1)(知識・理解)

日本教育史を通して、政治や経済などの他分野について興味をもち学ぼうとする。(DP2-1)(技能)

日本教育史を通して異文化、異文脈を理解する。(DP2-2)(知識・理解)

日本教育史を通して責任ある発言・行動の基礎となる知識を身につける。(DP3-1)(知識・理解)

日本教育史を通して共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業予定の箇所のテキストの内容を読んで理解しておくこと。(90分)

授業後はその内容をまとめ、整理しておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

まず何よりも日本国憲法の三原則（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義）を体得しているかを問う。その上で、「知識・理解」としては、日本の近代教育の成り立ち、その制度や思想などについて知り、異文化理解に繋がったかどうかを定期試験で評価し、「態度・志向性」については授業中に課す、課題において評価する。評価の方法は、定期試験の結果、授業の課題、授業の際の参加状況等で総合的に評価する。その配分（％）は、履修生の受講状況次第なので明記できない。

- - - テキスト - - -

佐喜本・勝山・小川著『歴史に学ぶ日本の教育』青簡舎
 ISBN978-4-903996-58-5 定価2000円＋税
 ISBN978-4-903996-58-5 定価2000円＋税

- - - 履修上の留意点 - - -

テキストをいちいち読み上げるかたちでの授業は行わないが、授業内容はテキストの内容に基づいて行う。

本講義は、教育の原理・課程論の講義とリンクしているので、両講義の受講を進める。

なお、受講中に私語、居眠り、不要な着帽、いわゆる「内職」は認められない。

担当者は、視覚に障害をもっており学生たちの理解をお願いする。

- - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス（スタートアップ授業）
- 2 幕末期の教育
- 3 学制期の教育
- 4 教育勅語期の教育
- 5 日清日露期の教育
- 6 大正自由教育
- 7 戦前・戦中の教育
- 8 戦後民主主義と教育
- 9 「逆コース」と教育
- 10 高度経済成長と教育
- 11 80年代教育改革と臨教審
- 12 90年代教育改革
- 13 21世紀の教育改革
- 14 新自由主義と教育
- 15 まとめ（FURIKAなどを含む）

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/1t8jowjno7scy04wn3ks6r7cignhpcpic>)

勝山 吉章

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

- 1.日本の教育の歴史について基礎的な知識を有する。（DP1-1）（知識・理解）
- 2.日本教育史を通して、政治や経済などの他分野について興味をもち学ぼうとする。（DP2-1）（技能）
- 3.日本教育史を通して異文化、異文脈を理解する。（DP2-2）（知識・理解）
- 4.日本教育史を通して責任ある発言・行動の基礎となる知識を身につける。（DP3-1）（知識・理解）
- 5.日本教育史を通して共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性（DP4-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

深堀 伸一

期別:後期 単位数:2 開講年次:1 授業の種類:対面授業科目 授業形態:講義 実務経験:無し 科目水準:入門 試験実施:有り
授業時間割:後期:火・二部2時間 試験時間割:2025/01/21 夜2限

--- 概要 ---

この講義では教育の歴史を学ぶわけですが、現在現役の中学高校の教員をしている立場から見ても、現在の教育は教育史的にこれまでにない危機の時代ということが出来ます。その危機は主に教育外存在によってもたらされていますが、その事自体は教育の歴史として特に特別な事態ではありませんでした。むしろ教育は各時代の社会や考え方の変化によって常に大きな影響を与えられてきたと言っていいでしょう。この講義ではまず、教育「業界」のなかの技術的観念の変化ではなく、この社会と教育のせめぎ合う関係に着目しようと思います。

一方、現在の教育を危機的だと言ったのは、教育機関や制度の中にいる者自身が、教育が社会や政治と関わる際にもつべき独自性についての自覚を失っていることにあります。簡単に言えば、教育者自身が教育外の常識で教育を考えるようになったということです。そこには教育が歴史的に変化を遂げながらも、丸山眞男の言うところの「通奏低音」のように保持している「かたち」が、失われつつあることがあります。しかもこの変化は中高の現場以上に、みなさんが学んでいる大学においてこそ顕著です。そしてその象徴とも言えるのがこの「シラバス」です。もし自分の授業を受けた人が全員同じ到達目標に達するとすれば、それは「教育」というより「生産」です。そしてこのことそのものが、現代における教育の教育史的特徴でもありますし、それを理解するにはより大きなスパンでの教育の歴史への理解が必要でしょう。このように本講義が、教育を内側から相対化する授業となるよう心がけていこうと思っています。

--- 授業の進行・方法 ---

スライドと板書を使用した講義形式で行います。途中こちらへの質問があれば受け付けますし、授業活性化のためにもそれが望ましいです。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

1. 西洋教育史の大まかな流れを西洋史と関連付けて理解することができる知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)

2. 「教育」のもつ多様性を時間や空間を超えて理解できるようになるための知見を得る。(DP2-1)(知識・理解)

3. 教育を外から見る教育史でなく、当事者から出発した視点で考えることができるような姿勢を身につける。(DP3-1)(態度・志向性)

4. 「教育制度の歴史」に偏ることなく、教育の当事者である教える者と学ぶ者の関係の変遷を軸として、それらが各時代の社会や制度とどう関わってきたのか、という視点を養うことができる。(DP2-2)(態度・志向性)

5. 教育史の記述を読んで、現代の教育との共通点や差異を抽出できる技能を身につける。(DP1-1)(技能)

6. 教育史の記述を読んで、当事者ごとに異なる利害や背景を読み取る技能を身につける。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

次の授業に関連する時代の背景を確認する。とくに政治や経済について、高校の世界史レベルの確認が望ましい。(90分)

前回の授業で取り扱われたキーワードについての理解を深める。特に現在の教育とどのように関係するかを考える。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価の基準として、以下の二点を達成していることを求める。

1. 講義の内容をふまえて、教育という切り口を通して明らかとなったその時代の社会のあり方や人々の考え方を理解している。

2. 講義の内容をふまえて、教育というテーマを通して浮かび上がる過去と現代の共通点と相違点について理解している。

評価方法

1. 試験は論述形式で行ないます。(90%)

2. 受講姿勢及びリアクションシート(10%)

--- テキスト ---

授業中適宜プリントを配布します。

--- 履修上の留意点 ---

教育史を西洋史全般の流れと関連付けて説明するので、西洋史への基本的な知識や関心をもっていることが望ましい。

--- 授業計画 ---

以下の内容は、進捗状況により変更する可能性があります。

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 教育のステークホルダーと社会
3. 古代1 輸入する=学ぶ
4. 中世 宮廷文化と女性の学び
5. 近世1 武士として育つ、町人として育つ
6. 近世2 幕末運動と学ぶ若者たち
7. 近代1 西洋化と教育の二度目の輸入
8. 近代2 校舎・机・椅子~教具と教育
9. 近代3 教育と衛生、軍隊
10. 近代4 留学と知識人
11. 現代1 戦争と教育
12. 現代2 戦後体制と教育がもつ意義
13. 現代3 障害児教育
14. 現代4 教育と市場
15. まとめ 授業アンケート実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/cqrbc09wqjemm5n66xf8y7uwxzpa0la>)

深堀 伸一

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 西洋教育史の大まかな流れを西洋史と関連付けて理解することができる知識を身につける。（DP1-1）（知識・理解）

2.2 「教育」のもつ多様性を時間や空間を超えて理解できるようになるための知見を得る。（DP2-1）（知識・理解）

3.3 教育を外から見る教育史でなく、当事者から出発した視点で考えることができるような姿勢を身につける。（DP3-1）（態度・志向性）

4.4 「教育制度の歴史」に偏ることなく、教育の当事者である教える者と学ぶ者の関係の変遷を軸として、それらが各時代の社会や制度とどう関わってきたのか、という視点を養うことができる。（DP2-2）（態度・志向性）

5.5 教育史の記述を読んで、現代の教育との共通点や差異を抽出できる技能を身につける。（DP1-1）（技能）

6.6 教育史の記述を読んで、当事者ごとに異なる利害や背景を読み取る技能を身につける。（DP2-1）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

中野 和典

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：月・1 時限 試験時間割：2024/07/27 4 時限

- - - 概要 - - -

本講義で取り上げる作品はいずれも有名なものばかりだが、これらが高い評価を受けている理由について考える。まず、作者と作品についての概要を学ぶ。次に、特定のテーマに従って先行研究においてどのような問題が、どのように論じられてきたのかを学ぶ。最後に、当該作品とそれを原作とする映像作品を比較し、そこから見えてくる問題を検討する。年代順に作品を読んでいくことによって、最終的には明治から昭和初期にかけて日本文学がどのようにその可能性を広げていったのかという問題について理解を深めてもらいたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は講義を主とした授業形態で進行するが、毎回の授業の初めと終わりに5分程度のペア・ワークと全体のディスカッションを取り入れる。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

明治期から昭和初期の日本近代文学を通じて他者・異文化・異文脈への理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

(事前) 講義で取り上げる作品は文庫等で簡単に読めるので、できるだけ事前に読んでおくこと。(120分)

(事後) 配付資料をよく見直しておくこと。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験80% (講義資料などの持ち込みは不可。試験の出題形式は、文学史に関する選択問題+指定のテーマについての論述問題) と平常点20% (授業への参加の積極性、授業中の発言の回数と内容) を合わせて総合的に評価する。

講義で取り上げる作家と作品とその研究動向について、どの程度まで正確に説明できているかを評価の基準とする。

- - - テキスト - - -

特に指定しない。

ただし、講義で取り上げる作品は、文庫等で簡単に読めるので事前に読んでおくことが望ましい。

- - - 参考書 - - -

講義中に紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

特に専門的な予備知識は必要ない。日本近代文学を通して真摯に何かを学ぼうとする姿勢を持つ学生の受講を希望する。

したがって、質問は歓迎し、私語・携帯機器の使用・遅刻・途中退出等の受講マナーに反する行為は厳禁する。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イントロダクション(スタートアップ 授業)
森鷗外 『舞姫』 1
- 2 森鷗外 『舞姫』 2
- 3 森鷗外 『舞姫』 3
- 4 樋口一葉 『たけくらべ』 1
- 5 樋口一葉 『たけくらべ』 2
- 6 樋口一葉 『たけくらべ』 3
- 7 夏目漱石 『こころ』 1
- 8 夏目漱石 『こころ』 2
- 9 夏目漱石 『こころ』 3
- 10 川端康成 『伊豆の踊子』 1
- 11 川端康成 『伊豆の踊子』 2
- 12 川端康成 『伊豆の踊子』 3
- 13 宮沢賢治 『銀河鉄道の夜』 1
- 14 宮沢賢治 『銀河鉄道の夜』 2
授業アンケートFURIKA の実施
- 15 宮沢賢治 『銀河鉄道の夜』 3

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/pbqtk0puki74gqxe40hirwoi0bph1tu8>)

中野 和典

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.明治期から昭和初期の日本近代文学を通じて他者・異文化・異文脈への理解を深めることができる。 (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

畑中 佳恵

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：月・5時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

- - - 概要 - - -

本授業は、大正から平成にかけて発表された近現代文学の作品を7篇取り上げ、講義形式で進めていく。各作品について精読回と分析回を設け、小説本文を綿密に読んだ上で、文学作品としての分析と考察を試みる。

取り上げる作品はすべて、日本語で書かれた短編小説である。太宰治「駆込み訴へ」や宮澤賢治「よだかの星」など有名な作家の作品もあれば、安達征一郎「怨の儀式」のようにほとんど知られていない作品もある。また男性作家だけでなく、小川洋子や川上弘美といった、現代日本文学を代表する女性作家の作品も取り上げる。

授業をつうじて多様な作品に触れることによって、受講生各自が興味を惹かれる対象に出会うこと、その出会いを読書の幅を広げる契機とすること、文学から学んだことを他者理解や社会人としての言動に活かせるようになることを期待している。

授業の分析回で行う考察の観点は、創作の狙い、同時代との関わり、現在の問題意識との接続、イメージの広がり等、幅広く設定する。また、適宜コメントペーパーの提出を求め、その内容を紹介することで、様々な意見・感想を共有する機会を設ける。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した小説本文を読むためのレジュメと、作品の周辺情報や分析方法を学ぶためのレジュメをもとに、講義形式で進める。

精読回（第2回・第4回・第6回・第8回・第10回・第12回・第14回）は、主に小説の表現や言葉の関係性に注意しながら本文を読み通し、不明点について質疑応答によって明らかにする。また、授業中に教員が示した課題について、コメントペーパーを使って回答することがある。コメントペーパーの内容は、分析回（第3回・第5回・第7回・第9回・第11回・第13回・第15回）の授業で小説の特徴や位置づけを考察する際に、匿名で紹介されることがある。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

1. 近現代文学の精読や分析に関心を持ち、学んだ事柄を十分に理解することで、他者・異文化・異文脈への理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

2. 過去の小説に描かれた出来事や登場人物たちが抱える問題について多角的に考察し、現代の読者として責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。(DP3-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

シラバスおよび取り上げる作品に目を通し、不明な点を明らかにして授業にのぞむこと。(90分)

講義資料を見直し、分からない用語や関心をもった事柄について調べる。また、授業中に全体を通読できなかった作品は、次の授業までに各自で読んでおくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

到達目標1と到達目標2について、それぞれの達成度を評価の基準とする。

定期試験（知識を問う穴埋め問題と、指定のテーマについての論述問題）を60%、平常点（授業への参加姿勢、コメントペーパーの内容）を40%として、総合的に評価する。

- - - テキスト - - -

授業中に毎回レジュメを配布する。各自、ファイリングして管理し、持参すること。

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜、紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

小説に描かれた暴力的な表現、グロテスクな表現、差別と関わる表現について考察することがある。

授業に出席することは成績評価の前提なので、無断欠席をしないこと。

遅刻、途中退出、私語をしないこと。

教員に指示された場合を除き、携帯機器を使用しないこと。

- - - 授業計画 - - -

- 1 インTRODクション（スタートアップ授業）
 - 2 菊池寛「入れ札」精読
 - 3 菊池寛「入れ札」分析
 - 4 太宰治「駆込み訴へ」精読
 - 5 太宰治「駆込み訴へ」分析
 - 6 宮澤賢治「よだかの星」精読
 - 7 宮澤賢治「よだかの星」分析
 - 8 三島由紀夫「真夏の死」精読
 - 9 三島由紀夫「真夏の死」分析
 - 10 安達征一郎「怨の儀式」精読
 - 11 安達征一郎「怨の儀式」分析
 - 12 川上弘美「神様」「神様2011」精読
 - 13 川上弘美「神様」「神様2011」分析
 - 14 小川洋子「愛犬ベネディクト」精読
 - 15 小川洋子「愛犬ベネディクト」分析
- 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/r3qir3vv8yfb11at5ewesr3mho21dv0>)

畑中 佳恵

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1. 近現代文学の精読や分析に関心を持ち、学んだ事柄を十分に理解することで、他者・異文化・異文脈への理解を深めることができる。(DP2-2) (知識・理解)

2.2. 過去の小説に描かれた出来事や登場人物たちが抱える問題について多角的に考察し、現代の読者として責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。(DP3-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

高橋 昌彦

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・5時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

- - - 概要 - - -

「鬼（き）」という概念は、本来は中国から入ってきたと考えられるが、日本の著述においても、古代から登場している。そして、その存在は、平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代、明治以降によって、かなり変化していることが、多くの作品を読んでいくことで見えてくる。現在は、妖怪や魔物のように考えられているが、そのようになったのは一体いつからなのか。そんな疑問も自然に出てくるかと思われる。

本授業では、最初は、中国の「鬼（き）」とはいったい何であったのかから始めて、「鬼」という漢字の意味などについて考える。その後、日本に伝わり、いつから「鬼（おに）」となったのか。もともと、どのような姿をしていると思われていて、それが現在の角や虎皮の着衣などのイメージになっていったのか。いったい、鬼の存在が必要とされた理由はどこにあったのか。どうして、時代の中で像の変化する必要が生じたのか。そのような多くの疑問や様々な視点を持ちながら、それぞれの時代の作品を読み進めていく。

多くの日本文学作品（古典から近代まで）や史書を扱い、民俗学的分野にもふれる予定である。取り扱う資料が古文・漢文の場合は、現代語訳や意識を行い、作品の理解を深める。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した資料（授業中に配布）をもとに講義形式で行う。数回の授業で、講義内容の理解や時間外の調査結果を確認するために、ミニッツペーパーで回答を求める。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

様々な時代の作品を読むことで、文学とその近接分野を理解できる。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：事前に配布する資料をよく読み、作品について調べておく(120分)

復習：授業後は、その内容を振り返り理解を深める(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：鬼に関する基本的な知識を身につけ、自分の言葉で正確に説明できているか、1つのテーマについてその変遷を理解し得たか、自身で新たな問題を見つけることができたかを評価基準とする。

評価方法：定期試験（80%）と授業中の提出物（ミニッツペーパー）など（20%）によって総合的に評価する。

- - - テキスト - - -

資料プリントを配布する。

- - - 履修上の留意点 - - -

理由なく欠席・遅刻しないこと。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イン트로ダクション（スタートアップ授業）
授業の進め方等について
鬼についての基礎知識
- 2 古代における鬼
- 3 "
- 4 "
- 5 平安時代における鬼
- 6 "
- 7 "
- 8 中世における鬼
- 9 "
- 10 "
- 11 江戸時代における鬼
- 12 "
- 13 近代における鬼
- 14 "
- 15 まとめ
授業アンケートFURIK Aの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/vc8aee0zkgr7t7jj15cgvfpjzicv26o>)

高橋 昌彦

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

1.様々な時代の作品を読むことで、文学とその近接分野を理解できる。
(DP2-2) (知識・理解)

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

竜口 佐知子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：水・4時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

- - - 概要 - - -

この科目では、日本文学のテキストの読解の基本について学ぶことを目的として、宮沢賢治の代表作である「銀河鉄道の夜」を、半年かけてじっくりと読み解いていきます。まず、文章を「読む」とはということか、その方法についての基本的な解説を行い、そのうえで、実際にテキスト本文の詳細な読解を行います。一つ一つの語や文の意味、相互の関連性、表現方法などに注意し、様々な解釈の可能性を探りつつ、文学テキストを読み解く方法を学ぶことで、より深く文学作品を理解し、鑑賞する方法を身につけていきます。また、自分が読み解いた内容について、本文中より論拠を示しつつ、適切に説明できるようになることも目標です。さらに、文学作品に限らず、日常的に目にする文章についても、場や文脈、表現などの要素に留意して意味を読み取る姿勢を身につけてほしいと考えています。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は講義形式で行います。毎回の授業では、主に教員がプリント資料を用いて本文についての解説を行います。また、本文中から問題を提示し、自分ならどのように読み解くかを考える時間を設けます。その際、各自が読み取った内容を書いて提出してもらい、授業の中で紹介する場合があります（個人名は公表しません）。自分とは異なる解釈に触れることで、自分の「読み」を相対化し、ある文章について多様な解釈が成り立つこと（あるいは成り立たない解釈が存在すること）を実感してもらおうことが狙いです。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

日本文学の読解に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

テキスト中の語や文の意味を文脈に沿って理解し、物語の流れを把握することができる。(DP1-1)(技能)

テキスト本文から自分なりの解釈を導き、論拠を示しつつ説明することができる。(DP1-1)(技能)

解釈の多様性について理解している。(DP2-2)(知識・理解)

他者の解釈を理解し、自分の解釈と照らし合わせて考えることができる。(DP2-2)(技能)

日常的に文章を読む際、その置かれた場や文脈・表現等の様々な要素を意識しながら、意味を読み取る態度をもつ。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業で取り扱う文学テキストをあらかじめ通読しておくこと。その際、気になる語や表現、文章から受ける印象、理解できない箇所などについて意識しつつ読むようにする。(90分)

受講後に再読し、初読の際から印象が変わった点、どういった理由でどのように変わったかなどを確認すること。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験による。試験では、授業で取り扱った作品に関する基本的な知識を問う問題（到達目標2）と、本文読解の方法が身についているかを問う問題（到達目標1,3）を出題する。また、授業の節目に数回、授業中に提示した問題の解答を提出してもらう。フィードバックとして、次の回に解答の解説を行う。その際、受講生の解答内容を匿名にて授業中に発表することがある。これは本文の解釈に関するディスカッションへの参加とみなし（到達目標3,4,5）、また文章読解に向き合う姿勢をみるものとする（到達目標6）。試験が90%、提出物や受講態度等の平常点が10%で評価を行う。

- - - テキスト - - -

取り扱う作品本文は、WEBや電子書籍、各種文庫本など、様々な方法で読むことが可能なため、特に決まったテキストは指定しない。各自で読む方法については、初回の授業で紹介する。また、授業中に適宜プリントを配布する。

- - - 参考書 - - -

特になし

- - - 履修上の留意点 - - -

時間をかけて本文読解に取り組むため、根気強く文章に向き合う姿勢が必要となります。また、基本的なスキルとして、日本語の文章（旧仮名遣い含む）を読む能力が必要で

- - - 授業計画 - - -

1. ガイダンス 文章を「読む」とはということか？ / 宮沢賢治と「銀河鉄道の夜」（スタートアップ授業）
2. 「銀河鉄道の夜」 「一、午後の授業」 物語のはじまり
3. 「銀河鉄道の夜」 「二、活版所」「三、家」 ジョバンニの背景
4. 「銀河鉄道の夜」 「四、ケンタウル祭の夜」 ジョバンニの現状
5. 「銀河鉄道の夜」 「五、天気輪の柱」「六、銀河ステーション」 旅への導入
6. 「銀河鉄道の夜」 「七、北十字とプリオシン海岸」 銀河の世界観
7. 「銀河鉄道の夜」 「八、鳥を捕る人」 鳥捕りとの出会い
8. 「銀河鉄道の夜」 「九、ジョバンニの切符」 鳥捕りとの別れ
9. 「銀河鉄道の夜」 「九、ジョバンニの切符」 沈没船の人々の登場
10. 「銀河鉄道の夜」 「九、ジョバンニの切符」 苹果の意味と姉弟との交流
11. 「銀河鉄道の夜」 「九、ジョバンニの切符」 ジョバンニ・かほる・カムパネルラの関係
12. 「銀河鉄道の夜」 「九、ジョバンニの切符」 蝸の火の話
13. 「銀河鉄道の夜」 「九、ジョバンニの切符」 旅の終わり
14. 「銀河鉄道の夜」 「九、ジョバンニの切符」 結末
15. まとめ あなたは「銀河鉄道の夜」をどう読んだか / 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/g10ltcx83adawh3v1areka02n6zpiu49>

竜口 佐知子

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.日本文学の読解に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

2.テキスト中の語や文の意味を文脈に沿って理解し、物語の流れを把握することができる。（DP1-1）（技能）

3.テキスト本文から自分なりの解釈を導き、論拠を示しつつ説明することができる。（DP1-1）（技能）

4.解釈の多様性について理解している。（DP2-2）（知識・理解）

5.他者の解釈を理解し、自分の解釈と照らし合わせて考えることができる。（DP2-2）（技能）

6.日常的に文章を読む際、その置かれた場や文脈・表現等の様々な要素を意識しながら、意味を読み取る態度をもつ。（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

大木 桃子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・2時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

- - - 概要 - - -

平安時代末期に成った説話集『今昔物語集』を読む。本書は収録説話約1千という、他の追随を許さない膨大な量を誇る仏教説話集である。仏教を説く目的で編纂され、インドや中国の話が多く含まれるが、日本の世俗的な説話も多い。芥川龍之介をはじめ近代文学者が小説の題材としたことでも知られる。

本講義では、主に本朝(日本)部に属する説話の中から、恋愛と家族関係(夫婦・親子)に関するものを選んで読む。登場人物は僧侶・盗賊・庶民など様々である。高校時代までに学習した宮廷女流文学とは一味違う平安朝の恋愛・家族の諸相を探り、現代の恋愛観・家族観と比較検討する。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業はテキストを使った講義形式で行う。「概要」「授業計画」にあるとおり、今昔物語集の中で現代とは異なったり、現代に通じたりする男女・家族関係を学ぶ。FUポータルの小テスト機能を使って3回程度小テストを行ない、理解を深める。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

説話集とは何かを理解し、説明することができる(DP2-2)(知識・理解)

今昔物語集編纂時代に生きた人々の恋愛観・家族観を理解し、説明することができる(DP2-2)(知識・理解)

当時と現代の恋愛観・家族観を比較考察することができる(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

テキストの次にやるところを読んでおく(80分)

授業でやったところを復習する(小テストの試験勉強を兼ねる)(100分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験80%(今昔物語集の説話の恋愛観・家族観を理解しているか、また現代との違いを理解しているかを判断する)

平常点20%(授業中に全3回程度小テストを行う。テスト結果は次の授業でフィードバックする。受けて終わりというわけでない。後の授業や定期試験に役立ててほしい)

- - - テキスト - - -

角川書店編 ビギナーズ・クラシックス日本の古典『今昔物語集』 KADOKAWA 2002年 720円+税

ISBN978-4-04-357409-4

* 金文堂福大店でも購入できる

- - - 参考書 - - -

新日本古典文学大系「今昔物語集」1～5 岩波書店

- - - 履修上の留意点 - - -

・遅刻・私語・板書の写メは授業の進行、他の履修生の勉学の妨げになる。慎むこと。

・非常勤講師なので研究室がない。また非常勤控室に荷物を置く場所もないので、配布物はその都度受け取るように。

- - - 授業計画 - - -

1、 イントロダクション(スタートアップ授業)

2～14. 説話の読解と解説(数字は、巻と番号)

17 33美女の色じかけのおかげで、学者となった青年僧

19 27洪水に流され、愛児を捨てて老いた母を助けた男

24-8 美人患者の色香にふりまわされた好色の老医師

27-20 捨てられた女の生霊、薄情な相手の男をとり殺す

27-24 捨てられて窮死した前妻のミイラと愛し合った侍

28-1 変装した自分の妻に言い寄りなぐられた軽薄男

29 3色香と鞭で若い男を調教する、盗賊団の美人首領

30 9妻の悪口に乘せられ、老いた姨母を捨てた男

* この間3回程度小テストを行う。「成績評価基準および方法」参照

15、まとめ

FURIKAアンケートの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/12vz5qocpnbawusbf4tomqalhx1x3rc>)

大木 桃子

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.説話集とは何かを理解し、説明することができる (DP2-2) (知識・理解)

2.今昔物語集編纂時代に生きた人々の恋愛観・家族観を理解し、説明することができる (DP2-2) (知識・理解)

3.当時と現代の恋愛観・家族観を比較考察することができる (DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

須藤 圭

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・3時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

- - - 概要 - - -

授業のテーマは「日記文学を読む」です。この授業では、江戸時代以前に書かれた日記文学を鑑賞します。そもそも、人は、なぜ、日記を書くのでしょうか。日記は、事実の記録である一方、嘘や偽りが混じりあい、書き手の願望が投影されたものだ、ということが出来ます。いくつかの日記文学を具体的にとりあげながら、日記を書き残すことの意味を考えます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

教員が作成した講義資料・スライドをもとに講義形式で行います。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

主な日記文学の概略を説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

日記文学史の流れを理解できる。(DP4-2)(技能)

日記文学にあらわれた思考や価値観を理解し、自らの価値観を見直すことができる。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：授業でとりあげる文学について、調べておきましょう。(90分)

復習：授業の復習をするとともに、関連する文学についても調べておきましょう。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

上記「到達目標」に対する達成度を、以下の基準で評価します。

・定期試験（70％）。授業内容を適切に理解し、自らの考えをまとめることができたかどうか。

・ミニツツペーパー（30％）。積極的に授業を受講し、感想や意見を提出することができたかどうか。なお、ミニツツペーパーの内容は、次回授業時にとりあげ、フィードバックを行います。

- - - テキスト - - -

プリントを配布します。

- - - 参考書 - - -

『日記文学事典』（勉誠出版、2000年）

倉本一宏監修『日記で読む日本史』（全20冊、臨川書店、2016年～）

- - - 履修上の留意点 - - -

自分で日記を書くことは、この授業を理解する上で、とても大切なことです。毎日の日記を書きましょう。

江戸時代以前の古典文学を対象にしますが、古文読解の知識は求めません。現代語訳を併記して講義します。

古典文学は、抜群に面白いです。たくさん読んでみてください。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イントロダクション（スタートアップ授業）
- 2 書くことの意味（1）
- 3 書くことの意味（2）
- 4 『土左日記』
- 5 『蜻蛉日記』
- 6 『和泉式部日記』
- 7 『紫式部日記』
- 8 『更級日記』
- 9 『建礼門院右京大夫集』
- 10 漢文日記の諸相
- 11 『とはずがたり』
- 12 『筑紫道記』
- 13 『千種日記』
- 14 『松蔭日記』
- 15 まとめ 日記文学の価値・授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/hsiebjcnj8xqlvv1zwwjdi2tf5sdtedt>)

須藤 圭

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 主な日記文学の概略を説明することができる。 (DP2-2) (知識・理解)
2. 日記文学史の流れを理解できる。 (DP4-2) (技能)
3. 日記文学にあらわれた思考や価値観を理解し、自らの価値観を見直すことができる。 (DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

永井 太郎

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：金・5 時限 試験時間割：2024/07/27 4 時限

- - - 概要 - - -

授業の内容は、幻想文学についての理論の紹介と、幻想文学に関する議論の中で、よく言及されるテーマの考察である。これによって、日本近代の幻想文学についての、基本的な知識を得ることを目的とする。

まず最初に、近代日本の幻想的といわれる文学作品を取り上げ、幻想文学の分類に関する議論を紹介する。次に、近代文学の中で幻想文学を評価してきた思想的枠組みについて説明する。以上が主に幻想文学全体に関する理論的な考察である。続いて、近代の幻想文学の歴史を概観する。そして、これまでのことをふまえた上で、個別のテーマへと話を進めていく。ここでは、一つの作品の分析ではなく、他の作品へも適用し得る、一般的テーマを考察の対象とする。怪異と場の問題や水の象徴するもの、分身や吸血鬼など、幻想文学でよく言及されるトピックスの、すべてではないものの、そのいくつかについて紹介していく。

基本的に授業計画通り進めて行くが、これは現在の予定であり、若干変更することもある。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、講義形式で行う。教員が作成した講義資料を授業中に配布し、それを参考にしながら、講義をしていく。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

幻想文学という、近代文学において主流ではなかった文学について、その文化的・歴史的意味を理解することが出来る。

(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業の内容を復習し、わからないことを調べる。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

日本の近代文学の中で、幻想文学に関係するいくつかの作品名および作家名をあげることが出来るか、幻想文学に関する基本的な理論やテーマを理解しているかどうかを評価の基準とする。

評価方法は定期試験による。

- - - テキスト - - -

ない。授業中にレジメを配布する。

- - - 参考書 - - -

特に指定しない。

- - - 履修上の留意点 - - -

終始、幻想文学についての話なので、こうしたテーマについていくらかの知識、少なくとも関心を持っていることが望ましい。

- - - 授業計画 - - -

- 1、シラバスの説明及びイントロダクション(スタートアップ授業)
- 2、幻想文学の分類
- 3、精神分析と幻想文学
- 4、精神分析と幻想文学
- 5、中心・周縁理論
- 6、西洋近代の幻想文学
- 7、日本近代の幻想文学
- 8、怪異の場
- 9、日本近代の人魚
- 10、死と再生の水
- 11、分身
- 12、吸血鬼
- 13、浦島太郎
- 14、ミステリー(授業アンケートFURIKAの実施)
- 15、まとめ

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/yfkj7u50z700xmj0tj8tittabmicd719>)

永井 太郎

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 幻想文学という、近代文学において主流ではなかった文学について、その文化的・歴史的意味を理解することができる。 (DP2-2) (知識・理解)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性
理念1 【 学び続けていくための確かな基礎 】

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【 多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ 】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【 自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ 】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【 地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性 】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

野田 康文

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・二部2時限 試験時間割：2024/07/30 夜2限

概要

この科目は、日本の近代文学を読んでみたい、文学作品をじっくりと読むことの面白さを知りたい、という人のためのものです。半期に分けて、日本の近代文学を代表する作品 前期は短編小説、後期は長編小説 を扱います。特に通年で履修する必要はありません。

前期は、大正から昭和の初期にかけて発表された、宮沢賢治、芥川龍之介、井伏鱒二、川端康成の短編小説を読みます。扱う作品は、どれも今日でも読まれている、名作と評されるもので、日本人の教養として必読の小説です。作者の生涯や当時の時代・文化の背景を踏まえつつ、小説を読み解いていきます。各作品とも、大事な場面を中心に、設問付きの配布テキストや指定のテキストで読んでいきます。講義では、ただ本文を読むだけでは理解できない、時代的な背景や、作品の一言一句にこめられた思想的な特徴などについても解説しますので、近代の日本文化についての知識と教養を深めることができます。

宮沢賢治や芥川龍之介、井伏鱒二らは、みな現在でも評価の高い、近代日本を代表する作家です。今日でも読み継がれている彼等の文学作品を読み解いていくことは、現代日本に生きる皆さんにとっても、明治以来、急激に近代化し、今の日本の基礎を築いていった時代に生きた人たちの葛藤を理解し、それを自分の問題に引きつけて考える柔軟な感受性や想像力を身につけるのに役立つでしょう。1つ1つの作品をじっくりと深く読んでいくので、文学を読むことの好きな人、興味のある人に向いている科目です。

授業の進行・方法

授業は、教員が作成した講義資料と指定のテキストをもとに講義形式で行います。授業内容の理解度を確保するためにFUポータルを用いた小テストに数回取り組んでもらいます。また、その小テストの講評を通して、理解を深めていきます。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

日本の近代文学の一端にふれることを通して、近代の日本文化についての知識と教養を深める。
(DP2-2)(態度・志向性)

文学作品を読み解く感受性や想像力を身につける。(DP4-1)(知識・理解)

近代文学に登場するさまざまな人物の思考や気持ちの理解を通じて、世代や価値観の異なる共同体に積極的に関わる態度を身につける。(DP4-2)(技能)

上記のことを自分の言葉で説明することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

毎回の授業で配布する設問付きのテキストや指定のテキストを、予習・復習にも活用してください。予習としては、次回の講義にスムーズに入っていけるよう、授業の前日に必ず前回のテキストと設問（解答も含めて）を読み返しておくこと。
(90分程度)(90分)

復習としては、毎回の授業後、その日の講義の解説とキーワードに基づいて、その日の設問の解答をあらためて自分の言葉で作成すること。(90分程度)試験の直前にまとめて行うのは、時間的にも記憶の上からも無理があるので、毎回の授業後に必ず作成すること。
(90分)

成績評価基準および方法

授業では、各作品ごとに、読解すべき作品の本文を設問付きで配布します。(ただし、川端康成の作品については指定のテキスト。)受講者はまず、設問の解答を、本文を自力で読んで書いてみます。その後、各作品2~6回の授業を使って、読解のポイントを設問を中心に解説します。解説を聴きながら、自分の読みと比べ、キーワードを手がかりに設問の解答を自分の言葉で作成してください。出欠は基本的にはとりませんが、解説の後に、設問の解答や講義での学習内容を小テストの形で提出してもらいますので、それを平常点として扱います。提出した小テストの解答は、受講態度の目安として、講義内容やキーワードが踏まえられているか、設問の問いにきちんと対応した答えとなっているかを評価の基準とします。フィードバックとして小テストを回収後、次回に解答の解説を行います。

評価は基本的には、上記の小テストと定期試験によって行います。試験では、この授業の到達目標である「近代の日本文化についての知識と教養を深める」こと、「文学作品を読み解く感受性や想像力を身につける」ことができているか、それを授業中に示したキーワードを手がかりとして「自分の言葉で説明する」ことができているかを評価基準として採点しますので、必然的に授業を聴いている人が有利になります。試験時の持ち込みは一切不可。

原則として定期試験80%、平常点20%で評価します。定期試験により到達目標の「知識・理解」、「態度・志向性」、「技能」を、授業中に講義した設問のランダム抽出に解答することで総合的に評価し、平常点では受講態度と特に「技能」を評価します。

テキスト

川端康成著『伊豆の踊子』新潮文庫。(金文堂書店福大店で購入可)

それ以外の作品については、毎回、授業の時に、設問付きの本文テキストを配布。

履修上の留意点

小テストにあたって、小テスト開始の時点で遅刻したり、退席したりしていた者は、欠席扱いとし、受講態度の評価の参考とします。

他人に迷惑をかける行為、特に授業中に私語をすることをかたく禁じ、受講態度の評価として重視します。

授業計画

第1回：スタートアップ授業：近代日本の短編小説を読む1（各作品、3回前後の授業で1セット。宮沢賢治、井伏鱒二、芥川龍之介の順）

シラバスに沿った授業ガイダンス&イントロダクション、テキスト1の黙読及び解答作成

第2回：近代日本の短編小説を読む2

作者紹介、テキスト1の読解のポイント及び、設問解説（2~4回前後）

*以下、第9回まで同様のプロセスで、進行状況に応じて進めていく。

第3回：近代日本の短編小説を読む3

第4回：近代日本の短編小説を読む4

第5回：近代日本の短編小説を読む5

第6回：近代日本の短編小説を読む6

第7回：近代日本の短編小説を読む7

第8回：近代日本の短編小説を読む8

第9回：近代日本の短編小説を読む9

第10回：近代日本の短編小説を読む10（以下、川端康成）

作者紹介、テキスト1の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第11回：近代日本の短編小説を読む11

テキスト2の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第12回：近代日本の短編小説を読む12

テキスト3の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第13回：近代日本の短編小説を読む13

テキスト4の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第14回：近代日本の短編小説を読む14

テキスト5の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、授業アンケートFURIKAの実施

第15回：近代日本の短編小説を読む15

テキスト6の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、全体まとめ

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/uu1wyv1o204rrmluzct4w5urr95mhyiw>)

添付ファイル

スタートアップ授業テキスト

(日本文学A・講義テキスト (2024・スタートアップ).pdf)

野田 康文

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.日本の近代文学の一端にふれることを通して、近代の日本文化についての知識と教養を深める。

(DP2-2) (態度・志向性)

2.文学作品を読み解く感受性や想像力を身につける。(DP4-1) (知識・理解)

3.近代文学に登場するさまざまな人物の思考や気持ちの理解を通じて、世代や価値観の異なる共同体に積極的に関わる態度を身につける。(DP4-2) (技能)

4.上記のことを自分の言葉で説明することができる。(DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

畑中 佳恵

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：火・2時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

「日本文学A」（近現代文学の精読と分析）で取り上げる作品7篇について、読み取ったイメージや問題点をめぐり討論する、少人数制の教養ゼミである。各作品について精読回と分析回を設け、小説本文を細かく確認した上で、文学作品としての分析と考察を試みる。

取り上げる作品はすべて、日本語で書かれた短編小説である。太宰治「駆込み訴へ」や宮澤賢治「よだかの星」など有名な作家の作品もあれば、安達征一郎「怨の儀式」のようにほとんど知られていない作品もある。また男性作家だけでなく、小川洋子や川上弘美といった、現代日本文学を代表する女性作家の作品も取り上げる。

授業をつうじて多様な作品に触れることによって、受講生各自が興味を惹かれる対象で出会うこと、その出会いを読書の幅を広げる契機とすること、文学から学んだことを他者理解や社会人としての言動に活かせるようになることを目指す。

受講生は、精読回で小説本文の朗読を担当したり、コメントペーパーに感想や意見をまとめたりすることがある。また分析回では、自分の意見を積極的に発言し、他人の意見に耳を傾ける姿勢が必要となる。異なる見解や説得力ある解釈をめぐり議論を重ねることで、思考や対話の力を鍛えてもらいたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した小説本文を読むためのレジュメをもとに行う。主に講義形式で小説本文を通読する精読回と、小説の読みどころや疑問点について議論する分析回を、交互に進めていく。

精読回では、受講生による朗読や、不明点をめぐる質疑応答、コメントペーパーを利用した考察の整理などを行う。分析回では、主に教員が提示した問題をめぐり、グループでの話し合いや、グループ間での議論を行う。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

1. 近現代文学を精読することに関心を持ち、そのための基礎的な知識を身につけることができる。(DP1-1)(知識・理解)
2. 近現代文学を分析することで視野を広げ、さまざまな分野の諸学問への理解を深めることができる。(DP2-1)(知識・理解)
3. 提示された問題について積極的に考察し、他者・異文化・異文脈と接する技能を養うことができる。(DP2-2)(技能)
4. 学んだ事柄を十分に理解し、責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。(DP3-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

シラバスおよび取り上げる作品に目を通し、不明な点を明らかにして授業にのぞむこと。(90分)

講義資料を見直し、分からない用語や関心をもった事柄について調べること。また、授業中に全体を通読できなかった作品は、次の授業までに各自で読んでおくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

とくに到達目標1「近現代文学を精読することに関心を持ち、そのための基礎的な知識を身につけることができる」および到達目標4「学んだ事柄を十分に理解し、責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる」について、それぞれの達成度を評価の基準とする。

平常点（授業への参加姿勢、発言の内容や回数）を50%、レポートを50%として、総合的に評価する。

レポートは、最も興味をもった作品1点について、学習内容および自身の考察をまとめることを求める。

定期試験期間中に筆記試験を実施しないため、再試験も実施しない。

- - - テキスト - - -

授業中にレジュメを配布する。各自、ファイリングして管理し、持参すること。

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜、紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

小説に描かれた暴力的な表現、グロテスクな表現、差別と関わる表現について考察することがある。

授業に出席することは成績評価の前提なので、無断欠席をしないこと。

遅刻、途中退出、私語をしないこと。

教員に指示された場合を除き、携帯機器を使用しないこと。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イントロダクション（スタートアップ授業）
- 2 菊池寛「入れ札」精読
- 3 菊池寛「入れ札」分析
- 4 太宰治「駆込み訴へ」精読
- 5 太宰治「駆込み訴へ」分析
- 6 宮澤賢治「よだかの星」精読
- 7 宮澤賢治「よだかの星」分析
- 8 三島由紀夫「真夏の死」精読
- 9 三島由紀夫「真夏の死」分析
- 10 安達征一郎「怨の儀式」精読
- 11 安達征一郎「怨の儀式」分析
- 12 川上弘美「神様」「神様2011」精読
- 13 川上弘美「神様」「神様2011」分析
- 14 小川洋子「愛犬ベネディクト」精読
- 15 小川洋子「愛犬ベネディクト」分析
授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/edy3qf2lejdcck1i8wqt2v5ixi0ip2u3d>)

畑中 佳恵

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1. 近現代文学を精読することに関心を持ち、そのための基礎的な知識を身につけることができる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2. 近現代文学を分析することで視野を広げ、さまざまな分野の諸学問への理解を深めることができる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.3. 提示された問題について積極的に考察し、他者・異文化・異文脈と接する技能を養うことができる。(DP2-2) (技能)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.4. 学んだ事柄を十分に理解し、責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。(DP3-1) (知識・理解)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

大坪 亮介

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：木・3時限 試験時間割：定期試験なし

概要

『徒然草』を輪読する。兼好法師が著した『徒然草』は、中学校や高校の国語教科書で取り上げられることも多く、最も身近な古典文学作品の一つといえる。『少しのことにも、先達はあらまほしき事なり』という教訓で結ばれる「仁和寺にある法師」（第五十二段）などは、ほとんどの受講者が一度は目を通したことがあるのではなからうか。しかし、教科書に掲載されているのは、当然のことながら、『徒然草』全体のごく一部にしか過ぎない。『徒然草』には、人生の教訓や恋愛といった、現代でも通用する普遍的な内容を持つ章段もあれば、兼好周辺の環境や、彼が生きた時代を色濃く反映した章段もあり、単に古語を現代語訳に置き換えるだけでは理解できない部分も多いのである。本授業では、ゼミ形式でこうした多彩な『徒然草』の章段を読み進めていく。すなわち、受講者は一つの章段を選び、辞書や注釈書、その他の諸文献（データベースやデジタル資料も含む）を駆使した発表資料を作成して本文の読解と各自の疑問点に関するプレゼンテーションを行い、他の受講者や教員も交えたディスカッションを通じて、『徒然草』本文のより精密な読解を目指していく。上記の作業を通して、逐語的な現代語訳にとどまらない、古典文学作品を読む楽しみを体験して欲しい。

授業の進行・方法

第1回から第3回では、『徒然草』の基本的な情報や、発表資料の作り方、文献やデータベースの調べ方といった、基礎知識の習得を行う。第4回以降は、発表者（二人一組）がそれぞれ好きな章段の一つを選び、その語訳と現代語訳、さらには各章段で疑問に思った点について調べ、プレゼンテーションを行う。その後、報告に基づいたディスカッションを行い、章段のより深い理解を目指していく。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

『徒然草』の多彩な章段を原文に即して読解することができる。
(DP1-1)(知識・理解)

辞書やデータベースといった、人文学研究における基礎的なツールを適切に利用することができる。(DP2-1)(知識・理解)

『徒然草』の多彩な章段の読解を通じて、現代とは異なる時代の社会・文化・人々の心性、ひいては自分とは異なる他者の考えを理解する姿勢を身につける。(DP2-2)(知識・理解)

プレゼンテーションを通して、確かな根拠に基づいて自分の考えを適切に述べるができる。(DP3-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：発表担当者は、発表の2週間ほど前から資料作成の準備に取りかかること。発表担当以外の受講生は、事前に次回読む箇所を下読みしておき、自分なりの問題意識をもった上でディスカッションに臨むこと。(90分)

復習：発表担当者は、授業後は、ディスカッションの内容をノートにまとめるなどして、理解を定着させること。発表担当以外の受講生は、その日の内容をノートにまとめるなどして、理解を定着させること。(90分)

成績評価基準および方法

発表内容、および発表担当以外の時間における授業参加度(50%)。レポート(50%)。これらを総合して、上記到達目標の達成度を測る。特に発表担当以外での積極的な質問や発言については、高く評価する。

テキスト

西尾実・屋良岡康作『新訂 徒然草』岩波書店、1985年、1243円、ISBN:400301121X

参考書

五味文彦『増補 徒然草の歴史学』角川ソフィア文庫、2014年 ISBN 4044092168
小川剛生『兼好法師 徒然草に記されなかった真実』中公新書、2017年 ISBN 412102463X
その他、適宜授業中に紹介します。

履修上の留意点

古典の世界に親しみたいという、意欲のある学生の受講を望む。発表に際しては、じゅうぶんな時間をかけて準備すること。担当以外の時間では、他者の発表をよく聞き、積極的にディスカッションに参加することを望む。定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできません。

授業計画

- 1 イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2 発表の仕方
- 3 担当教員による模擬発表
- 4 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション
- 5 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション
- 6 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション
- 7 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション
- 8 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション
- 9 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション
- 10 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション
- 11 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション
- 12 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション
- 13 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション
- 14 前半の総括
- 15 後半の総括・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/ujqqre5yl78yrwkb63m32jskymj2wo40>)

大坪 亮介

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 『徒然草』の多彩な章段を原文に即して読解することができる。（DP1-1）
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 辞書やデータベースといった、人文学研究における基礎的なツールを適切に利用することができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3. 『徒然草』の多彩な章段の読解を通じて、現代とは異なる時代の社会・文化・人々の心性、ひいては自分とは異なる他者の考えを理解する姿勢を身につける。（DP2-2）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4. プレゼンテーションを通して、確かな根拠に基づいて自分の考えを適切に述べるることができる。（DP3-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

中野 和典

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・1時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

- - - 概要 - - -

本講義で取り上げる作品はいずれも有名なものばかりだが、これらが高い評価を受けている理由について考える。まず、作者と作品についての概要を学ぶ。次に、特定のテーマに従って先行研究においてどのような問題が、どのように論じられてきたのかを学ぶ。最後に、当該作品とそれを原作とする映像作品を比較し、そこから見えてくる問題を検討する。年代順に作品を読んでいくことによって、最終的には昭和初期以降に日本文学がどのようにその可能性を広げていったのかという問題について理解を深めてもらいたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は講義を主とした授業形態で進行するが、毎回の授業の初めと終わりに5分程度のペア・ワークと全体のディスカッションを取り入れる。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

昭和期以降の日本文学を通じて他者・異文化・異文脈への理解を深めることができる。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

(事前) 講義で取り上げる作品は文庫等で簡単に読めるので、できるだけ事前に読んでおくこと。(120分)

(事後) 配付資料をよく見直しておくこと。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験80%（講義資料などの持ち込みは不可。試験の出題形式は、文学史に関する選択問題+指定のテーマについての論述問題）と平常点20%（授業への参加の積極性、授業中の発言の回数と内容）を合わせて総合的に評価する。

講義で取り上げる作家と作品とその研究動向について、どの程度まで正確に説明できているかを評価の基準とする。

- - - テキスト - - -

特に指定しない。

ただし、講義で取り上げる作品は、文庫等で簡単に読めるので事前に読んでおくことが望ましい。

- - - 参考書 - - -

講義中に紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

特に専門的な予備知識は必要ない。日本近代文学を通して真摯に何かを学ぼうとする姿勢を持つ学生の受講を希望する。

したがって、質問は歓迎し、私語・携帯機器の使用・遅刻・途中退出等の受講マナーに反する行為は厳禁する。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イントロダクション(スタートアップ 授業)
堀辰雄『風立ちぬ』1
- 2 堀辰雄『風立ちぬ』2
- 3 堀辰雄『風立ちぬ』3
- 4 大岡昇平『野火』1
- 5 大岡昇平『野火』2
- 6 大岡昇平『野火』3
- 7 三島由紀夫『金閣寺』1
- 8 三島由紀夫『金閣寺』2
- 9 三島由紀夫『金閣寺』3
- 10 安部公房『砂の女』1
- 11 安部公房『砂の女』2
- 12 安部公房『砂の女』3
- 13 遠藤周作『沈黙』1
- 14 遠藤周作『沈黙』2
授業アンケートFURIKAの実施
- 15 遠藤周作『沈黙』3

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/600rzg0dckt93g1sflsf2dyfnqc2pzl1>)

中野 和典

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.昭和期以降の日本文学を通じて他者・異文化・異文脈への理解を深めることができる。(DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

畑中 佳恵

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・5時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

- - - 概要 - - -

明治39（1906）年に刊行された島崎藤村『破戒』は、日本における自然主義文学の本格的な出発点とされる。そのため、高校の国語授業や日本史授業で作品名を耳にしたことのある学生は多いと思われる。また、被差別部落出身の青年教員が父の戒めを破り、自己を解放する、という粗筋を知っている学生も少なくないだろう。

本授業ではこの長編小説を取り上げ、講義形式で細かく読み進める。それにより、詩人でもある島崎藤村ならではのリズムカルな文章や、信州の自然をめぐる特徴的な語り、人間心理の緻密な描写等の一つ一つ味わっていく。さらに、作品の背景となっている時代状況、社会制度、出自をめぐる差別の様相等に注目し、それらを現代にも通じる問題として考察する。

受講生には、明治時代の男女や友人関係の描かれ方だけでなく、すでに過去のものとなった文化・風俗についても関心を持ち、積極的に学んでほしい。また、明治期の差別の諸相を深く理解することにより、自他の人権を尊重しようとする態度・志向性を養ってほしい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、『破戒』の新潮文庫と、教員が作成し配布するレジュメをもとに進める。レジュメは、作品の周辺情報や作者の伝記的情報、小説の粗筋と語注、考察ポイント等をまとめたものである。受講生はこのレジュメの空欄部分を、教員の解説を聞きながら各自で埋めていく。その際、不明な点については質疑応答をつうじて明らかにする。

なお、各回の授業開始時には、前回までの内容について、教員から受講生に質問をするかたちの質疑応答も行う。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

1. 明治時代の小説に描かれた人間関係・風俗・社会問題を学ぶことにより、他者・異文化・異文脈との接点を通じて培う態度・志向性をもつことができる。(DP2-2)(態度・志向性)

2. 学んだ事柄を十分に理解し、責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。(DP3-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

シラバスおよび取り上げる作品に目を通し、不明な点を明らかにして授業にのぞむこと。(90分)

講義資料を見直し、分からない用語や関心をもった事柄について自分で調べること。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

到達目標1および到達目標2について、それぞれの達成度を評価の基準とする。

定期試験（知識を問う穴埋め問題と、指定のテーマについての論述問題）70%、平常点（授業への参加姿勢、質疑応答の内容）30%を合わせて総合的に評価する。

- - - テキスト - - -

島崎藤村『破戒』（新潮文庫、新潮社、2005年7月改版、定価：本体750円、ISBN：9784101055077）

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜、紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

小説に描かれた暴力的な表現、差別と関わる表現について考察することがある。

授業に出席することは成績評価の前提なので、無断欠席をしないこと。

遅刻、途中退出、私語をしないこと。

教員に指示された場合を除き、携帯機器を使用しないこと。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イン트로ダクション：作者と執筆状況について（スタートアップ授業）
- 2 自然主義文学と「新平民」差別について
- 3 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 4 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 5 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 6 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 7 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 8 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 9 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 10 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 11 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 12 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 13 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 14 『破戒』講読（あらすじ、語注、本文）
- 15 小説末尾の解釈をめぐって
授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/zvs5hbzglfoqwxw1yi433gg3pduvd4ok>)

畑中 佳恵

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1. 明治時代の小説に描かれた人間関係・風俗・社会問題を学ぶことにより、他者・異文化・異文脈との接点を通じて培う態度・志向性をもつことができる。（DP2-2）（態度・志向性）

2.2. 学んだ事柄を十分に理解し、責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。（DP3-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

高橋 昌彦

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

- - - 概要 - - -

「天狗」は、日本の著述において、古代から登場してくる。日本より早く、中国においても、その名称そのものは存在するが、意味は異なることがわかる。そして、平安時代、鎌倉・室町時代と時の流れの中で現在に近いイメージが定着する。鼻高天狗やカラス天狗などと呼ばれるものたちである。さらに江戸時代や明治時代になると、さまざまな天狗像が登場してくることが、作品を読んでいくことで見えてくる。それは姿形は勿論、おのおのが個性を持った存在として描かれることになる。

そもそも「天狗」とはいったい何ものであったのか。鬼や他の魔物とはどこが異なるのか。いったいどんな理由で必要とされてきたのか。誰にとって不可欠な存在であったのか。容貌や着衣のイメージはどうして生まれたのか。また、それがどうして変化していったのか。今日、当たり前のように思っていることの裏に、どんな理由があるのかを、さまざまな疑問や多面的な視点を持ちながら、それぞれの時代について、いくつかの作品を読み進めていくことにする。

授業では、日本文学作品（古典から近代まで）や史書を扱い、また民俗学にもふれながら、授業を行う。とり扱う作品が古文・漢文の場合は、現代語訳や意識を行い、作品の理解を深める。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した資料（授業中に配布）をもとに講義形式で行う。数回の授業では講義内容の理解や時間外の調査結果を確認するために、ミニッツペーパーで回答を求める。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

授業のテーマを通して、文学とその近接分野を理解する。
 (DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：事前に配布する資料をよく読み、作品について調べておく(120分)

復習：授業後は、その内容を振り返り理解を深める(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：天狗に関する基本的な知識を身につけ、自分の言葉で正確に説明できているか、テーマについてその変遷を理解し得たか、自身で新たな問題を見つけることができたかを評価基準とする。

評価方法：定期試験（80%）と授業中の提出物（ミニッツペーパー）など（20%）によって、総合的に評価する。

- - - テキスト - - -

資料プリントを配布する。

- - - 履修上の留意点 - - -

理由なく欠席・遅刻しないこと。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イン트로ダクション（スタートアップ授業）
授業の進め方等について
天狗の基礎知識
- 2 古代における天狗
- 3 "
- 4 平安時代における天狗
- 5 "
- 6 "
- 7 中世における天狗
- 8 "
- 9 "
- 10 江戸時代における天狗
- 11 "
- 12 "
- 13 明治時代における天狗
- 14 "
- 15 まとめ
授業アンケートFURIK Aの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/tqcul6p5tnhgf5toi9lq1u2jbz9q1fig>)

高橋 昌彦

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

1.授業のテーマを通して、文学とその近接分野を理解する。(DP2-2) (知識・理解)

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

大木 桃子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・2時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

- - - 概要 - - -

平安時代末期に成った説話集今昔物語集を読む。本書は収録説話約1千を超え、インド・中国・日本の話を載せる仏教説話集である。一方で、世俗の説話も多く含まれ、芥川龍之介をはじめとする近代文学者が小説の題材としたことでも知られる。

本講義では、今昔物語集の説話とその説話に題材を取った芥川龍之介の小説を比較する。さらに小説『藪の中』を映画化した「羅生門」を鑑賞する。説話・小説・映像がどう関わり、どう異なるか考えたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業はテキストと配布プリントを使った講義形式で行う。具体的には、今昔物語集の説話と説話を題材にした芥川龍之介の小説三作品を読み比べ、さらに映像作品を鑑賞する(授業計画参照)。FUポータルの小テスト機能を使って小テストを3回程度行って理解を深める。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

芥川龍之介が小説の題材にした説話の内容を理解することができる(DP2-2)(知識・理解)

今昔物語集に題材を取った芥川龍之介の作品の内容を理解し、説話との違いを説明することができる(DP2-2)(知識・理解)

芥川龍之介の小説『藪の中』を映画化した「羅生門」を鑑賞し、説話・小説・映像の違いを説明することができる(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業で次にやるところを読んでおく(80分)

授業でやったところを復習する(小テストの試験勉強を兼ねる)(100分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験80%(今昔物語集の説話と説話取材した芥川龍之介の小説の比較、また小説を映画化した作品を鑑賞し、それぞれの違いを理解しているかを判断する)

平常点20%(授業中に全3回程度小テストを行う。テスト結果は次の授業でフィードバックする。受けて終わりというわけではない。後の授業や定期試験に役立ててほしい)

- - - テキスト - - -

角川書店編 ビギナーズ・クラシックス日本の古典『今昔物語集』 KADOKAWA 2002年 720円+税
ISBN978-4-04-357409-4
* 金文堂福大店でも購入できる

芥川龍之介の小説に関しては、プリントを配布する。

- - - 参考書 - - -

新日本古典文学大系「今昔物語集」1～5 岩波書店

- - - 履修上の留意点 - - -

・遅刻・私語・板書の写メは授業の進行、他の履修生の勉学の妨げになる。厳重に慎むこと。
・映画「羅生門」は授業中にDVD鑑賞をする。欠席しないこと。

・非常勤講師なので研究室がない。また非常勤控室に荷物を置く場所もないので、配布物はその都度受け取るように。

- - - 授業計画 - - -

1、イントロダクション(スタートアップ授業)

2～5

読解と鑑賞(数字は、説話の巻と番号)

・今昔物語集28 20長大な鼻をゆでては脂抜きをする高僧の食事風景...芥川龍之介『鼻』との比較考察

6～9

読解と鑑賞

・今昔物語集29 18死体の捨て場所だった羅城門のある夜のできごと...芥川龍之介『羅生門』との比較考察

10～14

読解と鑑賞

今昔物語集29 23名刀と交換した弓矢でおどされ、妻を犯された男...芥川龍之介『藪の中』及び、映画「羅生門」との比較考察

*この間3回程度の小テストを課す。「成績評価基準および方法」参照

15 まとめ

FURIKAアンケートの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ji2fsapwvxrcpmjjsstaij6al2a9dhun>)

大木 桃子

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.芥川龍之介が小説の題材にした説話の内容を理解することができる (DP2-2)
(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.今昔物語集に題材を取った芥川龍之介の作品の内容を理解し、説話との違いを説明することができる (DP2-2) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

3.芥川龍之介の小説『藪の中』を映画化した「羅生門」を鑑賞し、説話・小説・映像の違いを説明することができる (DP2-2) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

須藤 圭

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・2時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

- - - 概要 - - -

授業のテーマは「王朝物語を読む」です。この授業では、平安時代以降に書かれたフィクションの王朝物語を鑑賞します。王朝物語は、貴族たちの生活を中心に描いた古典文学作品のことですが、そこには、権力、いじめ、ゴシップ、戦争、貧困、転生、トランスジェンダーなど、現代にもつうじる多彩なテーマが描かれています。王朝物語の想像力を読み解きながら、日本文学の可能性を問いなおします。

- - - 授業の進行・方法 - - -

教員が作成した講義資料・スライドをもとに講義形式で行います。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

主な王朝物語の概略を説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

王朝物語史の流れを理解できる。(DP4-2)(技能)

王朝物語にあらわれた思考や価値観を理解し、自らの価値観を見直すことができる。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：授業でとりあげる文学について、調べておきましょう。(90分)

復習：授業の復習をするとともに、関連する文学についても調べておきましょう。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

上記「到達目標」に対する達成度を、以下の基準で評価します。

・定期試験（70％）。授業内容を適切に理解し、自らの考えをまとめることができたかどうか。

・ミニツツペーパー（30％）。積極的に授業を受講し、感想や意見を提出することができたかどうか。なお、ミニツツペーパーの内容は、次回授業時にとりあげ、フィードバックを行います。

- - - テキスト - - -

プリントを配布します。

- - - 参考書 - - -

適宜、授業の中で紹介します。

- - - 履修上の留意点 - - -

江戸時代以前の古典文学を対象にしますが、古文読解の知識は求めません。現代語訳を併記して講義します。

古典文学は、抜群に面白いです。たくさん読んでみてください。

- - - 授業計画 - - -

- 1 インTRODクシヨン（スタートアップ授業）
- 2 『竹取物語』
- 3 『うつほ物語』
- 4 『伊勢物語』
- 5 『源氏物語』
- 6 『狭衣物語』
- 7 『浜松中納言物語』
- 8 『夜の寝覚』
- 9 『とりかへばや』
- 10 『松浦宮物語』
- 11 『石清水物語』
- 12 『我が身にたどる姫君』
- 13 『恋路ゆかしき大将』
- 14 『風に紅葉』
- 15 まとめ 王朝物語のヒューマニティーズ・授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/nus9igjhmmxk6jd61ku8dmks2en8bbdl>

須藤 圭

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 主な王朝物語の概略を説明することができる。（DP2-2）（知識・理解）
2. 王朝物語史の流れを理解できる。（DP4-2）（技能）
3. 王朝物語にあらわれた思考や価値観を理解し、自らの価値観を見直すことができる。（DP3-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

永井 太郎

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：金・5時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

- - - 概要 - - -

授業の内容は、幻想文学の、物語としてのパターンについての考察と、前期と同様の、幻想文学に関する議論の中で、よく言及されるテーマの考察である。これによって、物語の作りについて理解を深め、幻想文学についての基本的な知識を得ることが目的である。

授業の前半では、ファンタジーなどの物語の構造について考える。物語の構造とは、物語がもっている共通のパターンのことである。そうしたパターンのいくつかについて紹介し、一見すると全く違う作品に、共通するパターンがあることを学ぶ。それは、あるパターンから生み出される物語の多様性について知ることでもある。後半では、前期と同様に、具体的な個別のテーマについて取り上げる。その内容は授業計画に記した通りである。ただ、若干の変更がありえることは留意してほしい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、講義形式で行う。教員が作成した講義資料を授業中に配布し、それを参考にしながら、講義をしていく。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

あるパターンのもと生み出される物語の多様性と、幻想文学の諸テーマの文化的・歴史的意味を理解することが出来る。
(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業の内容を復習し、わからないことを調べる。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

日本の近代文学の中で、幻想文学に関係するいくつかの作品名および作家名をあげることが出来るか、幻想文学に関する基本的な理論やテーマを理解しているかどうかを評価の基準とする。
評価方法は定期試験による。

- - - テキスト - - -

ない。授業中にレジメを配布する。

- - - 参考書 - - -

特に指定しない。

- - - 履修上の留意点 - - -

終始、幻想文学についての話なので、こうしたテーマについていくらかの知識、少なくとも関心を持っていることが望ましい。

- - - 授業計画 - - -

- 1、シラバスの説明及びイントロダクション（スタートアップ授業）
- 2、物語論の基本
- 3、フィクションについて
- 4、行って帰る物語
- 5、登場人物の分類
- 6、主人公の変化
- 7、ストーリー構成の典型
- 8、視点
- 9、英雄の物語
- 10、信頼できない語り手
- 11、アーサー王伝説
- 12、狐の物語
- 13、フランケンシュタイン
- 14、女の幽霊（授業アンケートFURIKAの実施）
- 15、まとめ

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/hbcwufsg0qd4ipmt3276jl3hp10gcbzb>)

永井 太郎

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.あるパターンのもと生み出される物語の多様性と、幻想文学の諸テーマの文化的・歴史的意味を理解することができる。（DP2-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

大坪 亮介

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・3時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

- - - 概要 - - -

『徒然草』を読む。兼好法師が著した『徒然草』は、国語の教科書で取り上げられることも多く、最も身近な古典文学作品の一つとってよかろう。「少しのことにも、先達はあらまほしき事なり」という教訓で結ばれる「仁和寺にある法師」（第五十二段）などは、ほとんどの受講者が一度は目を通したことがあるのではなかろうか。こうした章段が取り上げられるゆえか、この作品に対しては、どこか退屈で説教くさいイメージを持つ受講者も多いのではなかろうか。しかし、教科書に掲載されているのは、当然のことながら、『徒然草』全体のごく一部にしかならない。『徒然草』には、人生の教訓や恋愛といった、現代でも通用する普遍的な内容を持つ章段もあれば、兼好周辺の環境や、彼が生きた時代を色濃く反映した章段もあり、単に古語を現代語訳に置き換えるだけでは理解できない部分も多いのである。本授業では、多彩な『徒然草』の章段を、授業計画で示したテーマに分類し、最新の研究成果も紹介しつつ、高校までの教科書では味わえなかった『徒然草』の世界について理解を深めていく。なお、本授業は講義形式で行うが、授業内課題として、受講者が自身の考えや意見を述べる機会を設けることとしたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

毎回の授業では、各テーマに関わる章段を最低一つ取り上げ、教科書を用いてその本文の内容について解説していく。さらに、プリントやスライドを用いて、章段の読解に関わる資料を提示していく。各授業では、授業内課題として自分の意見や考えを記述する時間を設けることとし、そこで受講者から寄せられたコメントは、時間の許す限り次回授業の初めに紹介することとしたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

『徒然草』の多彩な章段の読解を通じて、現代とは異なる時代の社会・文化・人々の心性、ひいては自分とは異なる他者を理解しようとする姿勢を身につける。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：授業前には指示があった授業範囲のテキストを下読みし、参考図書の授業内容に関わる箇所を読んでおく。(90分)

復習：授業後には内容を各自ノートにまとめるなどして、理解を定着させること。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験および授業内課題等により、『徒然草』の内容、そして当時の社会や文化に関する理解度を測る。定期試験の成績を50%、授業内課題への取り組み等の平常点を50%で評価する。

- - - テキスト - - -

西尾実・屋良岡康作『新訂 徒然草』岩波書店、1985年、1243円、ISBN:400301121X

- - - 参考書 - - -

五味文彦『徒然草の歴史学』角川ソフィア文庫、2014年 ISBN 4044092168
小川剛生『兼好法師 徒然草に記されなかった真実』中公新書、2017年 ISBN 412102463X
その他、適宜授業中に紹介します。

- - - 履修上の留意点 - - -

古典の世界に親しみたいという意欲のある学生の受講を望む。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2 『徒然草』の時代
- 3 『徒然草』の時代
- 4 『徒然草』の時代
- 5 都市に生きる
- 6 都市に生きる
- 7 都市に生きる
- 8 兼好と東国
- 9 兼好と東国
- 10 不思議な出来事
- 11 不思議な出来事
- 12 人生について
- 13 人生について
- 14 前半のまとめ
- 15 後半のまとめ・授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/1a0oz38y31vwivjxxqs5omtng8sw45m>)

大坪 亮介

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 『徒然草』の多彩な章段の読解を通じて、現代とは異なる時代の社会・文化・人々の心性、ひいては自分とは異なる他者を理解しようとする姿勢を身につける。(DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

野田 康文

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：火・二部2時間 試験時間割：2025/01/21 夜2限

--- 概要 ---

この科目は、日本の近代文学を読んでみたい、文学作品をじっくりと読むことの面白さを知りたい、という人のためのものです。半期に分けて、日本の近代文学を代表する作品 前期は短編小説、後期は長編小説 を扱います。特に通年で履修する必要はありません。

後期は、明治末から大正・昭和にかけて活躍した作家・谷崎潤一郎の『痴人の愛』という長編小説を読みます。関東大震災後のアメリカ的風潮を背景に流行したモダンガールのヒロインと、彼女に溺れていく男との恋愛を描いています。谷崎文学の中でも、最もよく読まれている作品の1つです。大事な場面を中心に、設問を考えながら指定のテキストで読んでいきます。講義では、ただ本文を読むだけでは理解できない、時代的背景や、作品の一言一句にこめられた思想的な特徴などについても解説しますので、近代の日本文化についての知識と教養を深めることができます。

谷崎潤一郎は、国際的にも評価が高く、その後の日本文学に大きな影響を与えた作家です。今日でも読み継がれている彼の文学作品を読み解いていくことは、現代日本に生きる皆さんにとっても、明治以来、急激に近代化し、今の日本の基礎を築いていった時代に生きた人たちの葛藤を理解し、それを自分の問題に引きつけて考える柔軟な感受性や想像力を身につけるのに役立つでしょう。1つの作品を半年かけてじっくりと深く読んでいくので、文学を読むことの好きな人、興味のある人に向いている科目です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、指定のテキストと教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。授業内容の理解度を確保するためにFUポータルを用いた小テストに数回取り組んでもらいます。また、その小テストの講評を通して、理解を深めていきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

日本の近代文学の一端にふれることを通して、近代の日本文化についての知識と教養を深める。(DP2-2)(知識・理解)

文学作品を読み解く感受性や想像力を身につける。(DP2-1)(態度・志向性)

近代文学に登場するさまざまな人物の思考や気持ちの理解を通じて、世代や価値観の異なる共同体に積極的に関わる態度を身につける。(DP4-2)(技能)

上記のことを自分の言葉で説明する力をつける。(DP3-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

毎回の授業で配布する設問プリントと指定のテキストを、予習・復習にも活用してください。予習としては、次回の講義にスムーズに入っていけるよう、授業の前日に必ず前回と次回のテキストと前回の設問(解答を含めて)を読み返しておくこと。(90分程度)(90分)

復習としては、毎回の授業後、その日の講義の解説とキーワードに基づいて、その日の設問の解答をあらためて自分の言葉で作成すること。(90分程度)試験の直前にまとめて行うのは、時間的にも記憶の上からも無理があるので、毎回の授業後に必ず作成すること。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

授業では毎回、読解すべきテキストの範囲を指示し、設問プリントを配布します。受講者はまず、設問の答えを考えながら、本文を自分の力で読んでいきます。その後、解説を聴きながら、自分の読みと比べ、キーワードを手がかりに設問の解答を自分の言葉で作成してください。出欠は基本的にはとりませんが、解説の後に、設問の解答や講義での学習内容を小テストの形で提出してもらいますので、それを平常点として扱います。提出した小テストの解答は、受講態度の目安として、講義内容やキーワードが踏まえられているか、設問の問いにきちんと対応した答えとなっているかを評価の基準とします。フィードバックとして小テストを回収後、次回に解答の解説を行います。

評価は基本的には、上記の小テストと定期試験によって行います。試験では、この授業の到達目標である「近代の日本文化についての知識と教養を深める」と、「文学作品を読み解く感受性や想像力を身につける」ことができているか、それを授業中に示したキーワードを手がかりとして「自分の言葉で説明する」ことができているかを評価基準として採点しますので、必然的に授業を聴いている人が有利になります。試験時の持ち込みは一切不可。

原則として定期試験80%、平常点20%で評価します。定期試験により到達目標の「知識・理解」、「態度・志向性」、「技能」を、授業中に講義した設問のランダム抽出に解答することで総合的に評価し、平常点では受講態度と特に「技能」を評価します。

--- テキスト ---

谷崎潤一郎著『痴人の愛』新潮文庫。(金文堂書店福大店で購入可)

--- 履修上の留意点 ---

小テストにあたって、小テスト開始の時点で遅刻したり、退席したりしていた者は、欠席扱いとし、受講態度の評価の参考とします。

他人に迷惑をかける行為、特に授業中に私語をすることをかたく禁じ、受講態度の評価として重視します。

--- 授業計画 ---

第1回：スタートアップ授業：『痴人の愛』を読む1 シラバスに沿った授業ガイダンス&イントロダクション、作者紹介、

第2回：『痴人の愛』を読む2 テキスト1の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第3回：『痴人の愛』を読む3 テキスト2の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第4回：『痴人の愛』を読む4 テキスト3の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第5回：『痴人の愛』を読む5 テキスト4の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第6回：『痴人の愛』を読む6 テキスト5の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第7回：『痴人の愛』を読む7 テキスト6の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第8回：『痴人の愛』を読む8 テキスト7の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第9回：『痴人の愛』を読む9 テキスト8の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第10回：『痴人の愛』を読む10 テキスト9の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第11回：『痴人の愛』を読む11 テキスト10の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第12回：『痴人の愛』を読む12 テキスト11の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第13回：『痴人の愛』を読む13 テキスト12の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第14回：『痴人の愛』を読む14 テキスト13の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、授業

アンケートFURIKAの実施

第15回：『痴人の愛』を読む15 テキスト14の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、全体

まとめ

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/s0vk4ddb1otjycmr5swr1t9m13dc8pdy>)

--- 添付ファイル ---

スタートアップ授業テキスト

(日本文学B・講義テキスト (2024).pdf)

野田 康文

全学部学科: DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.日本の近代文学の一端にふれることを通して、近代の日本文化についての知識と教養を深める。（DP2-2）（知識・理解）

2.文学作品を読み解く感受性や想像力を身につける。（DP2-1）（態度・志向性）

3.近代文学に登場するさまざまな人物の思考や気持ちの理解を通じて、世代や価値観の異なる共同体に積極的に関わる態度を身につける。（DP4-2）（技能）

4.上記のことを自分の言葉で説明する力をつける。（DP3-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

衣畑 智秀

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：月・3時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

琉球語は、日本語と親族関係が証明されている唯一の言語である。そのため、しばしば日本語の方言と見なされることもあるが、日本語諸方言との相互理解性はほとんどない。本講義では、琉球語の中でも宮古島で話されるミャークフツ(宮古言葉)について、特に平良付近の方言をもとに学習する。授業は語学の授業の体裁で進めるが、琉球語には多く日本語との対応見られるため、高等学校で学習してきた英語とは異なり、日本語の直感が学習に生きる面がある。そのため、詰め込み教育とは異なる語学学習の面白さを発見できるであろう。最終的には、ミャークフツ・シンガー下地勇の歌を聴き歌詞を理解できるようにまでなしてほしい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

ミャークフツの発音練習、ミャークフツによる歌詞の理解、文法の解説とその練習問題など、一般の語学の授業の体裁で進める。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

ミャークフツに関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

ミャークフツを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-1)(知識・理解)

さまざまな言語・方言があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(DP2-2)(知識・理解)

自分の使う伝統方言に誠実に責任を持つことができる(DP3-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

文法事項について、練習問題をしながら復習すること。(90分)

毎回課される単語テストを受けて授業に臨むこと(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

ミャークフツの単語・文の理解、文の翻訳を基準に、授業での発表(10%)、単語テスト(30%)、練習問題の提出(30%)、期末課題(30%)で評価する。

- - - テキスト - - -

授業中に配布する。

- - - 参考書 - - -

本ではないが、以下のCDなどを聞いているのが望ましい。下地勇『天[tin]』(インペリアルレコード)

- - - 履修上の留意点 - - -

定期試験は行わないため、再試験を受験することはできない。

- - - 授業計画 - - -

- 1.琉球方言と本土方言(スタートアップ授業)
- 2.ヤマトウフツとミャークフツの音韻対応1
- 3.ヤマトウフツとミャークフツの音韻対応2
- 4.ヤマトウフツとミャークフツの音韻対応3
- 5.助詞と母音の融合
- 6.動詞の基本形
- 7.動詞の連用形
- 8.動詞の命令形
- 9.動詞の意志・否定形
- 10.動詞活用のまとめ
- 11.形容詞
- 12.助詞
- 13.鑑賞1：おばあ
- 14.鑑賞2：ワイドー
- 15.鑑賞3：我達が生まり島、およびFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/fih94nusaffr4jexkocz78wrqlfebl38>

衣畑 智秀

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.ミヤークツに関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。
(DP1-1) (知識・理解)

2.ミヤークツを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる
(DP2-1) (知識・理解)

3.さまざまな言語・方言があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる
(DP2-2) (知識・理解)

4.自分の使う伝統方言に誠実に責任を持つことができる (DP3-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

永井 太郎

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：水・4時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

本授業では、日本の近現代の作品を取りあげて、丁寧に読んでいく。短編もしくは中編の小説を読んで、ゼミの参加者とその作品について議論をする。作品の解釈には、人によって様々な意見の相違がある。参加者には、作品の解釈の問題について、自ら考え、ある立場に立ち、ゼミでは、自らの立場から、他の人と討論をしてもらう。漠然と好きだ、嫌いだ、よくわからないというのではなく、自分の意見を明確に言語化し、他の人に対してその意見の根拠を説明すること、そして同時に、自分の考えとは違う他人の意見を聞き、それに対して、理解し、反論することを求める。

なお、授業計画にあげた作品については、変更の可能性がある。特に、第14回には、ゼミ参加者の希望を聞いて、作品を決める。また、作品の中には、やや長い作品も含まれている。そのため、きちんと予習をしないと授業に参加できない。これらの点には留意していただきたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この教養ゼミは、受講生によるディスカッションを中心に進行する。授業一回につき、比較的短い小説を一つ読んでいく。授業で取り上げる前に、前もってテキストをレジメにしたものを配布する。配布されたテキストを読んできてもらい、その作品の解釈に関する質問に答えてもらう。その後、その解答に基づいて、授業の中でディスカッションをする。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

文学について考えるための基礎的な知識を理解し、説明することが出来る。(DP1-1)(知識・理解)

個々の作品に関する知識についてよく理解し、説明することが出来る。(DP2-1)(知識・理解)

様々な他者の意見や考えを踏まえた上で、ディスカッションに参加することが出来る。(DP2-2)(知識・理解)

ディスカッションの中で、自分の意見を責任もって主張することが出来る。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

次の授業までに、作品を読んで、その作品に対する質問に答える。(150分)

授業で読んだ作品を読み直して、演習で出た他の人の意見を踏まえて、自分なりに考えなおすこと(30分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

作品に関する自分の意見を十分な根拠に基づいて説明できているのかを評価の基準とする。

評価方法は授業ごとに提出するレポート(50%)と授業における発言及び内容(50%)による。

なお、定期試験は実施しないため、再試験も実施しない。

- - - テキスト - - -

テキストは使用しない。こちらで準備したレジメを配付して授業を行う。

- - - 参考書 - - -

特に指定しない。

- - - 履修上の留意点 - - -

小説について自分の意見を述べる授業なので、小説が好きな人、小説について考えるのが好きな人が望ましい。また、概要でも述べたが、取り上げる作品には、やや長い作品も含まれる。きちんと予習して、作品を読んでくることが出来る学生が望ましい。

- - - 授業計画 - - -

- 1、シラバスの説明及びイントロダクション(スタートアップ授業)
- 2、ガイダンス
- 3、「よだかの星」
- 4、「地獄変」
- 5、「山椒魚」
- 6、「葉桜と魔笛」
- 7、「かわうそ」
- 8、「キッチン」
- 9、「赤い繭」
- 10、「コンビニ人間」
- 11、「ある家族の夕餉」
- 12、「たけくらべ(訳)」
- 13、「盆土産」
- 14、ゼミ参加者の希望作品(授業アンケートFURIKAの実施)
- 15、まとめ

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/trat7xzkhdl6swd6lw4au2nmszgvf60n>)

永井 太郎

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.文学について考えるための基礎的な知識を理解し、説明することが出来る。
(DP1-1) (知識・理解)

2.個々の作品に関する知識についてよく理解し、説明することが出来る。
(DP2-1) (知識・理解)

3.様々な他者の意見や考えを踏まえた上で、ディスカッションに参加することが出来る。
(DP2-2) (知識・理解)

4.ディスカッションの中で、自分の意見を責任もって主張することが出来る。
(DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

久芳 崇

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：月・4 時限 試験時間割：2024/07/30 4 時限

- - - 概要 - - -

本講義において対象とするのは、おおよそ紀元前3世紀頃から紀元後6世紀頃を中心とした、中国を中心とする東洋の歴史である。しかしここではそれを単に「王朝交替」の枠内で孤立的に捉えようとするものではない。中国周辺諸地域や東アジア世界、そして時にはユーラシア世界をも包摂する広大な地理的空間のなかで、中国の歴史を相対的・客観的に捉え、それが周辺諸地域の多様な文化圏との密接な交流と相互作用のなかで流動的に変容・展開してゆく諸相を多面的に概括してゆこうとするものである。

本講義では、特に漢民族の形成過程について着目し検討してゆきたい。現在の中華人民共和国の大多数(9割以上)を占めるとされる漢民族が、長期にわたる周辺諸地域との交流・抗争を経て、どのように変容してきたのか。こうした点を明らかにすることにより、今日我々が思い浮かべる単一的なイメージとしての漢民族が、極めて多様な民族との抗争と融合の結果、形成されたものであることを明らかとしてゆきたい。

なお本授業は講義形式で行う。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した講義資料およびパワーポイントをもとに、講義形式で行う。

講義資料およびパワーポイントの一部は、毎回(講義実施日の前日までに)FuPortalを通じて配信する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

東洋史の基礎的な知識を説明できる(DP1-1)(知識・理解)

現代日本の最重要課題である人口減と移民問題を資料を通じて把握できる(DP2-2)(態度・志向性)

過去の気候の復元方法について説明できる(DP2-1)(知識・理解)

寒冷化に伴う移民の流入が漢民族社会にもたらす変化の全体状況を把握できる(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

配布資料を熟読し、記される内容を十分に把握する。(90分)

講義終了後、配信資料が講義全体のなかでどのような位置付けになるのかを十分に把握し理解する。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

漢民族がいかにして形成されたかを理解し説明できるかを評価の基準とする。

定期試験により評価(100%)。

- - - テキスト - - -

毎回資料を配信。

- - - 参考書 - - -

毎回資料を配信。

- - - 履修上の留意点 - - -

講義中の退室は基本的に不可である。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 現代日本の人口・移民問題
3. 漢民族とは何か(1)
4. 漢民族とは何か(2)
5. 万里の長城
6. 漢と匈奴
7. 遊牧民の流入
8. 気候変動と歴史
9. 過去の気候の復元(1)
10. 過去の気候の復元(2)
11. 騎馬民族の流入と中国
12. 五胡十六国時代
13. 北魏孝文帝の改革
14. 胡漢融合 授業アンケートFURIKAの実施
15. 漢民族の変容

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/lp3uymdipbreexca51847ig9su7pbuiz>)

久芳 崇

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.東洋史の基礎的な知識を説明できる (DP1-1) (知識・理解)
- 2.現代日本の最重要課題である人口減と移民問題を資料を通じて把握できる (DP2-2) (態度・志向性)
- 3.過去の気候の復元方法について説明できる (DP2-1) (知識・理解)
- 4.寒冷化に伴う移民の流入が漢民族社会にもたらす変化の全体状況を把握できる (DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

久芳 崇

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：月・5 時限 試験時間割：2024/07/30 4 時限

- - - 概要 - - -

本講義において対象とするのは、おおよそ紀元前3世紀頃から紀元後6世紀頃を中心とした、中国を中心とする東洋の歴史である。しかしここではそれを単に「王朝交替」の枠内で孤立的に捉えようとするものではない。中国周辺諸地域や東アジア世界、そして時にはユーラシア世界をも包摂する広大な地理的空間のなかで、中国の歴史を相対的・客観的に捉え、それが周辺諸地域の多様な文化圏との密接な交流と相互作用のなかで流動的に変容・展開してゆく諸相を多面的に概括してゆこうとするものである。

本講義では、特に漢民族の形成過程について着目し検討してゆきたい。現在の中華人民共和国の大多数(9割以上)を占めるとされる漢民族が、長期にわたる周辺諸地域との交流・抗争を経て、どのように変容してきたのか。こうした点を明らかにすることにより、今日我々が思い浮かべる単一的なイメージとしての漢民族が、極めて多様な民族との抗争と融合の結果、形成されたものであることを明らかとしてゆきたい。

なお本授業は講義形式で行う。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した講義資料およびパワーポイントをもとに、講義形式で行う。

講義資料およびパワーポイントの一部は、毎回(講義実施日の前日までに)FuPortalを通じて配信する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

東洋史の基礎的な知識を説明できる(DP1-1)(知識・理解)

現代日本の最重要課題である人口減と移民問題を資料を通じて把握できる(DP2-2)(態度・志向性)

過去の気候の復元方法について説明できる(DP2-1)(知識・理解)

寒冷化に伴う移民の流入が漢民族社会にもたらす変化の全体状況を把握できる(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

配布資料を熟読し、記される内容を十分に把握する。(90分)

講義終了後、配信資料が講義全体のなかでどのような位置付けになるのかを十分に把握し理解する。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

漢民族がいかにして形成されたかを理解し説明できるかを評価の基準とする。

定期試験により評価(100%)。

- - - テキスト - - -

毎回資料を配信。

- - - 参考書 - - -

毎回資料を配信。

- - - 履修上の留意点 - - -

講義中の退室は基本的に不可である。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 現代日本の人口・移民問題
3. 漢民族とは何か(1)
4. 漢民族とは何か(2)
5. 万里の長城
6. 漢と匈奴
7. 遊牧民の流入
8. 気候変動と歴史
9. 過去の気候の復元(1)
10. 過去の気候の復元(2)
11. 騎馬民族の流入と中国
12. 五胡十六国時代
13. 北魏孝文帝の改革
14. 胡漢融合 授業アンケートFURIKAの実施
15. 漢民族の変容

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/knbc58c0xk7rpfyi4d1s1f8dl8p8k0r5>)

久芳 崇

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.東洋史の基礎的な知識を説明できる (DP1-1) (知識・理解)
- 2.現代日本の最重要課題である人口減と移民問題を資料を通じて把握できる (DP2-2) (態度・志向性)
- 3.過去の気候の復元方法について説明できる (DP2-1) (知識・理解)
- 4.寒冷化に伴う移民の流入が漢民族社会にもたらす変化の全体状況を把握できる (DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

荒木 雪葉

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：月・1 時限 試験時間割：2024/07/30 4 時限

- - - 概要 - - -

この授業では、先秦から漢代までの中国の歴史に焦点を絞り、東アジア世界に大きな存在感を持つ中国の源泉をさぐる。世界史の中の中国、中国と周辺に着目し、文献やモノから見える文化を探究する。

具体的には、まず中国の国の形を東洋というマクロの視点、中国史というミクロの視点で確認する。そして先秦から漢代までの中国の歴史を青銅器や玉、漢字といったモノという切り口から解説していく。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行う。プリント配布、パワーポイント等の視聴覚資料を用いる。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

大学4年間（6年間）の学びを支えるために、東洋史の中核をなす中国の古代史の基礎知識を身につけている(DP1-1)(知識・理解)

東洋古代史を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-1)(態度・志向性)

東洋史を学ぶことでさまざまな他者の考え方・価値観があることを認識し、それを踏まえて物事に柔軟に接することができる(DP2-2)(態度・志向性)

東洋の古代史を学ぶことで知識や根拠の重要性を認識し、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(DP3-1)(態度・志向性)

東洋史を学んで身につけた知識や態度を以てチーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：配布した資料を熟読しておく。(90分)

復習：授業内容を復習し、不明な点があれば質問事項としてまとめておく。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：講義への積極性と講義内容の理解度によって評価する。

評価方法：スタートアップ授業の課題及び毎回の講義時のミニツッペーパー（40点）、定期試験（60点）、合計100点で評価する。

- - - テキスト - - -

無し。適宜プリントを配布する。

- - - 参考書 - - -

必要に応じて紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗等に応じて多少の変更が生じる可能性がある。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 東洋史から見る中国
3. 国の形
4. 殷、周
5. 春秋時代
6. 戦国時代
7. 青銅器(1)殷から周
8. 青銅器(2)春秋時代、戦国時代
9. 玉
10. 漢字(1)文字、文化と権力
11. 漢字(2)日本と漢字、漢文
12. 食
13. 生産
14. 異民族
15. 総括、FURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/8z7mn790h7h84lcckorhrj6urmh6egvj>

荒木 雪葉

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.大学4年間（6年間）の学びを支えるために、東洋史の中核をなす中国の古代史の基礎知識を身につけている (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.東洋古代史を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (DP2-1) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

3.東洋史を学ぶことでさまざまな他者の考え方・価値観があることを認識し、それを踏まえて物事に柔軟に接することができる (DP2-2) (態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

4.東洋の古代史を学ぶことで知識や根拠の重要性を認識し、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (DP3-1) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.東洋史を学んで身につけた知識や態度を以てチーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (DP4-2) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

荒木 雪葉

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：月・3 時限 試験時間割：2024/07/30 4 時限

- - - 概要 - - -

この授業では、先秦から漢代までの中国の歴史に焦点を絞り、東アジア世界に大きな存在感を持つ中国の源泉をさぐる。世界史の中の中国、中国と周辺に着目し、文献やモノから見える文化を探究する。

具体的には、まず中国の国の形を東洋というマクロの視点、中国史というミクロの視点で確認する。そして先秦から漢代までの中国の歴史を青銅器や玉、漢字といったモノという切り口から解説していく。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行う。プリント配布、パワーポイント等の視聴覚資料を用いる。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

大学4年間（6年間）の学びを支えるために、東洋史の中核をなす中国の古代史の基礎知識を身につけている(DP1-1)(知識・理解)

東洋古代史を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-1)(態度・志向性)

東洋史を学ぶことでさまざまな他者の考え方・価値観があることを認識し、それを踏まえて物事に柔軟に接することができる(DP2-2)(態度・志向性)

東洋の古代史を学ぶことで知識や根拠の重要性を認識し、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(DP3-1)(態度・志向性)

東洋史を学んで身につけた知識や態度を以てチーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：配布した資料を熟読しておく。(90分)

復習：授業内容を復習し、不明な点があれば質問事項としてまとめておく。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：講義への積極性と講義内容の理解度によって評価する。

評価方法：スタートアップ授業の課題及び毎回の講義時のミニツッペーパー（40点）、定期試験（60点）、合計100点で評価する。

- - - テキスト - - -

無し。適宜プリントを配布する。

- - - 参考書 - - -

必要に応じて紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗等に応じて多少の変更が生じる可能性がある。

- - - 授業計画 - - -

- 1.イントロダクション（スタートアップ授業）
- 2.東洋史から見る中国
- 3.国の形
- 4.殷、周
- 5.春秋時代
- 6.戦国時代
- 7.青銅器(1)殷から周
- 8.青銅器(2)春秋時代、戦国時代
- 9.玉
- 10.漢字(1)文字、文化と権力
- 11.漢字(2)日本と漢字、漢文
- 12.食
- 13.生産
- 14.異民族
- 15.総括、FURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/mmnaiaynk2slwugq6qqx8v07ruf4riu42>

荒木 雪葉

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 大学4年間 (6年間) の学びを支えるために、東洋史の中核をなす中国の古代史の基礎知識を身につけている (DP1-1) (知識・理解)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性
理念1 【 学び続けていくための確かな基礎 】

2. 東洋古代史を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (DP2-1) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

3. 東洋史を学ぶことでさまざまな他者の考え方・価値観があることを認識し、それを踏まえて物事に柔軟に接することができる (DP2-2) (態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

4. 東洋の古代史を学ぶことで知識や根拠の重要性を認識し、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (DP3-1) (態度・志向性)

理念2 【 多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ 】

5. 東洋史を学んで身につけた知識や態度を以てチーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (DP4-2) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【 自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ 】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【 地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性 】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

大澤 武司

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・3時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

--- 概要 ---

いわゆる「西洋の衝撃」は、「中華」を中心とする華夷秩序を激震させ、近代東アジア地域秩序を混沌たるものとした。「眠れる獅子」であったはずの中国は帝国主義列強に蚕食され、さらには「東夷」とみなしていた日本にまで敗北の屈辱を味わうこととなった。

本講義では、アヘン戦争以来、挫折を繰り返しながらも、国家の近代化・脱半植民地化を模索した近代中国の歩みを学ぶ。いうまでもなく、中国近代史の影響は現在にまで幅広く及んでいる。

たとえば、中国と台湾にそれぞれ「中国」の政権が存在し、「統一」や「独立」、あるいは「現状維持」の狭間で互いを牽制しつつも対峙し続けているのは、まさに中国近代史の名残であり、それがその後の国際政治によって固定化されたものである。

現在のみならず、将来の中国の姿、あるいは中台関係や日中関係、あるいは中米関係、さらには東アジアの国際関係を考えるうえでも重要な、国際政治上の諸アクターの行動を今日も規定し続ける中国近代史を理解することが、本講義の狙いである。

*なお、最新のニュースなども講義に盛り込むため、適宜スケジュールが変更される場合もありうる。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は講義形式で行う。授業冒頭でレジュメならびにコミュニケーション・カードを配布し、「受講上の注意」を確認したうえで、本日の授業の狙いを紹介し、本日の課題を示す。

授業はその回の講義内容についてパワーポイントとこれに対応するオリジナル・レジュメを用いて講義を進める。本授業のレジュメは空欄補充方式としており、受講者は講義内容に基づき空欄補充を行い、レジュメを完成させつつ、同時に適宜、コミュニケーションカードの作成も進める。講義の終わりにはコミュニケーション・カードを教室内で回収する。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

大学での学びを支える基礎とするため、授業で学ぶ中国近代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を獲得する。(DP1-1)(知識・理解)

さまざまな分野の諸学問への理解を深めるため、授業で中国近代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を理解する。(DP2-1)(知識・理解)

他者・異文化・異文脈への理解を深めるため、授業で学ぶ中国近代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を理解する。(DP2-2)(知識・理解)

責任ある発言、行動の基礎とするため、授業で学ぶ中国近代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を自分の言葉で説明できるようになる。(DP3-1)(知識・理解)

授業で学ぶ中国近代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を獲得し、共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・指向性を獲得する。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

受講前の予習として、各講義回の授業内容を確認のうえ、参考文献の該当部分を事前に読み、授業に臨むこと。(90分)

授業後の復習として、授業内容および授業中に提示された課題について振り返りを行うこと。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

本授業は、到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合によって成績評価を行う。

(1) 評価基準

目標 ~ に到達しており、 の態度・志向性を有しているかどうかを評価の基準とする。

(2) 評価方法

授業への参加態度・コミュニケーションカードにおける記述の内容・中間レポートなどを含む平常点を50%、定期試験の結果を50%として総合的に評価する。試験では、東洋史に関する基礎的な知識の有無を評価し、コミュニケーションカードでは、歴史的考察の有無、独自性などを評価する。

--- テキスト ---

特に指定しない。適宜、プリントなどを配布する。

--- 参考書 ---

吉澤誠一郎『清朝と近代世界』岩波新書、2010年 (ISBN978-4004312499)

川島真『近代国家への模索』岩波新書、2010年 (ISBN978-4004312505)

石川禎浩『革命とナショナリズム』岩波新書、2010年 (ISBN978-4004312512)

--- 履修上の留意点 ---

遅刻厳禁。

--- 授業計画 ---

1. スタートアップ授業 (動画による授業オリエンテーション)
2. 近代における中国認識 - 「伝統的中国社会」はどう見られていたのか
3. 「華夷秩序」と「西洋の衝撃」 アヘン戦争と不平等条約体制の成立
4. 清朝支配への挑戦 「太平天国」の革命性とその限界
5. 近代化の模索 (1) 「洋務運動」とは何か
6. 近代化の模索 (2) 「洋務運動」が目指したもの
7. 東アジア近代史の転換点 - 日清戦争と東アジア三国の歴史的分岐
8. 改革の思想 - 戊戌維新と政治体制改革
9. 「戊戌政変」を考える
10. 革命の思想 - 孫文と「三民主義」
11. 辛亥革命 (1) - 清朝の崩壊と中華民国の成立
12. 辛亥革命 (2) - 清朝の崩壊と中華民国の成立
13. 中華民国の迷走 革命の挫折と軍閥混戦
14. 民族運動の高揚 - 「五四運動」と国共両党の誕生
15. まとめならびに授業アンケートFURIKAの実施

* 授業の進捗状況により若干の変更が発生する場合があります。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/p6jpfbsbowbr8c0vd1f71jnqfxva2tl8>)

大澤 武司

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.大学での学びを支える基礎とするため、授業で学ぶ中国近代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を獲得する。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.さまざまな分野の諸学問への理解を深めるため、授業で中国近代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を理解する。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.他者・異文化・異文脈への理解を深めるため、授業で学ぶ中国近代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を理解する。（DP2-2）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.責任ある発言、行動の基礎とするため、授業で学ぶ中国近代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を自分の言葉で説明できるようになる。（DP3-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.授業で学ぶ中国近代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を獲得し、共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・指向性を獲得する。（DP4-2）（態度・志向性）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

植松 慎悟

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・5時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

--- 概要 ---

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

周知のように、中国の歴史がもつ大きな特徴の一つが、2000年以上、皇帝を頂点とする国家体制を維持し続けたことである。それは、紀元前221年、秦の始皇帝が初めて中国を統一してから、最後の王朝である清朝を終焉させた辛亥革命（後1911年）に至るまでの長きにわたった。秦帝国（前221～前206）は短期間のうちに滅亡したものの、その後成立した漢帝国（前202～後220）は一時的な中断はある（前漢＝前202～後8、新＝8～23、後漢＝25～220）が、統一帝国としては400年以上、存続した。東アジア最古の帝国である秦漢帝国は、後世の中国王朝ばかりでなく、古代日本や朝鮮半島の国家形成にも大きな影響を与えたのである。

前期では、秦の始皇帝による中国統一から、その後を継いだ前漢時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを考察し、秦漢帝国の形成とその特徴について論じる。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成した資料（配布プリントなど）をもとに講義形式で行う。授業中は、板書を中心に進めるので、講義を集中して聞き、適宜ノートを取る。また、適宜ミニッツペーパーを配布し、授業の内容感想・疑問・意見などを書いてもらう。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

中国古代に関する基礎的な知識を身に付け、皇帝制度の形成について説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

中国に関する書籍・報道・言論などを多角的に捉え、自分なりの考えをまとめることができる。(DP2-1)(技能)

中国の歴史や社会に関心を持ち、自分なりに理解を深めようとする志向性を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(90分)

予習については、東洋史（中国だけでなく日本や朝鮮などの歴史を含む）や、現在の政治や国際情勢に関する書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。とくに、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準：東洋史に関する基本的な知識を身に付けているか、自分なりの考えを表現できているかなどを評価の基準とする。

評価方法：以下の配分で成績を総合的に評価する。

授業中に配布したミニッツペーパーに、自分の言葉で感想・疑問・意見などをまとめる：30%（到達目標1・2・3）

*なお、私語・遅刻など授業態度についても、成績評価の際に適宜考慮する。

定期試験の解答内容：70%（到達目標1・2）

--- テキスト ---

特に使用しない。資料が必要な場合はプリントを配布する。

--- 履修上の留意点 ---

通年で受講することが望ましい。必ずスタートアップ授業のガイダンスを閲覧したうえで、出席すること。講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処するので、この点を承知した者のみ受講すること。

--- 授業計画 ---

- 1 イントロダクション（スタートアップ授業）
- 2 日中交流史
- 3 秦の始皇帝（1） 戦国時代から中国統一へ
- 4 秦の始皇帝（2） 始皇帝の統一政策
- 5 前漢の高祖（1） 項羽と劉邦
- 6 前漢の高祖（2） 高祖の統一政策
- 7 前漢の高祖（3） 高祖と冒頓単于
- 8 前漢の呂后 呂后は悪女か
- 9 前漢の武帝 全盛期の光と影
- 10 前漢の昭帝
- 11 前漢の宣帝
- 12 前漢の元帝
- 13 前漢の成帝
- 14 前漢の哀帝
- 15 まとめ（授業アンケートの実施）

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/f07xh8o2bhtltixejnemwpogxtai2wdt>)

植松 慎悟

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.中国古代に関する基礎的な知識を身に付け、皇帝制度の形成について説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

2.中国に関する書籍・報道・言論などを多角的に捉え、自分なりの考えをまとめることができる。（DP2-1）（技能）

3.中国の歴史や社会に関心を持ち、自分なりに理解を深めようとする志向性を持つ。（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

植松 慎悟

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：金・二部2時限 試験時間割：2024/07/26 夜2限

- - - 概要 - - -

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

周知のように、中国の歴史がもつ大きな特徴の一つが、2000年以上、皇帝を頂点とする国家体制を維持し続けたことである。それは、紀元前221年、秦の始皇帝が初めて中国を統一してから、最後の王朝である清朝を終焉させた辛亥革命(後1911年)に至るまでの長きにわたった。秦帝国(前221~前206)は短期間のうちに滅亡したものの、その後成立した漢帝国(前202~後220)は一時的な中断はある(前漢=前202~後8、新=8~23、後漢=25~220)が、統一帝国としては400年以上、存続した。東アジア最古の帝国である秦漢帝国は、後世の中国王朝ばかりでなく、古代日本や朝鮮半島の国家形成にも大きな影響を与えたのである。

前期では、秦の始皇帝による中国統一から、その後を継いだ前漢時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを考察し、秦漢帝国の形成とその特徴について論じる。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した資料(配布プリントなど)をもとに講義形式で行う。授業中は、板書を中心に進めるので、講義を集中して聞き、適宜ノートを取る。また、適宜ミニッツペーパーを配布し、授業の内容感想・疑問・意見などを書いてもらう。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

中国古代に関する基礎的な知識を身に付け、皇帝制度の形成について説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

中国に関する書籍・報道・言論などを多角的に捉え、自分なりの考えをまとめることができる。(DP2-1)(技能)

中国の歴史や社会に関心を持ち、自分なりに理解を深めようとする志向性を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(90分)

予習については、東洋史(中国だけでなく日本や朝鮮などの歴史を含む)や、現在の政治や国際情勢に関する書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。とくに、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：東洋史に関する基本的な知識を身に付けているか、自分なりの考えを表現できているかなどを評価の基準とする。

評価方法：以下の配分で成績を総合的に評価する。

授業中に配布したミニッツペーパーに、自分の言葉で感想・疑問・意見などをまとめる：30%(到達目標1・2・3)

*なお、私語・遅刻など授業態度についても、成績評価の際に適宜考慮する。

定期試験の解答内容：70%(到達目標1・2)

- - - テキスト - - -

特に使用しない。資料が必要な場合はプリントを配布する。

- - - 履修上の留意点 - - -

通年で受講することが望ましい。必ずスタートアップ授業のガイダンスを閲覧したうえで、出席すること。講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処するので、この点を承知した者のみ受講すること。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2 日中交流史
- 3 秦の始皇帝(1) 戦国時代から中国統一へ
- 4 秦の始皇帝(2) 始皇帝の統一政策
- 5 前漢の高祖(1) 項羽と劉邦
- 6 前漢の高祖(2) 高祖の統一政策
- 7 前漢の高祖(3) 高祖と冒頓単于
- 8 前漢の呂后 呂后は悪女か
- 9 前漢の武帝 全盛期の光と影
- 10 前漢の昭帝
- 11 前漢の宣帝
- 12 前漢の元帝
- 13 前漢の成帝
- 14 前漢の哀帝
- 15 まとめ(授業アンケートの実施)

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/xmrn2vg6yoqiqwfl4alemuss91nxvxx2>)

植松 慎悟

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1.中国古代に関する基礎的な知識を身に付け、皇帝制度の形成について説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2.中国に関する書籍・報道・言論などを多角的に捉え、自分なりの考えをまとめることができる。(DP2-1)(技能)

3.中国の歴史や社会に関心を持ち、自分なりに理解を深めようとする志向性を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山根 直生

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：木・3時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

日本をふくむ東アジアの国際情勢は複雑さを増している。経済的には発展傾向にあるにもかかわらずどの国でも社会問題は数多く、また、長い相互交流の歴史を持ちながらも国際関係は穏やかでない。くわえてこれらの問題を報道し論評する際には、マスコミにせよインターネットにせよ、楽観・悲観、友好的・嫌悪的と、非常に極端な姿勢ばかりが目立つように思われてならない。このゼミでは、こうしたアジアの国際関係・相互理解の問題に関して、歴史学などの成果も交えつつ率直に語り、学んでいくこととしたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は個人によるレジュメを用いた報告を中心とする。報告内容は各自自由に選んで良いが、アジア・東洋などへの広がりを持つこと、興味のない者に対しても訴えかけられる客観性と反証可能性を持たせること、スポーツ・料理など一般的すぎて例年くりかえされるテーマ以外のものであること、などを義務づける。全員分のレジュメコピーは各自負担し、学期中の報告は必ず各自二回に及び、不十分であれば追加発表・再発表を課すことがある。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

ゼミ発表の基礎的な知識を修得する。(DP1-1)(知識・理解)

将来の進路を意識しつつそのために発表し議論する意識をつちかう。(DP2-1)(態度・志向性)

多様な認識・価値観を認めつつそれらと議論することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

ゼミ発表と議論を責任を持って果たすことができる。(DP3-1)(態度・志向性)

ゼミ発表での不足について再考し補足することができる。(DP3-2)(技能)

獲得した知識・スキルを二回のゼミ発表で活用することができる。(DP4-1)(技能)

他学部他学科の学生との議論からも学ぶことができる。(DP4-2)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

自らの発表について準備する。(900分)

他者の発表について整理し保管する。(30分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

二回の報告で報告者として資料に基づいた円滑な報告ができたか(配点70点程度)、参加者として報告内容を活かした議論に合わせたか(同30点程度)、以上を評価の基準とする。定期試験は実施しない。再試験も実施しません。

- - - テキスト - - -

指定しない。ゼミ中に多数紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

ゼミ中の私語・飲食・着帽・携帯電話の使用は厳に禁じる。発表前の準備にあたっては各自最大限努力すること。遅刻欠席は一切認めない。四年生の就職活動など、やむを得ない場合には事前に連絡し許可を得ること。ディスカッションに対して積極的な学生の参加を期待する。

- - - 授業計画 - - -

- 01.イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
- 02.自己紹介、発表順確定
- 03.個別発表1-3人目(一人発表25分)
- 04.個別発表4-6人目(同上)
- 05.個別発表7-9人目(同上)
- 06.個別発表10-12人目(同上)
- 07.個別発表13-15人目(同上)
- 08.個別発表二回目1-2人目(一人発表40分)
- 09.個別発表二回目3-4人目(同上)
- 10.個別発表二回目5-6人目(同上)
- 11.個別発表二回目7-8人目(同上)
- 12.個別発表二回目9-10人目(同上)
- 13.個別発表二回目11-12人目(同上)
- 14.個別発表二回目13-14人目(同上)
- 15.個別発表二回目15人目(同上)、総括、授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/ou0dcdnqhif4e639ndlmjmjz6hekg5c>

山根 直生

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

- 1.ゼミ発表の基礎的な知識を修得する。(DP1-1) (知識・理解)
- 2.将来の進路を意識しつつそのために発表し議論する意識をつちかう。(DP2-1) (態度・志向性)
- 3.多様な認識・価値観を認めつつそれらと議論することができる。(DP2-2) (態度・志向性)
- 4.ゼミ発表と議論を責任を持って果たすことができる。(DP3-1) (態度・志向性)
- 5.ゼミ発表での不足について再考し補足することができる。(DP3-2) (技能)
- 6.獲得した知識・スキルを二回のゼミ発表で活用することができる。(DP4-1) (技能)
- 7.他学部他学科の学生との議論からも学ぶことができる。(DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

久芳 崇

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：月・4 時限 試験時間割：2025/01/23 4 時限

- - - 概要 - - -

本講義において対象とするのは、おおよそ1世紀以降、8世紀頃を中心に、現在に至るまでの中国を中心とする東洋の歴史である。しかしここではそれを単に「王朝交替」の枠内で孤立的に捉えようとするものではない。中国周辺諸地域や東アジア世界、そして時にはユーラシア世界をも包摂する広大な地理的空間のなかで、中国の歴史を相対的・客観的に捉え、それが周辺諸地域の多様な文化圏との密接な交流と相互作用のなかで流動的に変容・展開してゆく諸相を多角的に概括してゆこうとするものである。

本講義では、本年度前期の東洋史A(久芳担当)に続いて、漢民族の形成過程について着目し検討してゆきたい。現在の中華人民共和国の大多数(9割以上)を占めるとされる漢民族が、長期にわたる周辺諸地域との交流・抗争を経て、どのように変容してきたのか。こうした点を明らかにすることにより、今日我々が思い浮かべる単一的なイメージとしての漢民族が、極めて多様な民族との抗争と融合の結果、形成されたものであることを明らかとしてゆきたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した講義資料およびパワーポイントをもとに、講義形式で行う。
 講義資料およびパワーポイントの一部は、毎回(講義実施日の前日までに)FuPortalを通じて配信する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

気候変動により中国社会がどのように変化したかを説明できる(DP1-1)(知識・理解)

伝統文化とはどのようにして形成されるかを説明できる(DP1-2)(知識・理解)

遊牧民との融合により漢民族はどのように形成されたかを説明できる(DP2-1)(知識・理解)

人口減と移民の流入という現代社会の問題を、過去の漢民族の形成の事例との比較から把握し、これを根拠に日本の将来像を独自に推測できるようになる(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

資料を熟読し内容を十分に把握する。(90分)

講義終了後、配信資料が講義全体の流れの中でどのように位置づけられるのかを十分意識しながら復習を行う。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

漢民族がいかにして形成されたか、伝統文化とはどのようにして形成されるかを理解し説明できるかを評価の基準とする。
 定期試験により評価(100%)。

- - - テキスト - - -

毎回資料を配信。

- - - 履修上の留意点 - - -

本年度前期・東洋史A(久芳担当)を受講していることが望ましい。
 講義中の退室は基本的に不可である。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 漢民族の食習慣の変遷
3. 漢民族の住習慣の変遷
4. 敦煌壁画と『清明上河図』
5. 漢民族の衣服の変遷
6. 漢民族の男女交流の変遷
7. 恋愛小説の誕生
8. 日本のイス座
9. 冊封体制
10. 古代日中関係
11. 唐滅亡と東アジア世界の変容
12. 契丹族と遼
13. タングートと西夏
14. 女真族と金 授業アンケートFURIKAの実施
15. 漢民族の形成

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
 (<https://fukuoka-u.box.com/s/9aj69hwonvcy6hq4qqt3rje7uxo3z5ic>)

久芳 崇

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.気候変動により中国社会がどのように変化したかを説明できる (DP1-1)
(知識・理解)

2.伝統文化とはどのようにして形成されるかを説明できる (DP1-2) (知識・理解)

3.遊牧民との融合により漢民族はどのように形成されたかを説明できる (DP2-1) (知識・理解)

4.人口減と移民の流入という現代社会の問題を、過去の漢民族の形成の事例との比較から把握し、これを根拠に日本の将来像を独自に推測できるようになる (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

久芳 崇

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：月・5 時限 試験時間割：2025/01/23 4 時限

- - - 概要 - - -

本講義において対象とするのは、おおよそ1世紀以降、8世紀頃を中心に、現在に至るまでの中国を中心とする東洋の歴史である。しかしここではそれを単に「王朝交替」の枠内で孤立的に捉えようとするものではない。中国周辺諸地域や東アジア世界、そして時にはユーラシア世界をも包摂する広大な地理的空間のなかで、中国の歴史を相対的・客観的に捉え、それが周辺諸地域の多様な文化圏との密接な交流と相互作用のなかで流動的に変容・展開してゆく諸相を多角的に概括してゆこうとするものである。

本講義では、本年度前期の東洋史A(久芳担当)に続いて、漢民族の形成過程について着目し検討してゆきたい。現在の中華人民共和国の大多数(9割以上)を占めるとされる漢民族が、長期にわたる周辺諸地域との交流・抗争を経て、どのように変容してきたのか。こうした点を明らかにすることにより、今日我々が思い浮かべる単一的なイメージとしての漢民族が、極めて多様な民族との抗争と融合の結果、形成されたものであることを明らかとしてゆきたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した講義資料およびパワーポイントをもとに、講義形式で行う。

講義資料およびパワーポイントの一部は、毎回(講義実施日の前日までに)FuPortalを通じて配信する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

気候変動により中国社会がどのように変化したかを説明できる(DP1-1)(知識・理解)

伝統文化とはどのようにして形成されるかを説明できる(DP1-2)(知識・理解)

遊牧民との融合により漢民族はどのように形成されたかを説明できる(DP2-1)(知識・理解)

人口減と移民の流入という現代社会の問題を、過去の漢民族の形成の事例との比較から把握し、これを根拠に日本の将来像を独自に推測できるようになる(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

資料を熟読し内容を十分に把握する。(90分)

講義終了後、配信資料が講義全体の流れの中でどのように位置づけられるのかを十分意識しながら復習を行う。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

漢民族がいかにして形成されたか、伝統文化とはどのようにして形成されるかを理解し説明できるかを評価の基準とする。定期試験により評価(100%)。

- - - テキスト - - -

毎回資料を配信。

- - - 参考書 - - -

毎回資料を配信。

- - - 履修上の留意点 - - -

本年度前期・東洋史A(久芳担当)を受講していることが望ましい。

講義中の退室は基本的に不可である。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 漢民族の食習慣の変遷
3. 漢民族の住習慣の変遷
4. 敦煌壁画と『清明上河図』
5. 漢民族の衣服の変遷
6. 漢民族の男女交流の変遷
7. 恋愛小説の誕生
8. 日本のイス座
9. 冊封体制
10. 古代日中関係
11. 唐滅亡と東アジア世界の変容
12. 契丹族と遼
13. タングートと西夏
14. 女真族と金 授業アンケートFURIKAの実施
15. 漢民族の形成

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ot9pebafz3ivz7cj35p72rtmzulzqydw>)

久芳 崇

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.気候変動により中国社会がどのように変化したかを説明できる (DP1-1)
(知識・理解)

2.伝統文化とはどのようにして形成されるかを説明できる (DP1-2) (知識・理解)

3.遊牧民との融合により漢民族はどのように形成されたかを説明できる (DP2-1) (知識・理解)

4.人口減と移民の流入という現代社会の問題を、過去の漢民族の形成の事例との比較から把握し、これを根拠に日本の将来像を独自に推測できるようになる (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

荒木 雪葉

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：月・2 時限 試験時間割：2025/01/23 4 時限

- - - 概要 - - -

この授業では、先秦から漢代までの中国の歴史に焦点を絞り、東アジア世界に大きな存在感を持つ中国の源泉をさぐる。特に、中国歴史を形作り、文化の根底に流れている精神世界を探究する。

具体的には、まず神話を通して中国人の世界観を知る。次に理想郷に関する神話や歴史を確認してから、司馬遷『史記』から読み取ることのできる歴史的人物への評価を見ることで、中国人の精神世界を切り口とした歴史観を掴む。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行う。プリント配布、パワーポイント等の視聴覚資料を用いる。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

大学4年間（6年間）の学びを支えるために、東洋史の中核をなす中国の古代史の基礎知識を身につけている(DP1-1)(知識・理解)

東洋古代史を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-1)(態度・志向性)

東洋史を学ぶことでさまざまな他者の考え方・価値観があることを認識し、それを踏まえて物事に柔軟に接することができる(DP2-2)(態度・志向性)

東洋の古代史を学ぶことで知識や根拠の重要性を認識し、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(DP3-1)(態度・志向性)

東洋史を学んで身につけた知識や態度を以てチーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：配布した資料を熟読しておく。(90分)

復習：授業内容を復習し、不明な点があれば質問事項としてまとめておく。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：講義への積極性と講義内容の理解度によって評価する。

評価方法：スタートアップ授業の課題及び毎回の講義時のミニツッペーパー（40点）、定期試験（60点）、合計100点で評価する。

- - - テキスト - - -

無し。適宜プリントを配布する。

- - - 履修上の留意点 - - -

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗等に応じて多少の変更が生じる可能性がある。

- - - 授業計画 - - -

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2.地理概念
- 3.神話(1)天地開闢
- 4.神話(2)神々の世界
- 5.中国のユートピア(1)仙境と崑崙山
- 6.中国のユートピア(2)死後の世界と桃源郷
- 7.中国の歴史学
- 8.歴史と神話(1)三皇五帝
- 9.歴史と神話(2)始祖の神話
- 10.史記(1)王者への評価
- 11.史記(2)功臣への評価
- 12.史記(3)春秋・戦国時代の人物への評価
- 13.史記(4)天道是か非か
- 14.史記(5)英雄への評価
- 15.総括、FURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/9t96uiafkb6nczc70u9stkzco119eqo>

荒木 雪葉

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 大学4年間 (6年間) の学びを支えるために、東洋史の中核をなす中国の古代史の基礎知識を身につけている (DP1-1) (知識・理解)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性
理念1 【 学び続けていくための確かな基礎 】

2. 東洋古代史を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (DP2-1) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

3. 東洋史を学ぶことでさまざまな他者の考え方・価値観があることを認識し、それを踏まえて物事に柔軟に接することができる (DP2-2) (態度・志向性)

理念2 【 多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ 】

4. 東洋の古代史を学ぶことで知識や根拠の重要性を認識し、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (DP3-1) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

5. 東洋史を学んで身につけた知識や態度を以てチーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (DP4-2) (態度・志向性)

理念3 【 自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ 】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【 地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性 】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

荒木 雪葉

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：月・3 時限 試験時間割：2025/01/23 4 時限

- - - 概要 - - -

この授業では、先秦から漢代までの中国の歴史に焦点を絞り、東アジア世界に大きな存在感を持つ中国の源泉をさぐる。特に、中国歴史を形作り、文化の根底に流れている精神世界を探索する。

具体的には、まず神話を通して中国人の世界観を知る。次に理想郷に関する神話や歴史を確認してから、司馬遷『史記』から読み取ることのできる歴史的人物への評価を見ることで、中国人の精神世界を切り口とした歴史観を掴む。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行う。プリント配布、パワーポイント等の視聴覚資料を用いる。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

大学4年間（6年間）の学びを支えるために、東洋史の中核をなす中国の古代史の基礎知識を身につけている(DP1-1)(知識・理解)

東洋古代史を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-1)(態度・志向性)

東洋史を学ぶことでさまざまな他者の考え方・価値観があることを認識し、それを踏まえて物事に柔軟に接することができる(DP2-2)(態度・志向性)

東洋の古代史を学ぶことで知識や根拠の重要性を認識し、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(DP3-1)(態度・志向性)

東洋史を学んで身につけた知識や態度を以てチーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：配布した資料を熟読しておく。(90分)

復習：授業内容を復習し、不明な点があれば質問事項としてまとめておく。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：講義への積極性と講義内容の理解度によって評価する。

評価方法：スタートアップ授業の課題及び毎回の講義時のミニッツペーパー（40点）、定期試験（60点）、合計100点で評価する。

- - - テキスト - - -

無し。適宜プリントを配布する。

- - - 履修上の留意点 - - -

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗等に応じて多少の変更が生じる可能性がある。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 地理概念
3. 神話(1)天地開闢
4. 神話(2)神々の世界
5. 中国のユートピア(1)仙境と崑崙山
6. 中国のユートピア(2)死後の世界と桃源郷
7. 中国の歴史学
8. 歴史と神話(1)三皇五帝
9. 歴史と神話(2)始祖の神話
10. 史記(1)王者への評価
11. 史記(2)功臣への評価
12. 史記(3)春秋・戦国時代の人物への評価
13. 史記(4)天道是か非か
14. 史記(5)英雄への評価
15. 総括、FURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/5s1o6p1cyezms4c0twgyzt9whfnosgc5>

荒木 雪葉

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 大学4年間 (6年間) の学びを支えるために、東洋史の中核をなす中国の古代史の基礎知識を身につけている (DP1-1) (知識・理解)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性
理念1 【 学び続けていくための確かな基礎 】

2. 東洋古代史を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (DP2-1) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

3. 東洋史を学ぶことでさまざまな他者の考え方・価値観があることを認識し、それを踏まえて物事に柔軟に接することができる (DP2-2) (態度・志向性)

理念2 【 多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ 】

4. 東洋の古代史を学ぶことで知識や根拠の重要性を認識し、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (DP3-1) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

5. 東洋史を学んで身につけた知識や態度を以てチーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (DP4-2) (態度・志向性)

理念3 【 自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ 】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【 地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性 】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

大澤 武司

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：火・3時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

--- 概要 ---

中国現代史の起点は1919年5月4日に発生した「五四運動」であるともいわれるが、その後の中国の近代化・脱半植民地化の挑戦、さらには脱封建社会を目指す革命運動や日本の中国侵略への抵抗、そしてその総仕上げとなる国共内戦など、中華人民共和国誕生に至る歩みは波乱に満ちたものであった。

そして、毛沢東を最高指導者として新中国を建国した中国共産党は、建国直後の中国を「新民主主義段階」と認識し、長期計画による社会主義社会の実現を目指した。だが、経済復興の進展と国内統治体制の確立は、最高指導者であった毛沢東に自信を抱かしめ、急進的な諸政策を採用させるに至った。その結果、「革命国家」の建設が最優先とされた毛沢東時代が終焉するまで、すなわち「前半30年」の現代中国は、中国人民にとってまさに苦難の連続であったといえる。

とはいえ、生産力の増大、すなわち経済建設を最優先とする「改革開放」政策を採用した鄧小平時代がすべての中国人民にバラ色の生活をもたらしたわけではない。社会格差の拡大をはじめ、解決すべき問題は山積している。他方、改めていうまでもなく、近年の中国の経済成長は驚くべきものである。そして、これを前提とする中国の「大国化」は、隣人である我々アジアの人々にとっても多大な影響を与えつつある。そこで本講義は、このように変貌を遂げつつある中国を理解するため、「社会主義国家」を標榜する中華人民共和国がいかなる道を歩んできたのかを理解することを狙いとする。

*なお、最新のニュースなども講義に織り込むため、適宜スケジュールが変更される場合もありうる。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は講義形式で行う。授業冒頭でレジュメならびにコミュニケーション・カードを配布し、「受講上の注意」を確認したうえで、本日の授業の狙いを紹介し、本日の課題を示す。

授業は、その回の講義内容についてパワーポイントとこれに対応するオリジナル・レジュメを用いて講義を進める。本授業のレジュメは空欄補充方式としており、また授業中に受講者は、適宜、コミュニケーションカードの作成を進める。講義の終わりには、コミュニケーション・カードを教室内で回収する。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

大学での学びを支える基礎とするため、授業で学ぶ中国現代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を獲得する。(DP1-1)(知識・理解)

さまざまな分野の諸学問への理解を深めるため、授業で学ぶ中国現代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を理解する。(DP2-1)(知識・理解)

他者・異文化・異文脈への理解を深めるため、授業で学ぶ中国現代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を理解する。(DP2-2)(知識・理解)

責任ある発言、行動の基礎とするため、授業で学ぶ中国現代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を自分の言葉で説明できるようになる。(DP3-1)(知識・理解)

授業で学ぶ中国現代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を獲得し、共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・指向性を獲得する。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

受講前の予習として、各講義回の授業内容を確認のうえ、参考文献の該当部分を事前に読み、授業に臨むこと。(90分)

授業後の復習として、授業内容および授業中に提示された課題について振り返りを行うこと。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

本授業は、到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合によって成績評価を行う。

(1) 評価基準

目標 ~ に到達しており、の態度・志向性を有しているかどうかを評価の基準とする。

(2) 評価方法

授業への参加態度・コミュニケーションカードにおける記述の内容・中間レポートなどを含む平常点を50%、定期試験の結果を50%として総合的に評価する。試験では、東洋史に関する基礎的な知識の有無を評価し、コミュニケーションカードでは、歴史的考察の有無、独自性を評価する。

--- テキスト ---

特に指定しない。適宜、プリントなどを配布する。

--- 参考書 ---

石川禎浩『革命とナショナリズム』岩波新書、2010年 (ISBN978-4004312512)

久保亨『社会主義への挑戦』岩波新書、2011年 (ISBN978-4004312529)

高原明生・前田宏子『開発主義の時代へ』岩波新書、2014年 (ISBN978-4004312536)

--- 履修上の留意点 ---

遅刻厳禁。

--- 授業計画 ---

1. スタートアップ授業（動画による授業オリエンテーション）
2. 「東洋史A」（「辛亥革命」以降のふりかえり）
3. 国民革命の時代（1）- 第一次国共合作から「北伐」へ
4. 国民革命の時代（2）- 「四・一二クーデタ」と中国の再統一
5. 侵略と抵抗（1）- 満州事変の衝撃
6. 侵略と抵抗（2）- 中国共産党の成長
7. 侵略と抵抗（3）- 第二次国共合作と盧溝橋事件
8. 革命の成就 - 太平洋戦争から国共内戦へ
9. 新中国の成立 - 統治基盤の確立と国家統合への挑戦
10. 毛沢東型社会主義建設の展開（1）- 反右派闘争と大躍進
11. 毛沢東型社会主義建設の展開（2）前半 - 経済調整政策と毛沢東の焦り
12. 毛沢東型社会主義建設の展開（2）後半 - 「内乱」としての文化大革命
13. 毛沢東型社会主義建設の展開（2）後半 - 「内乱」としての文化大革命
14. 改革開放の時代（1）- 毛沢東時代から鄧小平時代へ
15. 改革開放の時代（2）- 鄧小平時代から「大国中国」の時代へ、ならびに授業アンケートFURIKAの実施

* 授業の進捗状況により若干の変更が発生する場合があります。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/kto20r1ats6dcgbo2slzjctrqedkuq42>)

大澤 武司

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.大学での学びを支える基礎とするため、授業で学ぶ中国現代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を獲得する。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.さまざまな分野の諸学問への理解を深めるため、授業で学ぶ中国現代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を理解する。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.他者・異文化・異文脈への理解を深めるため、授業で学ぶ中国現代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を理解する。（DP2-2）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.責任ある発言、行動の基礎とするため、授業で学ぶ中国現代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を自分の言葉で説明できるようになる。（DP3-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.授業で学ぶ中国現代史を軸とする東アジアの基礎的な歴史知識を獲得し、共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・指向性を獲得する。（DP4-2）（態度・志向性）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

植松 慎悟

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・5時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

- - - 概要 - - -

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

周知のように、中国の歴史がもつ大きな特徴の一つが、2000年以上、皇帝を頂点とする国家体制を維持し続けたことである。それは、紀元前221年、秦の始皇帝が初めて中国を統一してから、最後の王朝である清朝を終焉させた辛亥革命（後1911年）に至るまでの長きにわたった。秦帝国（前221～前206）は短期間のうちに滅亡したものの、その後成立した漢帝国（前202～後220）は一時的な中断はある（前漢＝前202～後8、新＝8～23、後漢＝25～220）が、統一帝国としては400年以上、存続した。東アジア最古の帝国である秦漢帝国は、後世の中国王朝ばかりでなく、古代日本や朝鮮半島の国家形成にも大きな影響を与えたのである。

後期では、王莽の新王朝、後漢時代、三国時代の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを考察し、秦漢帝国の発展と後世への影響について論じる。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した資料（配布プリントなど）をもとに講義形式で行う。授業中は、板書を中心に進めるので、講義を集中して聞き、適宜ノートを取る。また、適宜ミニッツペーパーを配布し、授業の内容感想・疑問・意見などを書いてもらう。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

中国古代に関する基礎的な知識を身に付け、皇帝制度の発展について説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

中国に関する書籍・報道・言論などを多角的に捉え、自分なりの考えをまとめることができる。(DP2-1)(技能)

中国の歴史や社会に関心を持ち、自分なりに理解を深めようとする志向性を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(90分)

予習については、東洋史（中国だけでなく日本や朝鮮などの歴史を含む）や、現在の政治や国際情勢に関する書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。とくに、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：東洋史に関する基本的な知識を身に付けているか、自分なりの考えを表現できているかなどを評価の基準とする。

評価方法：以下の配分で成績を総合的に評価する。

授業中に配布したミニッツペーパーに、自分の言葉で感想・疑問・意見などをまとめる：30%（到達目標1・2・3）

*なお、私語・遅刻など授業態度についても、成績評価の際に適宜考慮する。

定期試験の解答内容：70%（到達目標1・2）

- - - テキスト - - -

特に使用しない。資料が必要な場合はプリントを配布する。

- - - 履修上の留意点 - - -

前期開講の東洋史A（植松担当）と合わせて受講することが望ましい。必ずスタートアップ授業のガイダンスを閲覧したうえで、出席すること。講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処するので、この点を承知した者のみ受講すること。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イントロダクション（スタートアップ授業）
- 2 新の王莽 王莽は「篡奪者」か
- 3 後漢の光武帝（1） 統一帝国の崩壊と再建
- 4 後漢の光武帝（2） 光武帝と「漢委奴国王」
- 5 後漢の明帝
- 6 後漢の章帝
- 7 後漢の外戚政権
- 8 後漢中期
- 9 後漢後期
- 10 後漢の衰退と三国時代の幕開け
- 11 魏の曹操
- 12 呉の孫権
- 13 蜀の劉備
- 14 三国時代と卑弥呼の外交
- 15 まとめ（授業アンケートの実施）

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/>

s/1rwq9x3kyic7io1wselt0038vv2zh8vp)

植松 慎悟

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.中国古代に関する基礎的な知識を身に付け、皇帝制度の発展について説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

2.中国に関する書籍・報道・言論などを多角的に捉え、自分なりの考えをまとめることができる。（DP2-1）（技能）

3.中国の歴史や社会に関心を持ち、自分なりに理解を深めようとする志向性を持つ。（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

植松 慎悟

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・二部2時間 試験時間割：2025/01/24 夜2限

- - - 概要 - - -

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

周知のように、中国の歴史がもつ大きな特徴の一つが、2000年以上、皇帝を頂点とする国家体制を維持し続けたことである。それは、紀元前221年、秦の始皇帝が初めて中国を統一してから、最後の王朝である清朝を終焉させた辛亥革命（後1911年）に至るまでの長きにわたった。秦帝国（前221～前206）は短期間のうちに滅亡したものの、その後成立した漢帝国（前202～後220）は一時的な中断はある（前漢＝前202～後8、新＝8～23、後漢＝25～220）が、統一帝国としては400年以上、存続した。東アジア最古の帝国である秦漢帝国は、後世の中国王朝ばかりでなく、古代日本や朝鮮半島の国家形成にも大きな影響を与えたのである。

後期では、王莽の新王朝、後漢時代、三国時代の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを考察し、秦漢帝国の発展と後世への影響について論じる。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した資料（配布プリントなど）をもとに講義形式で行う。授業中は、板書を中心に進めるので、講義を集中して聞き、適宜ノートを取る。また、適宜ミニッツペーパーを配布し、授業の内容感想・疑問・意見などを書いてもらう。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

中国古代に関する基礎的な知識を身に付け、皇帝制度の発展について説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

中国に関する書籍・報道・言論などを多角的に捉え、自分なりの考えをまとめることができる。(DP2-1)(技能)

中国の歴史や社会に関心を持ち、自分なりに理解を深めようとする志向性を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(90分)

予習については、東洋史（中国だけでなく日本や朝鮮などの歴史を含む）や、現在の政治や国際情勢に関する書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。とくに、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：東洋史に関する基本的な知識を身に付けているか、自分なりの考えを表現できているかなどを評価の基準とする。

評価方法：以下の配分で成績を総合的に評価する。

授業中に配布したミニッツペーパーに、自分の言葉で感想・疑問・意見などをまとめる：30%（到達目標1・2・3）

*なお、私語・遅刻など授業態度についても、成績評価の際に適宜考慮する。

定期試験の解答内容：70%（到達目標1・2）

- - - テキスト - - -

特に使用しない。資料が必要な場合はプリントを配布する。

- - - 履修上の留意点 - - -

前期開講の東洋史A（植松担当）と合わせて受講することが望ましい。必ずスタートアップ授業のガイダンスを閲覧したうえで、出席すること。講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処するので、この点を承知した者のみ受講すること。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イントロダクション（スタートアップ授業）
- 2 新の王莽 王莽は「篡奪者」か
- 3 後漢の光武帝（1） 統一帝国の崩壊と再建
- 4 後漢の光武帝（2） 光武帝と「漢委奴国王」
- 5 後漢の明帝
- 6 後漢の章帝
- 7 後漢の外戚政権
- 8 後漢中期
- 9 後漢後期
- 10 後漢の衰退と三国時代の幕開け
- 11 魏の曹操
- 12 呉の孫権
- 13 蜀の劉備
- 14 三国時代と卑弥呼の外交
- 15 まとめ（授業アンケートの実施）

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ons8dzd69svhqsbxbit6kcf5zngwux7nb>)

植松 慎悟

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.中国古代に関する基礎的な知識を身に付け、皇帝制度の発展について説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

2.中国に関する書籍・報道・言論などを多角的に捉え、自分なりの考えをまとめることができる。(DP2-1) (技能)

3.中国の歴史や社会に関心を持ち、自分なりに理解を深めようとする志向性を持つ。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山根 直生

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：木・3時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

日本をふくむ東アジアの国際情勢は複雑さを増している。経済的には発展傾向にあるにもかかわらずどの国でも社会問題は数多く、また、長い相互交流の歴史を持ちながらも国際関係は穏やかでない。くわえてこれらの問題を報道し論評する際には、マスコミにせよインターネットにせよ、楽観・悲観、友好的・嫌悪的と、非常に極端な姿勢ばかりが目立つように思われてならない。このゼミでは、こうしたアジアの国際関係・相互理解の問題に関して、歴史学などの成果も交えつつ率直に語り、学んでいくこととしたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は個人によるレジュメを用いた報告を中心とする。報告内容は各自自由に選んで良いが、アジア・東洋などへの広がりを持つこと、興味のない者に対しても訴えかけられる客観性と反証可能性を持たせること、スポーツ・料理など一般的すぎて例年くりかえされるテーマ以外のものであること、などを義務づける。全員分のレジュメコピーは各自負担し、学期中の報告は必ず各自二回に及び、不十分であれば追加発表・再発表を課すことがある。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

ゼミ発表の基礎的な知識を修得する。(DP1-1)(知識・理解)

将来の進路を意識しつつそのために発表し議論する意識をつちかう。(DP2-1)(態度・志向性)

多様な認識・価値観を認めつつそれらと議論することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

ゼミ発表と議論を責任を持って果たすことができる。(DP3-1)(態度・志向性)

ゼミ発表での不足について再考し補足することができる。(DP3-2)(技能)

獲得した知識・スキルを二回のゼミ発表で活用することができる。(DP4-1)(技能)

他学部他学科の学生との議論からも学ぶことができる。(DP4-2)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

自らの発表について準備する。(900分)

他者の発表について整理し保管する。(30分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

二回の報告で報告者として資料に基づいた円滑な報告ができたか(配点70点程度)、参加者として報告内容を活かした議論に合わせたか(同30点程度)、以上を評価の基準とする。定期試験は実施しない。再試験も実施しません。

- - - テキスト - - -

指定しない。ゼミ中に多数紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

ゼミ中の私語・飲食・着帽・携帯電話の使用は厳に禁じる。発表前の準備にあたっては各自最大限努力すること。遅刻欠席は一切認めない。四年生の就職活動など、やむを得ない場合には事前に連絡し許可を得ること。

ディスカッションに対して積極的な学生の参加を期待する。

- - - 授業計画 - - -

- 01.イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
- 02.自己紹介、発表順確定
- 03.個別発表1-3人目(一人発表25分)
- 04.個別発表4-6人目(同上)
- 05.個別発表7-9人目(同上)
- 06.個別発表10-12人目(同上)
- 07.個別発表13-15人目(同上)
- 08.個別発表二回目1-2人目(一人発表40分)
- 09.個別発表二回目3-4人目(同上)
- 10.個別発表二回目5-6人目(同上)
- 11.個別発表二回目7-8人目(同上)
- 12.個別発表二回目9-10人目(同上)
- 13.個別発表二回目11-12人目(同上)
- 14.個別発表二回目13-14人目(同上)
- 15.個別発表二回目15人目(同上)、総括、授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/3mpqcysi9mx7ajh584ce4tm7nv5bysnw>)

山根 直生

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

- 1.ゼミ発表の基礎的な知識を修得する。(DP1-1) (知識・理解)
- 2.将来の進路を意識しつつそのために発表し議論する意識をつちかう。(DP2-1) (態度・志向性)
- 3.多様な認識・価値観を認めつつそれらと議論することができる。(DP2-2) (態度・志向性)
- 4.ゼミ発表と議論を責任を持って果たすことができる。(DP3-1) (態度・志向性)
- 5.ゼミ発表での不足について再考し補足することができる。(DP3-2) (技能)
- 6.獲得した知識・スキルを二回のゼミ発表で活用することができる。(DP4-1) (技能)
- 7.他学部他学科の学生との議論からも学ぶことができる。(DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

植野 健造

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：月・2時限 試験時間割：2024/07/25 1時限

概要

本授業は講義形式で行います。
 芸術といえば、美術、音楽、文学、演劇、映画など、さまざまな表現と内容があります。この授業では、芸術一般ではなく、文化遺産を対象にします。文化遺産は、広義では人類の文化的活動によって生み出された建造物、遺跡、美術品、音楽、演劇などの有形（不動産・可動文化財）・無形の文化的所産のことをいうが、ここでは、近年社会的に注目を集めている、おもに世界遺産、近代化遺産について、九州を中心に具体的事例をとりあげてみてゆきます。

美術館学芸員としての勤務経験がある教員が、テキストの講読を中心としながら、文化遺産、近代化遺産の保存や活用に関する身近な具体的事例説明もおりませ、画像映写なども行いながら授業を進めます。

文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念と代表的な事例を理解し、それを説明することができるようになることを目的とします。

授業の進行・方法

各授業はおよそ以下の進行・方法で進めます。
 1 当日の学習項目の説明。2 教員によるテキストの講読と補足説明。3 Moodleに掲示した補足資料の説明。4 画像・映像資料の視聴学習。5 授業後次回授業までに各自Moodleの小テスト機能による復習。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

1 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念を理解し、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

2 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の代表的な事例を理解し、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

3 文化遺産、世界遺産、近代化遺産に関する学問諸領域を知り、広い視野を培い、物事を多角的に理解する。(DP2-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：教科書の次回授業該当部分を事前に読んでおくこと。(90分)

復習：授業後に、専門用語などを復習、記憶しておくこと。(90分)

成績評価基準および方法

文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概要と事例を、どの程度まで理解できているかどうかを評価の基準とします。時々提出してもらう短い感想文などの平常点30%、定期試験70%を目安として総合的に評価します。

テキスト

砂田光紀『九州遺産』、弦書房、2005年6月
 ISBN-10：4902116359 ISBN-13：978-4902116359

参考書

適宜指示します。

履修上の留意点

文化遺産を含めた芸術に関心をもつことが前提です。そのためには身近にある文化遺産や近代化遺産に行ってみることを勧めます。

授業計画

1 イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）

- 2 九州の産業遺産 治水利水建造物等
- 3 九州の産業遺産 農業施設・用水路等 (1)
- 4 九州の産業遺産 農業施設・用水路等 (2)
- 5 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (1)
- 6 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (2)
- 7 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (3)
- 8 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (4)
- 9 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (5)
- 10 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (6)
- 11 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (7)
- 12 九州の産業遺産 鉄道車両
- 13 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (1)
- 14 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (2)
- 15 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (3)

授業アンケート FURIKA の実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/f4nfjyfd7rnmajvmneozzz7bcigor3r)

植野 健造

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念を理解し、それを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.2 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の代表的な事例を理解し、それを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

3.3 文化遺産、世界遺産、近代化遺産に関する学問諸領域を知り、広い視野を培い、物事を多角的に理解する。(DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

植野 健造

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：月・4時限 試験時間割：2024/07/25 1時限

概要

本授業は講義形式で行います。
 芸術といえば、美術、音楽、文学、演劇、映画など、さまざまな表現と内容があります。この授業では、芸術一般ではなく、文化遺産を対象にします。文化遺産は、広義では人類の文化的活動によって生み出された建造物、遺跡、美術品、音楽、演劇などの有形（不動産・可動文化財）・無形の文化的所産のことをいうが、ここでは、近年社会的に注目を集めている、おもに世界遺産、近代化遺産について、九州を中心に具体的事例をとりあげてみてゆきます。

美術館学芸員としての勤務経験がある教員が、テキストの講読を中心としながら、文化遺産、近代化遺産の保存や活用に関する身近な具体的事例説明もおりませ、画像映写なども行いながら授業を進めます。

文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念と代表的な事例を理解し、それを説明することができるようになることを目的とします。

授業の進行・方法

各授業はおよそ以下の進行・方法で進めます。
 1 当日の学習項目の説明。2 教員によるテキストの講読と補足説明。3 Moodleに掲示した補足資料の説明。4 画像・映像資料の視聴学習。5 授業後次回授業までに各自Moodleの小テスト機能による復習。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

1 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念を理解し、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

2 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の代表的な事例を理解し、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

3 文化遺産、世界遺産、近代化遺産に関する学問諸領域を知り、広い視野を培い、物事を多角的に理解する。(DP2-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：教科書の次回授業該当部分を事前に読んでおくこと。(90分)

復習：授業後に、専門用語などを復習、記憶しておくこと。(90分)

成績評価基準および方法

文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概要と事例を、どの程度まで理解できているかどうかを評価の基準とします。時々提出してもらう短い感想文などの平常点30%、定期試験70%を目安として総合的に評価します。

テキスト

砂田光紀『九州遺産』、弦書房、2005年6月
 ISBN-10：4902116359 ISBN-13：978-4902116359

参考書

適宜指示します。

履修上の留意点

文化遺産を含めた芸術に関心をもつことが前提です。そのためには身近にある文化遺産や近代化遺産に行ってみることを勧めます。

授業計画

- 1 イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）
 - 2 九州の産業遺産 治水利水建造物等
 - 3 九州の産業遺産 農業施設・用水路等 (1)
 - 4 九州の産業遺産 農業施設・用水路等 (2)
 - 5 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (1)
 - 6 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (2)
 - 7 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (3)
 - 8 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (4)
 - 9 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (5)
 - 10 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (6)
 - 11 九州の産業遺産 交通運輸建造物 (7)
 - 12 九州の産業遺産 鉄道車両
 - 13 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (1)
 - 14 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (2)
 - 15 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (3)
- 授業アンケート FURIKA の実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/349ncq7vrope4p67vmbce1tmf33ufsm)

植野 健造

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念を理解し、それを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

2.2 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の代表的な事例を理解し、それを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

3.3 文化遺産、世界遺産、近代化遺産に関する学問諸領域を知り、広い視野を培い、物事を多角的に理解する。（DP2-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

浦上 雅司

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：火・1時限 試験時間割：2024/07/25 1時限

概要

本授業では、まず、現代における美術の意義について具体的な作例をとりあげながら理解を進めます。その上で、イタリア・ルネサンスを主とする西洋近世絵画の代表的な作品を取り上げつつ、絵画の歴史を概観します。毎回、代表的な作家とその作品を紹介し、その特徴と時代背景などについて概説し、これによって絵画の見方（絵画作品を歴史的な枠組みに位置づけ、その特徴を理解すること）を体得することを目指します。またヨーロッパの主な美術館についても紹介します。

本授業はパワーポイントを用いて実際の美術作品を見ながら、その特質について共に考える形式で行います。

なお、毎回の授業スライド抄録や復習問題、関連した情報を「ムードル」サイトで提供しています（「福岡大学、ムードル」で検索してください）。

毎回の小テストをムードルで提供しますので、ムードル登録は必須です。

授業の進行・方法

授業は、教員が作成した講義資料（パワーポイント）をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容を確認するためにムードルを用いた小テストや復習問題に取り組んでいただきます。復習問題については各回の冒頭に前回の振り返りを行います。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

1．美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

2．授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：授業内容とそこで扱う作品について「小学館世界美術全集」などで調べておきましょう。(30分)

予習：授業内容について「ムードル」掲載の情報をチェックし予め概略を理解しておきましょう。(60分)

復習：毎回呈示するポイントについて「小学館世界美術全集」などにより詳しく学習しましょう。(60分)

復習：ムードルで配布する復習問題を家でやってみましょう。（次回の冒頭に振り返りをします）(30分)

成績評価基準および方法

- ・定期筆記試験を課します。
- ・また、毎回、ムードルで提供する小テストをやってもらいます。
- ・成績評価は定期試験とムードル小テストを総合して行います。
- ・各回の小テスト合計40点（到達目標1に対する到達度により評価）
- ・定期試験60点（到達目標1、2に対する到達度により評価）

テキスト

特になし。

参考書

小学館世界美術全集（西洋美術編）の関連分冊（図書館にあります）
 ウェブ上のバーチャル美術館<http://www.wga.hu/index1.html>
<http://www.artcyclopedia.com/>

履修上の留意点

まじめな受講態度を求めます。

授業計画

- 1 スタートアップ授業（動画配信）福岡の美術館と現代美術
- 2 現代美術の特質とその見方
- 3 西洋古絵画を「読む」
- 4 世界の美術館（その1）ルーヴル美術館
- 5 ルネサンス絵画の始まり：ジョットー
- 6 ゴシック絵画の魅力：14世紀シエナ絵画
- 7 国際ゴシック絵画と写本装飾：ランブル兄弟
- 8 世界の美術館（その2）ウフィツィ美術館
- 9 イタリアルネサンス：マザッチョ
- 10 北方ルネサンス：ヤン・ファン・エイク
- 11 北方ルネサンスとイタリアルネサンス
- 12 世界の美術館（その3）美術史美術館
- 13 ルネサンス絵画と古代神話：ポッティチェリ
- 14 聖母の画家ラファエロ
- 15 授業内容の総括 授業アンケートFURIK Aの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/4p108vr164tafxhvf6t28mk6ydv4wo4)

浦上 雅司

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2 授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

浦上 雅司

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：火・2時限 試験時間割：2024/07/25 1時限

--- 概要 ---

本授業では、まず、現代における美術の意義について具体的な作例をとりあげながら理解を進めます。その上で、イタリア・ルネサンスを主とする西洋近世絵画の代表的な作品を取り上げつつ、絵画の歴史を概観します。毎回、代表的な作家とその作品を紹介し、その特徴と時代背景などについて概説し、これによって絵画の見方（絵画作品を歴史的な枠組みに位置づけ、その特徴を理解すること）を体得することを目指します。またヨーロッパの主な美術館についても紹介します。

本授業はパワーポイントを用いて実際の美術作品を見ながら、その特質について共に考える形式で行います。

なお、毎回の授業スライド抄録や復習問題、関連した情報を「ムードル」サイトで提供しています（「福岡大学、ムードル」で検索してください）。

毎回の小テストをムードルで提供しますので、ムードル登録は必須です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成した講義資料（パワーポイント）をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容を確認するためにムードルを用いた小テストや復習問題に取り組んでいただきます。復習問題については各回の冒頭に前回の振り返りを行います。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

1．美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

2．授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：授業内容とそこで扱う作品について「小学館世界美術全集」などで調べておきましょう。(30分)

予習：授業内容について「ムードル」掲載の情報をチェックし予め概略を理解しておきましょう。(60分)

復習：毎回呈示するポイントについて「小学館世界美術全集」などにより詳しく学習しましょう。(60分)

復習：ムードルで配布する復習問題を家でやってみましょう。（次回の冒頭に振り返りをします）(30分)

--- 成績評価基準および方法 ---

- ・定期筆記試験を課します。
- ・また、毎回、ムードルで提供する小テストをやってもらいます。
- ・成績評価は定期試験とムードル小テストを総合して行います。
- ・各回の小テスト合計40点（到達目標1に対する到達度により評価）
- ・定期試験60点（到達目標1、2に対する到達度により評価）

--- テキスト ---

特になし。

--- 参考書 ---

小学館世界美術全集（西洋美術編）の関連分冊（図書館にあります）
 ウェブ上のバーチャル美術館<http://www.wga.hu/index1.html>
<http://www.artcyclopedia.com/>

--- 履修上の留意点 ---

まじめな受講態度を求めます。

--- 授業計画 ---

- 1 スタートアップ授業（動画配信）福岡の美術館と現代美術
- 2 現代美術の特質とその見方
- 3 西洋古絵画を「読む」
- 4 世界の美術館（その1）ルーヴル美術館
- 5 ルネサンス絵画の始まり：ジョットー
- 6 ゴシック絵画の魅力：14世紀シエナ絵画
- 7 国際ゴシック絵画と写本装飾：ランブル兄弟
- 8 世界の美術館（その2）ウフィツィ美術館
- 9 イタリアルネサンス：マザッチョ
- 10 北方ルネサンス：ヤン・ファン・エイク
- 11 北方ルネサンスとイタリアルネサンス
- 12 世界の美術館（その3）美術史美術館
- 13 ルネサンス絵画と古代神話：ポッティチェリ
- 14 聖母の画家ラファエロ
- 15 授業内容の総括 授業アンケートFURIK Aの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
 (<https://fukuoka-u.box.com/s/zqqydobxkfjlitop663vm1faxubrr58>)

浦上 雅司

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2 授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

浦上 雅司

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：火・3時限 試験時間割：2024/07/25 1時限

--- 概要 ---

本授業では、まず、現代における美術の意義について具体的な作例をとりあげながら理解を進めます。その上で、イタリア・ルネサンスを主とする西洋近世絵画の代表的な作品を取り上げつつ、絵画の歴史を概観します。毎回、代表的な作家とその作品を紹介し、その特徴と時代背景などについて概説し、これによって絵画の見方（絵画作品を歴史的な枠組みに位置づけ、その特徴を理解すること）を体得することを目指します。またヨーロッパの主な美術館についても紹介します。

本授業はパワーポイントを用いて実際の美術作品を見ながら、その特質について共に考える形式で行います。

なお、毎回の授業スライド抄録や復習問題、関連した情報を「ムードル」サイトで提供しています（「福岡大学、ムードル」で検索してください）。

毎回の小テストをムードルで提供しますので、ムードル登録は必須です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成した講義資料（パワーポイント）をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容を確認するためにムードルを用いた小テストや復習問題に取り組んでいただきます。復習問題については各回の冒頭に前回の振り返りを行います。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

1．美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

2．授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：授業内容とそこで扱う作品について「小学館世界美術全集」などで調べておきましょう。(30分)

予習：授業内容について「ムードル」掲載の情報をチェックし予め概略を理解しておきましょう。(60分)

復習：毎回呈示するポイントについて「小学館世界美術全集」などにより詳しく学習しましょう。(60分)

復習：ムードルで配布する復習問題を家でやってみましょう。（次回の冒頭に振り返りをします）(30分)

--- 成績評価基準および方法 ---

- ・定期筆記試験を課します。
- ・また、毎回、ムードルで提供する小テストをやってもらいます。
- ・成績評価は定期試験とムードル小テストを総合して行います。
- ・各回の小テスト合計40点（到達目標1に対する到達度により評価）
- ・定期試験60点（到達目標1、2に対する到達度により評価）

--- テキスト ---

特になし。

--- 参考書 ---

小学館世界美術全集（西洋美術編）の関連分冊（図書館にあります）
 ウェブ上のバーチャル美術館<http://www.wga.hu/index1.html>
<http://www.artcyclopedia.com/>

--- 履修上の留意点 ---

まじめな受講態度を求めます。

--- 授業計画 ---

- 1 スタートアップ授業（動画配信）福岡の美術館と現代美術
- 2 現代美術の特質とその見方
- 3 西洋古絵画を「読む」
- 4 世界の美術館（その1）ルーヴル美術館
- 5 ルネサンス絵画の始まり：ジョットー
- 6 ゴシック絵画の魅力：14世紀シエナ絵画
- 7 国際ゴシック絵画と写本装飾：ランブル兄弟
- 8 世界の美術館（その2）ウフィツィ美術館
- 9 イタリアルネサンス：マザッチョ
- 10 北方ルネサンス：ヤン・ファン・エイク
- 11 北方ルネサンスとイタリアルネサンス
- 12 世界の美術館（その3）美術史美術館
- 13 ルネサンス絵画と古代神話：ポッティチェリ
- 14 聖母の画家ラファエロ
- 15 授業内容の総括 授業アンケートFURIK Aの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
 (<https://fukuoka-u.box.com/s/9nuha36fshhc6t3dxxr8iwxuquvigfyv>)

浦上 雅司

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2 授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

落合 桃子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・4時限 試験時間割：2024/07/25 1時限

概要

この講義では、ローマやパリ、ニューヨークなど欧米の都市を毎回一つ取り上げ、旅行気分を味わいながら、古代から20世紀までの西洋美術史について学んでいきます。

芸術学、美術史という学問は、高校までの科目でいえば、世界史の中の文化史に近いものです。世界史の授業では、文化史がメインで取り上げられることはありませんが、文化や芸術もまた、国家や政治、経済などと同じく、歴史の重要な構成要素の一つです。

そこで、この講義では、世界史の流れもふまえつつ、紀元前5世紀のアテネから20世紀のニューヨークまで、それぞれの時代に繁栄した都市をめぐる、関連する絵画・彫刻・建築などについて学びながら、約2500年にわたる壮大な西洋美術の展開をたどります。

昨今、『世界のビジネスエリートが身につける教養「西洋美術史」』や『東京藝大で教わる西洋美術の見かた』がベストセラーになるなど、一般教養としての西洋美術史に対する関心が高まっています。皆さんもこの授業を通じて欧米の美術の歴史を学び、過去を手掛かりに現代を理解し、未来を見通す力を養ってください。

なお、この授業はスライドを使用した講義形式で進めます。

授業の進行・方法

パワーポイントを使用した講義形式で実施します。レジュメ（プリント）の空欄を書き込みながら受講してください（レジュメはFUポータル「授業管理」より講義前日までにお送りします）。毎回の講義終了後には、感想カード（ミニツツペーパー）を、FUポータル「小テスト」機能から入力していただきます。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけている。(DP1-1)(知識・理解)

芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

講義内容を振り返り、感想カード(ミニツツペーパー)を記入する。(60分)

プリントやノートを読み返し、講義内容を正確に理解できたかどうか確認する。(60分)

講義を聴いて興味を持った芸術家や美術作品について、図書館やインターネットなどで調べる。(60分)

成績評価基準および方法

成績評価基準は次のとおりです。

- ・西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけることができたか。
- ・芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができるようになったか。

成績評価方法は次のとおりです。

- ・定期試験 70%
- ・ミニツツペーパー（感想カード） 30%

テキスト

テキストは指定しません。レジュメ（プリント）を配布します。

参考書

『カラー版西洋美術史（増補新装版）』 ISBN 978-4568400649

履修上の留意点

・就職活動やインターン等を理由とした欠席は自己都合による欠席とみなします。

・授業で用いるスライドのコピー等は配布できませんので予めご了承ください。

授業計画

- 第1回
イントロダクション（スタートアップ授業）
- 第2回
アテネ：古代ギリシャの美術
- 第3回
ローマ1：古代ローマの美術
- 第4回
イスタンブール：ビザンティンの美術
- 第5回
フィレンツェ：初期ルネサンスの美術
- 第6回
ローマ2：盛期ルネサンスとバロックの美術
- 第7回
ウィーン：北方ルネサンスの美術
- 第8回
マドリッド：17世紀のスペイン美術
- 第9回
アムステルダム：17世紀のオランダ美術
- 第10回
パリ1：17・18世紀のフランス美術
- 第11回
ロンドン：18世紀のイギリス美術
- 第12回
パリ2：新古典主義とロマン主義
- 第13回
パリ3：印象派とキュビズム
- 第14回
ニューヨーク：ダダと第二次世界大戦後の美術
- 第15回
まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/csotf135mjls0oexd7ggl9szyifilz6h>)

落合 桃子

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけている。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

落合 桃子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・5時限 試験時間割：2024/07/25 1時限

概要

この講義では、ローマやパリ、ニューヨークなど欧米の都市を毎回一つ取り上げ、旅行気分を味わいながら、古代から20世紀までの西洋美術史について学んでいきます。

芸術学、美術史という学問は、高校までの科目でいえば、世界史の中の文化史に近いものです。世界史の授業では、文化史がメインで取り上げられることはありませんが、文化や芸術もまた、国家や政治、経済などと同じく、歴史の重要な構成要素の一つです。

そこで、この講義では、世界史の流れもふまえつつ、紀元前5世紀のアテネから20世紀のニューヨークまで、それぞれの時代に繁栄した都市をめぐる、関連する絵画・彫刻・建築などについて学びながら、約2500年にわたる壮大な西洋美術の展開をたどります。

昨今、『世界のビジネスエリートが身につける教養「西洋美術史」』や『東京藝大で教わる西洋美術の見かた』がベストセラーになるなど、一般教養としての西洋美術史に対する関心が高まっています。皆さんもこの授業を通じて欧米の美術の歴史を学び、過去を手掛かりに現代を理解し、未来を見通す力を養ってください。

なお、この授業はスライドを使用した講義形式で進めます。

授業の進行・方法

パワーポイントを使用した講義形式で実施します。レジュメ（プリント）の空欄を書き込みながら受講してください（レジュメはFUポータル「授業管理」より講義前日までにお送りします）。毎回の講義終了後には、感想カード（ミニツツペーパー）を、FUポータル「小テスト」機能から入力していただきます。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけている。(DP1-1)(知識・理解)

芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

講義内容を振り返り、感想カード(ミニツツペーパー)を記入する。(60分)

プリントやノートを読み返し、講義内容を正確に理解できたかどうか確認する。(60分)

講義を聴いて興味を持った芸術家や美術作品について、図書館やインターネットなどで調べる。(60分)

成績評価基準および方法

成績評価基準は次のとおりです。

- ・西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけることができたか。
- ・芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができるようになったか。

成績評価方法は次のとおりです。

- ・定期試験 70%
- ・ミニツツペーパー（感想カード） 30%

テキスト

テキストは指定しません。レジュメ（プリント）を配布します。

参考書

『カラー版西洋美術史（増補新装版）』 ISBN 978-4568400649

履修上の留意点

・就職活動やインターン等を理由とした欠席は自己都合による欠席とみなします。

・授業で用いるスライドのコピー等は配布できませんので予めご了承ください。

授業計画

- 第1回
イントロダクション（スタートアップ授業）
- 第2回
アテネ：古代ギリシャの美術
- 第3回
ローマ1：古代ローマの美術
- 第4回
イスタンブール：ビザンティンの美術
- 第5回
フィレンツェ：初期ルネサンスの美術
- 第6回
ローマ2：盛期ルネサンスとバロックの美術
- 第7回
ウィーン：北方ルネサンスの美術
- 第8回
マドリッド：17世紀のスペイン美術
- 第9回
アムステルダム：17世紀のオランダ美術
- 第10回
パリ1：17・18世紀のフランス美術
- 第11回
ロンドン：18世紀のイギリス美術
- 第12回
パリ2：新古典主義とロマン主義
- 第13回
パリ3：印象派とキュビズム
- 第14回
ニューヨーク：ダダと第二次世界大戦後の美術
- 第15回
まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/dewt1swvsbkx5gpnxkp2qoxkz1i5evp>)

落合 桃子

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけている。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

川浪 千鶴

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・4時限 試験時間割：2024/07/25 1時限

--- 概要 ---

日本において、明治期に原点をもつ「美術館」という文化施設は、戦後以降全国各地で一斉に整備され、現在その数は公立、私立、類似施設まで含めると1000館近くにのぼるといわれます。演劇や音楽のホールと並んで、日本の芸術文化度を示すバロメーターともいわれる美術館は、私たちの暮らしにすっかり定着した感がありますが、その意義や成り立ち、歴史については、ほとんど知られていないのが現状です。

本講義では、近現代の日本において美術館はどのような理由で誕生し、どのように受容され、どのように発展してきたのか、日本の美術館が歩んできた1870年代から2000年代にかけての歴史を検証しながら、美術館の役割と社会との関係性について理解を深めることを目的にします。併せて、美術館を日常的、能動的に活用するきっかけづくりを目指します。

担当教員は、九州と四国の美術館学芸員として35年を超える勤務経験を持ち、戦後から現代の美術やミュージアム・マネジメント、地域アートと美術館などの専門性を活かした活動実績をもっています。福岡・九州を始めとする全国の美術館の最近の事例をもとに、こうした実務経験を活かして、ビジュアル的にもわかりやすく親しみやすい授業を行っていきます。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成した講義資料（主にスライド）をもとに講義形式で行います。使用したスライドは、授業後にFUboxにアップロードしますので、確認し復習時に活用ください。
また授業期間中、4回程度の小レポート作成（FUポータルの小テスト機能を使用した提出）に取り組んでいただきます。自分なりの感想や意見を常に考えながら受講ください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

近現代の日本の美術館史について基本的な知識を身につけ、その概略を説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

日本の美術館の活動を通じて、社会と文化との関係性を理解できる(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次の授業回で取り上げる美術館について、事前に公式サイトを閲覧し概要を把握しておくこと(100分)

復習：授業後に再び公式サイト等の関連資料を熟読し、その回のテーマを振り返り理解を深めること(80分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準：

1, 小レポート（4回程度）

授業内容を理解した上で、感想や意見が自分自身の言葉で述べられているかを評価基準とする（到達目標1）

2. 定期試験

美術館の歴史を社会の動向とともに捉えながら、その役割を積極的に理解しようとする姿勢を持っているかを評価基準とする（到達目標1,2）

評価方法：

授業への参加意欲と小レポートの内容(50%)、定期試験の解答内容(50%)を総合的に評価する。

--- テキスト ---

特にもうけない。必要に応じて資料を配布（配信）する。

--- 参考書 ---

全国美術館会議 美術館リンク集
<http://www.zenbi.jp/link.php>

--- 履修上の留意点 ---

1. 授業では、知識の受容だけではなく自分の目で見、感じ、考え、表現することに重きをおきます。美術館経験の有無、多少は問いませんが、受講期間中にできるだけ利用体験することを勧めます。
2. 試験問題は授業内で扱った美術館事象をもとに総合的に出題されるため、出席率の低さは成績に一定のしかたで反映されることとなります。遅刻・欠席をしないこと。
3. 授業連絡の通信や講義内容の情報を、定期的にチェックすること。
4. 授業内容を予告なしに変更する場合があります。

--- 授業計画 ---

1, 【スタートアップ授業：動画配信】
イントロダクション 授業の目的とシラバスの解説

2, 美術館とは何か？(1) 語源や定義、使命（ミッション）
3, 美術館とは何か？(2) 鑑賞の意味

4, 美術館の原点(1) 1870年代～1940年代
言葉から始まった美術館、建物ありきの美術館：東京府美術館から、東京都美術館へ
5, 美術館の原点(2) コレクションと美術館：大原美術館

6, 第1期・戦後から70年代の美術館(1) 催事施設としての美術館：福岡県文化会館から、福岡県立美術館へ

7, 第1期・戦後から70年代の美術館(2) 近代美術館の誕生：神奈川県立近代美術館、東京国立近代美術館、兵庫県立近代美術館

8, 第1期・戦後から70年代の美術館(3) ブリジストン美術館・石橋美術館から、アーティゾン美術館へ

9, 第2期・70年代から80年代の美術館(1) 機関としての美術館：北九州市立美術館

10, 第2期・70年代から80年代の美術館(2) 機関としての美術館：福岡市美術館

11, 第2期・70年代から80年代の美術館(3) 独自のコレクション形成を目指して：九州の県立美術館

12, 第3期・80年代後半から2000年代の美術館(1) 機能としての美術館：福岡アジア美術館

13, 第3期・80年代後半から2000年代の美術館(2) 現代美術館の誕生：広島市現代美術館、熊本市現代美術館

14, 第3期・80年代後半から2000年代の美術館(3) 美術館ネットワークについて

15, まとめ 【授業アンケート：FURIKAの実施】

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/bqfq8d75rdndy5any279wtyeiqftpgl8>)

川浪 千鶴

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.近現代の日本の美術館史について基本的な知識を身につけ、その概略を説明することができる（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.日本の美術館の活動を通じて、社会と文化との関係性を理解できる（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

植野 健造

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：月・2時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

- - - 概要 - - -

本授業は講義形式で行います。
 芸術といえば、美術、音楽、文学、演劇、映画など、さまざまな表現と内容があります。この授業では、芸術一般ではなく、文化遺産を対象にします。文化遺産は、広義では人類の文化的活動によって生み出された建造物、遺跡、美術品、音楽、演劇などの有形（不動産・可動文化財）・無形の文化的所産のことをいうが、ここでは、近年社会的に注目を集めている、おもに世界遺産、近代化遺産について、九州を中心に具体的事例をとりあげてみてゆきます。

美術館学芸員としての勤務経験がある教員が、テキストの講読を中心としながら、文化遺産、近代化遺産の保存や活用に関する身近な具体的事例説明もおりませ、画像映写なども行いながら授業を進めます。

文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念と代表的な事例を理解し、それを説明することができるようになることを目的とします。

- - - 授業の進行・方法 - - -

各授業はおよそ以下の進行・方法で進めます。
 1 当日の学習項目の説明。2 教員によるテキストの講読と補足説明。3 Moodleに掲示した補足資料の説明。4 画像・映像資料の視聴学習。5 授業後次回授業までに各自Moodleの小テスト機能による復習。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

1 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念を理解し、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

2 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の代表的な事例を理解し、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

3 文化遺産、世界遺産、近代化遺産に関する学問諸領域を知り、広い視野を培い、物事を多角的に理解する。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：教科書の次回授業該当部分を事前に読んでおくこと。(90分)

復習：授業後に、専門用語などを復習、記憶しておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概要と事例を、どの程度まで理解できているかどうかを評価の基準とします。時々提出してもらう短い感想文などの平常点30%、定期試験70%を目安として総合的に評価します。

- - - テキスト - - -

砂田光紀『九州遺産』、弦書房、2005年6月
 ISBN-10：4902116359 ISBN-13：978-4902116359

- - - 参考書 - - -

適宜指示します。

- - - 履修上の留意点 - - -

文化遺産を含めた芸術に関心をもつことが前提です。そのためには身近にある文化遺産や近代化遺産に行ってみることを勧めます。

- - - 授業計画 - - -

1 イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）

- 2 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (1)
 - 3 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (2)
 - 4 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (3)
 - 5 九州の産業遺産 工場・関連施設
 - 6 九州の産業遺産 造船施設
 - 7 九州の産業遺産 軍事・基地施設
 - 8 九州の産業遺産 軍事・要塞・砲台
 - 9 九州の産業遺産 軍事・原爆被爆構造物
 - 10 九州の産業遺産 公共・公会堂
 - 11 九州の産業遺産 公共・学校
 - 12 九州の産業遺産 公共・宗教施設
 - 13 九州の産業遺産 商業・ホテル
 - 14 九州の産業遺産 商業・銀行
 - 15 九州の産業遺産 商業・店舗群
- 授業アンケート FURIKA の実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/eoe9awmlk1rssecz3s1q5g1nfx2b5ttb>

植野 健造

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念を理解し、それを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の代表的な事例を理解し、それを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.3 文化遺産、世界遺産、近代化遺産に関する学問諸領域を知り、広い視野を培い、物事を多角的に理解する。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

植野 健造

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：月・3時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

--- 概要 ---

本授業は講義形式で行います。
 芸術といえば、美術、音楽、文学、演劇、映画など、さまざまな表現と内容があります。この授業では、芸術一般ではなく、文化遺産を対象にします。文化遺産は、広義では人類の文化的活動によって生み出された建造物、遺跡、美術品、音楽、演劇などの有形（不動産・可動文化財）・無形の文化的所産のことをいうが、ここでは、近年社会的に注目を集めている、おもに世界遺産、近代化遺産について、九州を中心に具体的事例をとりあげてみてゆきます。

美術館学芸員としての勤務経験がある教員が、テキストの講読を中心としながら、文化遺産、近代化遺産の保存や活用に関する身近な具体的事例説明もおりませ、画像映写なども行いながら授業を進めます。

文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念と代表的な事例を理解し、それを説明することができるようになることを目的とします。

--- 授業の進行・方法 ---

各授業はおよそ以下の進行・方法で進めます。
 1 当日の学習項目の説明。2 教員によるテキストの講読と補足説明。3 Moodleに掲示した補足資料の説明。4 画像・映像資料の視聴学習。5 授業後次回授業までに各自Moodleの小テスト機能による復習。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

1 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念を理解し、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

2 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の代表的な事例を理解し、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

3 文化遺産、世界遺産、近代化遺産に関する学問諸領域を知り、広い視野を培い、物事を多角的に理解する。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：教科書の次回授業該当部分を事前に読んでおくこと。(90分)

復習：授業後に、専門用語などを復習、記憶しておくこと。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概要と事例を、どの程度まで理解できているかどうかを評価の基準とします。時々提出してもらう短い感想文などの平常点30%、定期試験70%を目安として総合的に評価します。

--- テキスト ---

砂田光紀『九州遺産』、弦書房、2005年6月
 ISBN-10：4902116359 ISBN-13：978-4902116359

--- 参考書 ---

適宜指示します。

--- 履修上の留意点 ---

文化遺産を含めた芸術に関心をもつことが前提です。そのためには身近にある文化遺産や近代化遺産に行ってみることを勧めます。

--- 授業計画 ---

1 イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）

- 2 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (1)
 - 3 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (2)
 - 4 九州の産業遺産 鉱山・炭坑施設 (3)
 - 5 九州の産業遺産 工場・関連施設
 - 6 九州の産業遺産 造船施設
 - 7 九州の産業遺産 軍事・基地施設
 - 8 九州の産業遺産 軍事・要塞・砲台
 - 9 九州の産業遺産 軍事・原爆被爆構造物
 - 10 九州の産業遺産 公共・公会堂
 - 11 九州の産業遺産 公共・学校
 - 12 九州の産業遺産 公共・宗教施設
 - 13 九州の産業遺産 商業・ホテル
 - 14 九州の産業遺産 商業・銀行
 - 15 九州の産業遺産 商業・店舗群
- 授業アンケート FURIKA の実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/r30k2r5775ahrjwhh8fti9zbqfkvlt7v)

植野 健造

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の概念を理解し、それを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2 文化遺産、世界遺産、近代化遺産の代表的な事例を理解し、それを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.3 文化遺産、世界遺産、近代化遺産に関する学問諸領域を知り、広い視野を培い、物事を多角的に理解する。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

浦上 雅司

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：火・1時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

概要

この授業では、現代美術の最も重要な源泉であった19世紀フランス絵画の特質を歴史的に理解することを目指します。具体的には、まず、われわれの身の回りにある美術の現状を確認し、その成り立ちの歴史的経緯を18世紀から19世紀にかけての美術趣味の変化から説明します。

その上で、新古典主義からロマン主義、レアリズム、印象主義と連なるフランス19世紀絵画の流れを、19世紀アカデミズム絵画との関連も視野に入れながら概説します。その間、当該時期の作品を収集する世界の主要な美術館とそのコレクションについても紹介します。

この授業はパワーポイントを用いて実際の美術作品を見ながら、その特質について共に考える形式で行います。

なお、毎回の授業のスライド抄録など学習を助ける情報をムードルで提供します（「福岡大学 ムードル」で検索してください）から、積極的に活用しましょう。

また、毎回、事後学習を助けるための復習問題をムードルで配付しますから、授業後にやってみようようにしましょう。

毎回の小テストをムードルで提供しますので、ムードル登録は必須です。

授業の進行・方法

授業は、教員が作成した講義資料（パワーポイント）をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容を確認するためにムードルを用いた小テストや復習問題に取り組んでいただきます。復習問題については各回の冒頭に前回の振り返りを行います。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

1. 美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
2. 授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：授業内容とそこで扱う作品について「小学館世界美術全集」などで調べておきましょう(30分)

予習：授業内容について「ムードル」掲載の情報をチェックし予め概略を理解しておきましょう。(60分)

復習：毎回呈示するポイントについて「小学館世界美術全集」などでより詳しく学習しましょう。(60分)

復習：ムードルで配布する復習問題を家でやってみましょう。(次回の冒頭に答え合わせをします)(30分)

成績評価基準および方法

- ・定期筆記試験を課します。
- ・また、毎回、ムードルで提供する小テストをやってもらいます。
- ・成績評価は定期試験とムードル小テストを総合して行います。
- ・各回の小テスト合計40点（到達目標1に対する到達度により評価）
- ・定期試験60点（到達目標1、2に対する到達度により評価）

テキスト

特になし。

参考書

小学館世界美術全集（西洋美術編）の関連分冊（図書館にそろっています）
 ウェブ上の美術館
<http://www.wga.hu/index1.html>
<http://www.artcyclopedia.com/>

履修上の留意点

まじめな受講態度を求めます。

授業計画

- 1 スタートアップ授業（動画配信）現代美術の状況とその起源
- 2 ロマン主義の美術観
- 3 ロココの魅力：ワトー
- 4 世界の美術館（1）ロンドン、ナショナルギャラリー
- 5 ロココへの反発：18世紀半ばの趣味の変化
- 6 新古典主義絵画：ダヴィッド
- 7 フランス革命期の美術
- 8 世界の美術館（2）ボルゲーゼ美術館
- 9 イギリスにおける新しい絵画動向
- 10 19世紀フランスのアカデミズム絵画
- 11 ロマン派：ドラクロワ
- 12 世界の美術館（その3）アルテ・ピナコテーク美術館
- 13 レアリズム（1）：クールベ
- 14 レアリズム（2）：マネの革新
- 15 印象派の画家たち 授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/fqvlj9wecih130xqb1su68pbyo1gq3cv>

浦上 雅司

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できる。（DP1-1）
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2 授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

浦上 雅司

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：火・2時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

概要

この授業では、現代美術の最も重要な源泉であった19世紀フランス絵画の特質を歴史的に理解することを目指します。具体的には、まず、われわれの身の回りにある美術の現状を確認し、その成り立ちの歴史的経緯を18世紀から19世紀にかけての美術趣味の変化から説明します。

その上で、新古典主義からロマン主義、レアリズム、印象主義と連なるフランス19世紀絵画の流れを、19世紀アカデミズム絵画との関連も視野に入れながら概説します。その間、当該時期の作品を収集する世界の主要な美術館とそのコレクションについても紹介します。

この授業はパワーポイントを用いて実際の美術作品を見ながら、その特質について共に考える形式で行います。

なお、毎回の授業のスライド抄録など学習を助ける情報をムードルで提供します（「福岡大学 ムードル」で検索してください）から、積極的に活用しましょう。

また、毎回、事後学習を助けるための復習問題をムードルで配付しますから、授業後にやってみようようにしましょう。

毎回の小テストをムードルで提供しますので、ムードル登録は必須です。

授業の進行・方法

授業は、教員が作成した講義資料（パワーポイント）をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容を確認するためにムードルを用いた小テストや復習問題に取り組んでいただきます。復習問題については各回の冒頭に前回の振り返りを行います。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

1. 美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
2. 授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：授業内容とそこで扱う作品について「小学館世界美術全集」などで調べておきましょう(30分)

予習：授業内容について「ムードル」掲載の情報をチェックし予め概略を理解しておきましょう。(60分)

復習：毎回呈示するポイントについて「小学館世界美術全集」などでより詳しく学習しましょう。(60分)

復習：ムードルで配布する復習問題を家でやってみましょう。(次回の冒頭に答え合わせをします)(30分)

成績評価基準および方法

- ・定期筆記試験を課します。
- ・また、毎回、ムードルで提供する小テストをやってもらいます。
- ・成績評価は定期試験とムードル小テストを総合して行います。
- ・各回の小テスト合計40点（到達目標1に対する到達度により評価）
- ・定期試験60点（到達目標1、2に対する到達度により評価）

テキスト

特になし。

参考書

小学館世界美術全集（西洋美術編）の関連分冊（図書館にそろっています）
 ウェブ上の美術館
<http://www.wga.hu/index1.html>
<http://www.artcyclopedia.com/>

履修上の留意点

まじめな受講態度を求めます。

授業計画

- 1 スタートアップ授業（動画配信）現代美術の状況とその起源
- 2 ロマン主義の美術観
- 3 ロココの魅力：ワトー
- 4 世界の美術館（1）ロンドン、ナショナルギャラリー
- 5 ロココへの反発：18世紀半ばの趣味の変化
- 6 新古典主義絵画：ダヴィッド
- 7 フランス革命期の美術
- 8 世界の美術館（2）ボルゲーゼ美術館
- 9 イギリスにおける新しい絵画動向
- 10 19世紀フランスのアカデミズム絵画
- 11 ロマン派：ドラクロワ
- 12 世界の美術館（その3）アルテ・ピナコテーク美術館
- 13 レアリズム（1）：クールベ
- 14 レアリズム（2）：マネの革新
- 15 印象派の画家たち 授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/wktci2tgw1xz0azv4735un60p341uss0>

浦上 雅司

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できる。（DP1-1）
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2 授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

浦上 雅司

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：火・3時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

概要

この授業では、現代美術の最も重要な源泉であった19世紀フランス絵画の特質を歴史的に理解することを目指します。具体的には、まず、われわれの身の回りにある美術の現状を確認し、その成り立ちの歴史的経緯を18世紀から19世紀にかけての美術趣味の変化から説明します。

その上で、新古典主義からロマン主義、レアリズム、印象主義と連なるフランス19世紀絵画の流れを、19世紀アカデミズム絵画との関連も視野に入れながら概説します。その間、当該時期の作品を収集する世界の主要な美術館とそのコレクションについても紹介します。

この授業はパワーポイントを用いて実際の美術作品を見ながら、その特質について共に考える形式で行います。

なお、毎回の授業のスライド抄録など学習を助ける情報をムードルで提供します（「福岡大学 ムードル」で検索してください）から、積極的に活用しましょう。

また、毎回、事後学習を助けるための復習問題をムードルで配付しますから、授業後にやってみようにしましょう。

毎回の小テストをムードルで提供しますので、ムードル登録は必須です。

授業の進行・方法

授業は、教員が作成した講義資料（パワーポイント）をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容を確認するためにムードルを用いた小テストや復習問題に取り組んでいただきます。復習問題については各回の冒頭に前回の振り返りを行います。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

1. 美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
2. 授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：授業内容とそこで扱う作品について「小学館世界美術全集」などで調べておきましょう(30分)

予習：授業内容について「ムードル」掲載の情報をチェックし予め概略を理解しておきましょう。(60分)

復習：毎回呈示するポイントについて「小学館世界美術全集」などでより詳しく学習しましょう。(60分)

復習：ムードルで配布する復習問題を家でやってみましょう。(次回の冒頭に答え合わせをします)(30分)

成績評価基準および方法

- ・定期筆記試験を課します。
- ・また、毎回、ムードルで提供する小テストをやってもらいます。
- ・成績評価は定期試験とムードル小テストを総合して行います。
- ・各回の小テスト合計40点（到達目標1に対する到達度により評価）
- ・定期試験60点（到達目標1、2に対する到達度により評価）

テキスト

特になし。

参考書

小学館世界美術全集（西洋美術編）の関連分冊（図書館にそろっています）
 ウェブ上の美術館
<http://www.wga.hu/index1.html>
<http://www.artcyclopedia.com/>

履修上の留意点

まじめな受講態度を求めます。

授業計画

- 1 スタートアップ授業（動画配信）現代美術の状況とその起源
- 2 ロマン主義の美術観
- 3 ロココの魅力：ワトー
- 4 世界の美術館（1）ロンドン、ナショナルギャラリー
- 5 ロココへの反発：18世紀半ばの趣味の変化
- 6 新古典主義絵画：ダヴィッド
- 7 フランス革命期の美術
- 8 世界の美術館（2）ボルゲーゼ美術館
- 9 イギリスにおける新しい絵画動向
- 10 19世紀フランスのアカデミズム絵画
- 11 ロマン派：ドラクロワ
- 12 世界の美術館（その3）アルテ・ピナコテーク美術館
- 13 レアリズム（1）：クールベ
- 14 レアリズム（2）：マネの革新
- 15 印象派の画家たち 授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/kmaqftk78a7kjtnsjls2gi9n5fvls7do>

浦上 雅司

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 美術に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明できる。（DP1-1）
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2 授業中に取り扱われた美術作品や美術の流れについて理解し、他者に説明できる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

落合 桃子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・4時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

- - - 概要 - - -

この授業では、皆さんもどこかで見たことがあるような、よく知られた西洋美術の絵や彫刻などを毎回1点取り上げて、美術作品の見方と西洋美術の歴史について学びます。

まず、授業のはじめに、『びじゅチューン!』の動画をご覧ください。そして、元になった作品の作品記述(ディスクリプション)を行った後、誰が作ったのか、何を意味しているのか、誰のために作られたのか、どのように評価されたのか、いくらだったのか、今どこにあるのか等々、作品について理解を深めていきます。

古代からルネサンス、バロック、印象派など近現代にいたるまでの、西洋美術史の流れについても学習します。

今日では、西洋美術の有名な絵などのイメージが、テレビのCMやCDのジャケット、Tシャツやソックスなどにも利用され、私たちの身近なところで新たな意味を獲得しています。西洋美術史を学ぶことで、私たちが生きる現代をもより深く見ることができるようになるでしょう。

なお、この授業はスライドを使用した講義形式で進めます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

パワーポイントを使用した講義形式で実施します。レジュメ(プリント)の空欄を書き込みながら受講してください(レジュメはFUポータル「授業管理」より前日までにお送りします)。毎回の講義終了後には、感想カード(ミニッツペーパー)を、FUポータル「小テスト」機能から入力していただきます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけている。(DP1-1)(知識・理解)

芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

講義内容を振り返り、感想カード(ミニッツペーパー)を記入する。(60分)

プリントやノートを読み返し、講義内容を正確に理解できたかどうか確認する。(60分)

講義を聴いて興味を持った芸術家や美術作品について、図書館やインターネットなどで調べる。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

成績評価基準は次のとおりです。

- ・西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけることができたか。
- ・芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができるようになったか。

成績評価方法は次のとおりです。

- ・定期試験 70%
- ・毎回の講義時の課題 30%

- - - テキスト - - -

テキストは指定しません。レジュメ(プリント)を配布します。

- - - 参考書 - - -

『カラー版西洋美術史(増補新装版)』 ISBN 978-4568400649

- - - 履修上の留意点 - - -

- ・就職活動やインターン等を理由とした欠席は自己都合による欠席とみなします。
- ・授業で用いるスライドのコピー等は配布できませんので予めご了承ください。

- - - 授業計画 - - -

- 第1回
イントロダクション(スタートアップ授業)
- 第2回
古代：《ミロのヴィーナス》
- 第3回
初期ルネサンス：ボッティチェリ《ヴィーナスの誕生》
- 第4回
盛期ルネサンス：ダ・ヴィンチ《モナ・リザ》
- 第5回
北方ルネサンス：ブリュゲル《バベルの塔》
- 第6回
バロック：フェルメール《牛乳を注ぐ女》
- 第7回
ロマン主義：ドラクロア《民衆を導く自由の女神》
- 第8回
写実主義：ミレー《落穂拾い》
- 第9回
マネ《笛を吹く少年》
- 第10回
印象派：ルノワール《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会》
- 第11回
ポスト印象派：ゴーギャン《われわれはどこから来たのか、われわれは何者か、われわれはどこへ行くのか》
- 第12回
象徴主義：ミレイ《オフィーリア》
- 第13回
アール・ヌーヴォー：ガレ《ひとよ茸ランプ》
- 第14回
フォーヴィスム：マティス《ダンス》
- 第15回
まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/stxo4byxe32ih00fhk0sdopvj2noy3gi>)

落合 桃子

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけている。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

落合 桃子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・5時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

- - - 概要 - - -

この授業では、皆さんもどこかで見たことがあるような、よく知られた西洋美術の絵や彫刻などを毎回1点取り上げて、美術作品の見方と西洋美術の歴史について学びます。

まず授業のはじめに、『びじゅチューン!』の動画をご覧ください。そして、元になった作品の作品記述(ディスクリプション)を行った後、誰が作ったのか、何を意味しているのか、誰のために作られたのか、どのように評価されたのか、いくらだったのか、今どこにあるのか等々、作品について理解を深めていきます。

古代からルネサンス、バロック、印象派など近現代にいたるまでの、西洋美術史の流れについても学習します。

今日では、西洋美術の有名な絵などのイメージが、テレビのCMやCDのジャケット、Tシャツやソックスなどにも利用され、私たちの身近なところで新たな意味を獲得しています。西洋美術史を学ぶことで、私たちが生きる現代をもより深く見ることができるようになるでしょう。

なお、この授業はスライドを使用した講義形式で進めます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

パワーポイントを使用した講義形式で実施します。レジュメ(プリント)の空欄を書き込みながら受講してください(レジュメはFUポータル「授業管理」より前日までにお送りします)。毎回の講義終了後には、感想カード(ミニッツペーパー)を、FUポータル「小テスト」機能から入力していただきます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけている。(DP1-1)(知識・理解)

芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

講義内容を振り返り、感想カード(ミニッツペーパー)を記入する。(60分)

プリントやノートを読み返し、講義内容を正確に理解できたかどうか確認する。(60分)

講義を聴いて興味を持った芸術家や美術作品について、図書館やインターネットなどで調べる。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

成績評価基準は次のとおりです。

- ・西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけることができたか。
- ・芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができるようになったか。

成績評価方法は次のとおりです。

- ・定期試験 70%
- ・毎回の講義時の課題 30%

- - - テキスト - - -

テキストは指定しません。レジュメ(プリント)を配布します。

- - - 参考書 - - -

『カラー版西洋美術史(増補新装版)』 ISBN 978-4568400649

- - - 履修上の留意点 - - -

- ・就職活動やインターン等を理由とした欠席は自己都合による欠席とみなします。
- ・授業で用いるスライドのコピー等は配布できませんので予めご了承ください。

- - - 授業計画 - - -

- 第1回
イントロダクション(スタートアップ授業)
- 第2回
古代：《ミロのヴィーナス》
- 第3回
初期ルネサンス：ボッティチェリ《ヴィーナスの誕生》
- 第4回
盛期ルネサンス：ダ・ヴィンチ《モナ・リザ》
- 第5回
北方ルネサンス：ブリュゲル《バベルの塔》
- 第6回
バロック：フェルメール《牛乳を注ぐ女》
- 第7回
ロマン主義：ドラクロア《民衆を導く自由の女神》
- 第8回
写実主義：ミレー《落穂拾い》
- 第9回
マネ《笛を吹く少年》
- 第10回
印象派：ルノワール《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会》
- 第11回
ポスト印象派：ゴーギャン《われわれはどこから来たのか、われわれは何者か、われわれはどこへ行くのか》
- 第12回
象徴主義：ミレイ《オフィーリア》
- 第13回
アール・ヌーヴォー：ガレ《ひとよ茸ランプ》
- 第14回
フォーヴィスム：マティス《ダンス》
- 第15回
まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/bge2ffa5kjglc5lfhbuea0fcj362wxy9>)

落合 桃子

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.西洋の芸術に関する基礎的な知識を身につけている。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.芸術学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

川浪 千鶴

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・4時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

--- 概要 ---

明治時代にその原点を持つ日本の美術館は、今や公立、私立、類似施設まで含めると1000館近くにのぼるといわれ、芸術文化の拠点のひとつとして、私たちの暮らしにすっかり定着した感があります。しかし、美術館は不変的な存在ではなく、時代の求めによって誕生し、時代ごとに変化し続け現在に至っていること、そして政治や経済など、社会のあり方を映し出す鏡のような、重要な存在であることは、ほとんど知られていません。この授業の目的は、現代日本を代表する美術館の設立理念、コレクション、活動をさまざまな社会的な観点から読み解き、美術館という文化施設の可能性を検証することにあります。また、2000年代以降の美術館と社会との関係性を多角的に探ることで、コロナ禍や震災を経験した私たちが、これからのより良い社会のあり方について、自分事として考察するきっかけづくりを目指します。担当教員は、九州と四国の美術館学芸員として35年を超える勤務経験と、戦後から現代の美術やミュージアム・マネジメント、地域アートと美術館などの専門性を活かした活動実績を持っています。福岡・九州を始めとする全国の美術館とのネットワークを活かした最新の資料や具体的な事例をもとに、こうした実務経験を活かして、ビジュアル的にもわかりやすく親しみやすい授業を行っていきます。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成した講義資料（主にスライド）をもとに講義形式で行います。使用したスライドは、授業後にFUboxにアップロードしますので、確認し復習時に活用ください。また授業期間中、4回程度の小レポート（FUポータルの小テスト機能を使用した提出）に取り組んでいただきます。自分なりの感想や意見について考えながら受講ください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

現代日本を代表する美術館の理念や活動事例を学び、その特徴を説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

美術館と社会との関係性を理解し、さまざまな領域における可能性を自分の言葉で表現できる(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次の授業回で取り上げる美術館について、事前に公式サイトを閲覧し概要を把握しておくこと(100分)

復習：授業後に再び公式サイト等の関連資料を熟読し、その回のテーマを振り返り理解を深めること(80分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準：
 1. 小レポート（4回程度）
 授業内容を理解した上で、感想や意見が自分自身の言葉で述べられているかを評価基準とする（到達目標1）
 2. 定期試験
 美術館と社会のあり方とその可能性を積極的に理解しようとする姿勢を持っているかを評価基準とする（到達目標1,2）

評価方法：
 授業への参加意欲と小レポートの内容(50%)、定期試験の解答内容(50%)を総合的に評価する。

--- テキスト ---

特にもうけない。必要に応じて資料などを配布（配信）する。

--- 参考書 ---

全国美術館会議 美術館リンク集
<http://www.zenbi.jp/link.php>

--- 履修上の留意点 ---

1. 授業では、知識の受容だけではなく自分の目で見て、感じ、考え、表現することに重きをおきます。美術館経験の有無、多少は問いませんが、受講期間中にできるだけ利用体験することを勧めます。
2. 試験問題は授業内で扱った美術館事象をもとに総合的に出題されるため、出席率の低さは成績に一定のしかたで反映されることとなります。遅刻・欠席をしないこと。
3. 授業連絡の通信や講義内容の情報を、定期的にチェックすること。
4. 授業内容を予告なしに変更する場合があります。

--- 授業計画 ---

- 1,【スタートアップ授業（動画配信）】
 イントロダクションー授業の目的とシラバスの解説
- 2,美術館とは何か？(1) 定義と使命（ミッション）
- 3,美術館とは何か？(2)ー歴史
- 4, テーマ(1) 変貌するミッション：熊本市現代美術館
- 5, テーマ(2) 地域と風土：青森県立美術館、青森アートミュージアム5館連携協議会
- 6, テーマ(3) 地域と観光：金沢21世紀美術館、ベネッセアートサイト直島
- 7, テーマ(4) 教育/ケア：東京都美術館
- 8, テーマ(5) 価値観の問い直し：福岡アジア美術館、鞆の津ミュージアム
- 9, テーマ(6) 危機の時代・震災：リアス・アーク美術館ほか
- 10, テーマ(7) 危機の時代・コロナ禍：福岡市美術館、世田谷美術館
- 11, テーマ(8) 社会教育と社会参画：つなぎ美術館、坂本善三美術館
- 12, テーマ(9) ジェンダー：森美術館ほか
- 13, テーマ(10) 多様性：国立新美術館ほか
- 14, ふりかえり
- 15, まとめー「これからの美術館」とは？
 【授業アンケート：FURIKAの実施】

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/5x2yqf10ot2trev9emp5bvuu8pc30rmo3>

川浪 千鶴

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.現代日本を代表する美術館の理念や活動事例を学び、その特徴を説明することができる（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.美術館と社会との関係性を理解し、さまざまな領域における可能性を自分の言葉で表現できる（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

森 丈夫

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：水・1 時限 試験時間割：2024/07/30 4 時限

--- 概要 ---

本授業は講義形式で行います。本講義では、大航海時代以降のヨーロッパと世界の関係史を扱い、グローバルな地域間の接触が人間社会の歴史に何をもたらしたのかという問題を扱っていく。

世界の歴史を変えた大きな変革は、ヨーロッパで起こった産業革命やフランス革命がしばしばあげられる。ところが、15世紀末以来のヨーロッパ人によるアジア、アフリカ、アメリカ大陸への進出、いわゆる大航海は、それらに先行して人類史を変えた大きな変革だと言えよう。というのも、この現象は、単にヨーロッパ人がグローバルに商業進出を果たしただけでなく、世界各地の社会・経済・政治に劇的な変化をもたらし、なおかつ、新たなグローバルな経済、文化、社会のネットワークを作り上げたからである。もっとも、このプロセスを考えるには、ヨーロッパの世界進出の影響が各地で異なることを重視せねばならない。アメリカ大陸では、既存の社会が壊滅的な被害を受け、ヨーロッパの進出に組み込まれたが、他方で、アジアでは、ヨーロッパの進出によって、19世紀になるまで、既存の政治体制がゆるぐことはなかった。またグローバルな接触は、同時にヨーロッパ自身にも多大な変革をもたらしたのである。

授業では、以上のような大航海以後のヨーロッパと世界の間を15世紀から18世紀まで、時代をおって講義する。講義に際しては、アジア、アメリカ、アフリカなど地域ごとにテーマを設ける。

初回は動画配信によるスタートアップ授業とし、残りの14回は対面とする。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式で行います。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

ヨーロッパの世界進出がもたらしたグローバルな変化について基礎的な知識を身につけ、説明できるようにする。(DP1-1)(知識・理解)

各学問が生まれた近代という時代背景について基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。(DP2-1)(知識・理解)

他者や異文化に関する歴史的背景について、それらを説明できるようにする。(DP2-2)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習として前回の授業で配布した資料を見直しておくこと。(90分)

復習として授業で配布した資料を見直しておくこと。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準：ヨーロッパ人の世界進出と近代世界の形成に関する基本的な知識を身につけ、説明できているかどうかを評価の基準とする。

評価方法：定期試験の成績で100%評価する。

--- テキスト ---

使用しない。

--- 参考書 ---

授業中に適宜指示する。

--- 授業計画 ---

- 1 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
 - 2 他の世界に対する視線
 - 3 大航海時代(1)
 - 4 大航海時代(2)
 - 5 アメリカ大陸との出会い(1)
 - 6 アメリカ大陸との出会い(2)
 - 7 人・モノの交流の開始
 - 8 近世ヨーロッパ人の生活
 - 9 アジアとの出会い
 - 10 ヨーロッパの生活革命
 - 11 黒人奴隷制度の展開
 - 12 近代世界システム
 - 13 産業革命の原因
 - 14 ヨーロッパと世界の変化
 - 15 総括
- 授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/prah0k2thohzk5mf7x5wahk5ipyme6f>)

森 丈夫

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.ヨーロッパの世界進出がもたらしたグローバルな変化について基礎的な知識を身につけ、説明できるようにする。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.各学問が生まれた近代という時代背景について基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.他者や異文化に関する歴史的背景について、それらを説明できるようにする。(DP2-2) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

森 丈夫

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：金・5時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

- - - 概要 - - -

本授業は講義形式で行います。本講義では、大航海時代以降のヨーロッパと世界の関係史を扱い、グローバルな地域間の接触が人間社会の歴史に何をもたらしたのかという問題を扱っていく。

世界の歴史を変えた大きな変革は、ヨーロッパで起こった産業革命やフランス革命がしばしばあげられる。ところが、15世紀末以来のヨーロッパ人によるアジア、アフリカ、アメリカ大陸への進出、いわゆる大航海は、それらに先行して人類史を変えた大きな変革だと言えよう。というのも、この現象は、単にヨーロッパ人がグローバルに商業進出を果たしただけでなく、世界各地の社会・経済・政治に劇的な変化をもたらし、なおかつ、新たなグローバルな経済、文化、社会のネットワークを作り上げたからである。もっとも、このプロセスを考えるには、ヨーロッパの世界進出の影響が各地で異なることを重視せねばならない。アメリカ大陸では、既存の社会が壊滅的な被害を受け、ヨーロッパの支配に組み込まれたが、他方で、アジアでは、ヨーロッパの進出によって、19世紀になるまで、既存の政治体制がゆらぐことはなかった。またグローバルな接触は、同時にヨーロッパ自身にも多大な変革をもたらしたのである。

授業では、以上のような大航海以後のヨーロッパと世界の間を15世紀から18世紀まで、時代をおって講義する。講義に際しては、アジア、アメリカ、アフリカなど地域ごとにテーマを設ける。

初回は動画配信によるスタートアップ授業とし、残りの14回は対面とする。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は毎回講義形式で行います。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

ヨーロッパの世界進出がもたらしたグローバルな変化について基礎的な知識を身につけ、説明できるようにする。(DP1-1)(知識・理解)

各学問が生まれた近代という時代背景について基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。(DP2-1)(知識・理解)

他者や異文化に関する歴史的背景について、それらを説明できるようにする。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として授業で配布した資料を見直しておくこと。(90分)

復習として授業で配布した資料を見直しておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：ヨーロッパ人の世界進出と近代世界の形成に関する基本的な知識を身につけ、説明できているかどうかを評価の基準とする。

評価方法：定期試験の成績で100%評価する。

- - - テキスト - - -

使用しない。

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜指示する。

- - - 授業計画 - - -

- 1 イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）
 - 2 他の世界に対する視線
 - 3 大航海時代(1)
 - 4 大航海時代(2)
 - 5 アメリカ大陸との出会い(1)
 - 6 アメリカ大陸との出会い(2)
 - 7 人・モノの交流の開始
 - 8 近世ヨーロッパ人の生活
 - 9 アジアとの出会い
 - 10 ヨーロッパの生活革命
 - 11 黒人奴隷制度の展開
 - 12 近代世界システム
 - 13 産業革命の原因
 - 14 ヨーロッパと世界の変化
 - 15 総括
- 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/yj7pwy0crk427t047xngm6b21nno4q2j>)

森 丈夫

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.ヨーロッパの世界進出がもたらしたグローバルな変化について基礎的な知識を身につけ、説明できるようにする。(DP1-1) (知識・理解)

2.各学問が生まれた近代という時代背景について基礎的な知識を身につけ、それらを説明できるようにする。(DP2-1) (知識・理解)

3.他者や異文化に関する歴史的背景について、それらを説明できるようにする。(DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

丹後 享

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

- - - 概要 - - -

・本授業科目では、古代から近代前半にかけてのヨーロッパ史の展開を取り扱う。

・今日のヨーロッパ世界の土台が形成されたのは、中世盛期の11～13世紀である。この時代は、封建社会の全盛期であり、「ヨーロッパの3要素」である古典古代の文化・キリスト教・ゲルマン文化の融合が完了した時代である。封建社会の形成と衰退の過程を知ること、今日のヨーロッパ世界の特色を理解するうえで不可欠である。また、歴史の展開は地域によって多様であり、ヨーロッパの歴史は、日本を含むアジア世界とは大きく異なる。歴史の展開の多様性を知ることによって、日本の歴史の独自性を認識することもできる。

- - - 授業の進行・方法 - - -

・本授業科目は、講義形式(対面授業)で実施する。
 ・本授業科目は、テキストを使用しない。毎回の授業では、「授業レジュメ」の内容・順序に沿って授業を行う。授業内容はレジュメにまとめられているが、必要に応じて、板書もするので、ノートをとるように。
 ・毎回の授業では、授業内容を文章で解説したもの(「授業の概要」)を配付するので、予習・復習など授業外学習に活用するように。なお、「授業レジュメ」と「授業の概要」は、FUポータルで事前に配信する。
 ・学期中に、1回レポート提出を求める。提出締切後、授業中に課題の解説を行う。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

古代から近世にかけてのヨーロッパ史の基礎知識を得ることができるとともに、現代ヨーロッパ世界の政治・社会・文化に関する理解を深めることができる。(DP2-1)(知識・理解)

過去と現在、現在と未来は原因と結果という因果関係で結合しているという、歴史的思考を得ることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

歴史教師を志望する場合、西洋史の基礎知識を得るとともに、それを説明する能力を身に付けることができる。(DP1-1)(知識・理解)

ヨーロッパと日本を比較することによって、日本を相対的に見るという視座を構築することができる。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

教材は、FUポータルで授業の1週間前までに配信するので、事前に熟読しておくこと。(90分)

事後学習として、配信教材や参考文献の該当箇所を読み、復習すること。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

【評価方法】定期試験を実施する。定期試験を70%、平素(レポート課題など)を30%として評価する。

【評価基準】

・試験範囲は授業内容全体である。試験は論述形式である。
 ・古代から近世にかけてのヨーロッパ史の概要をどの程度まで理解しているか、それを第三者(専門知識がない人)に適切に説明できるかが、評価の基準となる。

- - - テキスト - - -

なし

- - - 参考書 - - -

フランス史10講 ISBN 4004310164C0222

ヨーロッパとは何か ISBN 400413014XC0222

・個別の論点に関する参考文献は、授業中に紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

・毎回の授業では、「授業レジュメ」を必ず用意するように。

・本授業科目の後段階を取り扱う「西洋史B」も併せて履修することが望ましい。

- - - 授業計画 - - -

スタートアップ授業(授業方法・評価の仕方・授業概要の説明)

ヨーロッパの地理的構造

古典古代世界の性格

ローマ帝国の没落とゲルマン大移動

フランク王国の発展と分裂

封建社会の成立(1):領主制(荘園制)

封建社会の成立(2):封建制

封建社会の成立(3):ローマ教会の発展

中世世界の変容(1):十字軍と商業の復活

中世世界の変容(2):教皇権の後退

中世世界の変容(3):封建社会の危機

主権国家体制の誕生(1):西欧諸国の中央集権化

主権国家体制の誕生(2):宗教改革とイタリア戦争

絶対王政の成立(1):フランス・ドイツの宗教戦争

絶対王政の成立(2):フランス絶対王政の成立 *授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/cong4i4k6ifi5f22jq0w904gu1o3qook>)

丹後 享

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.古代から近世にかけてのヨーロッパ史の基礎知識を得ることができるとともに、現代ヨーロッパ世界の政治・社会・文化に関する理解を深めることができる。(DP2-1) (知識・理解)

2.過去と現在、現在と未来は原因と結果という因果関係で結合しているという、歴史的思考を得ることができる。(DP2-2) (態度・志向性)

3.歴史教師を志望する場合、西洋史の基礎知識を得るとともに、それを説明する能力を身に付けることができる。(DP1-1) (知識・理解)

4.ヨーロッパと日本を比較することによって、日本を相対的に見るという視座を構築することができる。(DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山本 達夫

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：月・4時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

- - - 概要 - - -

私たちは他との比較をとおして自分自身を客観的に認識する。この講義では、ヨーロッパの歴史を比較対象の事例として、現在に生きる私たちの立ち位置を確認してみたい。古代から中世にいたるヨーロッパ史を概観し、異なる文化・思想の背景にどのような歴史的経緯があり、それが現代に及ぼす影響をおよぼしているのかを理解する。ヨーロッパ史における主要なテーマの考察を通して「現在の歴史性」を認識し、現代の諸問題の歴史的背景を考察する素地をやしなう。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義は要点を記したレジュメにそってすすめる。重要な箇所には()が付されており、受講者は術語や重要事項を書き込むことで知識を身につけることができる。また各講義の終了時に、出席カードにコメント・質問を書いて提出すること。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

西洋史(古代～中世)についての基礎知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

「現在の歴史性」を理解し、ものごとを相対的に考えられるようにする。(DP2-1)(技能)

西洋史の知識を基礎として、現在の諸問題を歴史的に考えることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

レジュメの用語の確認(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験100%(問題の歴史的意義が論理的に説明できているかどうかを評価基準とする)。

- - - テキスト - - -

使用しない。プリントを配布する。

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

他の受講者に迷惑をかける行為(私語や電話)をしないこと。

- - - 授業計画 - - -

- 1.ヨーロッパ文化と日本(スタートアップ授業動画配信)
- 2.ギリシア世界のポリス
- 3.ペルシア戦争とギリシア世界
- 4.ヘレニズム文明
- 5.共和政ローマ(イタリア半島の支配)
- 6.地中海の覇者ローマ
- 7.マリウスの軍制改革(ローマ社会の変容)
- 8.パックス・ロマーナとローマの変質
- 9.ローマの四分統治から滅亡へ
- 10.ゲルマン人へのキリスト教の普及
- 11.キリスト教とヨーロッパ
- 12.ヨーロッパ封建制度と農業革命
- 13.中世ヨーロッパにおける聖権と俗権
- 14.十字軍の背景と影響
- 15.宗教改革とヨーロッパ社会
授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/iqtplxedwidon1ye0qtk33uiy43359sm>)

山本 達夫

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.西洋史(古代～中世)についての基礎知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.「現在の歴史性」を理解し、ものごとを相対的に考えられるようにする。(DP2-1) (技能)

3.西洋史の知識を基礎として、現在の諸問題を歴史的に考えることができる。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山本 達夫

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・3時限 試験時間割：2024/07/30 4時限

- - - 概要 - - -

私たちは他との比較をとおして自分自身を客観的に認識する。この講義では、ヨーロッパの歴史を比較対象の事例として、現在に生きる私たちの立ち位置を確認してみたい。古代から中世にいたるヨーロッパ史を概観し、異なる文化・思想の背景にどのような歴史的経緯があり、それが現代に及ぼす影響をおよぼしているのかを理解する。ヨーロッパ史における主要なテーマの考察を通して「現在の歴史性」を認識し、現代の諸問題の歴史的背景を考察する素地をやしなう。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義は要点を記したレジュメにそってすすめる。重要な箇所には()が付されており、受講者は術語や重要事項を書き込むことで知識を身につけることができる。また各講義の終了時に、出席カードにコメント・質問を書いて提出すること。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

西洋史(古代～中世)についての基礎知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

「現在の歴史性」を理解し、ものごとを相対的に考えられるようにする。(DP2-1)(技能)

西洋史の知識を基礎として、現在の諸問題を歴史的に考えることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

レジュメの用語の確認(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験100%(問題の歴史的意義が論理的に説明できているかどうかを評価基準とする)。

- - - テキスト - - -

使用しない。プリントを配布する。

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

他の受講者に迷惑をかける行為(私語や電話)をしないこと。

- - - 授業計画 - - -

- 1.ヨーロッパ文化と日本(スタートアップ授業動画配信)
- 2.ギリシア世界のポリス
- 3.ペルシア戦争とギリシア世界
- 4.ヘレニズム文明
- 5.共和政ローマ(イタリア半島の支配)
- 6.地中海の覇者ローマ
- 7.マリウスの軍制改革(ローマ社会の変容)
- 8.パックス・ロマーナとローマの変質
- 9.ローマの四分統治から滅亡へ
- 10.ゲルマン人へのキリスト教の普及
- 11.キリスト教とヨーロッパ
- 12.ヨーロッパ封建制度と農業革命
- 13.中世ヨーロッパにおける聖権と俗権
- 14.十字軍の背景と影響
- 15.宗教改革とヨーロッパ社会
授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/xgyo4pvd7il1jkwxxkv38jl72e0dr9r0>)

山本 達夫

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.西洋史(古代～中世)についての基礎知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.「現在の歴史性」を理解し、ものごとを相対的に考えられるようにする。(DP2-1) (技能)

3.西洋史の知識を基礎として、現在の諸問題を歴史的に考えることができる。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山本 達夫

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・5 時限 試験時間割：2024/07/30 4 時限

- - - 概要 - - -

私たちは他との比較をとおして自分自身を客観的に認識する。この講義では、ヨーロッパの歴史を比較対象の事例として、現在に生きる私たちの立ち位置を確認してみたい。古代から中世にいたるヨーロッパ史を概観し、異なる文化・思想の背景にどのような歴史的経緯があり、それが現代に及ぼす影響をおよぼしているのかを理解する。ヨーロッパ史における主要なテーマの考察を通して「現在の歴史性」を認識し、現代の諸問題の歴史的背景を考察する素地をやしなう。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義は要点を記したレジュメにそってすすめる。重要な箇所には()が付されており、受講者は術語や重要事項を書き込むことで知識を身につけることができる。また各講義の終了時に、出席カードにコメント・質問を書いて提出すること。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

西洋史(古代～中世)についての基礎知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

「現在の歴史性」を理解し、ものごとを相対的に考えられるようにする。(DP2-1)(技能)

西洋史の知識を基礎として、現在の諸問題を歴史的に考えることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

レジュメの用語の確認(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験100%(問題の歴史的意義が論理的に説明できているかどうかを評価基準とする)。

- - - テキスト - - -

使用しない。プリントを配布する。

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

他の受講者に迷惑をかける行為(私語や電話)をしないこと。

- - - 授業計画 - - -

- 1.ヨーロッパ文化と日本(スタートアップ授業動画配信)
- 2.ギリシア世界のポリス
- 3.ペルシア戦争とギリシア世界
- 4.ヘレニズム文明
- 5.共和政ローマ(イタリア半島の支配)
- 6.地中海の覇者ローマ
- 7.マリウスの軍制改革(ローマ社会の変容)
- 8.パックス・ロマーナとローマの変質
- 9.ローマの四分統治から滅亡へ
- 10.ゲルマン人へのキリスト教の普及
- 11.キリスト教とヨーロッパ
- 12.ヨーロッパ封建制度と農業革命
- 13.中世ヨーロッパにおける聖権と俗権
- 14.十字軍の背景と影響
- 15.宗教改革とヨーロッパ社会
授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/cyefkxldguihfs9ix5yblg82o8ners0z>)

山本 達夫

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.西洋史(古代～中世)についての基礎知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.「現在の歴史性」を理解し、ものごとを相対的に考えられるようにする。(DP2-1) (技能)

3.西洋史の知識を基礎として、現在の諸問題を歴史的に考えることができる。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

渡邊 裕一

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、いまだ記憶に新しい。2020年から数年間にわたる新型コロナウイルス感染症の流行と社会の混乱については、皆さん自身がリアルタイムで体験し、人間の無力を思い知らされた人も多いのではないのでしょうか。しかし、人類が未知の感染症や疫病に直面したのは、新型コロナウイルス感染症が最初ではありません。疫病の歴史を知ること、新型コロナウイルス以後の社会について皆さんとともに考えてみたいと思います。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、少人数のゼミ形式で実施します。グループワークや受講生同士のディスカッションも取り入れて実施しますので、受講生の積極的な参加を期待します。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

疫病の歴史に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

歴史学の基礎を踏まえて、感染症および疫病の歴史を考察することができる。(DP2-1)(技能)

歴史上の疫病に直面した社会や人々の考え方や価値観を理解したうえで、現代社会の問題点を歴史的な視点から考えることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

グループワーク等での活動や発言の機会、自分の考えや意見を責任をもって表現することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

グループで課題を設定し、異なる意見をもつ他者とも協力して、課題の解決に取り組むことができる。(DP4-2)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業中に紹介する図書や文献、映像資料を参考に、主体的・積極的な学習を進め、理解を深める努力をしてください。予備知識は必要ありませんが、グループ発表前には、グループ単位での予習・発表準備が必要になります。(120分)

授業後は各自で内容の復習を行い、不明な点は次回の授業で質問するようにしてください。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

上記の「到達目標」で示した三つの具体的な目標について、授業への貢献度等の平常点(60%)および発表(40%)により、その到達度を総合的に評価します。平常点については、主体的な取り組みができたか否かが重要な評価基準となります。発表では、自ら問いを立て、適切な文献や映像資料を参考にし、その問いに対する独自の見解を導き出し、それを論理的・客観的な言葉で説得的にプレゼンできるかどうかを評価の重要な基準とします。

このクラスは定期試験中には試験は実施しません。再試験も実施しませんので、ご注意ください。

--- テキスト ---

特になし。必要に応じて資料を配布します。

--- 参考書 ---

渡邊裕一「災難の後に ペストが流行れば金貸しが儲かる？」福岡大学人文学部歴史学科編『18歳からの歴史学入門』(彩流社、2019年) ISBN 9784779125546
 甚野尚志編『疫病・終末・再生: 中近世キリスト教世界に学ぶ』(知泉書館、2021年) ISBN 486285348X
 永島剛ほか編『公衆衛生と感染症を歴史的に考える』(山川出版社、2023年) ISBN 978-4634445222
 その他の文献は、授業中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

特別な予備知識は必要ありませんが、主体的・積極的に授業に参加してください。無断欠席はやめてください。第1回目の授業で、その他の注意点について述べます。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
 2. 感染症とは?
 3. 新型コロナウイルス感染症について
 4. 疫病の歴史を考える
 5. 具体例 ペスト
 6. 具体例 ペスト
 7. 具体例 ペスト
 8. 課題の設定
 9. 文献調査
 10. 文献調査
 11. 文献調査
 12. 発表
 13. 発表
 14. 発表
 15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施
- * 受講者の希望や授業の進度に応じて変更の可能性があり
 ます

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/7fi191tzse5t7gf4zg6gzg5g7qz77p10>

渡邊 裕一

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.疫病の歴史に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.歴史学の基礎を踏まえて、感染症および疫病の歴史を考察することができる。(DP2-1) (技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.歴史上の疫病に直面した社会や人々の考え方や価値観を理解したうえで、現代社会の問題点を歴史的な視点から考えることができる。(DP2-2) (態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

4.グループワーク等での活動や発言の機会で、自分の考えや意見を責任をもって表現することができる。(DP3-1) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方や価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

5.グループで課題を設定し、異なる意見をもつ他者とも協力して、課題の解決に取り組むことができる。(DP4-2) (技能)

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

渡邊 裕一

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・1時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

- - - 概要 - - -

中世はいつ終わり、近代はいつ始まったのだろうか？ 本講義では、新大陸の発見やルネサンス、そして宗教改革など、これまで「近代の始まり」と評されてきた歴史的な出来事を、中世後期から近世にいたる一連の流れのなかで捉え直し、ヨーロッパ史の連続性と断絶の両側面について考えてみたいと思います。いわゆる「中世後期の危機」、当時の医療技術と疫病の流行、深まる人々の不安と救済へのあこがれ、ルネサンスの三大発明と大航海時代のはじまり、ルターの登場と社会への影響、政治問題化した宗教改革とその帰結としての30年戦争、小氷期の影響と魔女裁判など多様なトピックを取り上げ、上記の問いへのアプローチを試みます。高校までの「暗記する世界史」ではなく、大学での「考える歴史学」を学んでもらうため、歴史学研究の基本的な考え方（テーマの設定、先行文献の収集と研究動向の把握、歴史叙述の方法とルール、史料批判 etc.）についても折に触れて取り上げる予定です。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成したレジュメ資料をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容を確認するために Moodle を用いた課題に取り組んでいただきます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

歴史学、とくに西洋史に関する基礎的な知識を理解し、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会とは異なる中・近世ヨーロッパ世界の特徴を理解し、それを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

中近世ヨーロッパ史に関する正確な理解に基づいて、現代社会の特徴を考察することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業中に紹介する図書や文献、映像資料を参考にし、主体的・積極的に学習を進め、理解を深める努力をしてください。予備知識や予習は必要ありませんが、毎回の授業後は、各自で内容の復習を行い、不明な点はMoodleの課題で質問をしてください。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

上記の「到達目標」で示した三つの具体的な目標について、各授業後に提出するコメント・シート(30%)と定期試験(70%)により、その到達度を総合的に評価します。コメント・シートでは、授業中に掲示する問いに対して自身の見解や疑問点を自分の言葉でしっかりと記述できているかどうかを評価の基準とします。定期試験では、授業内容をよく理解したうえで、重要なキーワードから独自の問いを立て、その問いに対する自分の見解を論理的・客観的な言葉で説得的に説明できるかどうかを評価の重要な基準とします。

- - - テキスト - - -

特になし。授業中に適宜レジュメを配布します。

- - - 参考書 - - -

甚野尚志 / 踊共二編 『中近世ヨーロッパの宗教と政治 キリスト教世界の統一性と多元性』(ミネルヴァ書房、2014年) ISBN 9784623069453
 R・W・スクリプナー / C・スコット・ディクスン(森田安一訳) 『ドイツ宗教改革』(岩波書店、2009年) ISBN 9784000272032
 踊共二編 『記憶と忘却のドイツ宗教改革』(ミネルヴァ書房、2017年) ISBN 978-4623081332
 その他の文献は授業中に紹介します。

- - - 履修上の留意点 - - -

第一回目の授業で注意点を述べます。他の履修者の迷惑になるので、私語や電話はやめてください。欠席・遅刻に注意し、各講義のあとは復習を忘れないようにしてください。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
2. 前提としての中世ヨーロッパ世界
3. 黒死病のインパクト
4. 中世後期から近世へ 見取り図
5. ルネサンスの三大発明？
6. 宗教改革の神話と実像
7. マルティン・ルター再考
8. 農民戦争の再評価
9. 忘れられた宗教改革
10. 宗派化の時代とカトリックの動向
11. 宗教改革500周年
12. 魔女裁判(1)
13. 魔女裁判(2)
14. 魔女裁判(3)
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施
 受講人数や進度に応じて変更の可能性があります

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/aa6e9c7575qz3x8guwrmr0fkqkstjhlz>

渡邊 裕一

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.歴史学、とくに西洋史に関する基礎的な知識を理解し、それを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.現代社会とは異なる中・近世ヨーロッパ世界の特徴を理解し、それを説明することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.中近世ヨーロッパ史に関する正確な理解に基づいて、現代社会の特徴を考察することができる。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

渡邊 裕一

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・5 時限 試験時間割：2025/01/23 4 時限

- - - 概要 - - -

中世はいつ終わり、近代はいつ始まったのだろうか？ 本講義では、新大陸の発見やルネサンス、そして宗教改革など、これまで「近代の始まり」と評されてきた歴史的な出来事を、中世後期から近世にいたる一連の流れのなかで捉え直し、ヨーロッパ史の連続性と断絶の両側面について考えてみたいと思います。いわゆる「中世後期の危機」、当時の医療技術と疫病の流行、深まる人々の不安と救済へのあこがれ、ルネサンスの三大発明と大航海時代のはじまり、ルターの登場と社会への影響、政治問題化した宗教改革とその帰結としての30年戦争、小氷期の影響と魔女裁判など多様なトピックを取り上げ、上記の問いへのアプローチを試みます。高校までの「暗記する世界史」ではなく、大学での「考える歴史学」を学んでもらうため、歴史学研究の基本的な考え方（テーマの設定、先行文献の収集と研究動向の把握、歴史叙述の方法とルール、史料批判 etc.）についても折に触れて取り上げる予定です。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成したレジュメ資料をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容を確認するために Moodle を用いた課題に取り組んでいただきます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

歴史学、とくに西洋史に関する基礎的な知識を理解し、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会とは異なる中・近世ヨーロッパ世界の特徴を理解し、それを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

中近世ヨーロッパ史に関する正確な理解に基づいて、現代社会の特徴を考察することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業中に紹介する図書や文献、映像資料を参考にし、主体的・積極的に学習を進め、理解を深める努力をしてください。予備知識や予習は必要ありませんが、毎回の授業後は、各自で内容の復習を行い、不明な点はMoodleの課題で質問をしてください。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

上記の「到達目標」で示した三つの具体的な目標について、各授業後に提出するコメント・シート(30%)と定期試験(70%)により、その到達度を総合的に評価します。コメント・シートでは、授業中に掲示する問いに対して自身の見解や疑問点を自分の言葉でしっかりと記述できているかどうかを評価の基準とします。定期試験では、授業内容をよく理解したうえで、重要なキーワードから独自の問いを立て、その問いに対する自分の見解を論理的・客観的な言葉で説得的に説明できるかどうかを評価の重要な基準とします。

- - - テキスト - - -

特になし。授業中に適宜レジュメを配布します。

- - - 参考書 - - -

甚野尚志 / 踊共二編 『中近世ヨーロッパの宗教と政治 キリスト教世界の統一性と多元性』(ミネルヴァ書房、2014年) ISBN 9784623069453
 R・W・スクリプナー / C・スコット・ディクスン(森田安一訳) 『ドイツ宗教改革』(岩波書店、2009年) ISBN 9784000272032
 踊共二編 『記憶と忘却のドイツ宗教改革』(ミネルヴァ書房、2017年) ISBN 978-4623081332
 その他の文献は授業中に紹介します。

- - - 履修上の留意点 - - -

第一回目の授業で注意点を述べます。他の履修者の迷惑になるので、私語や電話はやめてください。欠席・遅刻に注意し、各講義のあとは復習を忘れないようにしてください。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
2. 前提としての中世ヨーロッパ世界
3. 黒死病のインパクト
4. 中世後期から近世へ 見取り図
5. ルネサンスの三大発明?
6. 宗教改革の神話と実像
7. マルティン・ルター再考
8. 農民戦争の再評価
9. 忘れられた宗教改革
10. 宗派化の時代とカトリックの動向
11. 宗教改革500周年
12. 魔女裁判(1)
13. 魔女裁判(2)
14. 魔女裁判(3)
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施
受講人数や進度に応じて変更の可能性があります

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/2t5hvxxkw9a802x7dsnzo38n4jwo3f8uk>

渡邊 裕一

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 歴史学、とくに西洋史に関する基礎的な知識を理解し、それを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2. 現代社会とは異なる中・近世ヨーロッパ世界の特徴を理解し、それを説明することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3. 中近世ヨーロッパ史に関する正確な理解に基づいて、現代社会の特徴を考察することができる。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

丹後 享

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：木・1時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

- - - 概要 - - -

・本授業科目では、近代前期(近世)から近代後期にかけてのヨーロッパ史の展開を取り扱う。
 ・今日のヨーロッパ世界は、多数の主権国家の集まりである。このようなヨーロッパの枠組が形成されたのは、17～19世紀である。この時代には、絶対王政、ブルジョワ革命、国民国家の形成が展開された。それ以前には、我々がイメージするような国家は存在していない。ヨーロッパは一つの「帝国」と見なされ、皇帝や教皇が国家・民族を超越する普遍的権威として君臨していた。どのような経緯で、中世的世界観が崩れ、近代世界へ変容していったのかを探求するのが、本授業科目の主題である。このことは、我々がしばしば自明のことであると認識しがちである「近代国家」の性格とその限界を見極めるうえで、大いに手掛かりを与えてくれると思われる。

- - - 授業の進行・方法 - - -

・本授業科目は、講義形式(対面授業)で実施する。
 ・本授業科目は、テキストを使用しない。毎回の授業では、「授業レジュメ」の内容・順序に沿って授業を行う。授業内容はレジュメにまとめられているが、必要に応じて、板書もするので、ノートをとるように。
 ・毎回の授業では、授業内容を文章で解説したもの(「授業の概要」)を配付するので、予習・復習など授業外学習に活用するように。なお、「授業レジュメ」と「授業の概要」は、FUポータルで事前に配信する。
 ・学期中に、1回レポート提出を求める。提出締切後、授業中に課題の解説を行う。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

古代から近世にかけてのヨーロッパ史の基礎知識を得ることができるとともに、現代ヨーロッパ世界の政治・社会・文化に関する理解を深めることができる。(DP2-1)(知識・理解)

過去と現在、現在と未来は原因と結果という因果関係で結合しているという、歴史的思考を得ることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

歴史教師を志望する場合、西洋史の基礎知識を得るとともに、それを説明する能力を身に付けることができる。(DP1-1)(知識・理解)

ヨーロッパと日本を比較することによって、日本を相対的に見るといふ視座を構築することができる。(DP2-2)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

教材は、FUポータルで授業の1週間前までに配信するので、事前に熟読しておくこと。(90分)

事後学習として、配信教材や参考文献の該当箇所を読み、復習すること。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

【評価方法】定期試験を実施する。定期試験を70%、平素(レポート課題など)を30%として評価する。

【評価基準】

・試験範囲は授業内容全体である。試験は論述形式である。
 ・近世から近代にかけてのヨーロッパ史の概要をどの程度まで理解しているか、それを第三者(専門知識がない人)に適切に説明できるかが、評価の基準となる。

- - - テキスト - - -

なし

- - - 参考書 - - -

フランス史10講 ISBN 4004310164C0222
 世界各国史12:フランス史 ISBN 4634414201C1322
 ・個別の論点に関する参考文献は、授業中に紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

・毎回の授業では、「授業レジュメ」を必ず用意するように。
 ・本授業科目の前段階を取り扱う「西洋史A」も併せて履修することが望ましい。

- - - 授業計画 - - -

スタートアップ授業(授業方法・評価の仕方・授業概要の説明)

絶対王政の構造(1):ルイ14世の治世

絶対王政の構造(2):近世ヨーロッパの社会

近世ヨーロッパの国際関係

啓蒙の時代

ブルジョワ革命の構造

フランス革命の背景

フランス革命の勃発

フランス革命の展開(1):王政の崩壊

フランス革命の展開(2):恐怖政治

ナポレオンの帝国(1):ナポレオン独裁の成立

ナポレオンの帝国(2):ナポレオンの没落

ウィーン体制下のヨーロッパ

国民国家の形成(1):イタリア・ドイツの統一

国民国家の形成(2):フランス第三共和政の成立 *授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/2yjp2f8axhyrvdx3sgxabb1u8fcrty9le>)

丹後 享

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.古代から近世にかけてのヨーロッパ史の基礎知識を得ることができるとともに、現代ヨーロッパ世界の政治・社会・文化に関する理解を深めることができる。(DP2-1) (知識・理解)

2.過去と現在、現在と未来は原因と結果という因果関係で結合しているという、歴史的思考を得ることができる。(DP2-2) (態度・志向性)

3.歴史教師を志望する場合、西洋史の基礎知識を得るとともに、それを説明する能力を身に付けることができる。(DP1-1) (知識・理解)

4.ヨーロッパと日本を比較することによって、日本を相対的に見るという視座を構築することができる。(DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山本 達夫

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：月・5時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

- - - 概要 - - -

ヨーロッパにおける代表的な被差別者集団として知られるユダヤ人とその迫害の歴史を通して、ヨーロッパおよびドイツの近代を考える。「人種迫害を理解するために、私たちは人種をくわしく知る必要はなく、むしろ迫害をくわしく知る必要がある」（R・ベネディクト）というように、差別は差別される側ではなく、差別する側の社会の問題である。ホロコースト（ユダヤ人大量殺戮）に行き着いたドイツの反ユダヤ主義は、いかなる歴史的経緯の中で成立したのか。近代ヨーロッパの成立過程を概観し、国民国家の形成過程における統合と排除の論理における反ユダヤ主義の問題を検討する。また、ナチのユダヤ人政策の分析を通して「ユダヤ人問題」とは何であったのかを考察する。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義は要点を記したレジюмеにそってすすめる。重要な箇所には（ ）が付されており、受講者は術語や重要事項を書き込むことで知識を身につけることができる。また各講義の終了時に、出席カードにコメント・質問を書いて提出すること。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

西洋史の学習によって「現在の歴史性」を理解する。(DP1-1)(知識・理解)

西洋史の学習によって相対的な見方ができるようにする。(DP2-1)(技能)

西洋史の基礎的な事象を説明できるようにする。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

レジюмеの用語の確認。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験100%（問題の歴史的意義が論理的に説明できているかどうかを評価基準とする）。

- - - テキスト - - -

使用しない。プリントを配布する。

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

他の受講者に迷惑をかける行為（私語や電話）をしないこと。

- - - 授業計画 - - -

- 1.ヨーロッパ社会とユダヤ人（スタートアップ授業動画配信）
 - 2.地理上の発見
 - 3.近代世界システム
 - 4.ヘゲモニー国家1
 - 5.ヘゲモニー国家2
 - 6.工業化の諸問題1
 - 7.工業化の諸問題2
 - 8.近代独仏関係とユダヤ人問題1
 - 9.近代独仏関係とユダヤ人問題2
 - 10.近代独仏関係とユダヤ人問題3
 - 11.東欧ユダヤ人ザメンホフの夢
 - 12.ナチとユダヤ人1（アーリア条項とニュルンベルク法）
 - 13.ナチとユダヤ人2（四カ年計画と第三帝国の経済社会体制）
 - 14.ナチとユダヤ人3（経済の脱ユダヤ化とアーリア化）
 - 15.ナチとユダヤ人4（六月行動とポグロム1938年）
- 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/vu6lljcfsr4a1zndh483lk8jwnlr0ii5>

山本 達夫

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋史の学習によって「現在の歴史性」を理解する。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.西洋史の学習によって相対的な見方ができるようにする。（DP2-1）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.西洋史の基礎的な事象を説明できるようにする。（DP2-2）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

山本 達夫

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：火・3時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

- - - 概要 - - -

ヨーロッパにおける代表的な被差別者集団として知られるユダヤ人とその迫害の歴史を通して、ヨーロッパおよびドイツの近代を考える。「人種迫害を理解するために、私たちは人種をくわしく知る必要はなく、むしろ迫害をくわしく知る必要がある」（R・ベネディクト）というように、差別は差別される側ではなく、差別する側の社会の問題である。ホロコースト（ユダヤ人大量殺戮）に行き着いたドイツの反ユダヤ主義は、いかなる歴史的経緯の中で成立したのか。近代ヨーロッパの成立過程を概観し、国民国家の形成過程における統合と排除の論理における反ユダヤ主義の問題を検討する。また、ナチのユダヤ人政策の分析を通して「ユダヤ人問題」とは何であったのかを考察する。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義は要点を記したレジюмеにそってすすめる。重要な箇所には（ ）が付されており、受講者は術語や重要事項を書き込むことで知識を身につけることができる。また各講義の終了時に、出席カードにコメント・質問を書いて提出すること。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

西洋史の学習によって「現在の歴史性」を理解する。(DP1-1)(知識・理解)

西洋史の学習によって相対的な見方ができるようにする。(DP2-1)(技能)

西洋史の基礎的な事象を説明できるようにする。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

レジюмеの用語の確認。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験100%（問題の歴史的意義が論理的に説明できているかどうかを評価基準とする）。

- - - テキスト - - -

使用しない。プリントを配布する。

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

他の受講者に迷惑をかける行為（私語や電話）をしないこと。

- - - 授業計画 - - -

- 1.ヨーロッパ社会とユダヤ人（スタートアップ授業動画配信）
 - 2.地理上の発見
 - 3.近代世界システム
 - 4.ヘゲモニー国家1
 - 5.ヘゲモニー国家2
 - 6.工業化の諸問題1
 - 7.工業化の諸問題2
 - 8.近代独仏関係とユダヤ人問題1
 - 9.近代独仏関係とユダヤ人問題2
 - 10.近代独仏関係とユダヤ人問題3
 - 11.東欧ユダヤ人ザメンホフの夢
 - 12.ナチとユダヤ人1（アーリア条項とニュルンベルク法）
 - 13.ナチとユダヤ人2（四カ年計画と第三帝国の経済社会体制）
 - 14.ナチとユダヤ人3（経済の脱ユダヤ化とアーリア化）
 - 15.ナチとユダヤ人4（六月行動とポグロム1938年）
- 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/km8noxyzta2u0wvu8fbc7nfc5x50pts>

山本 達夫

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋史の学習によって「現在の歴史性」を理解する。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.西洋史の学習によって相対的な見方ができるようにする。（DP2-1）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.西洋史の基礎的な事象を説明できるようにする。（DP2-2）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

山本 達夫

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：2025/01/23 4時限

- - - 概要 - - -

ヨーロッパにおける代表的な被差別者集団として知られるユダヤ人とその迫害の歴史を通して、ヨーロッパおよびドイツの近代を考える。「人種迫害を理解するために、私たちは人種をくわしく知る必要はなく、むしろ迫害をくわしく知る必要がある」(R・ベネディクト)というように、差別は差別される側ではなく、差別する側の社会の問題である。ホロコースト(ユダヤ人大量殺戮)に行き着いたドイツの反ユダヤ主義は、いかなる歴史的経緯の中で成立したのか。近代ヨーロッパの成立過程を概観し、国民国家の形成過程における統合と排除の論理における反ユダヤ主義の問題を検討する。また、ナチのユダヤ人政策の分析を通して「ユダヤ人問題」とは何であったのかを考察する。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義は要点を記したレジюмеにそってすすめる。重要な箇所には()が付されており、受講者は術語や重要事項を書き込むことで知識を身につけることができる。また各講義の終了時に、出席カードにコメント・質問を書いて提出すること。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

西洋史の基礎的用語を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

西洋史の学習によって「現在の歴史性」を理解する。(DP2-1)(技能)

西洋史の学習によって相対的な見方を身につける。(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

レジюмеの用語の確認。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験100%(問題の歴史的意義が論理的に説明できているかどうかを評価基準とする)。

- - - テキスト - - -

使用しない。プリントを配布する。

- - - 参考書 - - -

授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

他の受講者に迷惑をかける行為(私語や電話)をしないこと。

- - - 授業計画 - - -

- 1.ヨーロッパ社会とユダヤ人(スタートアップ授業動画配信)
- 2.地理上の発見
- 3.近代世界システム
- 4.ヘゲモニー国家1
- 5.ヘゲモニー国家2
- 6.工業化の諸問題1
- 7.工業化の諸問題2
- 8.近代独仏関係とユダヤ人問題1
- 9.近代独仏関係とユダヤ人問題2
- 10.近代独仏関係とユダヤ人問題3
- 11.東欧ユダヤ人ザメンホフの夢
- 12.ナチとユダヤ人1(アーリア条項とニュルンベルク法)
- 13.ナチとユダヤ人2(四カ年計画と第三帝国の経済社会体制)
- 14.ナチとユダヤ人3(経済の脱ユダヤ化とアーリア化)
- 15.ナチとユダヤ人4(六月行動とポグロム1938年)

授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/
 hwtfkgx94sz6up7bnclqjdt53upx2q)

山本 達夫

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.西洋史の基礎的用語を説明できる。(DP1-1) (知識・理解)
- 2.西洋史の学習によって「現在の歴史性」を理解する。(DP2-1) (技能)
- 3.西洋史の学習によって相対的な見方を身につける。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

森 丈夫

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：水・2時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

本授業は演習形式で行います。誰でも知っているように「アメリカ合衆国」という国は、今の日本にとつともなく大きな影響を及ぼしている国です。最大の貿易相手の一つというだけでなく、日本の経済・外交・内政を大きく左右し、文化的規範ともなってきました。

しかし、アメリカとの付き合いは今に始まったことではありません。19世紀半ばのペリーの来航以来、時に近代化の模範として、時に敵国として、時に移民の送り先として、時に・・・と、日本とアメリカは数多くの面で密接な関係を結んできました。現在の日本とアメリカが結んでいる経済・外交・軍事・文化の関係は、こうした歴史発展の中から生まれてきたものといっていいいでしょう。

本ゼミでは、このような日本とアメリカの関係の歴史を学びたいと思います。授業では、まず現在の日本を観察して、どのような形で日本の政治・文化・経済にアメリカが影響を与えているかを考えます。以降、明治から現代までの日米関係史に関する勉強を行います。

授業では、受講生全員が参考文献の読解やビデオ鑑賞を行ない、共通の知識を身に着けた上で意見交換を行います。半期を通じて、およそ全体の7割の授業で、受講者全員に参考文献の読解が求められます。文献は論文や本の一部です。

初回は動画配信によるスタートアップ授業とし、残りの14回は対面とする。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、受講生が予習課題を行なった上で、それをもとにして、授業では教員による説明、グループでの討論・発表を行います。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

日米関係史の基礎的な理解を身につけ、現代の日本社会においてアメリカが持つ意味を説明できるようにする。(DP1-1)(知識・理解)

レポートの作成に関する基礎的な方法と習慣を身につける。(DP4-1)(知識・理解)

異なる時代に生きる人々へ理解を身につけ、説明できるようにする。(DP2-2)(知識・理解)

グループ学習において、議論に加わり、全体の理解を向上できるようにする。(DP4-2)(技能)

日米関係を複数の角度から学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

レポート作成・発表を通じて、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができるようになる。(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

受講生は毎回の授業の準備として、必ず参考文献の読解とミニッツペーパーの作成を行う。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：参考文献を読解する、ないしはビデオを鑑賞するなどし、その内容を理解した上で、意見を形成できたかどうかを評価の基準とする。

評価方法：配点は、ミニッツペーパー(課題のテキストを予習し、指定した問いについて意見を述べる、ビデオを鑑賞し、指定した問いについて意見を述べる)6割、授業中の意見発表4割。定期試験を実施しない科目のため、再試験も実施しません。

- - - テキスト - - -

使用しない。

- - - 参考書 - - -

授業中に指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

・およそ半期全体の7割の授業で、受講者全員に参考文献の読解が義務づけられます。

・ゼミは、学生が主体となって行うので、出席は必須となります。

- - - 授業計画 - - -

1 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)

2 日米関係を理解する

3 日本人にとってのアメリカ

4 在日米軍基地問題

5 戦前の日米関係

6 戦前の日米関係 大衆社会

7 戦前の日米関係 アメリカのイメージ

8 太平洋戦争

9 占領期の日米関係

10 占領期の日米関係

12 占領期の日米関係

13 安保と日米関係 安保条約

14 安保と日米関係 安保闘争

15 戦後の日米関係 アメリカと大衆文化

授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/j39t82bbq1x8dspkncg6vt3lpqo0gv4m>)

森 丈夫

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.日米関係史の基礎的な理解を身につけ、現代の日本社会においてアメリカが持つ意味を説明できるようにする。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.レポートの作成に関する基礎的な方法と習慣を身につける。(DP4-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.異なる時代に生きる人々へ理解を身につけ、説明できるようにする。(DP2-2) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.グループ学習において、議論に加わり、全体の理解を向上できるようにする。(DP4-2) (技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.日米関係を複数の角度から学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができるようにする。(DP2-1) (知識・理解)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

6.レポート作成・発表を通じて、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができるようにする。(DP3-1) (態度・志向性)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

岡野 亜希子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・1時限 試験時間割：2024/08/01 6時限

- - - 概要 - - -

誰もが必ず経験しているというのが「教育」の特徴の一つです。そのような教育を対象にしているという意味で、教育に関する学問は他の学問に比べてなじみやすく身近なものであると言えます。しかしながら、いざ教育を社会問題として考えようとすると、今度は自分の経験が先入観や偏見につながってしまうこともあります。自分の経験を大切にしながらも、それだけではない多面的・客観的な見方で教育に関わる様々な事象をとらえなおすことができるようになるには、どうすればよいでしょうか。この科目では、現在の私たちの教育観に深くかかわっている教育思想を知り、私たちが普段「当たり前」だと感じている子どもや教育に関する事柄をあらためて見直してみます。本授業は講義形式で行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本科目では、毎回テーマを設定し、そのテーマを中心とした話をしながら、みなさんと一緒にそのテーマについて考えていきます。途中で時間をとって小レポートを作成してもらったり、次回までの課題として小レポートを課したりします。必要な資料は、講義内で適宜紹介したり、また印刷したものを配布したりします。

そのほか、講義に関する重要なお知らせはmoodleを通じて行います。スタートアップ授業で説明しますので、必ず登録してください。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

代表的な教育思想や教育論を知る(DP1-1)(知識・理解)

教育思想や教育論があらわれた背景を考えることができるようになる(DP2-1)(知識・理解)

教育思想や教育論が登場した背景をふまえて、子どもや教育をめぐる課題を考えることができるようになる(DP2-2)(知識・理解)

課題作成を通じて、自分の考えを客観的・論理的に表現することができるようになる(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、シラバスを参考にしながら事前に配布された資料を読み、調べておくこと。(60分)

復習として、自分でとったノートやメモ、講義内で示した資料や参考図などを確認しながら課題に取り組むこと。(120分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

上にあげた到達目標が達成されているかどうかを、定期試験を中心に中間テストや小レポートなど用いて総合的に評価します。定期試験や課題の内容は授業内で詳しく説明します。成績評価の割合：定期試験60%、中間テスト20%、小レポート20%

- - - テキスト - - -

特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する

- - - 参考書 - - -

『いま、教室に生きる教育の思想と歴史』 ISBN 978-4-86555-106-8C30

『教育思想史』 ISBN 978-4641123847

そのほかの参考図書は講義内で紹介する

- - - 履修上の留意点 - - -

みなさんが安心して受講できるようにしたいと考えています。そのため、他の人の学習や講義の進行を妨げる行為は厳禁です。また、講義中に課題を出して提出してもらうことがあります。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション：概要、進め方、評価の仕方（スタートアップ授業）
2. 古代ギリシアの教育とその思想
3. 中世の教育とその思想(1)
4. 中世の教育とその思想(2)
5. 近代の教育思想(1)中世から近代へ
6. 近代の教育思想(2)子どもの発見
7. 前半のまとめ
8. 人権概念の登場と子どもの権利
9. 公教育の思想
10. 児童中心主義(1)
11. 学校教育と教授学習理論の発展
12. 児童中心主義(2)
13. 日本への影響
14. 現在の教育課題を考える
15. これまでのまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/xunvrqe17ktvjqdfz4wjfegm7tjssz4n>)

岡野 亜希子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.代表的な教育思想や教育論を知る (DP1-1) (知識・理解)

2.教育思想や教育論があらわれた背景を考慮することができるようになる (DP2-1) (知識・理解)

3.教育思想や教育論が登場した背景をふまえて、子どもや教育をめぐる課題を考慮することができるようになる (DP2-2) (知識・理解)

4.課題作成を通じて、自分の考えを客観的・論理的に表現することができるようになる (DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

岡野 亜希子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・2時限 試験時間割：2024/08/01 6時限

- - - 概要 - - -

誰もが必ず経験しているというのが「教育」の特徴の一つです。そのような教育を対象にしているという意味で、教育に関する学問は他の学問に比べてなじみやすく身近なものであると言えます。しかしながら、いざ教育を社会問題として考えようとすると、今度は自分の経験が先入観や偏見につながってしまうこともあります。自分の経験を大切にしながらも、それだけではない多面的・客観的な見方で教育に関わる様々な事象をとらえなおすことができるようになるには、どうすればよいでしょうか。この科目では、現在の私たちの教育観に深くかかわっている教育思想を知り、私たちが普段「当たり前」だと感じている子どもや教育に関する事柄をあらためて見直してみます。本授業は講義形式で行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本科目では、毎回テーマを設定し、そのテーマを中心とした話をしながら、みなさんと一緒にそのテーマについて考えていきます。途中で時間をとって小レポートを作成してもらったり、次回までの課題として小レポートを課したりします。必要な資料は、講義内で適宜紹介したり、また印刷したものを配布したりします。

そのほか、講義に関する重要なお知らせはmoodleを通じて行います。スタートアップ授業で説明しますので、必ず登録してください。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

代表的な教育思想や教育論を知る(DP1-1)(知識・理解)

教育思想や教育論があらわれた背景を考えることができるようになる(DP2-1)(知識・理解)

教育思想や教育論が登場した背景をふまえて、子どもや教育をめぐる課題を考えることができるようになる(DP2-2)(知識・理解)

課題作成を通じて、自分の考えを客観的・論理的に表現することができるようになる(DP3-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、シラバスを参考にしながら事前に配布された資料を読み、調べておくこと。(60分)

復習として、自分でとったノートやメモ、講義内で示した資料や参考図などを確認しながら課題に取り組むことむ(120分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

上にあげた到達目標が達成されているかどうかを、定期試験を中心に中間テストや小レポートなど用いて総合的に評価します。定期試験や課題の内容は授業内で詳しく説明します。成績評価の割合：定期試験60%、中間テスト20%、小レポート20%

- - - テキスト - - -

特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する

- - - 参考書 - - -

『いま、教室に生きる教育の思想と歴史』 ISBN 978-4-86555-106-8C30
『教育思想史』 ISBN 978-4641123847
そのほかの参考図書は講義内で紹介する

- - - 履修上の留意点 - - -

みなさんが安心して受講できるようにしたいと考えています。そのため、他の人の学習や講義の進行を妨げる行為は厳禁です。また、講義中に課題を出して提出してもらうことがあります。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション：概要、進め方、評価の仕方（スタートアップ授業）
2. 古代ギリシアの教育とその思想
3. 中世の教育とその思想(1)
4. 中世の教育とその思想(2)
5. 近代の教育思想(1)中世から近代へ
6. 近代の教育思想(2)子どもの発見
7. 前半のまとめ
8. 人権概念の登場と子どもの権利
9. 公教育の思想
10. 児童中心主義(1)
11. 学校教育と教授学習理論の発展
12. 児童中心主義(2)
13. 日本への影響
14. 現在の教育課題を考える
15. これまでのまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/bhb3ce9g1i17zx2pv3j084i0wq12cq5>)

岡野 亜希子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.代表的な教育思想や教育論を知る (DP1-1) (知識・理解)

2.教育思想や教育論があらわれた背景を考慮することができるようになる (DP2-1) (知識・理解)

3.教育思想や教育論が登場した背景をふまえて、子どもや教育をめぐる課題を考慮することができるようになる (DP2-2) (知識・理解)

4.課題作成を通じて、自分の考えを客観的・論理的に表現することができるようになる (DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

勝山 吉章

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・5時限 試験時間割：2024/08/01 6時限

- - - 概要 - - -

古代ギリシャ・ローマからの西洋の教育の歴史を振り返りながら、教育のあり方を語っていききたい。古代から教育は、人間理性を尊重し人間性を育むものとして営まれてきた。そのことが人間としてのあり方、生き方を青少年に深く熟考させてきた。理想的な人間とは何か。理想的な生き方とは何か。本来、教育とはそういう人間自身の内面の問いかけに発するものであり、その内面の問いかけに応える場として学びの場（学校）が形成されてきた。アリストテレスは、スクールの語源であるスコレ（閑暇）こそが、自由人の特権であり、学びの場であると説いた。本講義は、西洋の教育を通して人間とは何か、理性や中庸を重んじ人間らしく生きるとは何かを論じていききたい。そして教育のあり方、教師としてのあり方にも洞察していく所存である。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本講義は、講義形式で行う。授業は、テキストを読み進めながら。適度に画像や動画を示しながら立体的に進めていく所存である。受講生はテキストの授業の予定箇所を事前に読み、理解しておくことが求められる。また、各授業毎に、Moodleを使って授業の理解度をはかり、それに応じて授業を進めていく。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

西洋教育史に関する基礎的知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)

西洋教育史を通して広い視野を培い、物事を多角的に見るようになる。(DP2-1)(知識・理解)

西洋教育史を通して異文化、異文脈への理解を深めることが出来る。(DP2-2)(知識・理解)

西洋教育史を通して責任ある発言や態度を身につけることが出来る。(DP3-1)(知識・理解)

西洋教育史を通してさまざまな人々の関係構築に貢献する技能を見につけることが出来る。(DP4-2)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業予定のテキストの内容をよく読んでおくこと。場合によっては、高校の世界史の教科書を見直しておくこと。(90分)

授業内容振り返りながら、要点をノート等に整理しておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

まず何よりも日本国憲法の三原則（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義）を体得しているかを問う。その上で、「知識・理解」としては、西洋の教育の成り立ち、その制度や思想などについて知り、異文化について理解したかどうかを定期試験で評価し、多角的な視野を持ち得たかどうかの「態度・志向性」については授業中に課す課題において評価する。評価の方法は、定期試験の結果、授業中の課題、授業の際の参加状況等で総合的に評価する。その配分（％）は、履修生の受講状況次第なので明記できない。

- - - テキスト - - -

勝山他『いま、教室に生きる教育の思想と歴史』あいり出版 ISBN978-4-86555-106-8 C3037 2000円

- - - 参考書 - - -

勝山他『西洋の教育の歴史を知る』あいり出版 ISBN 9784901903479

- - - 履修上の留意点 - - -

テキストを中心に授業を行う。従って、テキストを持参しない学生の受講は原則、認められない。本講義は、教育原論（教育の原理・過程論）の講義とリンクしているので、両者の講義の受講を勧める。なお担当者は、視覚に障害をもっているため学生諸君の理解をお願いしたい。なお受講中の私語、居眠り、不要な着帽、いわゆる「内職」は認められない。

- - - 授業計画 - - -

1. ガイダンス（スタートアップ授業）
2. 古代ギリシャの教育
3. ソクラテス・プラトン・アリストテレスの教育思想(1)
4. ソクラテス・プラトン・アリストテレスの教育思想(2)
5. 古代ローマの教育
6. 中世僧院の教育
7. 大学と都市国家の誕生
8. ルネッサンスと教育
9. 宗教改革と教育
10. 科学革命と教育
11. コメニウスの教育思想
12. ルソーの教育思想
13. ペスタロッチの教育思想
14. フレーベルの教育思想
15. まとめ（FURIKAなどを含む）

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/zaj57z0sdo7278h5o2d41nppc3fixyjm>)

勝山 吉章

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋教育史に関する基礎的知識を身につける。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】2.西洋教育史を通して広い視野を培い、物事を多角的に見るようになる。
(DP2-1)（知識・理解）DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、
B、C）3.西洋教育史を通して異文化、異文脈への理解を深めることが出来る。
(DP2-2)（知識・理解）DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている
（A、B、C）4.西洋教育史を通して責任ある発言や態度を身につけることが出来る。
(DP3-1)（知識・理解）理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い
視野と柔軟さ】5.西洋教育史を通してさまざまな人々の関係構築に貢献する技能を見につける
ことが出来る。（DP4-2）（技能）DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事
を多角的に見ることができる（A、B、C）
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔
軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、
C）DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発
揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活
用・応用・工夫ができる（A、B）DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長
に貢献することができる（B、C）

江玉 睦美

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・3時限 試験時間割：2024/08/01 6時限

--- 概要 ---

近年、わが国の教育にはさまざまな問題がみられます。すべてのものに誕生から現在に至るまでの歴史があるように、教育もまた、誕生から長い歴史を経て現在に至っています。今日、教育が抱える諸問題はこうした歴史の中で起きているものなのです。そこで本講義では、教育の歴史を辿ることによって、教育の諸問題の背景や構造について考えていくことを目的とします。

--- 授業の進行・方法 ---

講義の内容として、古代から現代までの流れを追い、その中からそれぞれの時代において今日に影響を与えている教育思想や、今日の教育の源流となっている教育思想、今日の教育課題を考える視点となる教育思想を取り上げていきます。本授業では、パワーポイントを活用した講義形式で進めていきます。毎時間、講義資料となるプリントを配布します。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

西洋教育の歴史の流れについて説明することができる(DP1-1)
(知識・理解)

講義で取り上げた代表的な教育の思想について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

今日の教育の諸問題について、歴史的背景から再確認し、自分の考えを述べることができる(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：テキストの指定されたページを読む(60分)

復習：テキストの授業内容にかかわるページを読み、授業内容の理解を深める(60分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関わる質問）に取り組む(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

定期試験 100%

- 1 西洋教育の歴史の流れについて説明することができるか（到達目標1）
- 2 講義で取り上げた代表的な教育の思想について説明することができるか（到達目標2）
- 3 今日の教育の諸問題について、歴史的背景から再確認し、自分の考えを述べるることができるか（到達目標3）

以上の点を評価基準として、定期試験によって評価する。

--- テキスト ---

勝山吉章他著『いま、教室に生きる教育の思想と歴史』あいに出版、2023年

ISBN978-4-86555-106-8C3037 （1800円）

--- 履修上の留意点 ---

毎時間、質問カードを配布します。不適切な受講態度や他の受講者の迷惑になる受講態度に対しては厳しく対応します。

--- 授業計画 ---

第1回 インTRODクシヨン：スタートアップ授業（動画配信）

授業の概要、進め方、到達目標等について教育の本質

第2回 人間における教育の必要性 カントなど

第3回 スパルタ教育とは ギリシャの教育

第4回 近代的教科書の誕生 コメニウス

第5回 「子ども」の発見 ルソー

第6回 環境と教育

第7回 近代教育における学校教育 ペスタロッチー

第8回 生活と教育

第9回 幼児教育の源流 フレーベル

第10回 遊びと教育 フレーベル

第11回 近代学校制度 ヘルバルト

第12回 「子ども中心主義」教育

第13回 経験と教育 デューイ

第14回 学校と教育 イリイチ

第15回 歴史に学ぶこれからの教育
授業アンケートFURIKAの実施

講義の進捗は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性があります。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/iaej3mwt9c44ygolt3hxcel35ww49vg8>)

江玉 睦美

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋教育の歴史の流れについて説明することができる（DP1-1）（知識・理解）

2.講義で取り上げた代表的な教育の思想について説明することができる（DP2-1）（知識・理解）

3.今日の教育の諸問題について、歴史的背景から再確認し、自分の考えを述べることができる（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

江玉 睦美

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・4時限 試験時間割：2024/08/01 6時限

- - - 概要 - - -

近年、わが国の教育にはさまざまな問題がみられます。すべてのものに誕生から現在に至るまでの歴史があるように、教育もまた、誕生から長い歴史を経て現在に至っています。今日、教育が抱える諸問題はこうした歴史の中で起きているものなのです。そこで本講義では、教育の歴史を辿ることによって、教育の諸問題の背景や構造について考えていくことを目的とします。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義の内容として、古代から現代までの流れを追い、その中からそれぞれの時代において今日に影響を与えている教育思想や、今日の教育の源流となっている教育思想、今日の教育課題を考える視点となる教育思想を取り上げていきます。本授業では、パワーポイントを活用した講義形式で進めていきます。毎時間、講義資料となるプリントを配布します。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

西洋教育の歴史の流れについて説明することができるか(DP1-1)(知識・理解)

講義で取り上げた代表的な教育の思想について説明することができるか(DP2-1)(知識・理解)

今日の教育の諸問題について、歴史的背景から再確認し、自分の考えを述べることができるか(DP2-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：テキストの指定されたページを読む(60分)

復習：テキストの授業内容にかかわるページを読み、授業内容の理解を深める(60分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関わる質問）に取り組む(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験 100%

- 1 西洋教育の歴史の流れについて説明することができるか（到達目標1）
- 2 講義で取り上げた代表的な教育の思想について説明することができるか（到達目標2）
- 3 今日の教育の諸問題について、歴史的背景から再確認し、自分の考えを述べることができるか（到達目標3）

以上の点を評価基準として、定期試験によって評価する。

- - - テキスト - - -

勝山吉章他著『いま、教室に生きる教育の思想と歴史』あいに出版、2023年

ISBN978-4-86555-106-8C3037 （1800円）

- - - 履修上の留意点 - - -

毎時間、質問カードを配布します。不適切な受講態度や他の受講者の迷惑になる受講態度に対しては厳しく対応します。

- - - 授業計画 - - -

第1回 イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）

授業の概要、進め方、到達目標等について教育の本質

第2回 人間における教育の必要性 カントなど

第3回 スパルタ教育とは ギリシャの教育

第4回 近代的教科書の誕生 コメニウス

第5回 「子ども」の発見 ルソー

第6回 環境と教育

第7回 近代教育における学校教育 ペスタロッチ

第8回 生活と教育

第9回 幼児教育の源流 フレーベル

第10回 遊びと教育 フレーベル

第11回 近代学校制度 ヘルバルト

第12回 「子ども中心主義」教育

第13回 経験と教育 デューイ

第14回 学校と教育 イリイチ

第15回 歴史に学ぶこれからの教育

授業アンケートFURIKAの実施

授業の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性があります。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/yjq0iucoyihodf0vww3lbheuijxzg1m>)

江玉 睦美

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.西洋教育の歴史の流れについて説明することができるか（DP1-1）（知識・理解）

2.講義で取り上げた代表的な教育の思想について説明することができるか（DP2-1）（知識・理解）

3.今日の教育の諸問題について、歴史的背景から再確認し、自分の考えを述べることができるか（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

深堀 伸一

期別: 前期 単位数: 2 開講年次: 1 授業の種類: 対面授業科目 授業形態: 講義 実務経験: 無し 科目水準: 入門 試験実施: 有り
授業時間割: 前期: 火・二部 2 時間 試験時間割: 2024/07/30 夜 2 限

--- 概要 ---

この講義では教育の歴史を学ぶわけですが、現在現役の中学高校の教員をしている立場から見ても、現在の教育は教育史的にこれまでにない危機の時代といえることができます。その危機は主に教育外存在によってもたらされていますが、その事自体は教育の歴史として特に特別な事態ではありませんでした。むしろ教育は各時代の社会や考え方の変化によって常に大きな影響を与えられてきたと言っていいでしょう。この講義ではまず、教育「業界」のなかの技術的観念の変化ではなく、この社会と教育のせめぎ合う関係に着目しようと思います。

一方、現在の教育を危機的だと言ったのは、教育機関や制度の中にいる者自身が、教育が社会や政治と関わる際にもつべき独自性についての自覚を失っていることにあります。簡単に言えば、教育者自身が教育外の常識で教育を考えるようになったということです。そこには教育が歴史的に変化を遂げながらも、丸山眞男の言うところの「通奏低音」のように保持している「かたち」が、失われつつあることがあります。しかもこの変化は中高の現場以上に、みなさんが学んでいる大学においてこそ顕著です。そしてその象徴とも言えるのがこの「シラバス」です。もし自分の授業を受けた人が全員同じ到達目標に達するとすれば、それは「教育」というより「生産」です。そしてこのことそのものが、現代における教育の教育史的特徴でもありますし、それを理解するにはより大きなスパンでの教育の歴史への理解が必要でしょう。このように本講義が、教育を内側から相対化する授業となるよう心がけていこうと思っています。

--- 授業の進行・方法 ---

スライドと板書を使用した講義形式で行います。途中こちらへの質問があれば受け付けますし、授業活性化のためにもそれが望ましいです。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

1. 西洋教育史の大まかな流れを西洋史と関連付けて理解することができる知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)
2. 「教育」のもつ多様性を時間や空間を超えて理解できるようになるための知見を得る。(DP2-1)(知識・理解)
3. 教育を外から見る教育史でなく、当事者から出発した視点で考えることができるような姿勢を身につける。(DP3-1)(態度・志向性)
4. 「教育制度の歴史」に偏ることなく、教育の当事者である教える者と学ぶ者の関係の変遷を軸として、それらが各時代の社会や制度とどう関わってきたのか、という視点を養うことができる。(DP2-2)(態度・志向性)
5. 教育史の記述を読んで、現代の教育との共通点や差異を抽出できる技能を身につける。(DP1-1)(技能)
6. 教育史の記述を読んで、当事者ごとに異なる利害や背景を読み取る技能を身につける。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

次の授業に関連する時代の背景を確認する。とくに政治や経済について、高校の世界史レベルの確認が望ましい。(90分)

前回の授業で取り扱われたキーワードについての理解を深める。特に現在の教育とどのように関係するかを考える。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価の基準として、以下の二点を達成していることを求める。

1. 講義の内容をふまえて、教育という切り口を通して明らかとなったその時代の社会のあり方や人々の考え方を理解している。
2. 講義の内容をふまえて、教育というテーマを通して浮かび上がる過去と現代の共通点と相違点について理解している。

評価方法

1. 試験は論述形式で行ないます。(90%)
2. 受講姿勢及びリアクションシート(10%)

--- テキスト ---

授業中適宜プリントを配布します。

--- 履修上の留意点 ---

教育史を西洋史全般の流れと関連付けて説明するので、西洋史への基本的な知識や関心をもっていることが望ましい。

--- 授業計画 ---

以下の内容は、進捗状況により変更する可能性があります。

1. インTRODクッション(スタートアップ授業)
2. 教育のステークホルダーと社会
3. 古代1 討論か模倣か~教育の東西論
4. 古代2 口伝と文字~伝えるとは?
5. 中世1 「ヨーロッパ世界」と教育
6. 中世2 大学の成立と発展
7. 近代1 聖俗革命と知のあり方
8. 近代2 教育と啓蒙
9. 近代3 教育・衛生・軍隊~身体の国民化
10. 近代4 民衆世界と学び
11. 現代1 教養主義とファシズム
12. 現代2 教育と南北問題
13. 現代3 教育と市場
14. 現代4 現代社会と教育~多様化の世界にあって
15. まとめ 授業アンケート実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/8zn5fbi6mvngwvva7xmvfjyly1rmeascs>)

深堀 伸一

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 西洋教育史の大まかな流れを西洋史と関連付けて理解することができる知識を身につける。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2 「教育」のもつ多様性を時間や空間を超えて理解できるようになるための知見を得る。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.3 教育を外から見る教育史でなく、当事者から出発した視点で考えることができるような姿勢を身につける。（DP3-1）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.4 「教育制度の歴史」に偏ることなく、教育の当事者である教える者と学ぶ者の関係の変遷を軸として、それらが各時代の社会や制度とどう関わってきたのか、という視点を養うことができる。（DP2-2）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.5 教育史の記述を読んで、現代の教育との共通点や差異を抽出できる技能を身につける。（DP1-1）（技能）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

6.6 教育史の記述を読んで、当事者ごとに異なる利害や背景を読み取る技能を身につける。（DP2-1）（技能）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

光富 省吾

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：水・3時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

- - - 概要 - - -

授業形態：講義型

文学作品に接するとき、作品によって提示された問題点を受け止め、どのように対処して行くのか、自分なりに考えることが大切である。今年度はミュージカル映画を題材に、ミュージカルで提示された問題を考えて行く。

授業：鑑賞のポイントなどの資料を配布する（あるいはスクリーンに提示する）ので、それを参考にしながら、作品を鑑賞する。後で感想をまとめるためにメモを取るのも良い方法。アンドルー・ロイド・ウェバーの作品を中心にヨーロッパのミュージカルを対象とする。

- - - 授業の進行・方法 - - -

あらかじめ教科書と配布した資料を読んでもらいます。授業中に開設を加え、作品の背景とテーマを理解したうえで、作品を鑑賞します。途中で、曲の解説を入れたり、登場人物の心理を説明したりします。最後まで作品を鑑賞したら、問題点などを整理します。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

1. 文学作品に接するとき、作品によって提示された問題点を受け止め、どのように対処して行くのか、自分なりに考えることができるようになる。(DP1-1)(態度・志向性)

2. ミュージカルで歌われる曲はただ単に歌うのではなく、ストーリーの進行や登場人物の心理と密接な関係があるので、歌詞の意味を考えながら、鑑賞できるようになり、広い視野を得て、ものごとを多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

3. ミュージカル映画の鑑賞を通して、批評能力、論理的思考力、洞察力、考えの異なる他者を思いやる力を養成できるようになる。(DP2-2)(知識・理解)

4. ミュージカル作品のさまざまな登場人物の生き方を学ぶことにより、責任ある発言・行動を行う態度・志向性が身につく(DP3-1)(態度・志向性)

5. ミュージカル作品のさまざまな登場人物の生き方を学ぶことにより、さまざまな人々の関係構築に貢献できる技能が身につく。(DP4-2)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：授業で扱われる作品のテーマなどのポイントを教科書を読みながら、印をつけたり、ノートに抜き書きしておく。(90分)

復習：もう一度作品のテーマについて考え、自分なりの意見をメモしたり、感想をまとめておく。ストーリーの展開に従って曲の内容を整理しておく。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

レポート10% (到達目標の1と3)、定期試験90% (到達目標の2と4と5)

- - - テキスト - - -

小山内伸『進化するミュージカル』論創社
2007年、1980円
ISBN 9784846006310

- - - 参考書 - - -

池田雅之『猫たちの舞踏会：エリオットとミュージカル「キャッツ」』角川ソフィア文庫 ISBN 9784044093013

- - - 履修上の留意点 - - -

授業中の居眠り、私語と携帯電話使用は厳禁。

- - - 授業計画 - - -

(1) イントロダクション (スタートアップ授業)

(2) キャッツ 1

(3) キャッツ 2

(4) ジーザス・クライスト・スーパースター 1

(5) ジーザス・クライスト・スーパースター 2

(6) エヴィータ 1

(7) エヴィータ 2

(8) オペラ座の怪人 1

(9) オペラ座の怪人 2

(10) エリザベート 1

(11) エリザベート 2

(12) エリザベート 3

(13) レ・ミゼラブル 1

(14) レ・ミゼラブル 2

(15) レ・ミゼラブル 3 + 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/4pifrbstv59tl444s56x5y7t26sc5iz39>)

光富 省吾

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1. 文学作品に接するとき、作品によって提示された問題点を受け止め、どのように対処して行くのか、自分なりに考えることができるようになる。(DP1-1) (態度・志向性)

2.2. ミュージカルで歌われる曲はただ単に歌うのではなく、ストーリーの進行や登場人物の心理と密接な関係があるので、歌詞の意味を考えながら、鑑賞できるように、広い視野を得て、ものごとを多角的に見ることができるようになる。(DP2-1) (態度・志向性)

3.3. ミュージカル映画の鑑賞を通して、批評能力、論理的思考力、洞察力、考えの異なる他者を思いやる力を養成できるようになる。(DP2-2) (知識・理解)

4.4. ミュージカル作品のさまざまな登場人物の生き方を学ぶことにより、責任ある発言・行動を行う態度・志向性が身につく。(DP3-1) (態度・志向性)

5.5. ミュージカル作品のさまざまな登場人物の生き方を学ぶことにより、さまざまな人々の関係構築に貢献できる技能が身につく。(DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

富重 純子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：月・5 時限 試験時間割：2024/07/27 4 時限

--- 概要 ---

西洋文学は、聖書やギリシア神話がおおよその出発点であるとするれば、二千年以上の時間的広がりをもち、言語も古代の言語から現代ヨーロッパの諸言語にわたります。また、詩、演劇、小説、批評的・哲学的エッセイ等、さまざまなジャンルがあります。これだけ多岐にわたる「文学」でありながら、そこにはさまざまな結びつきがあって、境界を定めることはできないながら、「西洋文学的なもの」がたしかに存在しているのです。そしてふしぎなことに、それは、現在私たちが鑑賞する映画や舞台、音楽に引き継がれています。（「テセウスの船」、『ハウルの動く城』、楽曲名の「罪と罰」、バレエ「くるみ割り人形」・・・）

この授業では、さまざまな作品を紹介しながら、西洋文学の世界を描きだすことを目標とします。これはもちろん、大胆で不可能な目標ですが、この広大な世界に分け入っていきましょう。その際、背景となる歴史や、言語の変遷についても理解を深めます。また、とりあげる作品と結びつきの深い現代の芸術作品、とくに映画に触れていきたいと思えます。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は基本的に講義形式で行いますが、紹介する作品のシノプシス（梗概）や本文の抜粋を日本語で読むほか、原語でも示すので、部分的には講読形式の授業でもあります。数回、授業の内容を確認したり、理解を深めたりするための小課題を出します。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

著名な西洋文学の作家と文学作品について知識を有している。
(DP1-1)(知識・理解)

文学や思想について、自分のことばで知見を述べることができる。
(DP1-1)(技能)

ヨーロッパに関わる世界史の基本的知識を有している。(DP2-1)(知識・理解)

文学や芸術作品を通じて、他者・異文化・異文脈を理解することができる。(DP2-2)(技能)

現代の世界の諸問題についての関心を持ち、積極的に理解しようとする。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：提示された資料を読んでおく。(45分)

復習：授業でわからなかったところを確認し、授業で得られた知見を図書館等で補う。(45分)

ヨーロッパの文学作品を読む。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

平常点（小課題提出、授業での発言）30%

定期試験70%

いずれも、授業でとりあげた作家・作品について、どれだけの知識を有しているか、また自分の頭で理解しているかを問います。

--- テキスト ---

ホフマン『砂男/クレスペル顧問官』大島かおり訳、光文社古典新訳文庫、ISBN：4334752837

--- 参考書 ---

渡辺京二『私の世界文学案内』ちくま学芸文庫、ISBN：4480094334

--- 履修上の留意点 ---

授業で触れた作品について、図書館などで手に取ってみるよう心がけてください。文学、音楽、美術など、広くヨーロッパの芸術に触れてみましょう。

--- 授業計画 ---

1. (スタートアップ授業) 授業の進め方と「西洋文学」について
2. 聖書とギリシア神話
3. ローマ帝国のはなし
4. 中世文学の成立
5. 中世文学の伝播
6. 東欧世界のはなし
- 7-8. ルネサンスと「各国文学」
9. バロック
10. 音楽と美術と建築のはなし
11. 古典主義と「歴史」
12. 啓蒙の時代（カント、ルソー、ゲーテ）
13. 「自然」と「教育」、フランスとドイツ
14. ロマン主義 詩と音楽とバレエのはなし
15. まとめ 授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/rogs02a84msdjt74mxh2hwa58kltl2q5>)

富重 純子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 著名な西洋文学の作家と文学作品について知識を有している。 (DP1-1)
(知識・理解)

A: 知識・理解, B: 技能, C: 態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 文学や思想について、自分のことばで知見を述べるができる。 (DP1-1)
(技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

3. ヨーロッパに関わる世界史の基本的知識を有している。 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

4. 文学や芸術作品を通じて、他者・異文化・異文脈を理解することができる。 (DP2-2) (技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5. 現代の世界の諸問題についての関心を持ち、積極的に理解しようとする。 (DP4-2) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

鈴木 隆美

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：月・2時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

- - - 概要 - - -

古代ギリシャ、ローマから連綿と続く西洋文学の伝統の中で、恋愛は中心的なテーマの一つでありました。しかしながら時代ごとの恋愛のイメージは、古代と現在では天と地ほど違います。本講義では、古代ギリシャ、ローマから、フランス、ドイツなどの文学作品の抜粋を読むことによって、時代ごとの恋愛表象の変遷を見ていきます。その中で、どのように制度としての恋愛（恋愛とはこうあるべき、という時代ごとの規範）が変わっていったのかを見ていきます。前期は中世までを取り扱います。

そうした作業を通じて、西洋文化の中に深く根を下ろした恋愛という文化現象に対する理解を深めると同時に、それがどのように日本に受容されたのか、ということも考えていきます。具体的には、講義の内容と関係するような、現代日本のヒット曲の歌詞を取り上げ、学生の意見、感想を取り上げながら分析していく、ということを行います。

また近年のジェンダー論、クイア研究の視点から、文学作品を読み直す、ということも実践していきます。現代は「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というジェンダー規範がひどく揺らいでいる時代だと言えるでしょう。そのような視点から、過去の文学作品を読み直すことにより、得られる知見は馬鹿にできないものです。本講義は基本的に全てLGBTQの問題に深く関わる内容ともなっています。

そのように様々な文学作品の読解を通じて、文学の魅力、文学の持つ力を少しでも感じてもらえれば、あるいはその小さなきっかけになれば、講義担当者としてはうれしく思います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義は教員による解説ののち、5人から10人程度のグループワークを毎回行います。授業での疑問点をまとめ、グループでの議論ののち、自分で考えた分析をほぼ毎回提出してもらいます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

西洋文学が持つ、文化を規定する力について、基礎的な事柄を理解し、特に恋愛文化に関する歴史の概要を理解している。(DP1-1)(知識・理解)

文学、哲学、クイア論に対する基礎的なビジョンを持つことができる(DP2-1)(技能)

恋愛文化を通じ、日本と西洋の異質性について理解している(DP2-2)(知識・理解)

西洋の恋愛文化に関して、LGBTQの問題を理解しつつ意見を述べることのできる(DP3-1)(態度・志向性)

西洋における恋愛文化に関する知識をもとに、現在の日本の状況に関して、意見を述べる事が出来る。(DP4-2)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、各回に対応する教科書の章をよく読み、分からない部分をまとめておくこと。(90分)

復習として、各回の講義内容をまとめ、分からない部分、疑問に思った部分を自分でまとめておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

期末におこなう定期試験では西洋文学における恋愛表象の基礎知識について問います。また、講義中に複数回提出するミニツッペーパーでは講義のテーマに沿った論述が論理的に展開されているかどうかを評価します。定期試験を5割(到達目標1、2、3、4、5)、ミニツッペーパーを5割(到達目標1、2、3、4、5)として成績評価します。

- - - テキスト - - -

鈴木隆美『恋愛制度、束縛の2500年史ー古代ギリシャから現代日本まで』光文社新書

- - - 履修上の留意点 - - -

男はこうあるべき、女はこうあるべき、という決め付けの中で生きている人には不快な要素があるかもしれません。グループワークが苦手な人には履修をお勧めしません。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 古代ギリシャの恋愛1
3. 古代ギリシャの恋愛2
4. 古代ギリシャの恋愛3
5. 古代ローマの恋愛1
6. 古代ローマの恋愛2
7. 古代ローマの恋愛3
8. まとめ、フォローアップ
9. 中世宮廷恋愛1
10. 中世宮廷恋愛2
11. 中世宮廷恋愛3
12. 中世宮廷恋愛4
13. 中世宮廷恋愛5
14. フォローアップと意見交換
15. まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/xia1vezg5gi35qvd4pznarjz6flw13qy>)

鈴木 隆美

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.西洋文学が持つ、文化を規定する力について、基礎的な事柄を理解し、特に恋愛文化に関する歴史の概要を理解している。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.文学、哲学、クエア論に対する基礎的なビジョンを持つことができる (DP2-1) (技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.恋愛文化を通じ、日本と西洋の異質性について理解している (DP2-2) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.西洋の恋愛文化に関して、LGBTQの問題を理解しつつ意見を述べることができる (DP3-1) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.西洋における恋愛文化に関する知識をもとに、現在の日本の状況に関して、意見を述べる事が出来る。(DP4-2) (技能)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

野田 康文

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・5時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

--- 概要 ---

この科目は、西洋文学を読んでみたい、文学作品をじっくりと読むことの面白さを知りたい、という人のためのものです。半期に分けて、19世紀と20世紀に活躍した2人の作家の作品 前期はカミュの『異邦人』、後期はモーパッサンの『脂肪のかたまり』を扱います。特に通年で履修する必要はありません。前期は20世紀のフランスの作家・カミュの『異邦人』という中編小説を読みます。無動機の殺人というテーマを扱った、カミュの代表作の1つに数えられる作品です。全部を読むことはできないので、大事な場面を中心に、設問付きの配布テキストで読んでいきます。講義では、ただ本文を読むだけでは理解できない、外国文学ならではの時代的・文化的な背景や、作品の一言一句にこめられた思想的な特徴などについても解説しますので、異文化に対する知識と教養を深めることができます。

カミュとモーパッサンは、どちらも日本の近代文学に影響を与えた作家です。作家の死後長い年月を経過した今日でも読み継がれている彼等の文学作品を読み解いていくことは、現代に生きる皆さんにとっても、自分と異なる時代や文化に生きる人々を理解する柔軟な感受性や想像力を身につけるのに役立つでしょう。1つの作品を半年かけてじっくりと深く読んでいくので、文学を読むことの好きな人、興味のある人に向いている科目です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。授業内容の理解度を確認するためにFUポータルを用いた小テストに数回取り組んでもらいます。また、その小テストの講評を通して、理解を深めていきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

20世紀の西洋文学の一端にふれることを通して、異文化に対する知識と教養を深める。(DP1-1)(知識・理解)

外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける。(DP2-1)(態度・志向性)

外国文学の登場人物の思考を学ぶことで、異文化の他者を理解する能力を身につける。(DP2-2)(態度・志向性)

異文化についての理解を深めることで、国の枠にとらわれない社会貢献へと向かう態度を身につける。(DP4-2)(態度・志向性)

上記のことを自分の言葉で説明することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

毎回の授業で配布する設問付きのテキストを、予習・復習にも活用してください。予習としては、次回の講義にスムーズに入っていけるよう、授業の前日に必ず前回のテキストと設問(解答も含めて)を読み返しておくこと。(90分程度)(90分)

復習としては、毎回の授業後、その日の講義の解説とキーワードに基づいて、その回の設問の解答を自分の言葉で作成すること。(90分程度)試験の直前にまとめて行うのは、時間的にも記憶の上からも無理があるので、毎回の授業後に必ず作成すること。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

授業では毎回、読解すべき本文を設問付きで配布します。受講者はまず、設問の答えを考えながら、本文を自分の力で読んでいきます。その後、解説を聞きながら、自分の読みと比べ、キーワードを手がかりに設問の解答を自分の言葉で作成してください。出欠は基本的にはとりませんが、解説の後に、設問の解答や講義での学習内容を小テストの形で提出してもらいますので、それを平常点として扱います。提出した小テストの解答は、受講態度の目安として、講義内容やキーワードが踏まえられているか、設問の問いにきちんと対応した答えとなっているかを評価の基準とします。フィードバックとして小テストを回収後、次回に解答の解説を行います。

評価は基本的には、上記の小テストと定期試験によって行います。試験では、この授業の到達目標である「異文化に対する知識と教養を深める」こと、「外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける」ことができているか、それを授業中に示したキーワードを手がかりとして「自分の言葉で説明する」ことができているかを評価基準として採点しますので、必然的に授業を聴いている人が有利になります。試験時の持ち込みは一切不可。

原則として定期試験80%、平常点20%で評価します。定期試験により到達目標の「知識・理解」、「態度・志向性」、「技能」を、授業中に講義した設問のランダム抽出に解答することで総合的に評価し、平常点では受講態度と特に「技能」を評価します。

--- テキスト ---

毎回、授業の時に、設問付きの本文テキストを配布。

--- 履修上の留意点 ---

他人に迷惑をかける行為、特に授業中に私語をすることをかたく禁じ、受講態度の評価として重視します。

--- 授業計画 ---

第1回：スタートアップ授業：『異邦人』を読む1
シラバスに沿った講義ガイダンス&イントロダクション、
作者紹介、
第2回：『異邦人』を読む2
テキスト1の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第3回：『異邦人』を読む3
テキスト2の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第4回：『異邦人』を読む4
テキスト3の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第5回：『異邦人』を読む5
テキスト4の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第6回：『異邦人』を読む6
テキスト5の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第7回：『異邦人』を読む7
テキスト6の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第8回：『異邦人』を読む8
テキスト7の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第9回：『異邦人』を読む9
テキスト8の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第10回：『異邦人』を読む10
テキスト9の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第11回：『異邦人』を読む11
テキスト10の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第12回：『異邦人』を読む12
テキスト11の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第13回：『異邦人』を読む13
テキスト12の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第14回：『異邦人』を読む14
テキスト13の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、授業
アンケートFURIKAの実施
第15回：『異邦人』を読む15
テキスト14の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、全体
まとめ

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/wk1iqayl6jvz2zin6i1uq1nmjhj8mtcu>)

--- 添付ファイル ---

スタートアップ授業テキスト
(西洋文学A・講義テキスト(2024・スタートアップ).pdf)

野田 康文

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.20世紀の西洋文学の一端にふれることを通して、異文化に対する知識と教養を深める。(DP1-1) (知識・理解)

2.外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける。(DP2-1) (態度・志向性)

3.外国文学の登場人物の思考を学ぶことで、異文化の他者を理解する能力を身につける。(DP2-2) (態度・志向性)

4.異文化についての理解を深めることで、国の枠にとられない社会貢献へと向かう態度を身につける。(DP4-2) (態度・志向性)

5.上記のことを自分の言葉で説明することができる。(DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

林 信蔵

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：水・1 時間 試験時間割：2024/07/27 4 時間

--- 概要 ---

この授業では、19世紀フランスを代表する小説家で、明治の日本の文学にも多くの影響を与えたエミール・ゾラ（1840-1902）の代表的シリーズ小説『ルーゴン＝マッカール叢書』中の『制作』（1886）を読みながら、ゾラの文学作品の面白さを味わうとともに、その中で題材とされる19世紀フランスの文化・芸術の特徴を学ぶことを目的とします。

ゾラの『制作』では、画家のエドゥアール・マネ（1832-1883）やポール・セザンヌ（1839-1906）をモデルとしたと考えられる人物が主人公として登場します。また、彼らと交流関係があったゾラ自身をモデルとしたと考えられる人物も登場します。これらの人物が織りなす人間関係や、背景となる都市文化の発展のありようも考察することで、ゾラの芸術観と同時に、フランスの文化の特徴も理解することを目指します。

--- 授業の進行・方法 ---

具体的な授業の進め方としては、講義形式の授業です。スライドを見ながら授業を進めて行きますが、スライドの中には、問題が用意されています。授業内で皆さんを指名しながら答えを考えてもらうことで授業内容の理解を深めて行きます。授業後、次の授業までに解答する小テストを出します。小テストの内容を復習することで授業内容の理解を促進し、期末テストの対策にしてもらいます。また授業の中で一度1000字程度の小レポートも課します。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

授業で扱う文学作品に関して基礎的な知識を理解し、説明できる。
(DP1-1)(知識・理解)

文学作品を学問的に考察するために必要な方法論を理解し、説明できる。
(DP2-1)(知識・理解)

作品中で描かれる19世紀フランスの文化・社会と現代の日本の文化・社会を比較し、共通点と差異を理解し説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

授業内で指名された場合、自らの意見を責任を持って表現できる。
(DP3-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

参考書・プリントで次回授業内容と関係する内容について予習しておく。
(60分)

授業内容を復習し小テストに解答するとともに、授業内容に関する質問をコメント欄に書きこむ。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

成績の判断基準は下のような割合となります。

- ・定期試験の点数：50%
- ・1000字ほどの小レポート：20%
- ・小テスト：20%
- ・平常点：10%

・到達目標DP1-1に関しては、定期試験と小テストによって授業内容を十分に理解し、正確に説明できているかについて評価します。
・到達目標DP2-1に関しては、定期試験と小テストによって授業内容を十分に理解し、正確に説明できているかについて評価します。
・到達目標DP2-2に関しては、自らの身近な問題と文学作品の内容を学問的に関連づけることを課題とする小レポートによって到達度を評価します。
・到達目標DP3-1に関しては、平常点で到達度を評価します。

--- テキスト ---

特定のテキストは使用しません。
授業内でプリントを配布します。

--- 参考書 ---

『いま、なぜゾラか』 ISBN 4-89434-306-1

--- 履修上の留意点 ---

授業内で講義内容に関して発言を求める機会があります。その際の発言内容によっては平常点を減点する場合があります。そのことを理解した上で授業を履修してください。

--- 授業計画 ---

- 1) イントロダクション：スタート・アップ授業（動画配信）
- 2) ゾラの美術批評
- 3) 『制作』第1章
- 4) 『制作』第2章
- 5) 『制作』第3章
- 6) 『制作』第4章
- 7) 『制作』第5章
- 8) 『制作』第6章
- 9) 『制作』第7章
- 10) 『制作』第8章
- 11) 『制作』第9章
- 12) 『制作』第10章
- 13) 『制作』第11章
- 14) 『制作』第12章
- 15) まとめ・授業アンケートFURIKA

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/nhukmr9jlyjv773jgr6o9jlnapgm53f5>)

林 信蔵

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 授業で扱う文学作品に関して基礎的な知識を理解し、説明できる。 (DP1-1)
(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 文学作品を学問的に考察するために必要な方法論を理解し、説明できる。
(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3. 作品中で描かれる19世紀フランスの文化・社会と現代の日本の文化・社会を比較し、共通点と差異を理解し説明することができる。 (DP2-2) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

4. 授業内で指名された場合、自らの意見を責任を持って表現できる。 (DP3-1)
(態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

林 信蔵

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・1 時間 試験時間割：2024/07/27 4 時間

--- 概要 ---

この授業では、19世紀フランスを代表する小説家で、明治の日本の文学にも多くの影響を与えたエミール・ゾラ（1840-1902）の代表的シリーズ小説『ルーゴン＝マッカール叢書』中の『制作』（1886）を読みながら、ゾラの文学作品の面白さを味わうとともに、その中で題材とされる19世紀フランスの文化・芸術の特徴を学ぶことを目的とします。

ゾラの『制作』では、画家のエドゥアール・マネ（1832-1883）やポール・セザンヌ（1839-1906）をモデルとしたと考えられる人物が主人公として登場します。また、彼らと交流関係があったゾラ自身をモデルとしたと考えられる人物も登場します。これらの人物が織りなす人間関係や、背景となる都市文化の発展のありようも考察することで、ゾラの芸術観と同時に、フランスの文化の特徴も理解することを目指します。

--- 授業の進行・方法 ---

具体的な授業の進め方としては、講義形式の授業です。スライドを見ながら授業を進めて行きますが、スライドの中には、問題が用意されています。授業内で皆さんを指名しながら答えを考えてもらうことで授業内容の理解を深めて行きます。授業後、次の授業までに解答する小テストを出します。小テストの内容を復習することで授業内容の理解を促進し、期末テストの対策にしてもらいます。また授業の中で一度1000字程度の小レポートも課します。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

授業で扱う文学作品に関して基礎的な知識を理解し、説明できる。
(DP1-1)(知識・理解)

文学作品を学問的に考察するために必要な方法論を理解し、説明できる。
(DP2-1)(知識・理解)

作品中で描かれる19世紀フランスの文化・社会と現代の日本の文化・社会を比較し、共通点と差異を理解し説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

授業内で指名された場合、自らの意見を責任を持って表現できる。
(DP3-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

参考書・プリントで次回授業内容と関係する内容について予習しておく。
(60分)

授業内容を復習し小テストに解答するとともに、授業内容に関する質問をコメント欄に書きこむ。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

成績の判断基準は下のような割合となります。

- ・定期試験の点数：50%
- ・1000字ほどの小レポート：20%
- ・小テスト：20%
- ・平常点：10%

・到達目標DP1-1に関しては、定期試験と小テストによって授業内容を十分に理解し、正確に説明できているかについて評価します。
・到達目標DP2-1に関しては、定期試験と小テストによって授業内容を十分に理解し、正確に説明できているかについて評価します。
・到達目標DP2-2に関しては、自らの身近な問題と文学作品の内容を学問的に関連づけることを課題とする小レポートによって到達度を評価します。
・到達目標DP3-1に関しては、平常点で到達度を評価します。

--- テキスト ---

特定のテキストは使用しません。
授業内でプリントを配布します。

--- 参考書 ---

『いま、なぜゾラか』 ISBN 4-89434-306-1

--- 履修上の留意点 ---

授業内で講義内容に関して発言を求める機会があります。その際の発言内容によっては平常点を減点する場合があります。そのことを理解した上で授業を履修してください。

--- 授業計画 ---

- 1) イントロダクション：スタート・アップ授業（動画配信）
- 2) ゾラの美術批評
- 3) 『制作』第1章
- 4) 『制作』第2章
- 5) 『制作』第3章
- 6) 『制作』第4章
- 7) 『制作』第5章
- 8) 『制作』第6章
- 9) 『制作』第7章
- 10) 『制作』第8章
- 11) 『制作』第9章
- 12) 『制作』第10章
- 13) 『制作』第11章
- 14) 『制作』第12章
- 15) まとめ・授業アンケートFURIKA

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/qmnju6zorg2556pxdz1pgrgqbcma8v38>)

林 信蔵

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 授業で扱う文学作品に関して基礎的な知識を理解し、説明できる。 (DP1-1)
(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 文学作品を学問的に考察するために必要な方法論を理解し、説明できる。
(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3. 作品中で描かれる19世紀フランスの文化・社会と現代の日本の文化・社会を比較し、共通点と差異を理解し説明することができる。 (DP2-2) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

4. 授業内で指名された場合、自らの意見を責任を持って表現できる。 (DP3-1)
(態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

鶴田 学

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・2時限 試験時間割：2024/07/27 4時限

概要

ここでは、イギリス文学を代表する劇作家ウィリアム・シェイクスピアの演劇を通じて、イギリス・ルネサンスの文学について学びます。シェイクスピアは実に多才な作家で喜劇、悲劇、歴史劇、ロマンス劇といった様々なジャンルの作品を残していますが、ここでは特に『ロミオとジュリエット』や『ハムレット』などが有名な悲劇と『ヘンリー五世』などの英国史劇、『ジュリアス・シーザー』などのローマ史劇に焦点を当てます。それぞれの劇のあらすじ、登場人物、名台詞に着目して劇の大筋を理解した後に、できるかぎり多くの映像・音声資料を通して、作品を立体的に理解していきます。文学に親しむことと平行して、イギリスの歴史・文化に関するトピックにも言及します。受講生は、中高や大学の教育を通して身につけた文学や歴史の知識を総動員して、世界文学を代表するシェイクスピアの理解と鑑賞に挑みます。

シェイクスピアは、現代の私たちに、どのように関係しているのでしょうか？答は「大いに関係している」と言えます。シェイクスピアは今から400年も昔にイングランドで活躍した劇作家ですが、その影響は英語という言語を通して世界中に波及しています。この講義では英語の歴史的な発展にも簡単に触れて、シェイクスピアが現代の英語にどのような影響を与えたかについても考察します。それと同時に、芸術としてのシェイクスピア演劇が現代の世界にどのような影響力を持っているかについても、シェイクスピアの生地ストラットフォードの上演やロンドンのグローブ座の上演を随時参照しながら見ていきます。

授業の進行・方法

教員によるレクチャー形式で進められ、シェイクスピア研究・上演に関する国内外の最新の情報も盛り込んでいきます。受講生は、毎回の授業の前に授業支援システム上に配布される「あらすじ・登場人物・名台詞」から成るPDFファイルを読んで、それぞれの劇の概要を把握した上で、授業に臨みます。また、テキスト『あらすじで読むシェイクスピア全作品』を読んでシェイクスピア劇の全体像を大まかに把握し、個々の劇の位置付けを理解し、必要に応じてノートを取り、自分でまとめることが求められます。授業では、映像や音声を通して、作品がどのように舞台や映画館で上演されるのかを理解することによって、文字で文学作品を読むことを補完します。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

1. シェイクスピアの悲劇・歴史劇に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)
2. シェイクスピアの悲劇・歴史劇の筋や内容を理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)
3. シェイクスピアの悲劇・歴史劇に現れる近代初期イギリスの文化に関心を持ち、異文化を理解する志向性を伸ばす。(DP2-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：授業で扱う作品のあらすじを教科書で確認し、必要に応じて部分的に日本語訳を読んでくること。(90分)

復習：作品の有名な一節を音読したり、暗唱すること。理解を深めるために作品を読んだり、映像で鑑賞すること。(90分)

成績評価基準および方法

成績評価の80%は、定期試験期間中に実施する筆記試験によります。残り20%は掲示板への書き込みを含む授業参加によります。定期試験では「シェイクスピアの悲劇・歴史劇に関する基礎的な知識」と「筋や内容」を記号式の客観問題と記述を織り交ぜて評価します。それには代表的な悲劇、歴史劇の背景、舞台表象などを押さえていることも含まれます(到達目標1,2)。掲示板への書き込みや意見交換を含む授業参加によって、「異文化を理解する志向性」を評価します(到達目標3)。

テキスト

『あらすじで読むシェイクスピア全作品』
河合祥一郎著 価格 ¥880税込
ISBN 9784396113490

履修上の留意点

講義や試験は原則として日本語で行われますが、シェイクスピアの特徴を正しく理解するために一部に英語を読むことがあります。直接英語力を問うような問題や英文和訳の出題はありませんが、英語という言語や英国文化に興味があることが望ましい。

授業計画

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 『ロミオとジュリエット』のあらすじ
3. 『ロミオとジュリエット』の名台詞と映像作品
4. 『ハムレット』のあらすじ
5. 主人公ハムレットの独白と映像作品
6. 『マクベス』
7. 悲劇のまとめ
8. 『リチャード三世』のあらすじ
9. 『リチャード三世』の名台詞と映像作品
10. 『ヘンリー五世』のあらすじ
11. 『ヘンリー五世』の名台詞と映像作品
12. 英国歴史劇のまとめ
13. 『ジュリアス・シーザー』
14. シェイクスピアの言葉と英語の歴史
15. 全体のまとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/wkid4xj0yw44tjph58zkmt68nhk59zys>)

鶴田 学

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1. シェイクスピアの悲劇・歴史劇に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.2. シェイクスピアの悲劇・歴史劇の筋や内容を理解し、それらを説明することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.3. シェイクスピアの悲劇・歴史劇に現れる近代初期イギリスの文化に関心をもち、異文化を理解する志向性を伸ばす。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

野田 康文

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：火・二部 1 時限 試験時間割：2024/07/30 夜 1 限

--- 概要 ---

この科目は、西洋文学を読んでみたい、文学作品をじっくりと読むことの面白さを知りたい、という人のためのものです。半期に分けて、19世紀と20世紀に活躍した2人の作家の作品 前期はカミュの『異邦人』、後期はモーパッサンの『脂肪のかたまり』 を扱います。特に通年で履修する必要はありません。前期は20世紀のフランスの作家・カミュの『異邦人』という中編小説を読みます。無動機の殺人というテーマを扱った、カミュの代表作の1つに数えられる作品です。全部を読むことはできないので、大事な場面を中心に、設問付きの配布テキストで読んでいきます。講義では、ただ本文を読むだけでは理解できない、外国文学ならではの時代的・文化的な背景や、作品の一言一句にこめられた思想的な特徴などについても解説しますので、異文化に対する知識と教養を深めることができます。

カミュとモーパッサンは、どちらも日本の近代文学に影響を与えた作家です。作家の死後長い年月を経過した今日でも読み継がれている彼等の文学作品を読み解いていくことは、現代に生きる皆さんにとっても、自分と異なる時代や文化に生きる人々を理解する柔軟な感受性や想像力を身につけるのに役立つでしょう。1つの作品を半年かけてじっくりと深く読んでいくので、文学を読むことの好きな人、興味のある人に向いている科目です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。授業内容の理解度を確認するためにFUポータルを用いた小テストに数回取り組んでもらいます。また、その小テストの講評を通して、理解を深めていきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

20世紀の西洋文学の一端にふれることを通して、異文化に対する知識と教養を深める。(DP1-1)(知識・理解)

外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける。(DP2-1)(態度・志向性)

外国文学の登場人物の思考を学ぶことで、異文化の他者を理解する能力を身につける。(DP2-2)(態度・志向性)

異文化についての理解を深めることで、国の枠にとらわれない社会貢献へと向かう態度を身につける。(DP4-2)(態度・志向性)

上記のことを自分の言葉で説明することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

毎回の授業で配布する設問付きのテキストを、予習・復習にも活用してください。予習としては、次回の講義にスムーズに入っていけるよう、授業の前日に必ず前回のテキストと設問(解答も含めて)を読み返しておくこと。(90分程度)(90分)

復習としては、毎回の授業後、その日の講義の解説とキーワードに基づいて、その回の設問の解答を自分の言葉で作成すること。(90分程度)試験の直前にまとめて行うのは、時間的にも記憶の上からも無理があるので、毎回の授業後に必ず作成すること。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

授業では毎回、読解すべき本文を設問付きで配布します。受講者はまず、設問の答えを考えながら、本文を自分の力で読んでいきます。その後、解説を聴きながら、自分の読みと比べ、キーワードを手がかりに設問の解答を自分の言葉で作成してください。出欠は基本的にはとりませんが、解説の後に、設問の解答や講義での学習内容を小テストの形で提出してもらいますので、それを平常点として扱います。提出した小テストの解答は、受講態度の目安として、講義内容やキーワードが踏まえられているか、設問の問いにきちんと対応した答えとなっているかを評価の基準とします。フィードバックとして小テストを回収後、次回に解答の解説を行います。

評価は基本的には、上記の小テストと定期試験によって行います。試験では、この授業の到達目標である「異文化に対する知識と教養を深める」こと、「外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける」ことができているか、それを授業中に示したキーワードを手がかりとして「自分の言葉で説明する」ことができているかを評価基準として採点しますので、必然的に授業を聴いている人が有利になります。試験時の持ち込みは一切不可。

原則として定期試験80%、平常点20%で評価します。定期試験により到達目標の「知識・理解」、「態度・志向性」、「技能」を、授業中に講義した設問のランダム抽出に解答することで総合的に評価し、平常点では受講態度と特に「技能」を評価します。

--- テキスト ---

毎回、授業の時に、設問付きの本文テキストを配布。

--- 履修上の留意点 ---

他人に迷惑をかける行為、特に授業中に私語をすることをかたく禁じ、受講態度の評価として重視します。

--- 授業計画 ---

第1回：スタートアップ授業：『異邦人』を読む1
シラバスに沿った講義ガイダンス&イントロダクション、
作者紹介、
第2回：『異邦人』を読む2
テキスト1の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第3回：『異邦人』を読む3
テキスト2の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第4回：『異邦人』を読む4
テキスト3の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第5回：『異邦人』を読む5
テキスト4の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第6回：『異邦人』を読む6
テキスト5の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第7回：『異邦人』を読む7
テキスト6の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第8回：『異邦人』を読む8
テキスト7の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第9回：『異邦人』を読む9
テキスト8の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第10回：『異邦人』を読む10
テキスト9の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第11回：『異邦人』を読む11
テキスト10の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第12回：『異邦人』を読む12
テキスト11の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第13回：『異邦人』を読む13
テキスト12の黙読及び作品解説、設問解法の手引き
第14回：『異邦人』を読む14
テキスト13の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、授業
アンケートFURIKAの実施
第15回：『異邦人』を読む15
テキスト14の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、全体
まとめ

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/h54may5fu916qzbzch7gjqi9nvavim24s>)

--- 添付ファイル ---

スタートアップ授業テキスト
(西洋文学A・講義テキスト(2024・スタートアップ).pdf)

野田 康文

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.20世紀の西洋文学の一端にふれることを通して、異文化に対する知識と教養を深める。(DP1-1) (知識・理解)

2.外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける。(DP2-1) (態度・志向性)

3.外国文学の登場人物の思考を学ぶことで、異文化の他者を理解する能力を身につける。(DP2-2) (態度・志向性)

4.異文化についての理解を深めることで、国の枠にとられない社会貢献へと向かう態度を身につける。(DP4-2) (態度・志向性)

5.上記のことを自分の言葉で説明することができる。(DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

クロス, ティモシー

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：月・4 時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

Reading literature helps you understand your world.
 Talking about the different meanings of each piece of literature helps you develop your thinking and discussion skills.
 You will be developing your own opinion as you practice agreeing and disagreeing, partially agreeing, and partially disagreeing.

You will be given a short test at the beginning of every class, so you can show that you have successfully completed the homework and understood the basic themes of each story.

You will study how to read and discuss short stories.
 You will take part in discussion activities.
 By the end of the course, you will be able to agree and disagree with other students as you about the main themes of a short story.

We will talk about the way Japan is imagined in the Speculative Japan stories. As we imagine the future possibilities of Japan, we will think about Japan now.

Group activities will include:
 Participating in discussions
 Helping other students when they do not understand
 Asking questions when you do not understand
 Working together to score the individual presentation of other students

Individual activities will include:
 Preparing a powerpoint set of discussion questions
 Making a brief presentation about some aspect of Japanese life that is thematically connected to the weekly reading

Although the class is taught in English, some students might mix Japanese and English at the beginning of the course. As the course goes on, hopefully more English will be spoken. It is also possible that exchange students will take this course. Fukuoka University students and exchange students should help each other.

This class will be conducted in lecture and group presentation formats.

- - - 授業の進行・方法 - - -

You will read the short stories.
 You will prepare Powerpoint presentations about the backgrounds of the stories (historical, cultural, literary, scientific) and make discussion questions.
 You will learn how to lead group discussions about the stories.
 You will connect the stories to other media that deal with the same themes.

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

文学に関する基礎的な知識を身につけている。(DP1-1)(知識・理解)

社会やそれを踏まえた自分自身に対する理解を身につけている。(DP2-1)(知識・理解)

他者・異文化・異文脈への理解を身につけている。(DP2-2)(知識・理解)

責任ある発言・行動の基礎となる知識を身につけている。(DP3-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

テキストの範囲を和訳して予習をしておくこと。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

There is no end of term exam (teiki shiken) during the official term examination period. There will also be no reexamination (sai shiken). Each week, the class is the exam.

Students who arrive late, or without their student ID, will be treated as absent. Missing the beginning of each class means not understanding what has happened in the previous week and not understanding the goals for that particular class.

Punctual class attendance, with the reading homework finished before coming to class, and with the textbook ready to actively participate in discussions 70%
 Individual presentation 20%
 Individual role in group 10%

I will not explain the evaluation system in class. You must read it for yourself.

- - - テキスト - - -

Speculative Japan 第二巻
 "The Man Who Watched the Sea" and Other Tales of Japanese Science Fiction and Fantasy

ISBN-13: 978-4-902075-18-2

- - - 参考書 - - -

<http://www.kurodahan.com/mt/j/catalog/j0025cate.html>
<http://www.kurodahan.com>

- - - 履修上の留意点 - - -

Theoretically, this should be fun for you.

- - - 授業計画 - - -

1 Course overview: individual presentations, group evaluation of individual presentations (Score and reasons for that score). (スタートアップ授業)

2安房 直子

"A Gift from the Sea" 海からの贈り物

翻訳：Sheryl A. HOGG

3 円城 塔

"Freud" Freud

翻訳：Kevin STEINBACH

4 大原 まり子

"The Whale that Sang on the Milky Way Network" 銀河ネットワークで歌を歌ったクジラ

翻訳：Nancy H. ROSS

5 小川 一水

"Old Vohl's Planet" 老ヴォールの惑星

翻訳：Jim HUBBERT

6 恩田 陸

"The Big Drawer" 大きな引き出し

翻訳：Nora Stevens HEATH

7 梶尾 真治

"Emanon: A Reminiscence" おもいでエマノン

翻訳：Edward LIPSETT

8 北國 浩二

"Midst the Mist" 霧の中

翻訳：Rossa O'MUIREARTAIGH

9 小林 泰三

"The Man Who Watched the Sea" 海を見る人

翻訳：Anthea MURPHY

10 高樹 のぶ子

"Melk's Golden Acres" メルクの黄金畑

翻訳：Dink TANAKA

11 2009 黒田藩プレス翻訳賞受賞作

谷甲 州

"Q-Cruiser Basilisk" 仮装巡洋艦バシリスク

翻訳：Simon VARNAM

12 中井 紀夫

"Mountaintop Symphony" 山の上の交響楽

翻訳：Terry GALLAGHER

13 堀 晃

"Open Up" 開封

翻訳：Roy BERMAN

14 山尾 悠子

"Perspective" 遠近法

翻訳：Ginny Tapley TAKEMORI

15 Course review + FURIKA

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/75u90in7942645e8ynhaunh16p13r934>)

クロス , ティモシー

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1 DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 文学に関する基礎的な知識を身につけている。 (DP1-1) (知識・理解)

2. 社会やそれを踏まえた自分自身に対する理解を身につけている。 (DP2-1) (知識・理解)

3. 他者・異文化・異文脈への理解を身につけている。 (DP2-2) (知識・理解)

4. 責任ある発言・行動の基礎となる知識を身につけている。 (DP3-1) (知識・理解)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性
理念1 【 学び続けていくための確かな基礎 】

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【 多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ 】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【 自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ 】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【 地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性 】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

光富 省吾

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・3時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

- - - 概要 - - -

- - - テキスト - - -

授業形態：講義型

小山内伸『進化するミュージカル』論創社
2007年、1980円
ISBN 978-4-8460-0631-0

文学作品に接するとき、作品によって提示された問題点を受け止め、どのように対処して行くのか、自分なりに考えることが大切である。今年度はミュージカル映画を題材に、ミュージカルで提示された問題を考えて行く。

- - - 履修上の留意点 - - -

授業：鑑賞のポイントなどの資料を配布する（あるいはスクリーンに提示する）ので、それを参考にしながら、作品を鑑賞する。後で感想をまとめるためにメモを取るのも良い方法。

授業中の私語と携帯電話は厳禁。

1990年代以降のブロードウェイ復興後のアメリカのミュージカル作品を対象とする。

- - - 授業計画 - - -

- - - 授業の進行・方法 - - -

- (1) イントロダクション (スタートアップ授業)
- (2) マンマ・ミーア！ 1
- (3) マンマ・ミーア！ 2 / ライオンキング (概略のみ)
- (4) レント 1
- (5) レント 2
- (6) シカゴ 1
- (7) シカゴ 2
- (8) プロデューサーズ 1
- (9) プロデューサーズ 2
- (10) ヘアスプレー 1
- (11) ヘアスプレー 2
- (12) 美女と野獣 1
- (13) 美女と野獣 2
- (14) ウィキッド (概略のみ) アナと雪の女王 1
- (15) アナと雪の女王 2 + 授業アンケートFURIKAの実施

あらかじめ教科書と配布した資料を読んでもらいます。授業中に開設を加え、作品の背景とテーマを理解したうえで、作品を鑑賞します。途中で、曲の解説を入れたり、登場人物の心理を説明したりします。最後まで作品を鑑賞したら、問題点などを整理します。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

1. 文学作品に接するとき、作品によって提示された問題点を受け止め、どのように対処して行くのか、自分なりに考えることができるようになる。(DP1-1)(態度・志向性)

- - - スタートアップ授業 - - -

2. ミュージカルで歌われる曲はただ単に歌うのではなく、ストーリーの進行や登場人物の心理と密接な関係があるので、歌詞の意味を考えながら、鑑賞できるようになり、広い視野を得て、ものごとを多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/501k9tvrug0brrow7yfmkz3wiyhsgjk>)

3. ミュージカル映画の鑑賞を通して、批評能力、論理的思考力、洞察力、考えの異なる他者を思いやる力を養成できるようになる。(DP2-2)(知識・理解)

4. ミュージカル作品のさまざまな登場人物の生き方を学ぶことにより、責任ある発言・行動を行う態度・志向性が身につく(DP3-1)(態度・志向性)

5. ミュージカル作品のさまざまな登場人物の生き方を学ぶことにより、さまざまな人々の関係構築に貢献できる技能が身につく。(DP4-2)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：授業で扱われる作品のテーマなどのポイントを教科書を読みながら、印をつけたり、ノートに抜き書きしておく。(90分)

復習：もう一度作品のテーマについて考え、自分なりの意見をメモしたり、感想をまとめておく。ストーリーの展開に従って曲の内容を整理しておく。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

レポート10% (到達目標の1と3)、定期試験90% (到達目標の2と4と5)

光富 省吾

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1. 文学作品に接するとき、作品によって提示された問題点を受け止め、どのように対処して行くのか、自分なりに考えることができるようになる。(DP1-1) (態度・志向性)

2.2. ミュージカルで歌われる曲はただ単に歌うのではなく、ストーリーの進行や登場人物の心理と密接な関係があるので、歌詞の意味を考えながら、鑑賞できるように、広い視野を得て、ものごとを多角的に見ることができるようになる。(DP2-1) (態度・志向性)

3.3. ミュージカル映画の鑑賞を通して、批評能力、論理的思考力、洞察力、考えの異なる他者を思いやる力を養成できるようになる。(DP2-2) (知識・理解)

4.4. ミュージカル作品のさまざまな登場人物の生き方を学ぶことにより、責任ある発言・行動を行う態度・志向性が身につく。(DP3-1) (態度・志向性)

5.5. ミュージカル作品のさまざまな登場人物の生き方を学ぶことにより、さまざまな人々の関係構築に貢献できる技能が身につく。(DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

富重 純子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・5 時限 試験時間割：2025/01/21 4 時限

- - - 概要 - - -

西洋文学は、聖書やギリシア神話がおおよその出発点であるとするれば、二千年以上の時間的広がりを持ち、言語も古代の言語から現代ヨーロッパの諸言語にわたります。また、詩、演劇、小説、批評的・哲学的エッセイ等、さまざまなジャンルがあります。これだけ多岐にわたる「文学」でありながら、そこにはさまざまな結びつきがあって、境界を定めることはできないながら、「西洋文学的なもの」がたしかに存在しているのです。そしてふしぎなことに、それは、現在私たちが鑑賞する映画や舞台、音楽などに引き継がれています。（「テセウスの船」、『ハウルの動く城』、楽曲名の「罪と罰」、パレエ「くるみ割り人形」・・・）

この授業では、さまざまな作品を紹介しながら、西洋文学の世界を描きだすことを目標とします。これはもちろん、大胆で不可能な目標ですが、この広大な世界に分け入っていきましょう。ドラマと一人称の文学という二つの系譜をたどりながら、「詩」と「歴史的なもの」の関わりの変化についても考えてみたいと思っています。とりあげる作品と結びつきの深い現代の芸術作品、とくに映画に触れていきたいと思えます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は基本的に講義形式で行いますが、紹介する作品のシノプシス（梗概）や本文の抜粋を日本語で読むほか、原語でも示すので、部分的には講読形式の授業でもあります。数回、授業の内容を確認したり、理解を深めたりするための小課題を出します。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

著名な西洋文学の作家と文学作品について知識を有している。(DP1-1)(知識・理解)

文学や思想について、自分のことばで知見を述べるができる。(DP1-1)(技能)

ヨーロッパに関わる世界史の基本的知識を有している。(DP2-1)(知識・理解)

文学や芸術作品を通じて、他者・異文化・異文脈を理解することができる。(DP2-2)(技能)

現代の世界の諸問題についての関心を持ち、積極的に理解しようとする。(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：提示された資料を読んでおく。(45分)

復習：授業でわからなかったところを確認し、授業で得られた知見を図書館等で補う。(45分)

ヨーロッパの文学作品を読む。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

平常点（小課題提出、授業での発言）30%

定期試験70%

いずれも、授業でとりあげた作家・作品について、どれだけの知識を有しているか、また自分の頭で理解しているかを問います。

- - - テキスト - - -

ブレヒト『アンティゴネ』谷川道子訳、光文社古典新訳文庫、ISBN：4334753159

- - - 参考書 - - -

渡辺京二『私の世界文学案内』ちくま学芸文庫、ISBN：4480094334

- - - 履修上の留意点 - - -

授業で触れた作品について、図書館などで手に取ってみるよう心がけてください。文学、音楽、美術など、広くヨーロッパの芸術に触れてみましょう。

- - - 授業計画 - - -

1. (スタートアップ授業) 授業の進め方と「西洋文学」について
2. ドラマの系譜 悲劇と喜劇
3. シェークスピアとフランス古典劇
4. 啓蒙と市民の劇
5. ブレヒト
6. 「一人称の文学」の系譜 抒情詩
7. ソネットとバラッドのはなし
8. 詩と歴史との関わり(ドイツの場合)
9. 告白文学の系譜
10. 告白文学の反転
11. 手紙、日記考
12. 小説の時代
13. 「これは芸術ですか」のはなし
14. 映画
15. まとめ 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/6kx087oeyrt1pfetiz1a9dvi9r63wp0x>)

富重 純子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 著名な西洋文学の作家と文学作品について知識を有している。 (DP1-1)
(知識・理解)

A: 知識・理解, B: 技能, C: 態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 文学や思想について、自分のことばで知見を述べるができる。 (DP1-1)
(技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

3. ヨーロッパに関わる世界史の基本的知識を有している。 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

4. 文学や芸術作品を通じて、他者・異文化・異文脈を理解することができる。 (DP2-2) (技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5. 現代の世界の諸問題についての関心を持ち、積極的に理解しようとする。 (DP4-2) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

鈴木 隆美

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・2 時限 試験時間割：2025/01/21 4 時限

- - - 概要 - - -

古代ギリシャ、ローマから連続と続く西洋文学の伝統の中で、恋愛は中心的なテーマの一つでありました。しかしながら時代ごとの恋愛のイメージは、古代と現在では天と地ほども違います。本講義では、古代ギリシャ、ローマから、フランス、ドイツ、イギリスなどの文学作品の抜粋を読むことによって、時代ごとの恋愛表象の変遷を見ていきます。その中で、どのように制度としての恋愛(恋愛とはこうあるべき、という時代ごとの規範)が変わっていったのかを見ていきます。後期は主に近代以降のテキストを扱います。

そうした作業を通じて、西洋文化の中に深く根を下ろした恋愛という文化現象に対する理解を深めると同時に、それがどのように日本に受容されたのか、ということも考えていきます。具体的には、講義の内容と関係するような、現代日本のヒット曲の歌詞を取り上げ、学生の意見、感想を取り上げながら分析していく、ということを行います。

また近年のジェンダー論、クイア研究の視点から、文学作品を読み直す、ということも実践していきます。現代は「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というジェンダー規範がひどく揺らいでいる時代だと言えるでしょう。そのような視点から、過去の文学作品を読み直すことにより、得られる知見は馬鹿にできないものです。本講義は基本的に全てLGBTQの問題に深く関わる内容ともなっています。

さらに後期は嫉妬の問題をとりあげていきます。古代ギリシャから現代まで、嫉妬の系譜をたどっていく予定です。

そのように様々な文学作品の読解を通じて、文学の魅力、文学の持つ力を少しでも感じてもらえれば、あるいはその小さなきっかけになれば、講義担当者としてはうれしく思います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義は教員による解説ののち、5人から10人程度のグループワークを毎回行います。授業での疑問点をまとめ、グループでの議論ののち、自分で考えた分析をほぼ毎回提出してもらいます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

西洋文学が持つ、文化を規定する力について、基礎的な事柄を理解し、特に恋愛文化に関する歴史の概要を理解している。(DP1-1)(知識・理解)

西洋文学、西洋哲学、クイア論に対する基礎的なビジョンを持つことができる。(DP2-1)(技能)

恋愛文化を通じ、日本と西洋の異質性について理解している(DP2-2)(知識・理解)

西洋の恋愛文化に関して、LGBTQの問題を理解しつつ意見を述べることができる。(DP3-1)(態度・志向性)

西洋における恋愛文化に関する知識をもとに、現在の日本の状況に関して、意見を述べる事が出来る。(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、各回に対応する部分の教科書の章を読んで、分からない部分をまとめておくこと。(90分)

復習として、各回の授業内容を整理し、よく分からない部分、疑問点をまとめておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

期末におこなう定期試験では西洋文学における恋愛表象の基礎知識について問います。また、講義中に複数回提出するミニツッペーパーでは講義のテーマに沿った論述が論理的に展開されているかどうかを評価します。定期試験を5割、ミニツッペーパーを5割として成績評価します。

- - - テキスト - - -

鈴木隆美 『恋愛制度、束縛の2500年史ー古代ギリシャから現代日本まで』光文社新書

- - - 履修上の留意点 - - -

後期のみも履修可能ですが、その際はテキストをよく読み、対応する内容を理解してから受講してください。

現在のジェンダー規範(男はこうあるべき、女はこうあるべき)から逃れようと思っていない人に対しては、不快な要素があるかもしれません。そのような人には履修をお勧めしません。またグループワークが極端に苦手な人も履修をお勧めしません。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. ロマンティックラブ 1
3. ロマンティックラブ 2
4. ロマンティックラブ 3
5. ロマンティックラブ 4
6. ロマンティックラブ 5
7. まとめとフォローアップ
8. 恋愛と嫉妬 1
9. 恋愛と嫉妬 2
10. 恋愛と嫉妬 3
11. 恋愛と嫉妬 4
12. 恋愛と嫉妬 5
13. 恋愛と嫉妬 6
14. 恋愛と嫉妬 7
15. まとめとフォローアップ、授業アンケート FURIKA の実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/36vc5m3x4vhh7kf5344gmil5z0svh3k7>)

鈴木 隆美

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.西洋文学が持つ、文化を規定する力について、基礎的な事柄を理解し、特に恋愛文化に関する歴史の概要を理解している。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.西洋文学、西洋哲学、クイア論に対する基礎的なビジョンを持つことができる。(DP2-1) (技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.恋愛文化を通じ、日本と西洋の異質性について理解している(DP2-2) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.西洋の恋愛文化に関して、LGBTQの問題を理解しつつ意見を述べるができる。(DP3-1) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.西洋における恋愛文化に関する知識をもとに、現在の日本の状況に関して、意見を述べるができる。(DP4-2) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

野田 康文

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

概要

この科目は、西洋文学を読んでみたい、文学作品をじっくりと読むことの面白さを知りたい、という人のためのものです。半期に分けて、19世紀と20世紀に活躍した2人の作家の作品 前期はカミュの『異邦人』、後期はモーパッサンの『脂肪のかたまり』を扱います。特に通年で履修する必要はありません。

後期は19世紀のフランスの作家・モーパッサンの『脂肪のかたまり』という中編小説を読みます。日本の近代化にも影響を及ぼした普仏戦争を背景に、社会的階級の異なる人間像を描いています。モーパッサンの出世作となった作品です。大事な場面を中心に、設問を考えながら指定のテキストで読んでいきます。講義では、ただ本文を読むだけでは理解できない、外国文学ならではの時代的・文化的な背景や、作品の一言一句にこめられた思想的な特徴などについても解説しますので、異文化に対する知識と教養を深めることができるでしょう。

カミュとモーパッサンは、どちらも日本の近代文学に影響を与えた作家です。作家の死後長い年月を経過した今日でも読み継がれている彼の文学作品を読み解いていくことは、現代に生きる皆さんにとっても、自分と異なる時代や文化に生きる人々を理解する柔軟な感受性や想像力を身につけるのに役立つでしょう。1つの作品を半年かけてじっくりと深く読んでいくので、文学を読むことの好きな人、興味のある人に向いている科目です。

授業の進行・方法

授業は、指定のテキストと教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。授業内容の理解度を確認するためにFUポータルを用いた小テストに数回取り組んでもらいます。また、その小テストの講評を通して、理解を深めていきます。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

19世紀の西洋文学の一端にふれることを通して、異文化に対する知識と教養を深める。(DP1-1)(知識・理解)

外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける。(DP2-1)(態度・志向性)

外国文学の登場人物の思考を学ぶことで、異文化の他者を理解する能力を身につける。(DP2-2)(態度・志向性)

異文化についての理解を深めることで、国の枠にとらわれない社会貢献へと向かう態度を身につける。(DP4-2)(技能)

上記のことを自分の言葉で説明することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

毎回の授業で配布する設問プリントと指定のテキストを、予習・復習にも活用してください。予習としては、次回の講義にスムーズに入っていけるよう、授業の前日に必ず前回のテキストと設問（解答を含めて）を読み返しておくこと。（90分程度）(90分)

復習としては、毎回の授業後、その日の講義の解説とキーワードに基づいて、その日の設問の解答を自分の言葉で作成すること。（90分程度）試験の直前にまとめて行うのは、時間的にも記憶の上からも無理があるので、毎回の授業後に必ず作成すること。（90分）

成績評価基準および方法

授業では毎回、読解すべきテキストの範囲を指示し、設問プリントを配布します。受講者はまず、設問の答えを考えながら、本文を自分の力で読んでいきます。その後、解説を聞きながら、自分の読みと比べ、キーワードを手がかりに設問の解答を自分の言葉で作成してください。出欠は基本的にはとりませんが、解説の後に、設問の解答や講義での学習内容を小テストの形で提出してもらいますので、それを平常点として扱います。提出した小テストの解答は、受講態度の目安として、講義内容やキーワードが踏まえられているか、設問の問いにきちんと対応した答えとなっているかを評価の基準とします。フィードバックとして小テストを回収後、次回に解答の解説を行います。

評価は基本的には、上記の小テストと定期試験によって行います。試験では、この授業の到達目標である「異文化に対する知識と教養を深める」こと、「外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける」ことができているか、それを授業中に示したキーワードを手がかりとして「自分の言葉で説明する」ことができているかを評価基準として採点しますので、必然的に授業を聴いている人が有利になります。試験時の持ち込みは一切不可。

原則として定期試験80%、平常点20%で評価します。定期試験により到達目標の「知識・理解」、「態度・志向性」、「技能」を、授業中に講義した設問のランダム抽出に解答することで総合的に評価し、平常点では受講態度と特に「技能」を評価します。

テキスト

ギー・ド・モーパッサン著、高山鉄男訳『脂肪のかたまり』岩波文庫、2004年発行。（金文堂書店福大店で購入可）

履修上の留意点

小テストにあたって、小テスト開始の時点で遅刻したり、退席したりしていた者は、欠席扱いとし、受講態度の評価の参考とします。

他人に迷惑をかける行為、特に授業中に私語をすることをかたく禁じ、受講態度の評価として重視します。

授業計画

第1回：スタートアップ授業：『脂肪のかたまり』を読む1

シラバスに沿った授業ガイダンス&イントロダクション、作者紹介

第2回：『脂肪のかたまり』を読む2

テキスト1の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第3回：『脂肪のかたまり』を読む3

テキスト2の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第4回：『脂肪のかたまり』を読む4

テキスト3の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第5回：『脂肪のかたまり』を読む5

テキスト4の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第6回：『脂肪のかたまり』を読む6

テキスト5の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第7回：『脂肪のかたまり』を読む7

テキスト6の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第8回：『脂肪のかたまり』を読む8

テキスト7の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第9回：『脂肪のかたまり』を読む9

テキスト8の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第10回：『脂肪のかたまり』を読む10

テキスト9の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第11回：『脂肪のかたまり』を読む11

テキスト10の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第12回：『脂肪のかたまり』を読む12

テキスト11の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第13回：『脂肪のかたまり』を読む13

テキスト12の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第14回：『脂肪のかたまり』を読む14

テキスト13の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、授業アンケートFURIKAの実施

第15回：『脂肪のかたまり』を読む15

テキスト14の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、全体まとめ

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/oo98i4qljt4iuget3k2mswanehry1c1x>)

添付ファイル

スタートアップ授業テキスト

(西洋文学B・講義テキスト・設問 (2024).pdf)

野田 康文

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.19世紀の西洋文学の一端にふれることを通して、異文化に対する知識と教養を深める。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける。（DP2-1）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.外国文学の登場人物の思考を学ぶことで、異文化の他者を理解する能力を身につける。（DP2-2）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.異文化についての理解を深めることで、国の枠にとらわれない社会貢献へと向かう態度を身につける。（DP4-2）（技能）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.上記のことを自分の言葉で説明することができる。（DP3-1）（態度・志向性）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

林 信蔵

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・1時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

--- 概要 ---

この授業では、文学と音楽の要素が融合して成り立っている演劇であるオペラを題材とし、文学と音楽の融合という観点からオペラを鑑賞する面白さを学ぶとともに、ヨーロッパにおいてオペラが占めた文化的な役割も併せて学習します。

まず、オペラの起源や歴史、基本的な成り立ちや構成、詩と音楽の合わせ方、ミュージカルとの共通点や差異などを総論として学びます。その上で、19世紀の後半のフランス・オペラに大きな影響を与えたドイツの作曲家ヴァーグナーの作品、ヴァーグナーの影響を受けたフランス・オペラとしてマスネの《タイス》とドビュッシーの《ペレアスとメリザンド》などを中心に鑑賞していきます。

音楽的特徴（ライト・モチーフ、トリスタン和音、全音階など）の説明も一部しますが、楽譜が読めるなど専門的な知識がなければ授業内容が理解できないというものではありません。

--- 授業の進行・方法 ---

基本的な授業の進め方としては、講義形式の授業で、スライドで内容を解説しつつ、必要に応じて映像資料を鑑賞します。その際、学生を指名して、意見や感想などの発言を求めることがあります。

授業後、ポータルアンケート機能を活用した小テストを行います。さらに、1000字程度の小レポートを一度課します。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

オペラの歴史や成り立ちについての基礎的な知識を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

音楽性・文学性・演出など多面的な要素から成り立つオペラを考察する方法の基礎を理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

オペラが西洋の文化において果たしている役割について理解し、説明できる。(DP2-2)(知識・理解)

授業内で発言を求められた時、自分の見解を責任持って表現できる。(DP3-1)(態度・志向性)

オペラという総合芸術を考察することで、知識やスキルを分野横断的に活用・応用・工夫する技能を身につけることができる。(DP4-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

プリントの内容で次回授業と関係のある部分を予習する。(60分)

授業内容を復習して小テストに解答する。授業内容に関する質問をコメント欄に書きこむ。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

成績の判断基準は下のような割合となります。

- ・定期試験の点数：50%
- ・1000字ほどの小レポート：20%
- ・小テスト：20%
- ・平常点：10%

- ・到達目標DP1-1に関しては、定期試験と小テストによって授業内容を十分に理解し、正確に説明できているかについて評価します。
- ・到達目標DP2-1に関しては、定期試験と小テストによって授業内容を十分に理解し、正確に説明できているかについて評価します。
- ・到達目標DP2-2に関しては、西洋文化とオペラの芸術としての特性を関連づけることを課題とした小レポートによって到達度を評価します。
- ・到達目標DP3-1に関しては、平常点で到達度を評価します。
- ・到達目標DP4-1に関しては、定期試験と小テストによって授業内容を十分に理解し、正確に説明できているかについて評価します。

--- テキスト ---

特定のテキストは使用しません。
授業内でプリントを配布します。

--- 参考書 ---

必要に応じて授業内で提示します。

--- 履修上の留意点 ---

授業内で講義内容に関して発言を求める機会があります。その際の発言内容によっては平常点を減点する可能性があることを理解した上で授業を履修してください。

--- 授業計画 ---

- 1 インTRODククション：スタートアップ授業（動画配信）
- 2 アリアとレチタティーヴォ（《ドン・ジョヴァンニ》）
- 3 番号オペラ（《ドン・ジョヴァンニ》）
- 4 グランド・オペラとオペラ＝コミック（《カルメン》）
- 5 グランド・オペラとオペラ＝コミック（《カルメン》）
- 6 ライト・モチーフとテーマソング（《タンホイザー》）
- 7 ライト・モチーフとテーマソング（《タンホイザー》）
- 8 オペラとバレエ（《サムソンとデリラ》他）
- 9 オペラと政治性（《マイスタージンガー》）
- 10 オペラにおける音楽と文学の融合（《トリスタンとイゾルデ》）
- 11 《タイス》
- 12 《タイス》
- 13 《ペレアスとメリザンド》
- 14 《ペレアスとメリザンド》
- 15 まとめ・授業アンケートFURIKA

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/fl2imjkhk7803j4107s7jwopn6x9vlkck>)

林 信蔵

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.オペラの歴史や成り立ちについての基礎的な知識を理解し、説明できる。
(DP1-1) (知識・理解)

2.音楽性・文学性・演出など多面的な要素から成り立つオペラを考察する方法の基礎を理解し、説明できる。 (DP2-1) (知識・理解)

3.オペラが西洋の文化において果たしている役割について理解し、説明できる。 (DP2-2) (知識・理解)

4.授業内で発言を求められた時、自分の見解を責任持って表現できる。
(DP3-1) (態度・志向性)

5.オペラという総合芸術を考察することで、知識やスキルを分野横断的に活用・応用・工夫する技能を身につけることができる。 (DP4-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

林 信蔵

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：金・1時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

--- 概要 ---

この授業では、文学と音楽の要素が融合して成り立っている演劇であるオペラを題材とし、文学と音楽の融合という観点からオペラを鑑賞する面白さを学ぶとともに、ヨーロッパにおいてオペラが占めた文化的な役割も併せて学習します。

まず、オペラの起源や歴史、基本的な成り立ちや構成、詩と音楽の合わせ方、ミュージカルとの共通点や差異などを総論として学びます。その上で、19世紀の後半のフランス・オペラに大きな影響を与えたドイツの作曲家ヴァーグナーの作品、ヴァーグナーの影響を受けたフランス・オペラとしてマスネの《タイス》とドビュッシーの《ペレアスとメリザンド》などを中心に鑑賞していきます。

音楽的特徴（ライト・モチーフ、トリスタン和音、全音階など）の説明も一部しますが、楽譜が読めるなど専門的な知識がなければ授業内容が理解できないというものではありません。

--- 授業の進行・方法 ---

基本的な授業の進め方としては、講義形式の授業で、スライドで内容を解説しつつ、必要に応じて映像資料を鑑賞します。その際、学生を指名して、意見や感想などの発言を求めることがあります。

授業後、ポータルアンケート機能を活用した小テストを行います。さらに、1000字程度の小レポートを一度課します。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

オペラの歴史や成り立ちについての基礎的な知識を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

音楽性・文学性・演出など多面的な要素から成り立つオペラを考察する方法の基礎を理解し、説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

オペラが西洋の文化において果たしている役割について理解し、説明できる。(DP2-2)(知識・理解)

授業内で発言を求められた時、自分の見解を責任持って表現できる。(DP3-1)(態度・志向性)

オペラという総合芸術を考察することで、知識やスキルを分野横断的に活用・応用・工夫する技能を身につけることができる。(DP4-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

プリントの内容で次回授業と関係のある部分を予習する。(60分)

授業内容を復習して小テストに解答する。授業内容に関する質問をコメント欄に書きこむ。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

成績の判断基準は下のような割合となります。

- ・定期試験の点数：50%
- ・1000字ほどの小レポート：20%
- ・小テスト：20%
- ・平常点：10%

- ・到達目標DP1-1に関しては、定期試験と小テストによって授業内容を十分に理解し、正確に説明できているかについて評価します。
- ・到達目標DP2-1に関しては、定期試験と小テストによって授業内容を十分に理解し、正確に説明できているかについて評価します。
- ・到達目標DP2-2に関しては、西洋文化とオペラの芸術としての特性を関連づけることを課題とした小レポートによって到達度を評価します。
- ・到達目標DP3-1に関しては、平常点で到達度を評価します。
- ・到達目標DP4-1に関しては、定期試験と小テストによって授業内容を十分に理解し、正確に説明できているかについて評価します。

--- テキスト ---

特定のテキストは使用しません。
授業内でプリントを配布します。

--- 参考書 ---

必要に応じて授業内で提示します。

--- 履修上の留意点 ---

授業内で講義内容に関して発言を求める機会があります。その際の発言内容によっては平常点を減点する可能性があることを理解した上で授業を履修してください。

--- 授業計画 ---

- 1 インTRODクッション：スタートアップ授業（動画配信）
- 2 アリアとレチタティーヴォ（《ドン・ジョヴァンニ》）
- 3 番号オペラ（《ドン・ジョヴァンニ》）
- 4 グランド・オペラとオペラ＝コミック（《カルメン》）
- 5 グランド・オペラとオペラ＝コミック（《カルメン》）
- 6 ライト・モチーフとテーマソング（《タンホイザー》）
- 7 ライト・モチーフとテーマソング（《タンホイザー》）
- 8 オペラとバレエ（《サムソンとデリラ》他）
- 9 オペラと政治性（《マイスタージンガー》）
- 10 オペラにおける音楽と文学の融合（《トリスタンとイゾルデ》）
- 11 《タイス》
- 12 《タイス》
- 13 《ペレアスとメリザンド》
- 14 《ペレアスとメリザンド》
- 15 まとめ・授業アンケートFURIKA

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/9ycichysje5tt2uxu2013hmj395lpylp>)

林 信蔵

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.オペラの歴史や成り立ちについての基礎的な知識を理解し、説明できる。
(DP1-1) (知識・理解)

2.音楽性・文学性・演出など多面的な要素から成り立つオペラを考察する方法の基礎を理解し、説明できる。 (DP2-1) (知識・理解)

3.オペラが西洋の文化において果たしている役割について理解し、説明できる。 (DP2-2) (知識・理解)

4.授業内で発言を求められた時、自分の見解を責任持って表現できる。
(DP3-1) (態度・志向性)

5.オペラという総合芸術を考察することで、知識やスキルを分野横断的に活用・応用・工夫する技能を身につけることができる。 (DP4-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

鶴田 学

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：火・2時限 試験時間割：2025/01/21 4時限

概要

ここでは、イギリス文学を代表する劇作家ウィリアム・シェイクスピアの演劇を通じて、イギリス・ルネサンスの文学について学びます。シェイクスピアは実に多才な作家で喜劇、悲劇、歴史劇、ロマンス劇といった様々なジャンルの作品を残していますが、ここでは特に『夏の夜の夢』や『ヴェニスの商人』などが有名な喜劇と『テンペスト』などのロマンス劇に焦点を当てます。それぞれの劇のあらすじ、登場人物、名台詞に着目して劇の大筋を理解した後に、できるかぎり多くの映像・音声資料を通して、作品を立体的に理解していきます。文学に親しむことと平行して、イギリスの歴史・文化に関するトピックにも言及します。受講生は、中や大学の教育を通して身につけた文学や歴史の知識を総動員して、世界文学を代表するシェイクスピアの理解と鑑賞に挑みます。シェイクスピアは、現代の私たちに、どのように関係しているのでしょうか？答は「大いに関係している」と言えます。シェイクスピアは今から400年も昔にイングランドで活躍した劇作家ですが、その影響は英語という言葉を通して世界中に波及しています。この講義では英語の歴史的な発展にも簡単に触れて、シェイクスピアが現代の英語にどのような影響を与えたかについても考察します。それと同時に、芸術としてのシェイクスピア演劇が現代の世界にどのような影響力を持っているかについても、シェイクスピアの生地ストラットフォードの上演やロンドンのグローブ座の上演を随時参照しながら見ていきます。

授業の進行・方法

教員によるレクチャー形式で進められ、シェイクスピア研究・上演に関する国内外の最新の情報も盛り込んでいきます。受講生は、毎回の授業の前に授業支援システム上に配布される「あらすじ・登場人物・名台詞」から成るPDFファイルを読んで、それぞれの劇の概要を把握した上で、授業に臨みます。また、テキスト『あらすじで読むシェイクスピア全作品』を読んでシェイクスピア劇の全体像を大まかに把握し、個々の劇の位置付けを理解し、必要に応じてノートを取り、自分でまとめることが求められます。授業では、映像や音声を通して、作品がどの様に舞台や映画館で上演されるのかを理解することによって、文字で文学作品を読むことを補完します。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

1. シェイクスピアの喜劇・ロマンス劇に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)
2. シェイクスピアの喜劇・ロマンス劇の筋や内容を理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)
3. シェイクスピアの喜劇・ロマンス劇に現れる近代初期イギリスの文化に関心を持ち、異文化を理解する志向性を伸ばす。(DP2-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：授業で扱う作品のあらすじを教科書で確認し、必要に応じて部分的に日本語訳を読んでおくこと。(90分)

復習：作品の有名な一節を音読したり、暗唱すること。理解を深めるために作品を読んだり、映像で鑑賞すること。(90分)

成績評価基準および方法

成績評価の80%は、定期試験期間中に実施する筆記試験によります。残り20%は掲示板への書き込みを含む授業参加によります。定期試験では「シェイクスピアの喜劇・ロマンス劇に関する基礎的な知識」と「筋や内容」を記号式の客観問題と記述を織り交ぜて評価します。それには代表的な喜劇、ロマンス劇の背景、舞台表象などを押さえていることも含まれます(到達目標1,2)。掲示板への書き込みや意見交換を含む授業参加によって、「異文化を理解する志向性」を評価します(到達目標3)。

テキスト

『あらすじで読むシェイクスピア全作品』
河合祥一郎著 価格 ¥880税込
ISBN 9784396113490

履修上の留意点

講義や試験は原則として日本語で行われますが、シェイクスピアの特徴を正しく理解するために一部に英語を読むことがあります。直接英語力を問うような問題や英文和訳の出題はありませんが、英語という言語や英国文化に興味があることが望ましい。

授業計画

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 『間違いの喜劇』
3. 『恋の骨折り損』
4. 『じゃじゃ馬馴らし』
5. 初期の喜劇のまとめ
6. 『夏の夜の夢』
7. 『ヴェニスの商人』
8. 『から騒ぎ』
9. 『お気に召すまま』
10. 『十二夜』
11. 中期の喜劇のまとめ
12. 演劇と詩と英語の歴史
13. 晩年のシェイクスピア
14. 『あらし』
15. 全体のまとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/y6fbrkw5xziyp3xvgl1hslyk0pf0wx7n>)

鶴田 学

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1. シェイクスピアの喜劇・ロマンス劇に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.2. シェイクスピアの喜劇・ロマンス劇の筋や内容を理解し、それらを説明することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.3. シェイクスピアの喜劇・ロマンス劇に現れる近代初期イギリスの文化に関心を持ち、異文化を理解する志向性を伸ばす。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

野田 康文

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：火・二部 1 時限 試験時間割：2025/01/21 夜 1 限

概要

この科目は、西洋文学を読んでみたい、文学作品をじっくりと読むことの面白さを知りたい、という人のためのものです。半期に分けて、19世紀と20世紀に活躍した2人の作家の作品 前期はカミュの『異邦人』、後期はモーパッサンの『脂肪のかたまり』 を扱います。特に通年で履修する必要はありません。

後期は19世紀のフランスの作家・モーパッサンの『脂肪のかたまり』という中編小説を読みます。日本の近代化にも影響を及ぼした普仏戦争を背景に、社会的階級の異なる人間像を描いています。モーパッサンの出世作となった作品です。大事な場面を中心に、設問を考えながら指定のテキストで読んでいきます。講義では、ただ本文を読むだけでは理解できない、外国文学ならではの時代的・文化的な背景や、作品の一言一句にこめられた思想的な特徴などについても解説しますので、異文化に対する知識と教養を深めることができます。

カミュとモーパッサンは、どちらも日本の近代文学に影響を与えた作家です。作家の死後長い年月を經過した今日でも読み継がれている彼等の文学作品を読み解いていくことは、現代に生きる皆さんにとっても、自分と異なる時代や文化に生きる人々を理解する柔軟な感受性や想像力を身につけるのに役立つでしょう。1つの作品を半年かけてじっくりと深く読んでいくので、文学を読むことの好きな人、興味のある人に向いている科目です。

授業の進行・方法

授業は、指定のテキストと教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。授業内容の理解度を確保するためにFUポータルを用いた小テストに数回取り組んでもらいます。また、その小テストの講評を通して、理解を深めていきます。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

19世紀の西洋文学の一端にふれることを通して、異文化に対する知識と教養を深める。(DP1-1)(知識・理解)

外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける。(DP2-1)(態度・志向性)

外国文学の登場人物の思考を学ぶことで、異文化の他者を理解する能力を身につける。(DP2-2)(態度・志向性)

異文化についての理解を深めることで、国の枠にとらわれない社会貢献へと向かう態度を身につける。(DP4-2)(態度・志向性)

上記のことを自分の言葉で説明することができる。(DP3-1)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

毎回の授業で配布する設問プリントと指定のテキストを、予習・復習にも活用してください。予習としては、次回の講義にスムーズに入っていけるよう、授業の前日に必ず前回のテキストと設問(解答を含めて)を読み返しておくこと。(90分程度)(90分)

復習としては、毎回の授業後、その日の講義の解説とキーワードに基づいて、その日の設問の解答を自分の言葉で作成すること。(90分程度)試験の直前にまとめて行うのは、時間的にも記憶の上からも無理があるので、毎回の授業後に必ず作成すること。(90分)

成績評価基準および方法

授業では毎回、読解すべきテキストの範囲を指示し、設問プリントを配布します。受講者はまず、設問の答えを考えながら、本文を自分の力で読んでいきます。その後、解説を聞きながら、自分の読みと比べ、キーワードを手がかりに設問の解答を自分の言葉で作成してください。出欠は基本的にはとりませんが、解説の後に、設問の解答や講義での学習内容を小テストの形で提出してもらいますので、それを平常点として扱います。提出した小テストの解答は、受講態度の目安として、講義内容やキーワードが踏まえられているか、設問の問いにきちんと対応した答えとなっているかを評価の基準とします。フィードバックとして小テストを回収後、次回に解答の解説を行います。

評価は基本的には、上記の小テストと定期試験によって行います。試験では、この授業の到達目標である「異文化に対する知識と教養を深める」こと、「外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける」ことができているか、それを授業中に示したキーワードを手がかりとして「自分の言葉で説明する」ことができているかを評価基準として採点しますので、必然的に授業を聴いている人が有利になります。試験時の持ち込みは一切不可。

原則として定期試験80%、平常点20%で評価します。定期試験により到達目標の「知識・理解」、「態度・志向性」、「技能」を、授業中に講義した設問のランダム抽出に解答することで総合的に評価し、平常点では受講態度と特に「技能」を評価します。

テキスト

ギー・ド・モーパッサン著、高山鉄男訳『脂肪のかたまり』岩波文庫、2004年発行。(金文堂書店福大店で購入可)

履修上の留意点

小テストにあたって、小テスト開始の時点で遅刻したり、退席したりしていた者は、欠席扱いとし、受講態度の評価の参考とします。

他人に迷惑をかける行為、特に授業中に私語をすることをかたく禁じ、受講態度の評価として重視します。

授業計画

第1回：スタートアップ授業：『脂肪のかたまり』を読む1

シラバスに沿った授業ガイダンス&イントロダクション、作者紹介

第2回：『脂肪のかたまり』を読む2

テキスト1の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第3回：『脂肪のかたまり』を読む3

テキスト2の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第4回：『脂肪のかたまり』を読む4

テキスト3の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第5回：『脂肪のかたまり』を読む5

テキスト4の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第6回：『脂肪のかたまり』を読む6

テキスト5の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第7回：『脂肪のかたまり』を読む7

テキスト6の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第8回：『脂肪のかたまり』を読む8

テキスト7の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第9回：『脂肪のかたまり』を読む9

テキスト8の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第10回：『脂肪のかたまり』を読む10

テキスト9の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第11回：『脂肪のかたまり』を読む11

テキスト10の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第12回：『脂肪のかたまり』を読む12

テキスト11の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第13回：『脂肪のかたまり』を読む13

テキスト12の黙読及び作品解説、設問解法の手引き

第14回：『脂肪のかたまり』を読む14

テキスト13の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、授業アンケートFURIKAの実施

第15回：『脂肪のかたまり』を読む15

テキスト14の黙読及び作品解説、設問解法の手引き、全体まとめ

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/enxm70gp1w6unselgdtfxai07mvfv6>)

添付ファイル

スタートアップ授業

(西洋文学B・講義テキスト・設問 (2024).pdf)

野田 康文

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.19世紀の西洋文学の一端にふれることを通して、異文化に対する知識と教養を深める。(DP1-1) (知識・理解)

2.外国文学を読み解く感受性や想像力を身につける。(DP2-1) (態度・志向性)

3.外国文学の登場人物の思考を学ぶことで、異文化の他者を理解する能力を身につける。(DP2-2) (態度・志向性)

4.異文化についての理解を深めることで、国の枠にとらわれない社会貢献へと向かう態度を身につける。(DP4-2) (態度・志向性)

5.上記のことを自分の言葉で説明することができる。(DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

クロス, ティモシー

期別: 後期 単位数: 2 開講年次: 1 授業の種類: 対面授業科目 授業形態: 演習 実務経験: 無し 科目水準: 入門 試験実施: 無し
 授業時間割: 後期: 月・4 時限 試験時間割: 定期試験なし

--- 概要 ---

Reading literature helps you understand your world.
 Talking about the different meanings of each piece of literature helps you develop your thinking and discussion skills.
 You will be developing your own opinion as you practice agreeing and disagreeing, partially agreeing, and partially disagreeing.

You will be given a short test at the beginning of every class, so you can show that you have successfully completed the homework and understood the basic themes of each story.

You will study how to read and discuss short stories.
 You will take part in discussion activities.
 By the end of the course, you will be able to agree and disagree with other students as you about the main themes of a short story.

We will talk about the way Japan is imagined in the Speculative Japan stories. As we imagine the future possibilities of Japan, we will think about Japan now.

Group activities will include:
 Participating in discussions
 Helping other students when they do not understand
 Asking questions when you do not understand
 Working together to score the individual presentation of other students

Individual activities will include:
 Preparing a powerpoint set of discussion questions
 Making a brief presentation about some aspect of Japanese life that is thematically connected to the weekly reading

Although the class is taught in English, some students might mix Japanese and English at the beginning of the course. As the course goes on, hopefully more English will be spoken. It is also possible that exchange students will take this course. Fukuoka University students and exchange students should help each other.

This class will be conducted in lecture and group presentation formats.

--- 授業の進行・方法 ---

Reading the short stories in English.
 Preparing Powerpoint presentations about the backgrounds of the stories (historical, cultural, literary, scientific) and making discussion questions.
 Learning how to lead group discussions about the stories.
 Connecting the stories to other media that deal with the same themes.

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

文学に関する基礎的な知識を身につけている。(DP1-1)(知識・理解)

社会やそれを踏まえた自分自身に対する理解を身につけている。(DP2-1)(知識・理解)

他者・異文化・異文脈への理解を身につけている。(DP2-2)(知識・理解)

責任ある発言・行動の基礎となる知識を身につけている。(DP3-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

テキストの範囲を和訳して予習をしておくこと。(180分)

--- 成績評価基準および方法 ---

There is no end of term exam (teiki shiken) during the official term examination period. There will also be no reexamination (sai shiken). Each week, the class is the exam.

Students who arrive late, or without their student ID, will be treated as absent. Missing the beginning of each class means not understanding what has happened in the previous week and not understanding the goals for that particular class.

Punctual class attendance, with the reading homework finished before coming to class, and with the textbook ready to actively participate in discussions 70%
 Individual presentation 20%
 Individual role in group 10%

I will not explain the evaluation system in class. You must read it for yourself.

--- テキスト ---

Speculative Japan 3
 ISBN: 978-4-902075-30-4
<http://www.kurodahan.com/>
<http://www.kurodahan.com/>
 Kurodahan Press Book No. FG-JP0024-L

--- 参考書 ---

For Japanese versions of this collection of short stories, please go to the Speculative Japan 3 webpage and click on the Japanese link for each story. Please buy the Japanese book from amazon.co.jp (Some books are ¥1より).

<http://www.kurodahan.com/mt/e/catalog/jp0024cate.html>
<http://www.kurodahan.com/>

--- 履修上の留意点 ---

It is very important that you attend EVERY class. If you must be absent, please email me before class. It is also very important that you complete the READING HOMEWORK before class.

Remember the main points of every class: what is new for you?
 If you do not understand the direction of the class, ask questions.

When giving your presentation, do not read. You must speak to your audience and make eye contact.

Remember spinach: 報告、連絡、相談。

Being late for class is calculated as an absence.

Forgetting your textbook is calculated as an absence.

Forgetting your student card is calculated as an absence.

You must attend class to pass the course.

注意 Certain levels of misconduct are unacceptable.

tim@fukuoka-u.ac.jp

--- 授業計画 ---

- 1 Course introduction (スタートアップ授業)
- 2 Japanese documentary DVD about some aspect of Japanese life
- 3 朝松 健
"A White Camellia in a Vase" 立華 白椿
翻訳: Joe EARLE
綾辻行人
"Heart of Darkness" 心の闇
翻訳: Daniel JACKSON
- 4 小川 一水
"To the Blue Star" 青い星まで飛んでいけ
翻訳: Edward LIPSETT
- 5 Japanese documentary DVD about some aspect of Japanese life
- 6 恩田 陸
"The Warning" 忠告
翻訳: Mikhail S. IGNATOV
2010年黒田藩プレス翻訳賞受賞作品
- 7 加門七海
"A Piece of Butterfly's Wing" 蝶の断片
翻訳: Angus TURVILL
2011年黒田藩プレス翻訳賞課題作品
- 8 菅 浩江
"Five Sisters" 五人姉妹
翻訳: Ginny Tapley TAKEMORI
- 9 Japanese documentary DVD about some aspect of Japanese life
- 10 高野 史緒
"Lest You Remember" 空忙の鉢
翻訳: Jim HUBBERT
- 11 藤田 雅矢
"Angel French" エンゼルフレンチ
翻訳: Pamela IKEGAMI
- 12 松崎 有理
"The Finish Line" あがり (第1回創元SF短編賞受賞)
翻訳: Nora Stevens HEATH
皆川 博子
- 13 森 奈津子
"It's All Thanks to Saij Hideki" 西城秀樹のおかげです
翻訳: Anthea MURPHY
- 11 山田 正紀
"Silver Bullet" 銀の弾丸
翻訳: Stephen CARTER
- 12 Japanese documentary DVD about some aspect of Japanese life
- 13 Japanese documentary DVD about some aspect of Japanese life
- 14 Discussion as course review: what have you learned this semester? What was important for you?
- 15 Course review: how has your way of reading literature changed? + FURIKA

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/rot8ret4vlylp8m3lqdpueis7mueqf46>

クロス, ティモシー

全学部学科: DP1-1, DP2-1, DP2-2, DP3-1 DP3-2, DP4-1, DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 文学に関する基礎的な知識を身につけている。(DP1-1) (知識・理解)

2. 社会やそれを踏まえた自分自身に対する理解を身につけている。(DP2-1) (知識・理解)

3. 他者・異文化・異文脈への理解を身につけている。(DP2-2) (知識・理解)

4. 責任ある発言・行動の基礎となる知識を身につけている。(DP3-1) (知識・理解)

A: 知識・理解, B: 技能, C: 態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A, B, C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A, B, C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A, B, C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A, B, C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A, C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B, C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A, B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B, C)

林 誓雄

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

この授業では、「論理の力」の基礎を鍛える。「論理の力」とは、最も簡単に言うならば(1)自分の考えを相手にきちんと伝え、そして(2)伝えられたものをきちんと受け取る力のことであり、ひとことで「言葉を自在に扱う力」、「日本語の力」のひとつである。

もちろん、すでにわれわれは「日本語を話す」ことができているわけだから、日本語について(ほぼ完璧に)マスターしている、そう思われるかもしれない。しかしながら、日本語を「話す」ことができるからといって、優秀なレポートや(卒業)論文を「書く」ことができるということにはならない。レポートや論文を書く上では、資料となる本や論文を論理的に読み解き、筆者の議論の論理構造をきちんと把握し、自分なりに咀嚼・再構成した上で、その意見に対する是非を論理的に証明しながら述べるということが求められる。このときに必要となるものこそ、「論理の力」である。

この授業ではまず、論理学の基礎中の基礎である接続表現の使い方を一から確認し直すことにする。そして毎回の演習を通して「論理の力」の基礎を鍛錬しながら、最終的に研究書や研究論文を論理的に読み解き、なおかつ自分で議論を論理的な仕方でも構成できる力を養うことに繋げる。

なお、この授業は教員による講義(キーノートによるスライドを利用)に加え、毎回の授業のなかで30-40分程度、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業では毎回、教員による講義(キーノートによるスライドを利用)を30~40分した上で、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を30-40分程度設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を20~30分ほど行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

論理的思考・論述に必要な接続表現の使い方を理解し、それらについて説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1)(技能)

論理的に文章を読み解き、論理的に文章を書くことができるようになる。(DP2-1)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回授業前にFUBoxにて資料を配布する。まずはそれぞれの回で、どのような内容が教授されるのか、事前に資料に目を通して予習しておくこと。(90分)

毎授業後には、その日に学んだ内容を再確認した上で、再度同じ演習問題に自身で制限時間を区切って取り組むこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

中間確認テスト(30%)、最終確認テスト(40%)、および授業ごとの演習への参加と点数報告(30%)で評価する。各確認テストでは、授業で学ぶ各単元の内容、すなわち「接続表現の使い方」「論証図の作成」などの論理的思考力が十分身についているかどうかを評価基準とする。

なお、本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

- - - テキスト - - -

使用しない。適宜レジュメを配布する。

- - - 参考書 - - -

野矢茂樹『新版論理トレーニング』産業図書、2006年
ISBN 978-4782802113

- - - 履修上の留意点 - - -

この授業では、論理学の中でも基礎中の基礎を学んでもらう。自分の「ことばの力」を、基本に立ち返って一から確認したいという人たちの参加を期待する。

論理学を学ぶ上で最も重要なことは、実際に演習を繰り返すこと(練習問題を数多く解くこと)である。授業内での演習がメインとなるため、理由なき遅刻や欠席は許されない。

なお、この授業では「受講確認・点数報告」および「確認テストの解答送信」の際に、webフォームによる集計を行う。そのため、ネット接続でき、なおかつQRコードを読み取ることのできるスマートフォンやタブレット端末、あるいはPCなどの用意があることが望ましい。

- - - 授業計画 - - -

01. イントロダクション(スタートアップ授業)
02. 接続表現の使い方-1
03. 接続表現の使い方-2
04. 議論の接続
05. 議論の構造をつかまえる-1
06. 議論の構造をつかまえる-2
07. 議論の構造をつかまえる-3
08. 中間確認テスト
09. 中間確認テストの解答・解説
10. 論証構造の分析-1
11. 論証構造の分析-2
12. 論証構造の分析-3
13. 演繹と推測-1
14. 演繹と推測-2
15. 最終確認テスト(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は、進度に応じて一部変更される可能性があります。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/x8oglnxwq0xw59vytbyyqk6lj9hfhv7r>

林 誓雄

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.論理的思考・論述に必要となる接続表現の使い方を理解し、それらについて説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1) (技能)

3.論理的に文章を読み解き、論理的に文章を書くことができるようになる。(DP2-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

林 誓雄

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：水・2時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

この授業では、「論理の力」の基礎を鍛える。「論理の力」とは、最も簡単に言うならば(1)自分の考えを相手にきちんと伝え、そして(2)伝えられたものをきちんと受け取る力のことであり、ひとことで「言葉を自在に扱う力」、「日本語の力」のひとつである。

もちろん、すでにわれわれは「日本語を話す」ことができているわけだから、日本語について(ほぼ完璧に)マスターしている、そう思われるかもしれない。しかしながら、日本語を「話す」ことができるからといって、優秀なレポートや(卒業)論文を「書く」ことができるということにはならない。レポートや論文を書く上では、資料となる本や論文を論理的に読み解き、筆者の議論の論理構造をきちんと把握し、自分なりに咀嚼・再構成した上で、その意見に対する是非を論理的に証明しながら述べるということが求められる。このときに必要となるものこそ、「論理の力」である。

この授業ではまず、論理学の基礎中の基礎である接続表現の使い方を一から確認し直すことにする。そして毎回の演習を通して「論理の力」の基礎を鍛錬しながら、最終的に研究書や研究論文を論理的に読み解き、なおかつ自分で議論を論理的な仕方でも構成できる力を養うことに繋げる。

なお、この授業は教員による講義(キーノートによるスライドを利用)に加え、毎回の授業のなかで30-40分程度、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業では毎回、教員による講義(キーノートによるスライドを利用)を30~40分した上で、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を30-40分程度設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を20~30分ほど行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

論理的思考・論述に必要な接続表現の使い方を理解し、それらについて説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1)(技能)

論理的に文章を読み解き、論理的に文章を書くことができるようになる。(DP2-1)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回授業前にFUBoxにて資料を配布する。まずはそれぞれの回で、どのような内容が教授されるのか、事前に資料に目を通して予習しておくこと。(90分)

毎授業後には、その日に学んだ内容を再確認した上で、再度同じ演習問題に自身で制限時間を区切って取り組むこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

中間確認テスト(30%)、最終確認テスト(40%)、および授業ごとの演習への参加と点数報告(30%)で評価する。各確認テストでは、授業で学ぶ各単元の内容、すなわち「接続表現の使い方」「論証図の作成」などの論理的思考力が十分身についているかどうかを評価基準とする。

なお、本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

- - - テキスト - - -

使用しない。適宜レジュメを配布する。

- - - 参考書 - - -

野矢茂樹『新版論理トレーニング』産業図書、2006年
 ISBN 978-4782802113

- - - 履修上の留意点 - - -

この授業では、論理学の中でも基礎中の基礎を学んでもらう。自分の「ことばの力」を、基本に立ち返って一から確認したいという人たちの参加を期待する。

論理学を学ぶ上で最も重要なことは、実際に演習を繰り返すこと(練習問題を数多く解くこと)である。授業内での演習がメインとなるため、理由なき遅刻や欠席は許されない。

なお、この授業では「受講確認・点数報告」および「確認テストの解答送信」の際に、webフォームによる集計を行う。そのため、ネット接続でき、なおかつQRコードを読み取ることのできるスマートフォンやタブレット端末、あるいはPCなどの用意があることが望ましい。

- - - 授業計画 - - -

01. イントロダクション(スタートアップ授業)
02. 接続表現の使い方-1
03. 接続表現の使い方-2
04. 議論の接続
05. 議論の構造をつかまえる-1
06. 議論の構造をつかまえる-2
07. 議論の構造をつかまえる-3
08. 中間確認テスト
09. 中間確認テストの解答・解説
10. 論証構造の分析-1
11. 論証構造の分析-2
12. 論証構造の分析-3
13. 演繹と推測-1
14. 演繹と推測-2
15. 最終確認テスト(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は、進度に応じて一部変更される可能性があります。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/zbbw3hj3ws8sw5uwm97r2yoqtw7s4t6o>

林 誓雄

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.論理的思考・論述に必要となる接続表現の使い方を理解し、それらについて説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1) (技能)

3.論理的に文章を読み解き、論理的に文章を書くことができるようになる。(DP2-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

林 誓雄

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：金・3時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

この授業では、「論理の力」の基礎を鍛える。「論理の力」とは、最も簡単に言うならば(1)自分の考えを相手にきちんと伝え、そして(2)伝えられたものをきちんと受け取る力のことであり、ひとことで「言葉を自在に扱う力」、「日本語の力」のひとつである。

もちろん、すでにわれわれは「日本語を話す」ことができているわけだから、日本語について(ほぼ完璧に)マスターしている、そう思われるかもしれない。しかしながら、日本語を「話す」ことができるからといって、優秀なレポートや(卒業)論文を「書く」ことができるということにはならない。レポートや論文を書く上では、資料となる本や論文を論理的に読み解き、筆者の議論の論理構造をきちんと把握し、自分なりに咀嚼・再構成した上で、その意見に対する是非を論理的に証明しながら述べるということが求められる。このときに必要となるものこそ、「論理の力」である。

この授業ではまず、論理学の基礎中の基礎である接続表現の使い方を一から確認し直すことにする。そして毎回の演習を通して「論理の力」の基礎を鍛錬しながら、最終的に研究書や研究論文を論理的に読み解き、なおかつ自分で議論を論理的な仕方でも構成できる力を養うことに繋げる。

なお、この授業は教員による講義(キーノートによるスライドを利用)に加え、毎回の授業のなかで30-40分程度、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業では毎回、教員による講義(キーノートによるスライドを利用)を30~40分した上で、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を30-40分程度設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を20~30分ほど行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

論理的思考・論述に必要な接続表現の使い方を理解し、それらについて説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1)(技能)

論理的に文章を読み解き、論理的に文章を書くことができるようになる。(DP2-1)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回授業前にFUBoxにて資料を配布する。まずはそれぞれの回で、どのような内容が教授されるのか、事前に資料に目を通して予習しておくこと。(90分)

毎授業後には、その日に学んだ内容を再確認した上で、再度同じ演習問題に自身で制限時間を区切って取り組むこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

中間確認テスト(30%)、最終確認テスト(40%)、および授業ごとの演習への参加と点数報告(30%)で評価する。各確認テストでは、授業で学ぶ各単元の内容、すなわち「接続表現の使い方」「論証図の作成」などの論理的思考力が十分身についているかどうかを評価基準とする。

なお、本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

- - - テキスト - - -

使用しない。適宜レジュメを配布する。

- - - 参考書 - - -

野矢茂樹『新版論理トレーニング』産業図書、2006年
ISBN 978-4782802113

- - - 履修上の留意点 - - -

この授業では、論理学の中でも基礎中の基礎を学んでもらう。自分の「ことばの力」を、基本に立ち返って一から確認したいという人たちの参加を期待する。

論理学を学ぶ上で最も重要なことは、実際に演習を繰り返すこと(練習問題を数多く解くこと)である。授業内での演習がメインとなるため、理由なき遅刻や欠席は許されない。

なお、この授業では「受講確認・点数報告」および「確認テストの解答送信」の際に、webフォームによる集計を行う。そのため、ネット接続でき、なおかつQRコードを読み取ることでできるスマートフォンやタブレット端末、あるいはPCなどの用意があることが望ましい。

- - - 授業計画 - - -

01. イントロダクション(スタートアップ授業)
02. 接続表現の使い方-1
03. 接続表現の使い方-2
04. 議論の接続
05. 議論の構造をつかまえる-1
06. 議論の構造をつかまえる-2
07. 議論の構造をつかまえる-3
08. 中間確認テスト
09. 中間確認テストの解答・解説
10. 論証構造の分析-1
11. 論証構造の分析-2
12. 論証構造の分析-3
13. 演繹と推測-1
14. 演繹と推測-2
15. 最終確認テスト(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は、進度に応じて一部変更される可能性があります。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/3zsn2hjj2nbtbc10f00wrbnrngxe77rc>

林 誓雄

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.論理的思考・論述に必要となる接続表現の使い方を理解し、それらについて説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1) (技能)

3.論理的に文章を読み解き、論理的に文章を書くことができるようになる。(DP2-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

林 誓雄

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：金・2時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

この授業では、「論理の力」の基礎を鍛える。「論理の力」とは、最も簡単に言うならば(1)自分の考えを相手にきちんと伝え、そして(2)伝えられたものをきちんと受け取る力のことであり、ひとことで「言葉を自在に扱う力」、「日本語の力」のひとつである。

もちろん、すでにわれわれは「日本語を話す」ことができているわけだから、日本語について(ほぼ完璧に)マスターしている、そう思われるかもしれない。しかしながら、日本語を「話す」ことができるからといって、優秀なレポートや(卒業)論文を「書く」ことができるということにはならない。レポートや論文を書く上では、資料となる本や論文を論理的に読み解き、筆者の議論の論理構造をきちんと把握し、自分なりに咀嚼・再構成した上で、その意見に対する是非を論理的に証明しながら述べるということが求められる。このときに必要となるものこそ、「論理の力」である。

この授業ではまず、論理学の基礎中の基礎である接続表現の使い方を一から確認し直すことにする。そして毎回の演習を通して「論理の力」の基礎を鍛錬しながら、最終的に研究書や研究論文を論理的に読み解き、なおかつ自分で議論を論理的な仕方でも構成できる力を養うことに繋げる。

なお、この授業は教員による講義(キーノートによるスライドを利用)に加え、毎回の授業のなかで30-40分程度、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業では毎回、教員による講義(キーノートによるスライドを利用)を30~40分した上で、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を30-40分程度設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を20~30分ほど行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

論理的思考・論述に必要な接続表現の使い方を理解し、それらについて説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1)(技能)

論理的に文章を読み解き、論理的に文章を書くことができるようになる。(DP2-1)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回授業前にFUBoxにて資料を配布する。まずはそれぞれの回で、どのような内容が教授されるのか、事前に資料に目を通して予習しておくこと。(90分)

毎授業後には、その日に学んだ内容を再確認した上で、再度同じ演習問題に自身で制限時間を区切って取り組むこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

中間確認テスト(30%)、最終確認テスト(40%)、および授業ごとの演習への参加と点数報告(30%)で評価する。各確認テストでは、授業で学ぶ各単元の内容、すなわち「接続表現の使い方」「論証図の作成」などの論理的思考力が十分身についているかどうかを評価基準とする。

なお、本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

- - - テキスト - - -

使用しない。適宜レジュメを配布する。

- - - 参考書 - - -

野矢茂樹『新版論理トレーニング』産業図書、2006年
 ISBN 978-4782802113

- - - 履修上の留意点 - - -

この授業では、論理学の中でも基礎中の基礎を学んでもらう。自分の「ことばの力」を、基本に立ち返って一から確認したいという人たちの参加を期待する。

論理学を学ぶ上で最も重要なことは、実際に演習を繰り返すこと(練習問題を数多く解くこと)である。授業内での演習がメインとなるため、理由なき遅刻や欠席は許されない。

なお、この授業では「受講確認・点数報告」および「確認テストの解答送信」の際に、webフォームによる集計を行う。そのため、ネット接続でき、なおかつQRコードを読み取ることのできるスマートフォンやタブレット端末、あるいはPCなどの用意があることが望ましい。

- - - 授業計画 - - -

01. イントロダクション(スタートアップ授業)
02. 接続表現の使い方-1
03. 接続表現の使い方-2
04. 議論の接続
05. 議論の構造をつかまえる-1
06. 議論の構造をつかまえる-2
07. 議論の構造をつかまえる-3
08. 中間確認テスト
09. 中間確認テストの解答・解説
10. 論証構造の分析-1
11. 論証構造の分析-2
12. 論証構造の分析-3
13. 演繹と推測-1
14. 演繹と推測-2
15. 最終確認テスト(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は、進度に応じて一部変更される可能性があります。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/uw2xp8hnagr2z0umut4nkj1g8uovas95>

林 誓雄

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.論理的思考・論述に必要となる接続表現の使い方を理解し、それらについて説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1) (技能)

3.論理的に文章を読み解き、論理的に文章を書くことができるようになる。(DP2-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

大木 崇

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・二部2時限 試験時間割：2024/07/25 夜2限

--- 概要 ---

この授業では、論理的にものごとを考え、表現することができるようになるための基礎固めを行う。

どのような分野・領域を学ぶ場合であっても、何かを学ぼうとする時には、論理的に考え、表現する力を具えていることが前提となる。他の人々によって書かれた文章を論理的に読み解き、また自分の考えを他の人々に伝わるように論理的に表現する能力は、大学生活においてだけでなく卒業後の人生の様々な場面においても必要とされる重要なスキルの中のひとつである。

この授業では、論理学に初めて触れる人々を主たる対象とし、日本語で書かれた様々な文章の論理的構造を分析するトレーニングを通じて、実際に役立つ論理的な思考力・表現力を磨くことを目指す。

「しかし」や「だから」といった、我々が普段から何気なく使っているような日常的表現を丹念に考察することから始めて、論理学の重要事項を確実に身につけることができるようにしたい。

--- 授業の進行・方法 ---

毎回の授業は以下のように進められる。まず、論理学の重要事項を教員が説明する。次に、その事項に関連する演習問題を受講者が実際に解いてみる。そして、解き終えた問題の解答・解説を教員が行う。この流れをひとつのユニットとして、何度も繰り返すことにより、論理学に関する重要事項の理解・定着を図る。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

文章の論理的な構造を理解するための鍵となる接続表現についての知識が身につく。(DP1-1)(知識・理解)

異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

自分の考えを他の人々に伝わるように論理的に明確な仕方で表現する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前にFUBOXを通じて資料を配布するので、それに目を通しておく。必要に応じて、わからない言葉等を辞書で調べておく。(90分)

授業で扱った重要事項に関して、理解が十分であるかどうかを再確認する。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

授業で扱われる論理学に関する事項を正しく理解できているかどうかを評価基準とする。

毎回の授業での演習への取り組み及び点数報告(20%)、確認テスト1(20%)、確認テスト2(20%)、定期テスト(40%)に基づいて総合的に評価する。

--- テキスト ---

使用しない。教員の作成した資料を配布する。

--- 参考書 ---

野矢茂樹、2006、『新版論理トレーニング』（産業図書） ISBN 978-4782802113

野矢茂樹、2001、『論理トレーニング101題』（産業図書） ISBN 978-4782801369

山下正男、1985、『論理的に考えること』（岩波ジュニア新書） ISBN 978-4005000999

--- 履修上の留意点 ---

履修に際して、論理学に関する予備知識は特に必要としない。論理的思考力・表現力を身につけたいと思う人々の受講を歓迎する。

欠席・遅刻は望ましいことではない。

授業中での「点数報告」や「確認テスト解答」の提出はオンラインで行うことを予定している。そのため、インターネット接続が可能なスマートフォンやノートパソコン等を教室に各自持参することが必要となる。

--- 授業計画 ---

01.イントロダクション(スタートアップ授業)

02.接続表現1

03.接続表現2

04.接続表現3

05.議論の構造1

06.議論の構造2

07.確認テスト1

08.確認テスト1 解答・解説

09.論証1

10.論証2

11.演繹と推測1

12.演繹と推測2

13.演繹と推測3

14.確認テスト2

15.確認テスト2 解答・解説(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は実際の進み具合に即して変更される可能性がある。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/a9lpb1dp3zjs0jkzfp9y9jl4n67td>)

大木 崇

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1. 文章の論理的な構造を理解するための鍵となる接続表現についての知識が身につく。(DP1-1) (知識・理解)

2. 異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

3. 自分の考えを他の人々に伝えるように論理的に明確な仕方で表現する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

大木 崇

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・5 時限 試験時間割：2024/07/29 1 時限

--- 概要 ---

この授業では、論理的にものごとを考え、表現することができるようになるための基礎固めを行う。

どのような分野・領域を学ぶ場合であっても、何かを学ぼうとする時には、論理的に考え、表現する力を具えていることが前提となる。他の人々によって書かれた文章を論理的に読み解き、また自分の考えを他の人々に伝えるように論理的に表現する能力は、大学生活においてだけでなく卒業後の人生の様々な場面においても必要とされる重要なスキルの中のひとつである。

この授業では、論理学に初めて触れる人々を主たる対象とし、日本語で書かれた様々な文章の論理的構造を分析するトレーニングを通じて、実際に役立つ論理的な思考力・表現力を磨くことを目指す。

「しかし」や「だから」といった、我々が普段から何気なく使っているような日常的表現を丹念に考察することから始めて、論理学の重要事項を確実に身につけることができるようにしたい。

--- 授業の進行・方法 ---

毎回の授業は以下のように進められる。まず、論理学の重要事項を教員が説明する。次に、その事項に関連する演習問題を受講者が実際に解いてみる。そして、解き終えた問題の解答・解説を教員が行う。この流れをひとつのユニットとして、何度も繰り返すことにより、論理学に関する重要事項の理解・定着を図る。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

文章の論理的な構造を理解するための鍵となる接続表現についての知識が身につく。(DP1-1)(知識・理解)

異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

自分の考えを他の人々に伝えるように論理的に明確な仕方で表現する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前にFUBOXを通じて資料を配布するので、それに目を通しておく。必要に応じて、わからない言葉等を辞書で調べておく。(90分)

授業で扱った重要事項に関して、理解が十分であるかどうかを再確認する。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

授業で扱われる論理学に関する事項を正しく理解できているかどうかを評価基準とする。

毎回の授業での演習への取り組み及び点数報告(20%)、確認テスト1(20%)、確認テスト2(20%)、定期テスト(40%)に基づいて総合的に評価する。

--- テキスト ---

使用しない。教員の作成した資料を配布する。

--- 参考書 ---

野矢茂樹、2006、『新版論理トレーニング』(産業図書) ISBN 978-4782802113

野矢茂樹、2001、『論理トレーニング101題』(産業図書) ISBN 978-4782801369

山下正男、1985、『論理的に考えること』(岩波ジュニア新書) ISBN 978-4005000999

--- 履修上の留意点 ---

履修に際して、論理学に関する予備知識は特に必要としない。論理的思考力・表現力を身につけたいと思う人々の受講を歓迎する。

欠席・遅刻は望ましいことではない。

授業中での「点数報告」や「確認テスト解答」の提出はオンラインで行うことを予定している。そのため、インターネット接続が可能なスマートフォンやノートパソコン等を教室に各自持参することが必要となる。

--- 授業計画 ---

01.イントロダクション(スタートアップ授業)

02.接続表現1

03.接続表現2

04.接続表現3

05.議論の構造1

06.議論の構造2

07.確認テスト1

08.確認テスト1 解答・解説

09.論証1

10.論証2

11.演繹と推測1

12.演繹と推測2

13.演繹と推測3

14.確認テスト2

15.確認テスト2 解答・解説(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は実際の進み具合に即して変更される可能性がある。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/0fo7pi5qqe5exusesv9i3fes3jhl0zcc>)

大木 崇

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 文章の論理的な構造を理解するための鍵となる接続表現についての知識が身につく。(DP1-1) (知識・理解)

2. 異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

3. 自分の考えを他の人々に伝えるように論理的に明確な仕方で表現する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

大木 崇

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：金・5 時限 試験時間割：2024/07/29 1 時限

--- 概要 ---

この授業では、論理的にものごとを考え、表現することができるようになるための基礎固めを行う。

どのような分野・領域を学ぶ場合であっても、何かを学ぼうとする時には、論理的に考え、表現する力を具えていることが前提となる。他の人々によって書かれた文章を論理的に読み解き、また自分の考えを他の人々に伝わるように論理的に表現する能力は、大学生活においてだけでなく卒業後の人生の様々な場面においても必要とされる重要なスキルの中のひとつである。

この授業では、論理学に初めて触れる人々を主たる対象とし、日本語で書かれた様々な文章の論理的構造を分析するトレーニングを通じて、実際に役立つ論理的な思考力・表現力を磨くことを目指す。

「しかし」や「だから」といった、我々が普段から何気なく使っているような日常的表現を丹念に考察することから始めて、論理学の重要事項を確実に身につけることができるようにしたい。

--- 授業の進行・方法 ---

毎回の授業は以下のように進められる。まず、論理学の重要事項を教員が説明する。次に、その事項に関連する演習問題を受講者が実際に解いてみる。そして、解き終えた問題の解答・解説を教員が行う。この流れをひとつのユニットとして、何度も繰り返すことにより、論理学に関する重要事項の理解・定着を図る。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

文章の論理的な構造を理解するための鍵となる接続表現についての知識が身につく。(DP1-1)(知識・理解)

異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

自分の考えを他の人々に伝わるように論理的に明確な仕方で表現する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前にFUBOXを通じて資料を配布するので、それに目を通しておく。必要に応じて、わからない言葉等を辞書で調べておく。(90分)

授業で扱った重要事項に関して、理解が十分であるかどうかを再確認する。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

授業で扱われる論理学に関する事項を正しく理解できているかどうかを評価基準とする。

毎回の授業での演習への取り組み及び点数報告(20%)、確認テスト1(20%)、確認テスト2(20%)、定期テスト(40%)に基づいて総合的に評価する。

--- テキスト ---

使用しない。教員の作成した資料を配布する。

--- 参考書 ---

野矢茂樹、2006、『新版論理トレーニング』(産業図書) ISBN 978-4782802113

野矢茂樹、2001、『論理トレーニング101題』(産業図書) ISBN 978-4782801369

山下正男、1985、『論理的に考えること』(岩波ジュニア新書) ISBN 978-4005000999

--- 履修上の留意点 ---

履修に際して、論理学に関する予備知識は特に必要としない。論理的思考力・表現力を身につけたいと思う人々の受講を歓迎する。

欠席・遅刻は望ましいことではない。

授業中での「点数報告」や「確認テスト解答」の提出はオンラインで行うことを予定している。そのため、インターネット接続が可能なスマートフォンやノートパソコン等を教室に各自持参することが必要となる。

--- 授業計画 ---

01.イントロダクション(スタートアップ授業)

02.接続表現1

03.接続表現2

04.接続表現3

05.議論の構造1

06.議論の構造2

07.確認テスト1

08.確認テスト1 解答・解説

09.論証1

10.論証2

11.演繹と推測1

12.演繹と推測2

13.演繹と推測3

14.確認テスト2

15.確認テスト2 解答・解説(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は実際の進み具合に即して変更される可能性がある。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/35chf8i4767bcfd6cgdcp0trsq5ttvbt>)

大木 崇

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 文章の論理的な構造を理解するための鍵となる接続表現についての知識が身につく。(DP1-1) (知識・理解)

2. 異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

3. 自分の考えを他の人々に伝えるように論理的に明確な仕方で表現する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

國越 道貴

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・2 時限 試験時間割：2024/07/29 1 時限

- - - 概要 - - -

この授業では、現代論理学の基本事項を学ぶことを通じて、正しく思考する能力を養成します。

論理学は古代以来の長い伝統があり、高等教育においてまず最初に学ばれてきました。つまり、論理学は、論述したり調査研究する際にはその道筋を示すものであり、他方また、自分や他人の考えを吟味検討する際に必要となると考えられたからです。今日、膨大な情報にさらされるなかで、それらを批判的に検討し判断をくだすこと、またそれを他人が理解できるように述べることは、高等教育を受けた者に期待されている技能です。そのための基礎的養成です。

授業では、日常的な議論をほぼ扱ううると考えられている一階述語論理学の範囲を扱います。「論理学」のAとBは相互に内容を前提せずに独立して学べるようにしていますが、論理学の十分な理解のためにはAとBの双方を受講することを薦めます。

「論理学A」は、正しく論述し、また論述を正しいか否か評価する方法を、統語論と呼ばれる観点から、「自然演繹」と呼ばれる仕方によって、相当数の練習問題を通じて学ぶことに重点を置きます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

1~3回は導入的部分であり、講義形式ですすすめます。

4回目以降の講義では、推論規則を順次増やしながら、授業時間内でも演習の時間をもうけて、証明の練習をします。指定範囲のなかで残った問題は自宅で練習してください。翌週、解答例を示して解説します。

6回程度、内容理解を確認する小テストを実施します。不合格者には再テスト提出を課しますので、必ず合格した上で次のステップに進んでください。小テストの得点は成績評価に関わりませんが、再提出に応じない場合は成績評価項目「小テスト」に加算されません。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

推論規則を用いた妥当性の証明という仕方、正しく思考することができるようになること。(DP1-1)(技能)

少数の自明な規則の積み重ねにより正しく思考することを習得する。(DP2-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

宿題として指示した練習問題の解答を作成する。(60分)

講義内容を復習し、既に解答例を示した問題についても改めてよく確認する。(60分)

小テストの実施とその復習。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(65%)、小テスト(25%)、質問など主体的な学習態度(10%)を評価配分として評価します。

定期試験、小テストはともに講義で学んだ技能を正確に示しているかどうかで評価する。

- - - テキスト - - -

使用しない。

- - - 参考書 - - -

E.J.レモン『論理学初歩』 ISBN 4790701336
講義はレモンの方法に準拠しているが、購入の必要はない。

- - - 履修上の留意点 - - -

厳密に積み重ねによる学習ですので、初めから学ばなければなりませんし、途中が抜けていても学べません。語学や数学のような学習態度が必要です。

moodle などを利用して積極的に質問して下さい。

- - - 授業計画 - - -

1. 序 論理学の主題と歴史的展開(スタートアップ授業)

- ・ 論証の妥当性
- 2. 妥当性と健全性
- 3. 論理形式と形式言語

・ 命題論理の統語論

- 4. 語彙と形成規則
- 5. 推論規則(1)：肯定肯定式他
- 6. 推論規則(2)：条件的証明他
- 7. 推論規則(3)：選言記号除去
- 8. 推論規則(4)：帰謬法
- 9. 主要妥当連式の証明

・ 述語論理の統語論

- 10. 推論規則(5)：普遍限量子の除去
- 11. 推論規則(6)：存在限量式の導入
- 12. 推論規則(7)：普遍限量子の導入
- 13. 推論規則(8)：存在限量子の除去
- 14. 主要妥当連式の証明

15. まとめ、授業アンケート FURIKA の実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ti4xbult754bq7dxs7lj4grbvenbdqkp>)

國越 道貴

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.推論規則を用いた妥当性の証明という仕方、正しく思考することができるようになること。(DP1-1) (技能)

2.少数の自明な規則の積み重ねにより正しく思考することを習得する。(DP2-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

國越 道貴

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：前期：木・3 時限 試験時間割：2024/07/29 1 時限

- - - 概要 - - -

この授業では、現代論理学の基本事項を学ぶことを通じて、正しく思考する能力を養成します。

論理学は古代以来の長い伝統があり、高等教育においてまず最初に学ばれてきました。つまり、論理学は、論述したり調査研究する際にはその道筋を示すものであり、他方また、自分や他人の考えを吟味検討する際に必要となると考えられたからです。今日、膨大な情報にさらされるなかで、それらを批判的に検討し判断をくだすこと、またそれを他人が理解できるように述べることは、高等教育を受けた者に期待されている技能です。そのための基礎的養成です。

授業では、日常的な議論をほぼ扱ううると考えられている一階述語論理学の範囲を扱います。「論理学」のAとBは相互に内容を前提せずに独立して学べるようにしていますが、論理学の十分な理解のためにはAとBの双方を受講することを薦めます。

「論理学A」は、正しく論述し、また論述を正しいか否か評価する方法を、統語論と呼ばれる観点から、「自然演繹」と呼ばれる仕方によって、相当数の練習問題を通じて学ぶことに重点を置きます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

1~3回は導入的部分であり、講義形式ですすすめます。

4回目以降の講義では、推論規則を順次増やしながら、授業時間内でも演習の時間をもうけて、証明の練習をします。指定範囲のなかで残った問題は自宅で練習してください。翌週、解答例を示して解説します。

6回程度、内容理解を確認する小テストを実施します。不合格者には再テスト提出を課しますので、必ず合格した上で次のステップに進んでください。小テストの得点は成績評価に関わりませんが、再提出に応じない場合は成績評価項目「小テスト」に加算されません。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

推論規則を用いた妥当性の証明という仕方でも、正しく思考することができるようになること。(DP1-1)(技能)

少数の自明な規則の積み重ねにより正しく思考することを習得する。(DP2-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

宿題として指示した練習問題の解答を作成する。(60分)

講義内容を復習し、既に解答例を示した問題についても改めてよく確認する。(60分)

小テストの実施とその復習。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(65%)、小テスト(25%)、質問など主体的な学習態度(10%)を評価配分として評価します。

定期試験、小テストはともに講義で学んだ技能を正確に示しているかどうかで評価する。

- - - テキスト - - -

使用しない。

- - - 参考書 - - -

E.J.レモン『論理学初歩』 ISBN 4790701336
講義はレモンの方法に準拠しているが、購入の必要はない。

- - - 履修上の留意点 - - -

厳密に積み重ねによる学習ですので、初めから学ばなければなりませんし、途中が抜けていても学べません。語学や数学のような学習態度が必要です。

moodle などを利用して積極的に質問して下さい。

- - - 授業計画 - - -

1. 序 論理学の主題と歴史的展開(スタートアップ授業)

- ・ 論証の妥当性
- 2. 妥当性と健全性
- 3. 論理形式と形式言語

・ 命題論理の統語論

- 4. 語彙と形成規則
- 5. 推論規則(1)：肯定肯定式他
- 6. 推論規則(2)：条件的証明他
- 7. 推論規則(3)：選言記号除去
- 8. 推論規則(4)：帰謬法
- 9. 主要妥当連式の証明

・ 述語論理の統語論

- 10. 推論規則(5)：普遍限量子の除去
- 11. 推論規則(6)：存在限量式の導入
- 12. 推論規則(7)：普遍限量子の導入
- 13. 推論規則(8)：存在限量子の除去
- 14. 主要妥当連式の証明

15. まとめ、授業アンケート FURIKA の実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/cf4qdwppzv2vzwba8gz2w3z4a25gf9ze>)

國越 道貴

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.推論規則を用いた妥当性の証明という仕方、正しく思考することができるようになること。(DP1-1) (技能)

2.少数の自明な規則の積み重ねにより正しく思考することを習得する。(DP2-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

林 誓雄

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

この授業では、本や論文を論理的に読み解き、そしてそこで述べられている主張の是非について考え、最終的に自分の意見を相手に正確に伝える技術の習得を目指す。その技術習得の一環として、前半のパートでは特に演繹的推論の技術を正確に使いこなす訓練を行なう。後半のパートでは前半で学んだことを踏まえ、自分で議論を構築できるようになることを目指し、本や論文で書かれている主張に対して論理的に批判する力を養う。

なお、この授業は教員による講義(キーノートによるスライドを利用)に加え、毎回の授業のなかで30-40分程度、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

--- 授業の進行・方法 ---

この授業では毎回、教員による講義(キーノートによるスライドを利用)を30～40分した上で、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を30-40分程度設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を20～30分ほど行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

演繹と推測がそれぞれどのような意味なのかを理解し、それらの間の区別ができるようになる。(DP1-1)(知識・理解)

論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1)(技能)

批判的な視点から文章を読み解き、疑問点などを挙げるができるようになる。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

毎回授業前にFUBoxにて資料を配布する。まずはそれぞれの回で、どのような内容が教授されるのか、事前に資料に目を通して予習しておくこと。(90分)

毎授業後には、その日に学んだ内容を再確認した上で、再度同じ演習問題に自身で制限時間を区切って取り組むこと。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

中間確認テスト(30%)、最終確認テスト(40%)、および授業ごとの演習への参加と点数報告(30%)で評価する。各確認テストでは、授業で学ぶ各単元の内容、すなわち「演繹と推測の区別」「逆・裏・対偶」など、とりわけ批判的に文章を検討するための力が十分身についているかどうかを評価基準とする。

なお、本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

--- テキスト ---

使用しない。適宜レジュメを配布する。

--- 参考書 ---

野矢茂樹『新版論理トレーニング』産業図書、2006年
 ISBN 978-4782802113

--- 履修上の留意点 ---

この授業では、論理学の中でも基礎中の基礎を学んでもらう。自分の「ことばの力」を、基本に立ち返って一から確認したいという人たちの参加を期待する。

論理学を学ぶ上で最も重要なことは、実際に演習を繰り返すこと(練習問題を数多く解くこと)である。授業内での演習がメインとなるため、理由なき遅刻や欠席は許されない。

なお、この授業では「受講確認・点数報告」および「確認テストの解答送信」の際に、webフォームによる集計を行う。そのため、ネット接続でき、なおかつQRコードを読み取ることのできるスマートフォンやタブレット端末、あるいはPCなどの用意があることが望ましい。

--- 授業計画 ---

01. イントロダクション(スタートアップ授業)
02. 二種類の導出：演繹と推測
03. 仮説形成と暗黙の前提
04. 他の仮説の消去
05. 逆・裏・対偶-1
06. 逆・裏・対偶-2
07. 中間確認テスト
08. 中間確認テストの解答・解説
09. 否定
10. 全称文と存在文
11. 否定
12. 存在文を含む論証
13. 消去法
14. 背理法とこれまでの総復習
15. 最終確認テスト(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は、進度に応じて一部変更される可能性があります。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/tbrmigdg9a9jg200an36yp4us24z965d>

林 誓雄

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 演繹と推測がそれぞれどのような意味なのかを理解し、それらの間の区別ができるようになる。(DP1-1) (知識・理解)

2. 論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1) (技能)

3. 批判的な視点から文章を読み解き、疑問点などを挙げるができるようになる。(DP2-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

林 誓雄

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：水・2時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

この授業では、本や論文を論理的に読み解き、そしてそこで述べられている主張の是非について考え、最終的に自分の意見を相手に正確に伝える技術の習得を目指す。その技術習得の一環として、前半のパートでは特に演繹的推論の技術を正確に使いこなす訓練を行なう。後半のパートでは前半で学んだことを踏まえ、自分で議論を構築できるようになることを目指し、本や論文で書かれている主張に対して論理的に批判する力を養う。

なお、この授業は教員による講義(キーノートによるスライドを利用)に加え、毎回の授業のなかで30-40分程度、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業では毎回、教員による講義(キーノートによるスライドを利用)を30～40分した上で、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を30-40分程度設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を20～30分ほど行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

演繹と推測がそれぞれどのような意味なのかを理解し、それらの間の区別ができるようになる。(DP1-1)(知識・理解)

論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1)(技能)

批判的な視点から文章を読み解き、疑問点などを挙げることができるようになる。(DP2-1)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回授業前にFUBoxにて資料を配布する。まずはそれぞれの回で、どのような内容が教授されるのか、事前に資料に目を通して予習しておくこと。(90分)

毎授業後には、その日に学んだ内容を再確認した上で、再度同じ演習問題に自身で制限時間を区切って取り組むこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

中間確認テスト(30%)、最終確認テスト(40%)、および授業ごとの演習への参加と点数報告(30%)で評価する。各確認テストでは、授業で学ぶ各単元の内容、すなわち「演繹と推測の区別」「逆・裏・対偶」など、とりわけ批判的に文章を検討するための力が十分身についているかどうかを評価基準とする。

なお、本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

- - - テキスト - - -

使用しない。適宜レジュメを配布する。

- - - 参考書 - - -

野矢茂樹『新版論理トレーニング』産業図書、2006年
 ISBN 978-4782802113

- - - 履修上の留意点 - - -

この授業では、論理学の中でも基礎中の基礎を学んでもらう。自分の「ことばの力」を、基本に立ち返って一から確認したいという人たちの参加を期待する。

論理学を学ぶ上で最も重要なことは、実際に演習を繰り返すこと(練習問題を数多く解くこと)である。授業内での演習がメインとなるため、理由なき遅刻や欠席は許されない。

なお、この授業では「受講確認・点数報告」および「確認テストの解答送信」の際に、webフォームによる集計を行う。そのため、ネット接続でき、なおかつQRコードを読み取ることのできるスマートフォンやタブレット端末、あるいはPCなどの用意があることが望ましい。

- - - 授業計画 - - -

01. イントロダクション(スタートアップ授業)
02. 二種類の導出：演繹と推測
03. 仮説形成と暗黙の前提
04. 他の仮説の消去
05. 逆・裏・対偶-1
06. 逆・裏・対偶-2
07. 中間確認テスト
08. 中間確認テストの解答・解説
09. 否定
10. 全称文と存在文
11. 否定
12. 存在文を含む論証
13. 消去法
14. 背理法とこれまでの総復習
15. 最終確認テスト(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は、進度に応じて一部変更される可能性があります。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/hk7wd5gkcw11k22okzbg402c6f5bjr8p>

林 誓雄

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 演繹と推測がそれぞれどのような意味なのかを理解し、それらの間の区別ができるようになる。(DP1-1) (知識・理解)

2. 論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1) (技能)

3. 批判的な視点から文章を読み解き、疑問点などを挙げるができるようになる。(DP2-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々をつないで成長に貢献することができる(B、C)

林 誓雄

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：金・3時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

この授業では、本や論文を論理的に読み解き、そしてそこで述べられている主張の是非について考え、最終的に自分の意見を相手に正確に伝える技術の習得を目指す。その技術習得の一環として、前半のパートでは特に演繹的推論の技術を正確に使いこなす訓練を行なう。後半のパートでは前半で学んだことを踏まえ、自分で議論を構築できるようになることを目指し、本や論文で書かれている主張に対して論理的に批判する力を養う。

なお、この授業は教員による講義(キーノートによるスライドを利用)に加え、毎回の授業のなかで30-40分程度、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

--- 授業の進行・方法 ---

この授業では毎回、教員による講義(キーノートによるスライドを利用)を30～40分した上で、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を30-40分程度設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を20～30分ほど行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

演繹と推測がそれぞれどのような意味なのかを理解し、それらの間の区別ができるようになる。(DP1-1)(知識・理解)

論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1)(技能)

批判的な視点から文章を読み解き、疑問点などを挙げるができるようになる。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

毎回授業前にFUBoxにて資料を配布する。まずはそれぞれの回で、どのような内容が教授されるのか、事前に資料に目を通して予習しておくこと。(90分)

毎授業後には、その日に学んだ内容を再確認した上で、再度同じ演習問題に自身で制限時間を区切って取り組むこと。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

中間確認テスト(30%)、最終確認テスト(40%)、および授業ごとの演習への参加と点数報告(30%)で評価する。各確認テストでは、授業で学ぶ各単元の内容、すなわち「演繹と推測の区別」「逆・裏・対偶」など、とりわけ批判的に文章を検討するための力が十分身についているかどうかを評価基準とする。

なお、本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

--- テキスト ---

使用しない。適宜レジュメを配布する。

--- 参考書 ---

野矢茂樹『新版論理トレーニング』産業図書、2006年
 ISBN 978-4782802113

--- 履修上の留意点 ---

この授業では、論理学の中でも基礎中の基礎を学んでもらう。自分の「ことばの力」を、基本に立ち返って一から確認したいという人たちの参加を期待する。

論理学を学ぶ上で最も重要なことは、実際に演習を繰り返すこと(練習問題を数多く解くこと)である。授業内での演習がメインとなるため、理由なき遅刻や欠席は許されない。

なお、この授業では「受講確認・点数報告」および「確認テストの解答送信」の際に、webフォームによる集計を行う。そのため、ネット接続でき、なおかつQRコードを読み取ることのできるスマートフォンやタブレット端末、あるいはPCなどの用意があることが望ましい。

--- 授業計画 ---

01. イントロダクション(スタートアップ授業)
02. 二種類の導出：演繹と推測
03. 仮説形成と暗黙の前提
04. 他の仮説の消去
05. 逆・裏・対偶-1
06. 逆・裏・対偶-2
07. 中間確認テスト
08. 中間確認テストの解答・解説
09. 否定
10. 全称文と存在文
11. 否定
12. 存在文を含む論証
13. 消去法
14. 背理法とこれまでの総復習
15. 最終確認テスト(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は、進度に応じて一部変更される可能性があります。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/78092p6bwordfpm8zxi6ffbf89d3csab>

林 誓雄

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 演繹と推測がそれぞれどのような意味なのかを理解し、それらの間の区別ができるようになる。（DP1-1）（知識・理解）

2. 論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。（DP2-1）（技能）

3. 批判的な視点から文章を読み解き、疑問点などを挙げるができるようになる。（DP2-1）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

林 誓雄

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：金・2時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

この授業では、本や論文を論理的に読み解き、そしてそこで述べられている主張の是非について考え、最終的に自分の意見を相手に正確に伝える技術の習得を目指す。その技術習得の一環として、前半のパートでは特に演繹的推論の技術を正確に使いこなす訓練を行なう。後半のパートでは前半で学んだことを踏まえ、自分で議論を構築できるようになることを目指し、本や論文で書かれている主張に対して論理的に批判する力を養う。

なお、この授業は教員による講義(キーノートによるスライドを利用)に加え、毎回の授業のなかで30-40分程度、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

--- 授業の進行・方法 ---

この授業では毎回、教員による講義(キーノートによるスライドを利用)を30～40分した上で、履修者自身に実際に演習問題を解いてもらう時間を30-40分程度設けている。授業時間内に演習問題に対する解答・解説を20～30分ほど行うので、履修者は各自で答え合わせ・採点をしつつ、自身が理解できている点・理解が追いついていない点をそれぞれ把握するよう心がけてもらいたい。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

演繹と推測がそれぞれどのような意味なのかを理解し、それらの間の区別ができるようになる。(DP1-1)(知識・理解)

論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。(DP2-1)(技能)

批判的な視点から文章を読み解き、疑問点などを挙げるができるようになる。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

毎回授業前にFUBoxにて資料を配布する。まずはそれぞれの回で、どのような内容が教授されるのか、事前に資料に目を通して予習しておくこと。(90分)

毎授業後には、その日に学んだ内容を再確認した上で、再度同じ演習問題に自身で制限時間を区切って取り組むこと。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

中間確認テスト(30%)、最終確認テスト(40%)、および授業ごとの演習への参加と点数報告(30%)で評価する。各確認テストでは、授業で学ぶ各単元の内容、すなわち「演繹と推測の区別」「逆・裏・対偶」など、とりわけ批判的に文章を検討するための力が十分身についているかどうかを評価基準とする。

なお、本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

--- テキスト ---

使用しない。適宜レジュメを配布する。

--- 参考書 ---

野矢茂樹『新版論理トレーニング』産業図書、2006年
 ISBN 978-4782802113

--- 履修上の留意点 ---

この授業では、論理学の中でも基礎中の基礎を学んでもらう。自分の「ことばの力」を、基本に立ち返って一から確認したいという人たちの参加を期待する。

論理学を学ぶ上で最も重要なことは、実際に演習を繰り返すこと(練習問題を数多く解くこと)である。授業内での演習がメインとなるため、理由なき遅刻や欠席は許されない。

なお、この授業では「受講確認・点数報告」および「確認テストの解答送信」の際に、webフォームによる集計を行う。そのため、ネット接続でき、なおかつQRコードを読み取ることのできるスマートフォンやタブレット端末、あるいはPCなどの用意があることが望ましい。

--- 授業計画 ---

01. イントロダクション(スタートアップ授業)
02. 二種類の導出：演繹と推測
03. 仮説形成と暗黙の前提
04. 他の仮説の消去
05. 逆・裏・対偶-1
06. 逆・裏・対偶-2
07. 中間確認テスト
08. 中間確認テストの解答・解説
09. 否定
10. 全称文と存在文
11. 否定
12. 存在文を含む論証
13. 消去法
14. 背理法とこれまでの総復習
15. 最終確認テスト(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は、進度に応じて一部変更される可能性があります。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/ewqxq1y0kfxcu6rd51hfnvpo8omp1yd7>

林 誓雄

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 演繹と推測がそれぞれどのような意味なのかを理解し、それらの間の区別ができるようになる。（DP1-1）（知識・理解）

2. 論理的な観点から、論証や議論の構造を的確につかまえることができるようになる。（DP2-1）（技能）

3. 批判的な視点から文章を読み解き、疑問点などを挙げるができるようになる。（DP2-1）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々をつないで成長に貢献することができる（B、C）

大木 崇

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・二部2時限 試験時間割：2025/01/23 夜2限

--- 概要 ---

この授業では、論理的にものごとを考え、表現することができるようになるための応用演習を行う。

どのような分野・領域を学ぶ場合であっても、何かを学ぶとする時には、論理的に考え、表現する力を持っていることが前提となる。他の人々によって書かれた文章を論理的に読み解き、また自分の考えを他の人々に伝わるように論理的に表現する能力は、大学生活においてだけでなく卒業後の人生の様々な場面においても必要とされる重要なスキルの中のひとつである。

この授業では、論理学についてある程度の知識を持つ人々を主たる対象とし、日本語で書かれた様々な文章の論理的構造を分析するトレーニングを通じて、実際に役立つ論理的な思考力・表現力をさらに磨くことを目指す。

演繹と推測の違い等の基本を再確認することから始めて、論理学の重要事項を確実に身につけることができるようにしたい。

--- 授業の進行・方法 ---

毎回の授業は以下のように進められる。まず、論理学の重要事項を教員が説明する。次に、その事項に関連する演習問題を受講者が実際に解いてみる。そして、解き終えた問題の解答・解説を教員が行う。この流れをひとつのユニットとして、それを何度も繰り返すことにより、論理学に関する重要事項の理解・定着を図る。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

演繹と推測の違い等、論理学の基本的知識が身につく。
(DP1-1)(知識・理解)

異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

自分の考えを他の人々に伝わるように論理的に明確な仕方表現する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前にFUBOXを通じて資料を配布するので、それに目を通しておく。必要に応じて、わからない言葉等を辞書で調べておく。(90分)

授業で扱った重要事項に関して、理解が十分であるかどうかを再確認する。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

授業で扱われる論理学に関する事項を正しく理解できているかどうかを評価基準とする。

毎回の授業での演習への取り組み及び点数報告(20%)、確認テスト1(20%)、確認テスト2(20%)、定期テスト(40%)に基づいて総合的に評価する。

--- テキスト ---

使用しない。教員の作成した資料を配布する。

--- 参考書 ---

野矢茂樹、2006、『新版論理トレーニング』（産業図書） ISBN 978-4782802113
野矢茂樹、2001、『論理トレーニング101題』（産業図書） ISBN 978-4782801369
山下正男、1985、『論理的に考えること』（岩波ジュニア新書） ISBN 978-4005000999

--- 履修上の留意点 ---

履修に際して、論理学に関するある程度の知識を具備していることが望ましいが、必須条件というわけではない。論理的思考力・表現力を磨きたいと思う人々の受講を歓迎する。

欠席・遅刻は望ましいことではない。

授業中での「点数報告」や「確認テスト解答」の提出はオンラインで行うことを予定している。そのため、インターネット接続が可能なスマートフォンやノートパソコン等を教室に各自持参することが必要となる。

--- 授業計画 ---

- 01.イントロダクション(スタートアップ授業)
- 02.論証
- 03.演繹と推測1
- 04.演繹と推測2
- 05.順・逆・裏・対偶1
- 06.順・逆・裏・対偶2
- 07.確認テスト1
- 08.確認テスト1解答・解説
- 09.隠れた前提
- 10.代替仮説
- 11.矛盾・反対・小反対
- 12.可能と必然
- 13.ド・モルガンの定理
- 14.確認テスト2
- 15.確認テスト2解答・解説(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は実際の進み具合に即して変更される可能性がある。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/gjgf1sx9atetx26f0oqd5yibboeivoei>)

大木 崇

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 演繹と推測の違い等、論理学の基本的知識が身につく。(DP1-1) (知識・理解)

2. 異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

3. 自分の考えを他の人々に伝えるように論理的に明確な仕方で表現する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

大木 崇

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・5時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

--- 概要 ---

この授業では、論理的にものごとを考え、表現することができるようになるための応用演習を行う。

どのような分野・領域を学ぶ場合であっても、何かを学ぶとする時には、論理的に考え、表現する力を持っていることが前提となる。他の人々によって書かれた文章を論理的に読み解き、また自分の考えを他の人々に伝わるように論理的に表現する能力は、大学生活においてだけでなく卒業後の人生の様々な場面においても必要とされる重要なスキルの中のひとつである。

この授業では、論理学についてある程度の知識を持つ人々を主たる対象とし、日本語で書かれた様々な文章の論理的構造を分析するトレーニングを通じて、実際に役立つ論理的な思考力・表現力をさらに磨くことを目指す。

演繹と推測の違い等の基本を再確認することから始めて、論理学の重要事項を確実に身につけることができるようにしたい。

--- 授業の進行・方法 ---

毎回の授業は以下のように進められる。まず、論理学の重要事項を教員が説明する。次に、その事項に関連する演習問題を受講者が実際に解いてみる。そして、解き終えた問題の解答・解説を教員が行う。この流れをひとつのユニットとして、それを何度も繰り返すことにより、論理学に関する重要事項の理解・定着を図る。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

演繹と推測の違い等、論理学の基本的知識が身につく。
(DP1-1)(知識・理解)

異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

自分の考えを他の人々に伝わるように論理的に明確な仕方で表現する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前にFUBOXを通じて資料を配布するので、それに目を通しておく。必要に応じて、わからない言葉等を辞書で調べておく。(90分)

授業で扱った重要事項に関して、理解が十分であるかどうかを再確認する。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

授業で扱われる論理学に関する事項を正しく理解できているかどうかを評価基準とする。

毎回の授業での演習への取り組み及び点数報告(20%)、確認テスト1(20%)、確認テスト2(20%)、定期テスト(40%)に基づいて総合的に評価する。

--- テキスト ---

使用しない。教員の作成した資料を配布する。

--- 参考書 ---

野矢茂樹、2006、『新版論理トレーニング』(産業図書) ISBN 978-4782802113
野矢茂樹、2001、『論理トレーニング101題』(産業図書) ISBN 978-4782801369
山下正男、1985、『論理的に考えること』(岩波ジュニア新書) ISBN 978-4005000999

--- 履修上の留意点 ---

履修に際して、論理学に関するある程度の知識を具備していることが望ましいが、必須条件というわけではない。論理的思考力・表現力を磨きたいと思う人々の受講を歓迎する。

欠席・遅刻は望ましいことではない。

授業中での「点数報告」や「確認テスト解答」の提出はオンラインで行うことを予定している。そのため、インターネット接続が可能なスマートフォンやノートパソコン等を教室に各自持参することが必要となる。

--- 授業計画 ---

- 01.イントロダクション(スタートアップ授業)
- 02.論証
- 03.演繹と推測1
- 04.演繹と推測2
- 05.順・逆・裏・対偶1
- 06.順・逆・裏・対偶2
- 07.確認テスト1
- 08.確認テスト1解答・解説
- 09.隠れた前提
- 10.代替仮説
- 11.矛盾・反対・小反対
- 12.可能と必然
- 13.ド・モルガンの定理
- 14.確認テスト2
- 15.確認テスト2解答・解説(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は実際の進み具合に即して変更される可能性がある。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/8siptsz7d6tei2nqnquvyp7rv11ftygk>)

大木 崇

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 演繹と推測の違い等、論理学の基本的知識が身につく。(DP1-1) (知識・理解)

2. 異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

3. 自分の考えを他の人々に伝えるように論理的に明確な仕方で表現する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

大木 崇

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：金・5時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

--- 概要 ---

この授業では、論理的にものごとを考え、表現することができるようになるための応用演習を行う。

どのような分野・領域を学ぶ場合であっても、何かを学ぶとする時には、論理的に考え、表現する力を持っていることが前提となる。他の人々によって書かれた文章を論理的に読み解き、また自分の考えを他の人々に伝わるように論理的に表現する能力は、大学生活においてだけでなく卒業後の人生の様々な場面においても必要とされる重要なスキルの中のひとつである。

この授業では、論理学についてある程度の知識を持つ人々を主たる対象とし、日本語で書かれた様々な文章の論理的構造を分析するトレーニングを通じて、実際に役立つ論理的な思考力・表現力をさらに磨くことを目指す。

演繹と推測の違い等の基本を再確認することから始めて、論理学の重要事項を確実に身につけることができるようにしたい。

--- 授業の進行・方法 ---

毎回の授業は以下のように進められる。まず、論理学の重要事項を教員が説明する。次に、その事項に関連する演習問題を受講者が実際に解いてみる。そして、解き終えた問題の解答・解説を教員が行う。この流れをひとつのユニットとして、それを何度も繰り返すことにより、論理学に関する重要事項の理解・定着を図る。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

演繹と推測の違い等、論理学の基本的知識が身につく。
(DP1-1)(知識・理解)

異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

自分の考えを他の人々に伝わるように論理的に明確な仕方表現する能力が身につく。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前にFUBOXを通じて資料を配布するので、それに目を通しておく。必要に応じて、わからない言葉等を辞書で調べておく。(90分)

授業で扱った重要事項に関して、理解が十分であるかどうかを再確認する。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

授業で扱われる論理学に関する事項を正しく理解できているかどうかを評価基準とする。

毎回の授業での演習への取り組み及び点数報告(20%)、確認テスト1(20%)、確認テスト2(20%)、定期テスト(40%)に基づいて総合的に評価する。

--- テキスト ---

使用しない。教員の作成した資料を配布する。

--- 参考書 ---

野矢茂樹、2006、『新版論理トレーニング』(産業図書) ISBN 978-4782802113
野矢茂樹、2001、『論理トレーニング101題』(産業図書) ISBN 978-4782801369
山下正男、1985、『論理的に考えること』(岩波ジュニア新書) ISBN 978-4005000999

--- 履修上の留意点 ---

履修に際して、論理学に関するある程度の知識を具備していることが望ましいが、必須条件というわけではない。論理的思考力・表現力を磨きたいと思う人々の受講を歓迎する。

欠席・遅刻は望ましいことではない。

授業中での「点数報告」や「確認テスト解答」の提出はオンラインで行うことを予定している。そのため、インターネット接続が可能なスマートフォンやノートパソコン等を教室に各自持参することが必要となる。

--- 授業計画 ---

- 01.イントロダクション(スタートアップ授業)
- 02.論証
- 03.演繹と推測1
- 04.演繹と推測2
- 05.順・逆・裏・対偶1
- 06.順・逆・裏・対偶2
- 07.確認テスト1
- 08.確認テスト1解答・解説
- 09.隠れた前提
- 10.代替仮説
- 11.矛盾・反対・小反対
- 12.可能と必然
- 13.ド・モルガンの定理
- 14.確認テスト2
- 15.確認テスト2解答・解説(授業アンケートFURIKAの実施)

この授業計画は実際の進み具合に即して変更される可能性がある。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/6teym7500694aetnptnfy9xw5775tvzs>)

大木 崇

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 演繹と推測の違い等、論理学の基本的知識が身につく。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 異なる分野・領域について書かれた様々な文章の論理的構造を分析する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3. 自分の考えを他の人々に伝えるように論理的に明確な仕方で表現する能力が身につく。(DP2-1) (技能)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

國越 道貴

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：木・2時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

- - - 概要 - - -

この授業では、現代論理学の基本事項を学ぶことを通じて、正しく思考する能力を養成します。

論理学は古代以来の長い伝統があり、高等教育においてまず最初に学ばれてきました。つまり、論理学は、論述したり調査研究する際にはその道筋を示すものであり、他方また、自分や他人の考えを吟味検討する際に必要となると考えられたからです。今日、膨大な情報にさらされるなかで、それらを批判的に検討し判断をくだすこと、またそれを他人が理解できるように述べることは、高等教育を受けた者に期待されている技能です。そのための基礎的能力の養成となります。

授業では、日常的な議論をほぼ扱うように考えられている一階述語論理学の範囲を扱います。「論理学」のAとBは相互に内容を前提せずに独立して学べるようにしていますが、論理学の十分な理解のためにはAとBの双方を受講することを薦めます。

「論理学B」は、日本語の文の多義性を排除し意味を明晰にした上で、意味論と呼ばれる観点から論述を正しいか否かを評価する方法を、相当数の練習問題を通じて学ぶことに重点をおきます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

1~3回は導入的部分であり、講義形式ですすめます。

4回目以降の講義では、授業時間内でも演習の時間をもうけます。指定範囲のなかで残った問題は自宅で練習してください。翌週、解答例を示して解説します。

6回程度、内容理解を確認する小テストを実施します。不合格者には再テスト提出を課しますので、必ず合格した上で次のステップに進んでください。小テストの得点は成績評価に関わりませんが、再提出に応じない場合は成績評価項目「小テスト」に加算されません。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

文の意味をその文がどういう場合に真であるのかという仕方で把握することを通じて、正しく思考する方法を習得する。(DP1-1)(技能)

文の多義性を排する態度を習得する。これは情報の発信にも理解にも必要である。(DP2-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

宿題として指示した練習問題の解答を作成する。
(60分)

講義内容を復習し、既に解答例を示した問題についても改めてよく確認する。
(60分)

小テストの実施とその復習。
(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(65%)、小テスト(25%)、質問など主体的な学習態度(10%)を評価配分として評価します。

定期試験、小テストはともに講義で学んだ技能を正確に示しているかどうかで評価する。

- - - テキスト - - -

使用しない

- - - 参考書 - - -

J. オールウド他『日常言語の論理学』 ISBN 9784782800119
 飯田隆『言語哲学大全』 ISBN 978-4-326-10309-6

- - - 履修上の留意点 - - -

厳密に積み重ねによる学習ですので、初めから学ばなければなりませんし、途中が抜けていても学べません。語学や数学のような学習態度が必要です。

moodleなども利用して積極的に質問して下さい。

- - - 授業計画 - - -

1. 序 論理学の主題と源泉(スタートアップ授業)

- ・ 論証の妥当性
- 2. 妥当性と健全性
- 3. 非形式的妥当性と形式的妥当性

・ 命題論理の意味論

- 4. 真理表
- 5. 自然言語の形式化
- 6. 論証の妥当性テスト(1)：真理表による
- 7. 論証の妥当性テスト(2)：反例の構成による
- 8. 主要妥当連式

・ 述語論理の意味論

- 9. 文法的カテゴリーと形成規則
- 10. 自然言語の形式化(1)：定型文
- 11. 自然言語の形式化(2)：定型文の展開
- 12. 自然言語の形式化(3)：多重限量
- 13. 有限モデル論
- 14. 論証の非妥当性テスト
- 15. まとめ、授業アンケート FURIKA の実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/jb65o4mdl7hxrkwyvhkn70psmfg5zkt5>

國越 道貴

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.文の意味をその文がどういう場合に真であるのかという仕方で把握することを通じて、正しく思考する方法を習得する。（DP1-1）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.文の多義性を排する態度を習得する。これは情報の発信にも理解にも必要である。（DP2-1）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

國越 道貴

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：木・3時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

- - - 概要 - - -

この授業では、現代論理学の基本事項を学ぶことを通じて、正しく思考する能力を養成します。

論理学は古代以来の長い伝統があり、高等教育においてまず最初に学ばれてきました。つまり、論理学は、論述したり調査研究する際にはその道筋を示すものであり、他方また、自分や他人の考えを吟味検討する際に必要となると考えられたからです。今日、膨大な情報にさらされるなかで、それらを批判的に検討し判断をくだすこと、またそれを他人が理解できるように述べることは、高等教育を受けた者に期待されている技能です。そのための基礎的能力の養成となります。

授業では、日常的な議論をほぼ扱うように考えられている一階述語論理学の範囲を扱います。「論理学」のAとBは相互に内容を前提せずに独立して学べるようにしていますが、論理学の十分な理解のためにはAとBの双方を受講することを薦めます。

「論理学B」は、日本語の文の多義性を排除し意味を明晰にした上で、意味論と呼ばれる観点から論述を正しいか否かを評価する方法を、相当数の練習問題を通じて学ぶことに重点をおきます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

1~3回は導入的部分であり、講義形式ですすすめます。

4回目以降の講義では、授業時間内でも演習の時間をもうけます。指定範囲のなかで残った問題は自宅で練習してください。翌週、解答例を示して解説します。

6回程度、内容理解を確認する小テストを実施します。不合格者には再テスト提出を課しますので、必ず合格した上で次のステップに進んでください。小テストの得点は成績評価に関わりませんが、再提出に応じない場合は成績評価項目「小テスト」に加算されません。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

文の意味をその文がどういう場合に真であるのかという仕方で把握することを通じて、正しく思考する方法を習得する。(DP1-1)(技能)

文の多義性を排する態度を習得する。これは情報の発信にも理解にも必要である。(DP2-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

宿題として指示した練習問題の解答を作成する。
(60分)

講義内容を復習し、既に解答例を示した問題についても改めてよく確認する。
(60分)

小テストの実施とその復習。
(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(65%)、小テスト(25%)、質問など主体的な学習態度(10%)を評価配分として評価します。

定期試験、小テストはともに講義で学んだ技能を正確に示しているかどうかで評価する。

- - - テキスト - - -

使用しない

- - - 参考書 - - -

J. オールウド他『日常言語の論理学』 ISBN

9784782800119

飯田隆『言語哲学大全』 ISBN 978-4-326-10309-6

- - - 履修上の留意点 - - -

厳密に積み重ねによる学習ですので、初めから学ばなければなりませんし、途中が抜けていても学べません。語学や数学のような学習態度が必要です。

moodleなども利用して積極的に質問して下さい。

- - - 授業計画 - - -

1. 序 論理学の主題と源泉(スタートアップ授業)

- ・ 論証の妥当性
- 2. 妥当性と健全性
- 3. 非形式的妥当性と形式的妥当性

・ 命題論理の意味論

- 4. 真理表
- 5. 自然言語の形式化
- 6. 論証の妥当性テスト(1): 真理表による
- 7. 論証の妥当性テスト(2): 反例の構成による
- 8. 主要妥当連式

・ 述語論理の意味論

- 9. 文法的カテゴリーと形成規則
- 10. 自然言語の形式化(1): 定型文
- 11. 自然言語の形式化(2): 定型文の展開
- 12. 自然言語の形式化(3): 多重限量
- 13. 有限モデル論
- 14. 論証の非妥当性テスト
- 15. まとめ、授業アンケート FURIKA の実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/bfgffiw4yvxgh73f6hsga1unyani4n28>)

國越 道貴

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.文の意味をその文がどういう場合に真であるのかという仕方で把握することを通じて、正しく思考する方法を習得する。（DP1-1）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.文の多義性を排する態度を習得する。これは情報の発信にも理解にも必要である。（DP2-1）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）